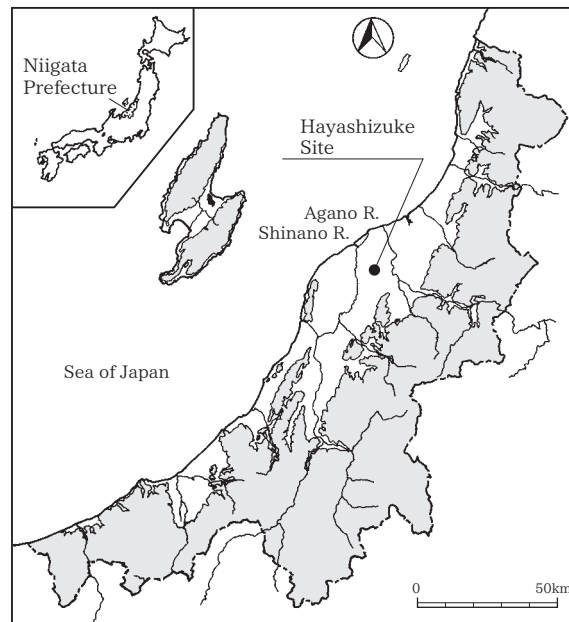


はやし づけ
林付遺跡 第2次調査

— 新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書 —






2012

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市西蒲区今井 4121 番に所在する林付遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 調査は新潟市立潟東南小学校体育館建設事業に伴うもので、新潟市教育委員会が調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センターが補助執行した。発掘調査に係る経費は、市教委施設課に予算を計上し、文化観光・スポーツ部歴史文化課が執行委任を受け、これを執行した。
- 3 平成 22 年度に発掘作業・整理作業、平成 23 年度に整理作業を行い、平成 24 年度に報告書刊行を行った。発掘作業・整理作業の体制等は第三章に記した。
- 4 出土遺物及び発掘作業・整理作業に係る記録類は、一括して新潟市文化財センターが保管している。
- 5 自然科学分析は株式会社火山灰考古学研究所に分析・執筆を委託した。
- 6 墨書土器については相沢央（新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課嘱託）が分析・執筆した（第七章）。
- 7 本書の編集は相田泰臣（新潟市文化財センター主査）が行った。
- 8 執筆は第六章を株式会社火山灰考古学研究所、第七章を相沢央、これ以外を相田が行った。
- 9 遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を依頼した。
- 10 遺物実測図のデジタルトレースの一部は株式会社セビアスに委託した。
- 11 遺物実測図のデジタルトレースの一部・各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタル図化及びデータ編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 12 本文中で記述する時期や年代観については、春日真実氏の編年〔春日 1999〕を用いた。なお、春日氏、笹澤正史氏には本遺跡出土遺物について、時期や生産地を中心に多くのご教示を頂いた。
- 13 石帯・権状錘の石材や産地については糸魚川フォッサマグナムミュージアムの茨木洋介氏からご教示を頂いた。
- 14 今回の調査成果について、これまで現地説明会や『平成 22 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔新潟市埋蔵文化財センター 2011〕、『新潟県考古学会第 23 回大会研究発表会発表要旨』〔新潟県考古学会 2011〕で発表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本報告をもって正とする。
- 15 調査から本書作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げます。
（所属・敬称略、五十音順）
浅井勝利・甘粕 健・伊藤秀和・茨木洋介・春日真実・金子拓男・桑原正史・小林昌二・笹澤正史・関 雅之・
中島栄一・橋本博文・細野高伯
（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育庁文化行政課

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約 7 度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4 遺構番号は発掘調査の際に付したものをを用いた。番号は上・下層や、遺構の種別を問わず通し番号とした。
- 5 土層観察の色調は『新版 標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局 1967〕を用いた。
- 6 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。
- 7 土器実測図で赤彩、黒色処理はスクリーントーンで示した。：赤彩 ：黒色処理
- 8 土器実測図で全周 1/8 以下を目安として遺存度の低いものについては、中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 石製品実測図で研磨範囲・部分についてはスクリーントーン・矢印で示した。
- 10 木製品実測図で腐朽・欠損部分についてはスクリーントーンで示した。
- 11 掲載遺物は通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の概要	6
第1節 試掘調査	6
第2節 本発掘調査	8
A 調査方法	8
B 調査経過	10
C 調査体制	10
第3節 整理作業	11
A 整理方法	11
B 整理経過	11
C 整理体制	11
第Ⅳ章 遺 跡	12
第1節 概 要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺 構	13
A 遺構の概要	13
B 遺構各説	14
第Ⅴ章 遺 物	24
第1節 概 要	24
第2節 土器・陶磁器	24
A 実測図の表現と観察項目について	24
B 土器の分類	27
C 上層出土の土器	28
D 下層出土の土器	36
E 上層・下層出土の土器	40
第3節 土 製 品	41
第4節 石 製 品	41
第5節 木 製 品	42

第6節 金属製品	42
第VI章 自然科学分析	43
第1節 放射性炭素年代測定	43
A 測定試料と測定方法	43
B 結 果	43
第2節 樹種同定	43
A 分析試料	43
B 分析方法	43
C 結 果	44
第3節 古植生・古環境の復元	46
A 分析試料	46
B 分析方法	46
C 結 果	46
D 考 察	48
第VII章 墨書土器	52
第1節 出土地点及び遺構	52
第2節 器種と墨書部位	52
第3節 主な文字の検討	52
第4節 ま と め	53
第VIII章 総 括	56
第1節 遺 構	56
第2節 遺 物	57
A 土器・遺構の編年的位置づけ	57
B 土器の器種構成比率	60
C 煮炊具について	62
D 権 状 錘	62
E 「川合（川井）」墨書土器	65
第3節 遺跡の位置づけ	65
引用・参考文献	67
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第 1 図	林付遺跡周辺地形分類図 (1/150,000) …………… 3	第 13 図	基本層序 B 地点における植物珪酸体分析結果… 47
第 2 図	林付遺跡周辺の縄文時代～古代の遺跡分布 …… 5	第 14 図	SE40 における植物珪酸体分析結果 …………… 47
第 3 図	林付遺跡調査位置図 (1/14,000) …………… 6	第 15 図	植物珪酸体写真 …………… 47
第 4 図	林付遺跡試掘調査位置図・土層柱状図 …………… 7	第 16 図	花粉・孢子・寄生虫卵写真 …………… 50
第 5 図	グリッド設定図 (1/2,000) …………… 9	第 17 図	基本層序 B 地点における花粉ダイアグラム …… 50
第 6 図	遺構の平・断面形態の分類 …………… 13	第 18 図	SE40 における花粉ダイアグラム …………… 50
第 7 図	遺構埋土の堆積形状の分類 …………… 13	第 19 図	墨書土器のグリッド別出土位置と文字 …… 55
第 8 図	上層・下層出土土器グリッド別重量分布図 (1/400) …………… 25	第 20 図	林付遺跡出土土器の変遷案 …………… 58
第 9 図	上層鉄滓グリッド別重量分布図 (1/300) …… 26	第 21 図	参考資料 …………… 59
第 10 図	下層鉄滓グリッド別重量分布図 (1/300) …… 26	第 22 図	食膳具の構成比率 …………… 63
第 11 図	土器分類図 …………… 29	第 23 図	「武蔵型甕」を出土した主な遺跡 …………… 63
第 12 図	木材写真 …………… 45	第 24 図	県内出土の古代権状錘 …………… 64

表目次

第 1 表	放射性炭素年代測定結果 …………… 43	第 6 表	林付遺跡における主な遺構の編年的位置づけ … 60
第 2 表	樹種同定結果 …………… 44	第 7 表	上・下層遺構 (P は除く) 出土の食膳具の 構成比率と主な遺構出土土器の食膳具・器種 構成比率 …………… 61
第 3 表	植物珪酸体分析結果 …………… 47		
第 4 表	花粉分析結果 …………… 49		
第 5 表	墨書土器一覧表 …………… 54		

別表目次

別表 1	遺構計測表 …………… 69	別表 4	石製品観察表 …………… 81
別表 2	土器観察表 …………… 73	別表 5	木製品観察表 …………… 81
別表 3	土製品観察表 …………… 80	別表 6	金属製品観察表 …………… 81

図版目次

図版 1	林付遺跡と周辺の古代の遺跡	図版 16	上層遺構個別図 10 SK (4)
図版 2	基本層序図 (1/40)	図版 17	上層遺構個別図 11 SK (5)
図版 3	上層平面全体図 (1/200)	図版 18	上層遺構個別図 12 SX (1)
図版 4	上層平面分割図 1 (1/100)	図版 19	上層遺構個別図 13 SX (2)
図版 5	上層平面分割図 2 (1/100)	図版 20	下層平面全体図 (1/200)
図版 6	上層遺構個別図 1 SD (1)	図版 21	下層平面分割図 1 (1/100)
図版 7	上層平面分割図 3 (1/100)	図版 22	下層平面分割図 2 (1/100)
図版 8	上層遺構個別図 2 SD (2)	図版 23	下層平面分割図 3 (1/100)
図版 9	上層遺構個別図 3 SB (1) SB901	図版 24	下層遺構個別図 1 SB (1) SB904・905
図版 10	上層遺構個別図 4 SB (2) SB901	図版 25	下層遺構個別図 2 SB (2) SB906・907・908
図版 11	上層遺構個別図 5 SB (3) SB901	図版 26	下層遺構個別図 3 SK (1)
図版 12	上層遺構個別図 6 SB (4) SB901・902・903	図版 27	下層遺構個別図 4 SK (2)
図版 13	上層遺構個別図 7 SE・SK (1)	図版 28	下層遺構個別図 5 SK (3)
図版 14	上層遺構個別図 8 SK (2)	図版 29	下層遺構個別図 6 SK (4)
図版 15	上層遺構個別図 9 SK (3)	図版 30	下層遺構個別図 7 SK (5)

- 図版 31 下層遺構個別図 8 SD (1)
 図版 32 下層遺構個別図 9 SD (2)
 図版 33 下層遺構個別図 10 SD (3)
 図版 34 下層遺構個別図 11 SD (4)・SX
 図版 35 上層遺構出土器 1 SB (1)
 図版 36 上層遺構出土器 2 SB (2)・SE・SK (1)
 図版 37 上層遺構出土器 3 SK (2)
 図版 38 上層遺構出土器 4 SK (3)
 図版 39 上層遺構出土器 5 SK (4)・SD (1)
 図版 40 上層遺構出土器 6 SD (2)・SX (1)
 図版 41 上層遺構出土器 7 SX (2)・P (1)
 図版 42 上層遺構出土器 8 P (2) 上層遺構外出土器 1
 図版 43 上層遺構外出土器 2
 図版 44 上層出土土製品 (235～254)、石製品 (255～262)
 図版 45 上層出土木製品 1 (263～276)
 図版 46 上層出土木製品 2 (277～291)、金属製品 (292・293)
 図版 47 下層遺構出土器 1 SB・SK・SD (1)
 図版 48 下層遺構出土器 2 SD (2)・SX・P (1)
 図版 49 下層遺構出土器 3 P (2)
 下層遺構外出土器 1
 図版 50 下層遺構外出土器 2 下層出土土製品 (380～383)、石製品 1 (384～386)
 図版 51 下層出土石製品 2 (387～389)、木製品 (390～393)
 図版 52 上層・下層出土土器、陶磁器

写真図版目次

- 写真図版 1 林付遺跡周辺空中写真
 写真図版 2 上層調査地全景 1・2
 写真図版 3 SB901・下層調査地全景
 写真図版 4 基本層序 (1)
 写真図版 5 基本層序 (2)・上層 SB (1)
 写真図版 6 上層 SB (2)
 写真図版 7 上層 SB (3)
 写真図版 8 上層 SB (4)
 写真図版 9 上層 SB (5)
 写真図版 10 上層 SB (6)・SE・SK (1)
 写真図版 11 上層 SK (2)
 写真図版 12 上層 SK (3)
 写真図版 13 上層 SK (4)
 写真図版 14 上層 SK (5)・SD (1)
 写真図版 15 上層 SD (2)
 写真図版 16 上層 SD (3)・SX (1)
 写真図版 17 上層 SX (2)
 写真図版 18 下層 SB (1)
 写真図版 19 下層 SB (2)
 写真図版 20 下層 SB (3)
 写真図版 21 下層 SB (4)・SK (1)
 写真図版 22 下層 SK (2)
 写真図版 23 下層 SK (3)
 写真図版 24 下層 SK (4)
 写真図版 25 下層 SK (5)
 写真図版 26 下層 SK (6)・SD (1)
 写真図版 27 下層 SD (2)
 写真図版 28 下層 SD (3)
 写真図版 29 下層 SD (4)・SX
 写真図版 30 上層出土遺物 土器 1 SB901・903、SE443、SK17・77・78・92
 写真図版 31 上層出土遺物 土器 2 SK95・105・107・122・125・129・141・145・150・181・183・190・220
 写真図版 32 上層出土遺物 土器 3 SD34・66・69・88・96・130・137・210・218・219、SX209・229 (1)
 写真図版 33 上層出土遺物 土器 4 SX229 (2)、P102・103・110・118・127・155・168・172・175・178・204・206、遺構外 (1)
 写真図版 34 上層出土遺物 土器 5 遺構外 (2)
 写真図版 35 上層出土遺物 土製品、石製品、木製品 1
 写真図版 36 上層出土遺物 木製品 2、金属製品
 写真図版 37 下層出土遺物 土器 1 SB906、SK284・331・360・366・388・411・510・524・526・583・653・696、SD246・271・334・417・461・481・507・508・543・600・601、SX384
 写真図版 38 下層出土遺物 土器 2 P247・248・287・301・406・426・452・478・488・498・545・561・575、遺構外
 写真図版 39 下層出土遺物 土製品、石製品、木製品 上・下層出土遺物 土器、陶磁器

第 I 章 序 説

第 1 節 遺 跡 概 観

林付遺跡は、新潟市（平成 17 年の合併前は潟東村）西蒲区今井 412 ほかにも所在する。平成 21 年 8 月の潟東南小学校の体育館建設に伴う試掘調査によって発見された遺跡で、現況は、新潟市立潟東南小学校の校舎・校庭として利用されている。現在の標高は 2.5m 前後と、周囲の水田よりも高い微高地に立地する。

当該地は、越後平野のほぼ中央にあたり、角田山の裾から東に約 10km、新津丘陵の裾から西に約 13km の沖積地内の自然堤防上に所在する。北西約 2.5km には鎧潟が存在したが、1960 年代の干拓工事により消滅した。

調査の結果、上層・下層の 2 面で遺構確認面の存在することが確認された。出土遺物から上層・下層とも 9 世紀代の平安時代を中心とすることが分かった。また、調査区は体育館建設予定地の約 873m² であるが、調査区外へも遺構の広がることが確認された。とりわけ、調査区西側は上層・下層ともに遺構密度が高く、現校舎側に遺跡の中心があるものと推測される。

周辺では古代を中心とした遺跡が自然堤防上に点々と分布している。遺跡の北東約 12.5km には、奈良・平安時代の官衙関連遺跡と考えられる緒立遺跡と的場遺跡が位置する。さらに、北の信濃川河口には国津である蒲原津が存在したとみられている。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

新潟市立潟東南小学校体育館建設事業にともない、平成 21 年 8 月 26 日付けで、新潟市長（担当は新潟市教育委員会施設課 以下、事業者という）から新潟市教育長（以下、市教育長という）あてに試掘調査の依頼書が提出された。

これを受け、平成 21 年 9 月 10 日に新潟市歴史文化課（以下、市歴史文化課という）が試掘調査（第 1 次調査）を実施したところ、6 か所中 4 か所の試掘坑から平安時代の土器が出土し、うち 2 か所では遺構と考えられる落ち込みが確認された。

この試掘調査の結果を受け、市歴史文化課は、平成 21 年 9 月 18 日付けで新潟県教育長（以下、県教育長という）あてに終了報告（新歴 B 第 137 号の 3）を、平成 21 年 10 月 9 日付けで県教育長あてに遺跡発見通知（新歴 B 第 137 号の 7）を提出した。発見した遺跡は、小字名から「林付遺跡」（新潟市遺跡番号 746）と名付け、周知化された。

調査の結果を受け、事業者と市歴史文化課との間で協議が進められ、体育館建設予定地の 873.2m² について平成 22 年度に本発掘調査を実施することとし、調査終了後に体育館建設工事を行うことで合意した。

平成 22 年 2 月 22 日付けで、事業者から県教育長あてに文化財保護法第 94 条の通知がなされるとともに、事業者から市歴史文化課あてに本発掘調査依頼書が提出された。

これを受け、平成 22 年 4 月 5 日付け新歴 F 第 1 号で市教育長から県教育長あてに、文化財保護法第 99 条の規定に基づく発掘調査の着手報告を提出し、本発掘調査に着手した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

新潟市は越後平野のほぼ中央に位置する。越後平野の地形は大きく海岸部の砂丘地帯、南西側の角田・弥彦山塊、南東側の東山丘陵（そのうち北端から加茂川までの南北約16kmの間を一般に新津丘陵と呼んでいる）、その間の沖積面からなっている。市域の大半を占める越後平野は、日本海から越後平野を縦断して長野県へと至る信濃川と、日本海から越後平野を南東方向へはしり、福島県へと続く阿賀野川をはじめ、多くの大小河川によって形成された沖積層であり、発達した砂丘列とその内陸側に広がる低湿地帯が特徴である。

砂丘は、海岸線から内陸へ10kmに及ぶ10列の砂丘列を形成しており、内陸から新砂丘Ⅰ（4列）・Ⅱ（4列）・Ⅲ（2列）に区分されている〔新潟古砂丘グループ1974〕。越後平野では、信濃川・阿賀野川の2大河川の蛇行帯には、良く発達した自然堤防も形成されており、その自然堤防や砂丘に囲まれるように後背湿地が広く分布している。後背湿地は、水はけが悪く湿地や潟湖の状態であったと考えられる。砂丘列の内陸部に広がる低湿地帯には、紫雲寺潟、福島潟、鳥屋野潟、鎧潟など多くの潟湖が形成されたが、現在では、河川の整備や干拓により消滅したものも多い。越後平野が近年見るような水田地帯となったのは昭和30年代以降のことで、江戸時代初めから明治時代の終わりまでの約300年間では、信濃川の洪水が100回以上を数えるなど耕地として適した環境ではなかった。

今回調査した林付遺跡は越後平野のほぼ中央に位置し、後背湿地からやや外れた沖積地の自然堤防上に立地する。西約10kmには角田山が、東約13kmには新津丘陵がそれぞれ存在する。信濃川とその支流である中之口川は、それぞれ東約10kmと約5kmに存在し、越後平野の西側を南北に流れる西川は西約6kmに、大通川は西約2.5kmに位置する。また、北西約2.5kmには鎧潟がかつて存在した（1960年代の干拓工事により現在は消滅）。なお、林付遺跡から南西方向には国見・漆山・柿島・河井集落が位置する自然堤防が蛇行しながら走っており（第2図）、旧河川の存在した可能性が推測される。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

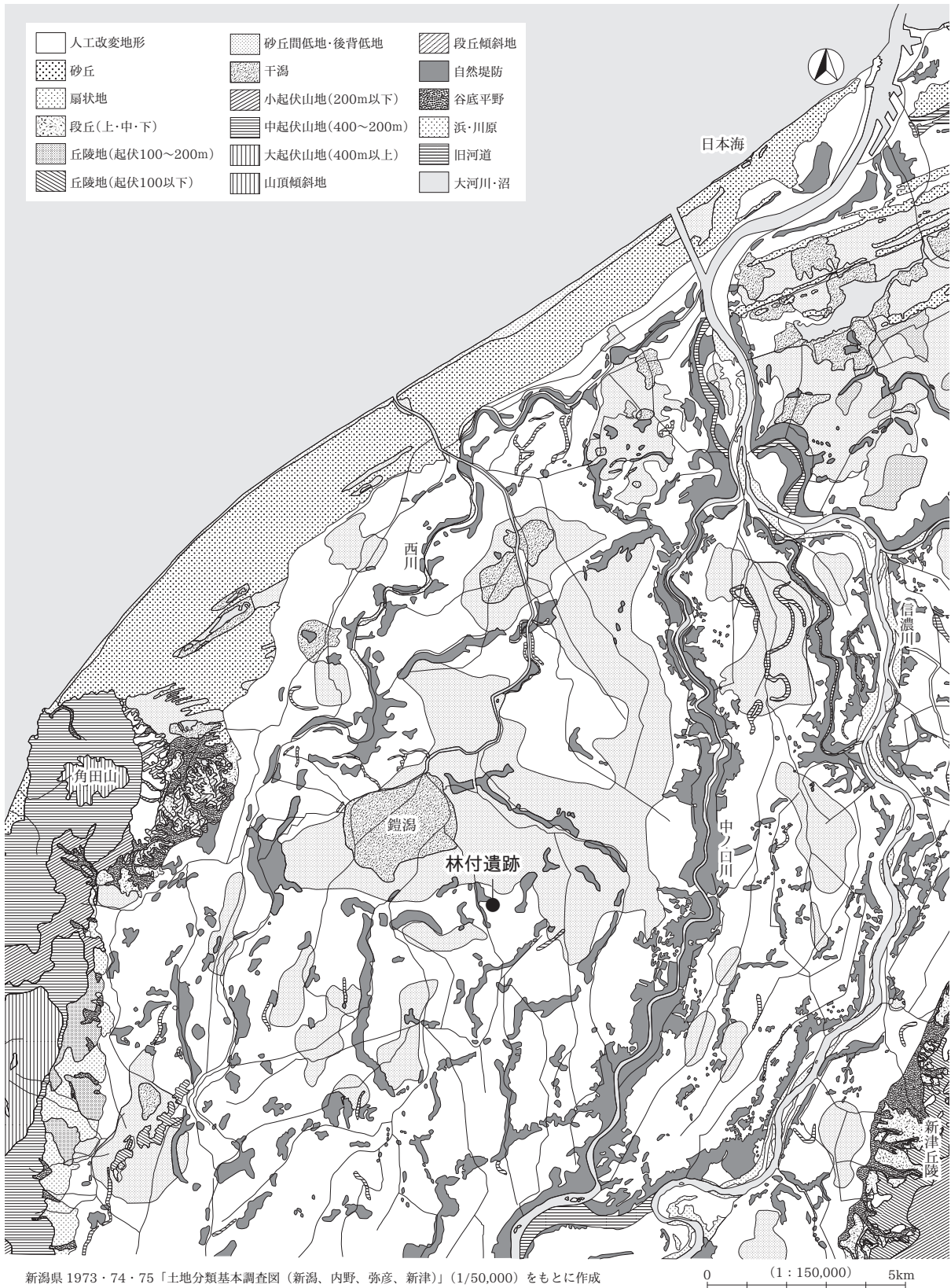
林付遺跡が位置する越後平野の遺跡立地としては、大きく山麓・砂丘・沖積地内の自然堤防の3つに分けられる。前節で触れたとおり、林付遺跡周辺には後背湿地が広範囲に存在していたと考えられ、林付遺跡はその中の自然堤防に立地していた。

林付遺跡の位置する領域は、古代には蒲原郡に属していた。蒲原郡の範囲は、近代の中・西・南蒲原郡を含むものであったと考えられる。10世紀に成立した「倭名類聚抄」によれば、蒲原郡には「日置・桜井・勇礼・青海・小伏」の5郷が存在している。また、延長5（927）年の『延喜式』神名帳には、「青海（2座）・宇都良波志・伊久礼・槻田・小布施・伊加良志・伊夜比古・長瀬・中山・旦那野・船江・土生田」の蒲原郡の式内社（12社・13座）が記されている。これらの所在については諸説あり、林付遺跡がどの郷に含まれていたかも不明である。

ここでは、周辺の縄文時代から古代（奈良・平安時代）における遺跡分布やその内容について、古代を中心に概観する（第2図）。

縄文・弥生時代

越後平野の両端にある角田・弥彦山麓や東山・新津丘陵とその周辺、さらには砂丘を中心に分布しており、沖



第1図 林付遺跡周辺地形分類図

積地での確認例は極端に少ない。砂丘では、的場遺跡(12)、緒立遺跡(13)、六地山遺跡(14)、四十石遺跡(16)、ヤマサキ遺跡(18)・茶畑遺跡(19)・神山遺跡(20)・屋敷添遺跡(21)・前田遺跡(22)・屋敷浦遺跡(23)・大藪遺跡(24)など、砂丘列に沿って分布する状況がうかがえる。

沖積地では、横川浜堤外地遺跡(10)や大沢谷内遺跡(11)、味方排水機場遺跡(39)、西萱場遺跡(59)、兵

蔵遺跡(60)が存在する。味方排水機場遺跡は、排水機場建設工事の際に縄文土器が地下約19mほどの地点から出土したとされ、越後平野の地盤の沈降を示す事例として注目されている。また、これまでに調査が行われている大沢谷内遺跡では、出土遺物の検討から、物流・交易活動が中心の集落であった可能性が指摘されている〔前山2010a・b〕。いずれにせよ、縄文・弥生時代を通じて越後平野の沖積地は集落として大規模に利用されたとは考えにくい状況である。

古墳時代

おおむね弥生時代を踏襲した遺跡分布のあり方を示すが、大島橋遺跡(32)や大沢谷内遺跡(11)では7世紀の遺物が定量出土しており、沖積地に集落が出現し始めた状況がうかがえる。なお、燕市の大橋遺跡でも7世紀を前後する時期の遺物が出土しており、同様の状況がうかがえる。

角田山麓に位置する古墳時代の拠点集落である御井戸B遺跡の消長をみると、古墳時代後期で集落が途絶える状況が推測される〔相田2004〕。このことは、6世紀を前後する時期、集落に大きな変化のあった可能性を示唆する。沖積地内で6世紀の遺跡は確認されておらず、6世紀の状況は不明であるが、前記のとおり少なくとも7世紀には沖積地内に集落が形成されはじめたと考えられる。

古代(奈良・平安時代)

沖積地における奈良時代の遺跡としては、川根遺跡(8)、家掛遺跡(52)、島灘瀬遺跡(53)、下新田遺跡(62)、仲歩切遺跡(64)、古辻・助次郎遺跡(67)などがあり、8世紀に沖積地の遺跡数は確実に増加をみせる。さらに、9世紀になると林付遺跡も含め、遺跡数が急増する状況にある。

発掘調査が行われた周辺の9世紀の遺跡では、砂丘上に位置する四十石遺跡(16)・的場遺跡(12)・緒立遺跡(13)・六地山遺跡(14)、自然堤防上に位置する駒首瀧遺跡(3)、大沢谷内遺跡(11)、釈迦堂遺跡(27)、中組遺跡(図版1)、江添C遺跡(図版1)などがある。

このうち、信濃川河口に位置する的場遺跡(12)では、倉庫と考えられる大形の総柱建物が確認されており、出土した大量の土錘や木製の浮子、銚帯金具、木杵、銭貨などから、内水面の漁業に関係した国の施設と考えられている。また、的場遺跡の西約0.7kmに位置する緒立遺跡(13)は、的場遺跡と関連した遺跡と考えられ、加工・管理などが行われていたと推測されている〔坂井1996・2008_{など}〕。的場・緒立遺跡とも8世紀前半から10世紀代まで続くと考えられている。林付遺跡からは直線で北東約12.5kmに位置する。

釈迦堂遺跡(27)では火葬が行われた痕跡が確認されており、また、「郡」と記された墨書土器や円面硯、銚帯金具などが出土している。出土遺物から有力者の存在が推測されている。また、地震による地割れや墳砂の痕跡もみられ、貞観5(863)年に発生した地震によるものと考えられている〔江口2000・春日2006〕。遺跡の存続期間は、9世紀前半から10世紀初頭頃で、9世紀第2四半世紀を中心とする。林付遺跡からは北北東約8.5kmに位置する。

駒首瀧遺跡(3)は9世紀を中心とする集落で、旧河川沿いに四面廂付掘立柱建物をはじめとする多数の掘立柱建物や畝状遺構などが確認されている。また、「足羽臣」や「資人」と記された木簡や、墨書土器、仏鉢形土器、権状錘なども出土している。建物や出土遺物の検討から、中央とつながりをもつ地元の有力者を中心とした集落と考えられている。林付遺跡からは北東約17.5kmに位置する。

また、林付遺跡から直線で南西方向約5.5kmに位置する中組遺跡(図版1)では、緑釉陶器や「池津」と記された墨書土器などが出土しており、拠点的な集落であった可能性が高い。出土遺物は9世紀後半から10世紀前半頃に位置づけられている〔春日2000〕。

北北東へ約5.7kmに位置する五之上曾根上遺跡(34)では、未調査ではあるがおおむね9世紀代に比定できる土器器・須恵器のほかに灰釉陶器5点などが採集されており、拠点的な集落である可能性が高い〔関2000〕。

9世紀前半における遺跡数の増加の背景として、沖積部における開発の進展にともなう集落数の増加といった点のほかに、大規模な遺跡が解体して小規模分散化する側面も指摘されている〔春日2000〕。



■ 明治44年測量図から復元した潟湖

(国土地理院 内野・新潟・弥彦・新津 1/50,000を縮小)

No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代
1	親仁山遺跡	平安・中世	18	ヤマサキ遺跡	縄文・弥生・中世	35	味方首根下遺跡	平安	52	家掛遺跡	奈良・平安・中世
2	女池稲荷遺跡	平安	19	茶畑遺跡	縄文・平安・中世	36	ブギリ遺跡	平安・中世	53	鳥澤瀬遺跡	古墳・奈良・平安
3	駒首湯遺跡	平安	20	神山遺跡	縄文・弥生	37	弥佐工門遺跡	平安	54	林付遺跡	平安・中世・近世
4	下等別当遺跡	平安・中世	21	屋敷添遺跡	弥生・平安	38	土手内遺跡	平安	55	浦B遺跡	平安
5	長沼遺跡	平安・中世	22	前田遺跡	弥生・古墳・平安・中世・近世	39	味方排水機場遺跡	縄文	56	堤遺跡	平安
6	西沼遺跡	平安	23	屋敷浦遺跡	弥生・奈良・平安	40	味方用水路遺跡	平安	57	高畑遺跡	平安
7	長左工門沼遺跡	平安	24	大藪遺跡	縄文・古墳～中世	41	千日遺跡	平安	58	ハガヤバ遺跡	平安
8	川根遺跡	奈良・平安・中世	25	大原遺跡	平安	42	骨田遺跡	平安	59	西萱場遺跡	弥生
9	浦興野遺跡	古代	26	山田屋敷遺跡	平安・中世	43	樋切遺跡	平安	60	兵藏遺跡	弥生・中世
10	横川浜堤外地遺跡	縄文・古代・中世	27	釈迦堂遺跡	平安・中世	44	与平湯遺跡	平安・中世	61	六枚田遺跡	平安
11	大沢谷内遺跡	縄文～中世	28	三町歩遺跡	平安	45	六十歩下遺跡	平安・中世	62	下新田遺跡	奈良・平安
12	的場遺跡	縄文～中世	29	中才遺跡	平安	46	三條田遺跡	平安	63	道上荒田遺跡	平安・中世・近世
13	緒立遺跡	縄文～中世	30	浦田遺跡	古墳・平安	47	西前田遺跡	平安	64	仲歩切遺跡	奈良・平安・中世
14	六地山遺跡	弥生・奈良・平安・中世	31	漕上り遺跡	平安	48	四ツ割遺跡	平安	65	万坊江遺跡	平安・中世
15	茨首根遺跡	平安・中世	32	大島橋遺跡	古墳・平安	49	沼下遺跡	平安	66	高六遺跡	平安・中世
16	四石遺跡	縄文～中世	33	なえびき橋遺跡	平安	50	本田遺跡	平安	67	古辻・助次郎遺跡	平安・中世
17	木山遺跡	平安・中世	34	五之上首根上遺跡	平安	51	浦A遺跡	平安			

※ 7世紀の遺跡は古墳時代に含む

第2図 林付遺跡周辺の縄文時代～古代の遺跡分布

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘調査(第4図)

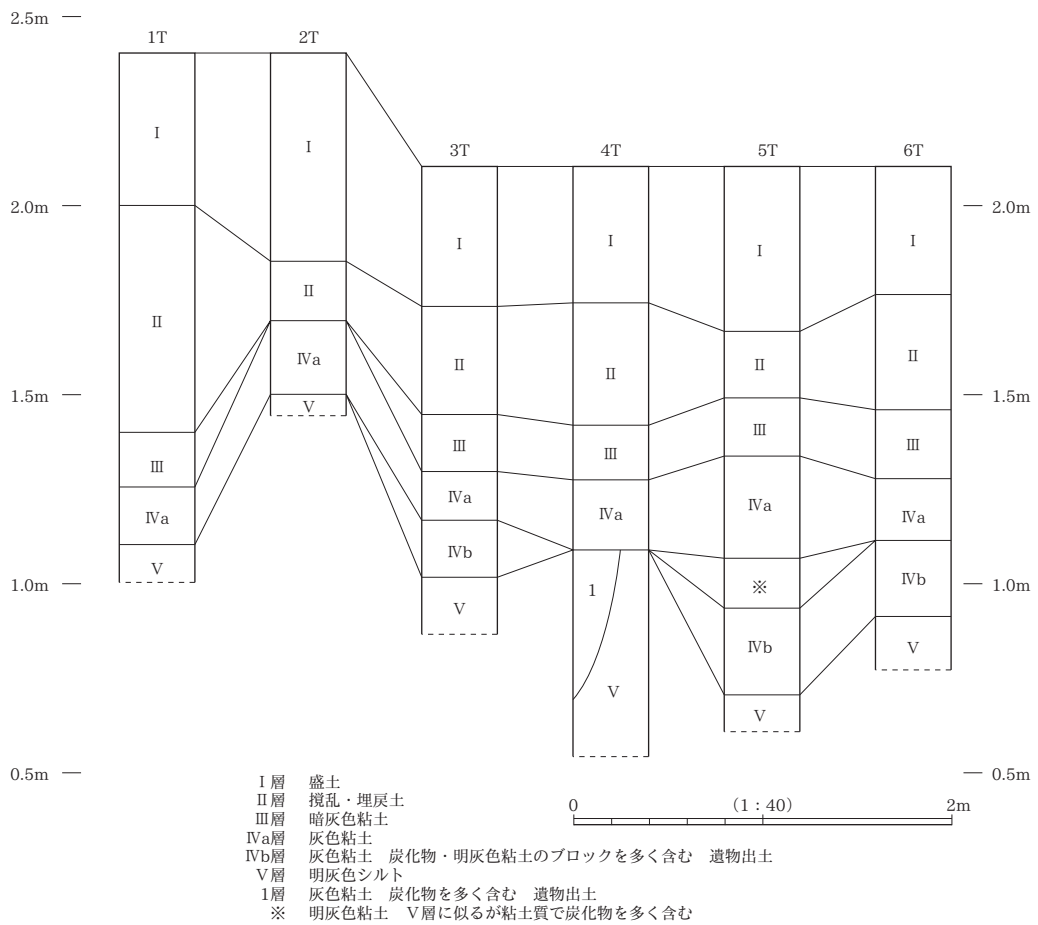
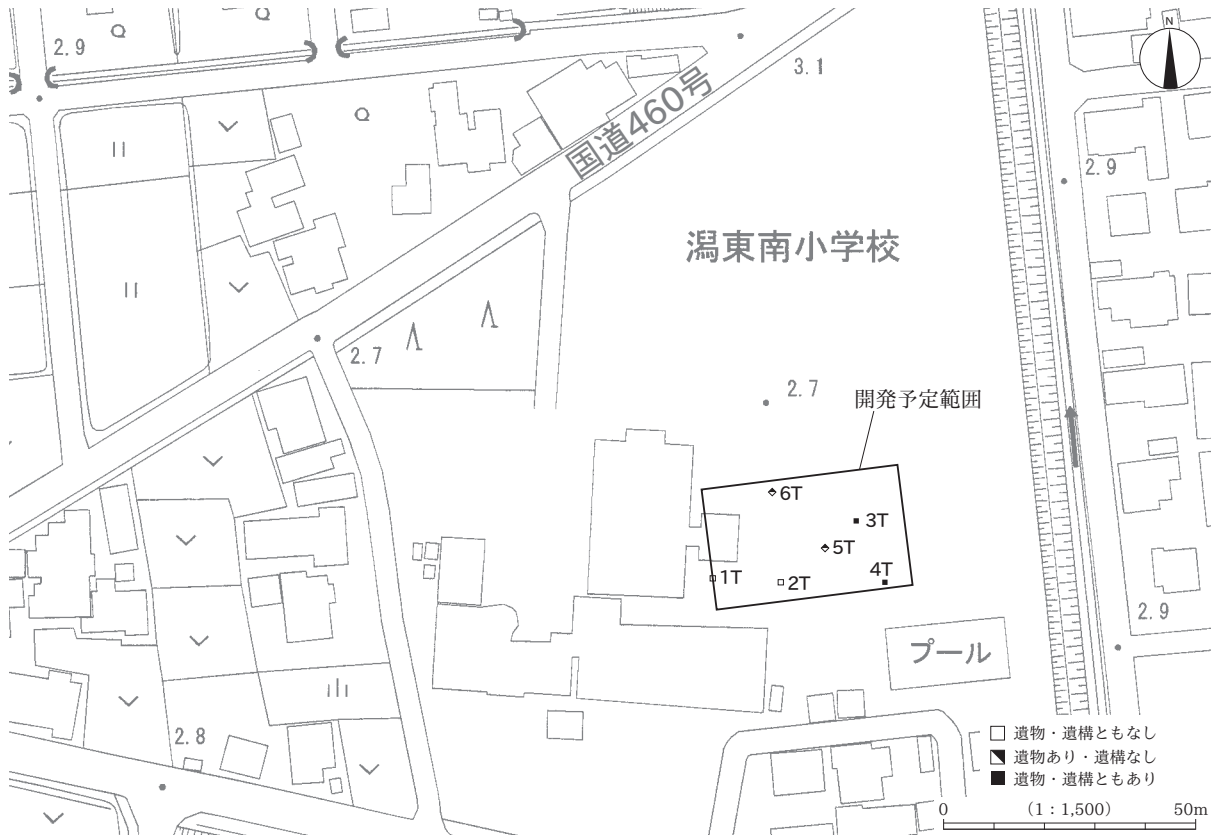
試掘調査(第1次調査)は平成21年9月10日に行った。当初の開発予定面積は922m²で、6か所の試掘坑を設定した。試掘調査は重機(バックホウ)で表土から徐々に掘削した後、人力による精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況を記録した。試掘調査面積は6m²(1m²×6か所)である。

この結果、3～6トレンチから平安時代の遺物が出土するとともに、3・4トレンチでは遺構も確認された。このため、新遺跡発見の手続きがとられ、林付遺跡(新潟市遺跡番号746)として周知化された。

以上の結果を踏まえて前述(第1章第2節参照)したように事業者と協議を行い、体育館新築部分約873m²について記録保存のための本発掘調査を実施することになった。



第3図 林付遺跡調査位置図(1/14,000)



第4図 林付遺跡試掘調査位置図・土層柱状図

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) 調査前の状況

調査範囲の大半は小学校の校庭として利用されていた。また、既存体育館に付随する用具室と便所が調査範囲内西側に及んでいた。それ以前は水田耕作地として利用されていた。現標高は約 2.5m である。

2) グリッドの設定 (第5図)

グリッドを設定するにあたっては、北西杭を基点とし 1A 杭とした。1A 杭は X 座標 : 194518.36910953、Y 座標 : 39711.52891303、緯度 : 37° 45' 19" 01495、経度 : 138° 56' 50" 93994 である。また、基点から国土地理院の第Ⅷ系座標軸を用いて 10m の方眼を組み、これを大グリッドとした。

大グリッドの名称は北西隅の 1A 杭を基点として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドはさらに 2m 方眼に区分して 1 から 25 の小グリッドに分割し、「4F24」のように呼称・表示した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区 3 点の座標は次のとおりである。

4D1 (X 座標 : 194488.36910953、Y 座標 : 39741.52891303、緯度 : 37° 45' 18" 03720、経度 : 138° 56' 52" 15973)

5E1 (X 座標 : 194478.36910953、Y 座標 : 39751.52891303、緯度 : 37° 45' 17" 71128、経度 : 138° 56' 52" 56633)

4G1 (X 座標 : 194488.36910953、Y 座標 : 39771.52891303、緯度 : 37° 45' 18" 03254、経度 : 138° 56' 53" 38535)

3) 調査方法

①表土除去 第1次調査結果から、遺跡の形成レベルが遺物包含層であるⅢ層以下にあたることが判明したため、Ⅰ層(校庭造成にともなう盛土)・Ⅱ層(旧水田耕作土)を遺物の出土などに注意しながら、Ⅲ層上面まで重機(バックホウ)により除去した。排土は調査区脇に置いた。法面は安全を考慮して一分の勾配をつけた。また、湛水防止のため、表土除去と並行して調査区の周囲に土側溝を掘り 2 吋のポンプで強制排水を行った。土側溝は幅 40cm 程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩落する恐れがあったため、壁面下場から 50cm の間隔をあけたうえで、人力により V 字の溝を掘削した。なお、崩落防止のために壁面下場から土側溝の間(約 50cm)については、最後まで上層遺構確認面(Ⅳ a 層)の高さで止めた。

②包含層調査・遺構確認・遺構調査 表土除去の後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構確認を行った。排土は人力で調査区外へ搬出した。遺構調査中はベルトコンベアーにより排土を調査区外へ出した。なお、途中、掘立柱建物の中に柱材を残す柱穴が確認され、かなりの深度に及ぶ状況がうかがえたため、断面観察及び柱材の取り上げに加え、未検出の柱穴の有無を確認する目的で、建物の軸に沿って柱穴の中央付近を通る形でサブトレンチを入れた場所がある。

③遺物の取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位で取り上げた。遺構からの出土遺物は可能な限り層位・小グリッド単位ごとに一括で取り上げたほか、一部の遺物についてはトータルステーションにより出土地点を記録した。なお、井戸状遺構と一部柱穴については、覆土を回収し、土壌水洗によって微細遺物の抽出にあたった。

④実測・写真 実測作業は、いずれも測量業者に委託して行い、調査員が現場で図面チェックを行った。なお、断面図は手取りにより 1/20 で作成した。平面図・各種測量点はトータルステーションを用いて取得したデータを基にキヤドで作成した。

層序・遺構・遺物出土状況などの写真撮影は、6×7 版・35mm 版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。また、空撮は業者に委託して行った。

⑤自然科学分析 掘立柱建物の一部の柱材において、年代と木材利用の状況を調べるために、放射性炭素年代測定と樹種同定を、また、古植生・古環境を検討するために植物珪酸体分析・花粉分析を行った。



第5図 グリッド設定図 (1/2,000)

B 調査経過

1) 撤去・設置等工事

平成22年4月6日から4月14日まで既設排水路と花壇の撤去工事、仮設給水管布設工事、仮囲い設置工事、樹木の移植などの準備工事を実施した。この間に仮設事務所の設置と、事務所・水中ポンプ・バルコン用の電気配線工事を行った。

2) 発掘調査

調査は新潟市埋蔵文化財センターの担当職員1名と新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員1名が専従する体制で、4月15日から表土除去に着手した。途中、水道管が調査区の南北方向に屈曲しながら延びていることが分かった。とりわけ調査区南半は水道管が太く、その部分は水道管を中心に幅1.5mを土手状に残した。なお、調査区の北西には2×7m四方のコンクリート製の便漕が遺構確認面下まで埋設されていること、さらに調査区西側では南北方向に幅約2.5mでゴミを投棄するための溝状の掘削が遺構確認面下まで行われていることが確認された。前者は除却が困難なことから掘削範囲から外し、後者はゴミが投棄された部分を重機・人力で取り除いた。

4月25日までに重機による表土掘削を終了し、4月26日から本格的な包含層掘削及び遺構精査に着手した。

6月3日、調査区周囲の壁面の観察・検討から、下層の存在が明らかとなり、調査工程及び体制の見直しが急務となった。また、柱穴・柱根の配列から最低でも2間6間で1面廂付きの大形の掘立柱建物の存在が推測された。6月7日より新潟市埋蔵文化財センター職員1名と民間調査会社（株式会社吉田建設）の調査員2名を加えた体制となった。6月12日、上層の掘削を終了し、6月13日に上層の空撮及びローリングタワー上からの完掘写真撮影を行った。6月17日、潟東南小学校の教員・生徒と近隣住民向けの現地説明会を開催し、計93名の参加者があった。

6月18日より、下層の包含層掘削及び遺構精査に着手した。6月下旬、上層の大形掘立柱建物の東側で大形掘立柱建物の柱穴列に対応する位置で柱根を残す柱穴列が確認された。検討の結果、上層の遺構調査で見落とした上層大形掘立柱建物の柱穴であると判断し、上層の大形掘立柱建物は2間6間の東西2面庇付き建物との結論に至る。7月9日に下層の掘削を終了し、7月10日に下層の空撮及びローリングタワー上からの完掘写真撮影を行った。7月19日、一般向けの現地説明会を開催し、計146名の参加者があった。

C 調査体制

【第1次調査（試掘調査） 平成21年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頼所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	廣野耕造（新潟市歴史文化課主査）

【第2次調査（本発掘調査） 平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頼所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）
調査員	立木宏明（新潟市埋蔵文化財センター主査）・高野裕子（新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員）・細井継佳・長沼吉嗣（株式会社吉田建設）
調査・整理補助員	金子靖・高橋孝太（新潟市埋蔵文化財センター臨時職員）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして試掘調査（第1次調査）が1箱（平安時代の土器）、本発掘調査（第2次調査）が40箱（平安時代の土器・土製品・石製品・銭貨・鉄滓・種子・炭化米、中・近世の土器）のほか、木製品（木柱53本など）が大型水槽に保管されている。遺物のうち、土器の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別・種別の重量計測および遺構出土遺物の器種ごとの重量・口縁部残存値・破片数計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図作成→⑦観察表作成の順で行った。このうち、①と②の一部は現場で行い、以降は新潟市埋蔵文化財センター（平成23年度からは新潟市文化財センター）で行った。木製品は、①洗浄→②報告書掲載遺物の抽出→③実測図作成の順に進めた。遺物の注記は「10林付」とし、出土地点等を続けて記した。実測図は整理補助員が原寸で作成し、トレースは業者に委託しデジタルトレースを行った。

2) 遺構

測量業者が手取りした1/20の遺構断面図と電子測量をした1/40の遺構平面図との校正作業を行った。手取りした遺構断面図は校正前にデジタルデータ化を行った。

B 整理経過

平成22年度の現場作業終了後、引き続き整理作業を開始した。平成22年度に報告書作成のための重量・数値計測、接合・実測図作成・遺物写真撮影を行うとともに遺物図面レイアウトを作成した。また、遺構測量図の校正作業も並行して行い、遺構図面図版レイアウトを作成した。また、現場記録写真の整理やフィルム写真のデジタル化を行ったのち、報告書掲載写真を抽出して遺構写真図版レイアウトを作成した。

平成23年3月、東日本大震災により委託業者とのデジタル図化編集作業が中断した。委託業者が業務困難な状況であることから、平成23年3月、委託業者との契約を解除した。

平成23年8月、別の業者とデジタル図化編集業務委託の契約を結び、平成23年11月から報告書作成のための整理作業を再開した。まず、遺物写真図版レイアウトの作成を行い、報告書の図面編集作業を委託業者との間で進めた。また、これに並行して原稿の執筆を行った。

C 整理体制

【整理作業 平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）
調査員	高野裕子（新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員）・牧野耕作（新潟市埋蔵文化財センター非常勤嘱託）
整理補助員	青池光子・朝妻奈美子・小野里絵梨子・金子靖・北見順子・佐々木陽子・高橋孝太（新潟市埋蔵文化財センター臨時職員）

【整理作業 平成23年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 高橋保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）
整理補助員	小野里絵梨子（新潟市文化財センター専門臨時職員）・高野裕子・八藤後智人（新潟市文化財センター専門臨時職員）

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

林付遺跡は自然堤防上に立地しており、古代、中世、近世の遺物が出土するが、このうち、中世・近世の遺物はごく少量で、遺跡の中心は平安時代（9世紀）である。遺構は上層・下層の2面が確認されており、標高は上層で約1m、下層で約0.6～0.7mを計る。

調査範囲が狭く、遺跡全体の地形については不明であるが、上層では東側に行くにつれて地形が低くなり、遺構も調査区東半域は溝以外ほとんどみられなくなることから、おおむね集落の東縁部にあたる可能性が推測される。下層は上層ほど場所による遺構の粗密は見られないが、西端域で最も密な点は上層と共通する。なお、地形は北から北東方向にかけて下がる。

遺構は古代の遺構のみが確認されており、上層で掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット、下層で掘立柱建物、土坑、溝、ピットなどがある。それぞれ配置や重複関係から数時期が捉えられる。出土遺物は土器類が圧倒的な量を占めるが、土錘や砥石、木柱を中心とする木製品も一定量出土している。他には、土製の支脚2点や鞆の羽口1点、石帯1点、権状錘1点、鉄滓、種子、炭化米がある。

古代の土器類は春日真実氏の編年〔春日1999〕のⅣ-3期からⅥ期のものがあり、下層出土土器はⅤ・Ⅵ-1期、上層出土土器はⅥ期を中心とする時期に属すと推測され、土器類以外の遺物もこの時期と考える。

第 2 節 基 本 層 序

基本層序は図版2に示した。現地表面から上層遺構確認面（Ⅳa層上面）までは大きく3層（Ⅰ～Ⅲ層）に分かれる。また、Ⅳa層と下層遺構確認面（Ⅳc層上面）の間には下層の遺物包含層（Ⅳb層）が存在する。なお、Ⅳc層の下にはⅤ層があり、遺物・遺構が認められないことから基盤層の可能性が高い。

Ⅰ層は現在の盛土を一括した。Ⅱ層は耕作土を含む近世以降の堆積層である。Ⅰ層は調査区のどの場所でも認められるが、Ⅱ層は存在しない場所もある。Ⅰ・Ⅱ層を合わせた厚さは場所によってばらつきがみられ、上層の遺物包含層（Ⅲ層）上面までの深度は0.6～1.2mと幅がある。Ⅲ層の厚さは0.04～0.28mである。

Ⅳ層は3層（Ⅳa層：上層遺構確認面、Ⅳb層：下層遺物包含層、Ⅳc層：下層遺構確認面）に細分した。厚さはⅣa層が0.02～0.45m、Ⅳb層が0.08～0.42m、Ⅳc層が0.08～0.46mで、場所によって厚さに違いがみられる。なお、Ⅳa・Ⅳc層から遺物は出土していない。

以下に土層説明を行うが、同一層でもいくつかの土色が捉えられているものもある。ここでは中心となる色調を記載する。

- Ⅰ 層：現表土。埋土及び校庭の造成土からなる。灰黄褐色粘土（10YR6/2）のほか、にぶい黄橙色砂質土・粘土（10YR6/3）、明黄褐色砂質土（10YR7/6）が認められる。また、場所によりゴミが広範囲に埋められた地点がある。
- Ⅱ 層：黒褐色シルト（2.5Y3/1）粘性・しまりあり。径1mmの炭化物を少量含む。近世以降の堆積土。
- Ⅲ 層：黒褐色シルト（2.5Y3/2）粘性・しまりあり。径1mmの炭化物を少量含む。近世・中世・古代の遺物包含層。
- Ⅳ a 層：青灰色シルト（5B5/1）、黒褐色シルト（2.5Y3/1）粘性・しまりあり。この上面が上層の遺構確認面。

- IV a' 層：黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性・しまりあり。径 1 ～ 5mm の炭化物を含む。
- IV b 層：暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり・しまりあり。径 1 ～ 10mm の炭化物をやや多く含む。古代の遺物包含層。
- IV c 層：青灰色シルト (5B5/1)、黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり・しまりあり。径 1 ～ 5mm の炭化物を少量含む。この上面が下層の遺構確認面。
- V 層：青灰色シルト～砂質土 (5B5/1)・オリーブ黒色砂質土 (7.5Y3/1) 粘性ややあり・しまりあり。オリーブ黒色シルト～粘土と互層堆積となるところもある。当層では自然木が確認され、遺物の出土も認められないことから、後背湿地で形成された基盤層の可能性が高い。

第3節 遺 構

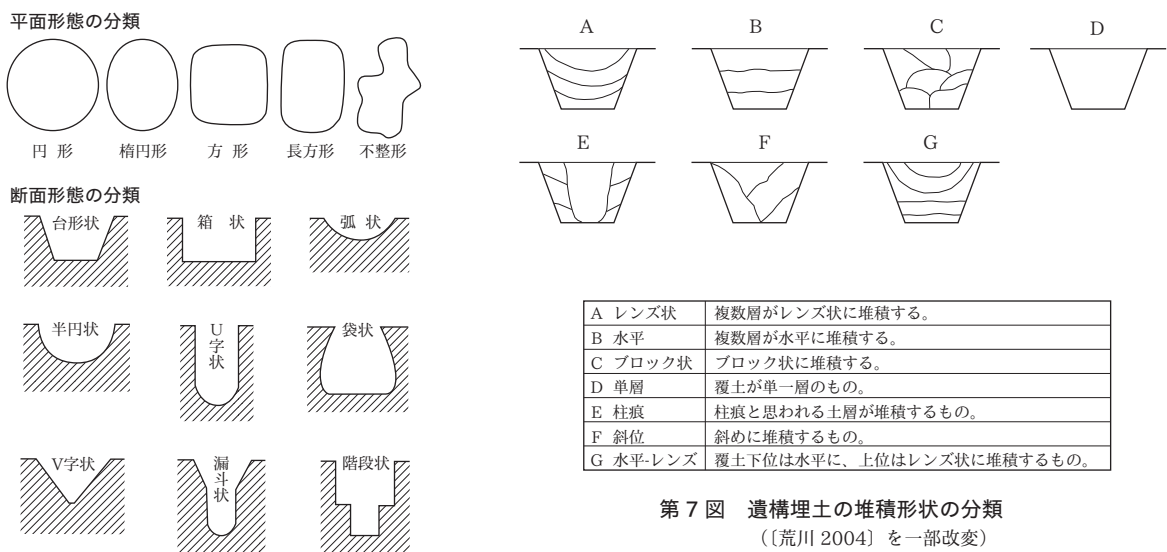
A 遺構の概要

今回の調査で確認された遺構は、出土遺物から下層が古代で、上層も大半が古代に属すると考えられる。上層で明確に中世以降として位置づけられた遺構はない。遺構覆土は基本的に黄褐色～暗褐色シルト・粘土で構成され、炭化物を含む。上層・下層で遺構覆土に大きな違いは認められない。

各遺構の記述は上層、下層の順とし、さらに掘立柱建物 SB、井戸 SE、土坑 SK、溝 SD、性格不明遺構 SX、ピット P の順番で記述する。なお、遺構番号は、上層・下層、遺構の種別に関係なく確認順に通し番号を付した。ただし、遺構番号を付した後、調査により遺構でなくなったものは欠番としている。

また、掘立柱建物の番号については、901 番から確認順に番号を付けた。ちなみに、下層の調査で確認された遺構の中には、検討の結果上層の遺構と判断したものがあ。そのため、遺構番号が上層と下層とで逆転する場合もある。

遺構の平面形態及び断面形態、堆積状況の分類については、『和泉 A 遺跡』・『青田遺跡』で示された分類〔加藤 1999・荒川 2004〕(第 6・7 図) によった。また、遺構の規模と深度については、それぞれ遺構プランが確定した段階での長軸最大値と上端面から最深部までの値であり、遺構掘り込み面が遺構確認面より高かった場合、本来の規模・深度はそれよりも大きい値であった可能性が高い。とりわけ下層で確認した遺構で上層と判断したものは、規模・深度とも本来の数値とはかなり異なるといえる。なお、別表 1 の遺構計測表において、平面形態や断面形態、規模や深度などが不明な場合は空欄とし、規模が確定できない場合は「以上」で示した。



第 7 図 遺構埋土の堆積形状の分類
〔荒川 2004〕を一部改変)

第 6 図 遺構の平・断面形態の分類〔加藤 1999〕

B 遺 構 各 説

1) 上 層 の 遺 構

上層で確認された遺構は、掘立柱建物3棟、井戸3基、土坑36基、溝23条、性格不明遺構7基、ピット161基である。遺構密度や遺構種別は、調査区中央付近を南北方向へのびる溝を境に東西で大きく異なる。掘立柱建物や井戸、土坑は西側に偏り、調査区東側は遺構密度が希薄な状況である。地形が西から東へゆるやかに傾斜して下がる点も含め、調査区は遺跡の東縁付近にあたる可能性が推測される。

掘立柱建物 (SB)

上層では3棟の掘立柱建物を確認した (SB901～903)。うち、SB901は大形の掘立柱建物で、SB902は小規模な建物と推測される。また、SB903は調査区外へのびるため全体像が不明であるものの、柱間の長さなどから大形の建物になる可能性が高い。

SB901 (図版9、写真図版3)

3～5D・3～5Eに位置する平安時代の大型の掘立柱建物である。主軸はN-24°-W。SB901の北側は、コンクリート製の便槽設置に伴う掘削で削平を受けている。さらに北西側は、ゴミを廃棄した際の掘削により壊滅している。

SB901に属すと判断した柱穴の全てで柱根が出土している。柱穴の掘り方はいずれも円形である。身舎は梁行2間×桁行6間で、東西に廂が付く梁間2間型の建物と考えられる。身舎の柱間の距離は、桁方向で2.4～2.8m、梁方向で2.9～3.1mで、桁方向は北側3列の柱間の距離が若干短い。

身舎部分の面積は87.9m²である。なお、北西側の柱穴4つは攪乱による削平のため確認できなかった。東側の廂部分の柱穴と判断したP318・383・393は上層の調査で確認できず、下層調査時に発見された遺構である。P383から出土した柱根の放射性炭素年代測定では古い年代が出ている(第VI章)が、柱根の出土した位置が身舎と一致することに加え、身舎との柱間の距離が約1.68～1.84mと西側の廂と一致しており、偶然とは考えにくいことからSB901に属すと判断した。廂部分を含めた建物面積は140m²である。

身舎内に位置するP187・P232は、いずれも柱根が出土していること、身舎中央を通る桁の軸と梁の軸に一致することからSB901に属すると考える。

建物に伴う明確な雨落ち溝は確認できなかったが、SD88はその可能性もある。

SB901を構成する柱穴と主な遺構との切り合い関係については、SK183→P101・103、P112→SK150→SK95、P146→SK78・79、P152→SK145、P192→SE40、P199→SK64、P232→SK107・102である。

SB901を構成する柱穴の出土遺物などから9世紀第3四半世紀を中心とした時期の建物と考えられる(第VIII章)。また、SB901-P207からは支脚も出土している(235)。

SB902 (図版12)

4Cに位置する平安時代の掘立柱建物である。主軸はN-24°-W。北西側の柱穴は確認できなかった。建物は1間×1間で、長軸2.5m、短軸2.2m、面積は5.5m²である。なお、調査区外の南西方向へのびる可能性もあるが、柱穴の規模からは小規模な建物と推測される。建物に伴う時期の分かる遺物はないが、軸の方位はSB901と一致しており、近接した時期の可能性が高い。

SB903 (図版12、写真図版9)

4C・5Cに位置する平安時代の掘立柱建物である。主軸はN-10°-W。柱穴は2間分(3基)確認され、いずれも柱根が出土している。調査区外へと広がるため建物全体の規模や構造は不明であるが、梁行の柱間は3.2mとSB901の柱間長を上回ることから、大型の建物になる可能性が高い。柱穴の掘り方はいずれも円形である。

井 戸 (SE)

SE10 (図版 13、写真図版 10)

5C9 に位置する。長軸 1.09m の平面円形で、断面は箱状を呈すが、下方で外側へ膨れる形状である。深さは 1.09m。覆土は灰色・暗灰色の粘土を主体とし、5 層は木質片を多量に含むなど、井戸以外の遺構の覆土と大きく異なる。レンズ状堆積。木製品 (284 ~ 288) が出土したほか、5 層からモモの種実や炭化米が出土している。

SE40 (図版 13、写真図版 10)

5D10・15 に位置する。長軸 0.9m の平面円形で、深さは 0.91m。断面は箱状を呈すが、下方で外側へ膨れる。覆土は粘土で、4 層に木質片を多量に含む点は SE10 と共通する。レンズ状堆積。棒状製品 (289) のほか、1 ~ 4 層にかけてモモの種実や炭化米が出土している。

SB901 を構成する P192 を切ることから、SB901 廃絶後の遺構と考えられる。

SE443 (図版 13、写真図版 10)

5D2・7 に位置する。平面円形、断面半円状で、長軸 0.93m、深さは 0.56m。覆土は黒褐・灰黄色粘土で、レンズ状堆積。底面直上で曲物底 (290) が出土したほか、水洗選別により 2 層から炭化米が検出されている。

土 坑 (SK)

SK1 (図版 13、写真図版 10)

3C20 に位置する。平面楕円形、断面弧状で、長軸 0.9m、深さ 0.08m。

SK7 (図版 13、写真図版 11)

4C8・9 に位置する。平面円形、断面弧状で、長軸 0.82m、深さ 0.09m を計る。

SK9 (図版 13、写真図版 11)

4C10、4D6 に位置する。平面円形、断面箱状で、長軸 0.99m、深さ 0.27m。覆土は斜位堆積である。

SK17 (図版 13、写真図版 11)

3C25、3D21、4C5、4D1 に位置する。平面円形、断面台形状で、長軸 1.58m、深さ 0.55m。覆土はレンズ状堆積である。SD34 を切る。東側は攪乱によって一部削平されている。土器 (37 ~ 39) が出土している。

SK42 (図版 13)

4E21・22、5E1・2 に位置する。平面楕円形、断面弧状で、覆土はレンズ状堆積をなす。

SK52 (図版 13)

5F12 に位置する。水道管理設部分のため掘り残した場所にかかっているため、形や規模など不明な点が多い。SX209 の南西端になる可能性もある。

SK54 (図版 13)

4D25、4E21 に位置する。平面楕円形、断面弧状である。南側は攪乱によって切られる。

SK57 (図版 14、写真図版 11)

4E16・21 に位置する。平面円形、断面弧状。覆土はレンズ状堆積である。SD56 に切られる。

SK61 (図版 14)

5E1 に位置する。平面は楕円形で断面は弧状を呈す。P36 に切られる。

SK64 (図版 11・14、写真図版 12)

5D14・15 に位置する。平面は円形、断面は弧状を呈し、長軸は 1.04m を計る。覆土はレンズ状堆積である。P28 に切られる。

SK70 (図版 14、写真図版 12)

4E14・19 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状をなす。覆土はレンズ状堆積である。

SK71 (図版 14、写真図版 12)

4E19・24 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状をなす。覆土はレンズ状堆積である。

SK77 (図版 14・15、写真図版 12)

4D15、4E11 に位置する。平面は楕円形、断面台形状で、長軸で 1.1m、深さ 0.29m を計る。覆土は斜位堆積である。図化し得た遺物は土師器小甕 (40) 1 点である。

SK78 (図版 10・14、写真図版 12)

3D20・24・25 に位置する。平面は楕円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.47m、深さ 0.33m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (41) 1 点と砥石 (257) のみである。

SK79 (図版 14)

3D19・24 に位置する。平面円形、断面半円状で、覆土はレンズ状堆積である。SK78 に切られる。

SK81 (図版 6、写真図版 12)

3D14・15 に位置する。北側は土側溝や調査区外にあたり、全体の形状は不明である。断面は台形状である。

SK92 (図版 15、写真図版 12・13)

4E11・12・16・17 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、覆土は 4・5 層がレンズ状堆積であるのに対し、上の 1～3 層はブロック状の堆積が見られる。長軸は 2.76m、深さは 0.45m を計り、当遺跡の中では規模の大きな土坑である。SB901 東側の廂中央部分に位置することからは、SB901 に関連する遺構の可能性も考えられる。

出土遺物量は上層の遺構の中で最多である。とりわけ 3 層からの出土量が多い。人為的に廃棄された可能性も推測される。図化できた遺物としては、土器 (42～57) のほかに土錘 (238) と石帯 (255) がある。50 は「□〔川カ〕合」墨書土器である。

SK95 (図版 10・15、写真図版 13)

3D25、3E21、4D5、4E1 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.45m、深さ 0.28m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土器 3 点 (58～60) である。SB901 を構成する P112 や SK150 を切る。

SK105・106 (図版 15、写真図版 13)

SK105 は 4D9・10、SK106 は 4D10・15 に位置する。どちらも平面は円形、断面は半円状で、覆土はレンズ状堆積をなす。SK105 は SK106・P127 に切られており、SK106 は P111 に切られる。図化し得た遺物は、SK105 出土の土師器小甕 (61) 1 点のみである。

SK107 (図版 15)

4D14・15 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、長軸で 1.48m、深さ 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台碗 (62) 1 点である。

SK122 (図版 15、写真図版 13)

4D15 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.03m、深さ 0.39m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物が定量存在する (63～67)。

SK125 (図版 15、写真図版 13)

3D24・25、4D4・5 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.07m、深さ 0.33m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器の壺 (68) と長甕 (69) である。

SK129 (図版 16、写真図版 13)

3E18・19 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、長軸で 2.07m、深さ 0.15m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台碗 (70) 1 点のみである。

SK141 (図版 16、写真図版 13)

5D9・14 に位置する。平面は円形、断面は半円状。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台碗 (71) 1 点である。

SK142 (図版 16、写真図版 14)

3E19 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状。覆土はレンズ状堆積で、SX129 に切られる。

SK145 (図版 16、写真図版 14)

4D5・10、4E1・6 に位置する。平面は楕円形、断面は台形状をなし、長軸で 1.82m、深さ 0.63m を計る。覆土は下位が水平堆積、上位がレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (72) と土師器無台碗 (73・75～77)、内面黒色の土師器有台碗 (74)、土師器小甕 (78・79) がある。うち 72～74 は墨書土器で、73・74 は「川合」の墨書が認められる。

SK150 (図版 16、写真図版 14)

4D4・5 に位置する。平面は円形、断面は半円状で、SK95・145 に切られる。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (80)・甕 (83)、土師器無台碗 (81・82) で、82 は墨書が認められる。

SK164 (図版 4)

4C19・20・24 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、長軸で 1.13m、深さ 0.25m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK167 (図版 4)

4C14・15 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、深さ 0.08m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK181 (図版 4)

4C24、5C4 に位置する。平面はやや不整の楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で 1.43m、深さ 0.18m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台碗 (84・85) で、85 は墨書土器である。

SK183 (図版 17、写真図版 14)

4D18・19・23・24 に位置する。平面は不整の楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で 3.36m、深さは 0.21m である。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は、須恵器の無台杯 (86・87)・杯蓋 (88・89)・横瓶 (90)、土錘 (239) である。SB901 を構成する P101 や・103 などに切られる。

SK188 (図版 5)

5D5・10、5E1・6 に位置する。平面は不整な楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で 1.23m、深さ 0.15m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK190 (図版 17、写真図版 14)

4D23・24、5D3・4 に位置する。平面は長楕円形で、断面は弧状を呈し、長軸で 2.62m、深さ 0.29m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (91)、土師器の長甕 (92) と小甕 (93・94) である。

SK215 (図版 17、写真図版 14)

4G21 に位置する。平面は不整な楕円形、断面は半円状を呈し、覆土はレンズ状堆積である。

SK220 (図版 17)

4D12・13・17・18 に位置する。平面は楕円形、断面は半円状を呈し、覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は、須恵器無台杯 (95・96)・有台杯 (97)、土師器長甕 (98)、土師器小甕 (99) である。96 は墨書土器で「館」の可能性が高い。SB901 の西側廂内に位置する。

溝 (SD)

上層で確認された溝は、規模・用途・時期でそれぞれ異なるものがあるため、以下の 2 項目に大別して記す。

- a 集落を区画する溝
- b 小溝

なお、上層で確認された溝は幅の広いものが多く、幅の狭い小溝群が多く確認された下層の状況とは大きく異なる。この幅の広い溝は調査区東側に偏在して確認でき、南西―北東方向のものと、北西―南東方向のものが存在する。

a 集落を区画する溝

調査区の東西方向中央付近から東側にかけて、南北軸の幅の広い溝が数条存在する。溝を境に遺構密度が異なることから、これらを「a 集落を区画する溝」として記述する。なお、幅が広く、深さのある溝については、河川への出入りといった機能も推測される。

SD66 (図版 6・8、写真図版 14・15)

3F・4E・4F・5E に位置する。N-21°-E に走る最大幅 2.6m の幅の広い溝である。最大深度は 0.42m である。多量の土器が出土しており、104～123 を図化し得た。

SD69 (図版 6、写真図版 15)

4E・5E に位置する。南西-北東方向 (N-17°-E) に走る最大幅 1.1m の溝で、最大深度は 0.16m を計る。軸は SD66 とおおむね一致する。SX229 を切る。土器が定量出土している (124～127)。

SD88 (図版 6、写真図版 15)

3D・3E・4E に位置する。N-44°-W 方向にのびており、SD137 におおむね並行する。最大幅 1.94m と幅は広いが、最大深度 0.1m と浅い。SX229 を切る。図化し得た遺物に土師器小甕 (128・129) がある。

SD128 (図版 8、写真図版 15・16)

3F に位置する。N-31°-E 方向にのびており、SD66・130 とおおむね並行する。最大幅 1.38m、最大深度 0.6m と幅に比べて深度が浅い。SD137 に切られる。

SD130 (図版 8、写真図版 15)

3F・4F に位置する。方向はおおむね N-14°-E である。最大幅 2.35m、最大深度 0.37m である。図化できた資料は、須恵器有台杯 (132) 1 点である。

SD137 (写真図版 15・16)

3E・3F・4E・4F に位置する。N-54°-W 方向に走り、最大幅 3.34m の溝で、最大深度は 0.56m を計る。軸は SD88 と並行し、SD66 に直交する。SD128 を切るが、SK129 や SD66 に切られる。土器が定量出土している (133～138)。

SD210 (図版 8、写真図版 16)

4F・4G・5F・5G に位置する。N-10°-E 方向にのびており、最大幅は 2.5m と広いが、最大深度は 0.18m と比較的浅い。SD66 とおおむね軸が一致する。図化し得た遺物には、土器 (139～144) のほかに土鍾 (240) がある。

b 小 溝 (畝状小溝)

幅 0.2～0.4m 程度の溝で、数条以上が平行して確認できるものを「b 小溝」とする。下層では多く確認できるが、上層では少ない。

SD56 (図版 4・14)

4D・4E・5E に位置し、N-45°-W 方向へのびる。最大幅 0.37m、最大深度 0.08m で、SD212・217 と平行する。土師器無台椀が出土しているが、図化し得なかった。

SD124・132 (図版 6)

SD124 は 3E25、4E5、SD132 は 4E5・10 に位置する。SD124 は N-24°-E、SD132 は N-20°-E で、両者の軸はほぼ一致している。SD124 は SD137 を切る。

SD212 (図版 6)

4E に位置し、N-63°-W 方向へのびる。最大幅 0.41m、最大深度 0.05m で、SD56 と平行している。遺物の出土は無い。

SD218 (図版 8、写真図版 16)

4F・5F に位置し、N-5°-W 方向へのびる。最大幅 0.42m、最大深度 0.2m で、SD219 と並走する。図化

し得た資料は、1層出土の須恵器有台杯1点(145)である。

SD219 (図版8)

4F・5Fに位置し、N-5°-W方向へのびる。最大幅0.38m、最大深度0.22mで、SD218と並走する。図化し得た資料は、1層出土の須恵器無台杯1点(146)である。

性格不明遺構 (SX)

SX209 (図版18、写真図版16)

5F8・9・13・14に位置する。南西側は水道管布設による未調査部分及び側溝外へと広がるため、全体の様相は不明である。長軸3.05m以上、最大深度0.34mで、図化し得た資料は、須恵器有台杯1点(147)である。

SX229 (図版19、写真図版17)

4Eに位置する。最大長7.5mの不整形で、最大深度は0.48mを計る。SD69・88に切られる。覆土はレンズ状堆積。上層遺構ではSK92に次ぐ出土土器量で、図化し得たものも多い(148~165)。墨書土器が7点と多く出土しており(155~161)、うち4点で「川合」、1点で「川合中」の墨書がみられる。ほかに、土錘4点(241~244)と木製の曲げ物1点(291)が出土している。土器は食膳具が高い比率で出土しており、全体の約9割を占める(第7表)。

2) 下層の遺構

下層で確認された遺構は、掘立柱建物5棟、土坑36基、溝97条、性格不明遺構1基、ピット309基である。遺構密度は、調査区西側が最も高い点は上層と共通するものの、調査区全域でそれほど偏りなく確認できる点は上層と大きく異なる様相といえる。

掘立柱建物 (SB)

下層では5棟の掘立柱建物を確認した(SB904~908)。全体像の不明なものが多いが、いずれも小規模な建物と推測され、上層のSB901のような大規模な建物は確認できなかった。

SB904 (図版24、写真図版18)

4C・4Dに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-4°-W。2間×2間の総柱建物で、建物面積は17.6m²と、比較的小規模な建物である。P476で柱根が出土している。東列のP491~493は攪乱部分にあたっており、攪乱を取り除いた後の遺構確認となった。出土遺物は、P468・476から土師器甕の細片が出土しているが、いずれも図化でき得る遺存状況にはなく、時期の特定も困難である。SB907と軸は近い。

主な遺構との切り合い関係については、SD475→SD483→P476、SD481→P462である。

SB905 (図版24、写真図版18)

3C・4Cに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-41°-W。柱穴が3基確認されており、いずれも柱根が確認されたが遺存状況は悪い。柱間は2.4~2.5m。北~西方向へ建物が延びる可能性があるが、調査区内では柱穴推定位置が土側溝や法面、未掘り下げ部分にあたっており確認できなかった。

柱穴からの遺物の出土は無い。軸はSB908と近い。主な遺構との切り合い関係については、SD482→P479、P582→P552、SD508→P617である。

SB906 (図版25、写真図版19)

3F・4Fに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-16°-W。2間×2間の総柱建物で、建物面積は13.3m²と比較的小規模な建物である。柱間は1.7~1.9m。P337・339・346・352で柱根が出土している。

出土遺物はP339~341・343・346であるが、図化し得たのはP340の2層から出土した須恵器無台杯1点のみである(294)。主な遺構との切り合い関係については、SD541→P341、SD351→P352である。

SB907 (図版25)

3Fに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-5°-W。P362・436・519で柱根が確認された。なお、P519の柱穴プランは不明で、柱根を確認したのみである。柱間は長軸で3.2m、短軸で1.9m。建物は北へ延

びる可能性があるが、調査区外のため不明である。

柱穴からの遺物の出土は無い。軸はSB904に近い。主な遺構との切り合い関係については、SD334 → P593である。

SB908 (図版 25)

3D・3E・4D・4Eに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-24°-W。柱間長は1.8～2.1mで、2間×2間の総柱建物と推定するが、柱穴西列の北側2基は、推定箇所が便槽・攪乱部分にあたっており確認できなかった。P391・392で柱根が出土している。建物推定復元面積は13.7m²と比較的小規模である。

出土遺物はP394で土師器無台椀の口縁部が1点出土しているが、小片のため図化し得なかった。軸はSB905に近い。主な遺構との切り合い関係については、SK641 → P394。

土 坑 (SK)

SK262 (図版 26、写真図版 21)

5E9・10・14・15に位置する。南側は土側溝や未掘削部分にあたるため、全体の形態・規模は不明である。断面は弧状を呈し、長軸で1.8m以上、深さ0.08mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK266 (図版 26、写真図版 21)

5E5に位置する。平面は楕円形、断面は半円状を呈し、長軸で1.01m、深さ0.21mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。SD265に切られる。

SK267 (図版 26、写真図版 21)

4E25、4F21、5E5、5F1に位置する。平面は不整な楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で1.35m、深さ0.19mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK281 (図版 26)

5G6に位置する。東側の大半は未調査部分にかかるため平面形は不明である。断面は弧状とみられ、長軸で1.07m以上、深さ0.14mを計る。SD256に切られる。

SK282 (図版 26、写真図版 21)

4F23・24に位置する。不整の楕円形で、断面弧状を呈する。長軸で0.92m、深さ0.09mを計る。

SK283 (図版 26、写真図版 21)

5F3に位置する。不整の楕円形で、断面は弧状である。長軸1.51m、深さ0.11mを計る。

SK284 (図版 26、写真図版 21・22)

4G22・23に位置する。平面形は円形で、断面は弧状をなす。長軸0.93m、深さ0.11mを計る。図化し得た資料は、須恵器有台杯1点(295)である。

SK285 (図版 26、写真図版 22)

4G17・21・22に位置する。平面形は円形で、断面は弧状を呈す。長軸1.15m、最大深度0.15mを計る。

SK297 (図版 27、写真図版 22)

3E25に位置する。平面円形で、断面は弧状をなす。長軸0.8m、最大深度0.06m。SD298に切られる。

SK306 (図版 27、写真図版 22)

4G6・11に位置する。楕円形で、断面は弧状をなす。長軸0.91m、深さ0.11mで、覆土はレンズ状堆積。

SK311 (図版 27、写真図版 22)

4E13・17・18に位置する。平面形は不整の楕円形を呈し、断面は弧状をなす。長軸で2m、最大深度0.24mを計る。SD271を切るが、SD312に切られる。

SK327 (図版 27、写真図版 22)

4E4に位置する。平面楕円形で、断面は弧状をなす。長軸0.66m、最大深度0.09mを計る。覆土はレンズ状堆積。

SK330 (図版 27、写真図版 23)

4E2・3・7・8 に位置する。平面は不整の円形で、断面は半円状を呈する。長軸 0.96m、最大深度 0.22m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK331 (図版 27、写真図版 23)

4E7・8 に位置する。平面形は不整の円形で、断面は半円状をなす。長軸 0.88m、最大深度 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積。土師器小甕 (296) が 1 点出土している。

SK347 (図版 27、写真図版 23)

3F18 に位置する。平面形は楕円形で、断面は弧状を呈す。長軸 1.02m、深度 0.05m を計る。

SK355 (図版 27、写真図版 23)

4F3・4・8・9 に位置する。平面は不整の円形で、断面は弧状をなす。長軸 1.13m 以上、最大深度 0.16m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK360 (図版 27、写真図版 23)

3F13・14 に位置する。平面形は不整の円形もしくは隅丸方形で、断面は台形状を呈す。長軸 1.11m、最大深度 0.18m を計る。覆土はレンズ状堆積。須恵器無台杯 (297) が出土している。

SK366 (図版 28、写真図版 23)

3F20・25、3G16・21 に位置する。平面形は不整の円形で、断面は半円状をなす。長軸 1.2m、最大深度 0.27m を計る。覆土は水平堆積。図化し得た遺物に土師器小甕 (298) がある。

SK372 (図版 28、写真図版 24)

4G1 に位置する。平面形は不整の円形で、断面は弧状を呈す。長軸 0.78m、最大深度 0.07m を計る。覆土はレンズ状堆積。遺物の出土は無い。

SK388 (図版 28、写真図版 24)

4F12・13 に位置する。平面は不整の楕円形と推定され、断面は半円状をなす。長軸 1.17m、最大深度 0.29m を計る。覆土はレンズ状堆積。図化し得た遺物は、須恵器有台杯 (299) と磨石状石製品 (384) である。

SK411 (図版 21)

5C10・15、5D6・11 に位置する。平面形は不整の楕円形で、断面弧状。長軸 2.3m、最大深度 0.22m を計る。覆土はレンズ状堆積。図化し得た遺物に土師器小甕 (300) がある。

SK418 (図版 28、写真図版 24)

5C4 に位置する。平面形は円形で、断面は弧状をなす。長軸 1.06m、最大深度 0.13m を計る。覆土はレンズ状堆積。須恵器無台杯と土師器小甕が出土しているが、小片のため図化し得なかった。

SK420 (図版 28、写真図版 24)

4C24、5C4 に位置する。平面円形で、断面は弧状をなす。長軸 1.09m、最大深度 0.16m を計る。覆土はレンズ状堆積である。

SK510 (図版 28、写真図版 24)

3C19・24 に位置する。平面形は不整の楕円形と推定され、断面は弧状を呈す。北側が未調査区にあたるため全体の規模は不明であるが、長軸 2.03m 以上、最大深度 0.26m を計る。覆土はレンズ状の堆積を示す。

SK525・526、SD508 などに切られ、SK583 を切る。一定量の土器が出土しており、図化し得たものも比較的多い (301～308)。うち、304～306 は墨書を有す。

SK512 (図版 29、写真図版 24)

4E2・3 に位置する。平面形は不整の円形をなし、断面は弧状を呈す。長軸 0.88m、最大深度 0.1m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK524 (図版 29、写真図版 24)

3C24・25 に位置する。平面形は楕円形で、断面は半円状をなす。長軸 1.31m、最大深度 0.16m を計る。覆土はレンズ状堆積。図化し得た遺物として、体部外面に墨書を有す須恵器無台杯 (309) がある。

SK525 (図版 29)

3C18・19・23 に位置する。遺構の北西側の大半が未調査区にかかるため、全体の形状や規模は不明である。

SK526 (図版 29)

3C19・20・25 に位置する。北側が未調査区にあたるため、全体の形状・規模は不明である。断面は弧状をなし、覆土はレンズ状堆積である。図化し得た遺物として須恵器無台杯 (310) がある。

SK527 (図版 29、写真図版 25)

3C20、3D16 に位置する。平面形は楕円形で、断面は弧状を呈す。覆土は斜位堆積をなす。最大深度は 0.13m。SD528 に切られる。

SK562 (図版 29、写真図版 25)

3F16・17 に位置する。SD334・335・540 に切られており、全体の形状・規模は不明である。平面形は不整の円形もしくは楕円形で、断面は弧状を呈す。長軸 1.3m 以上、最大深度は 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

SK583 (図版 30、写真図版 25)

3C23・24 に位置する。SK510、SD507・508 などに切られている。平面形は楕円形で、断面は半円状をなす。推定長軸 1.46m、最大深度 0.36m で、覆土はレンズ状堆積と考える。

3層から遺存率の高い須恵器無台杯が正位の状態でまとまりをもって出土している (311～314)。また、4層では墨書を有す須恵器無台杯 (315) も出土した。SK510 に切られる。

SK641 (図版 30、写真図版 25)

4D5 に位置する。平面形は円形で、断面は弧状をなす。長軸 0.97m、最大深度 0.06m を計る。

SK653 (図版 30、写真図版 25・26)

5D4・5 に位置する。平面形は不整の楕円形で、断面は台形状もしくはV字状を呈す。長軸 2.28m、最大深度 0.37m を計る。覆土はレンズ状堆積に近い。製塩土器 (316) が1点出土している。

SK678 (図版 30、写真図版 26)

4F5 に位置する。平面形は楕円形で、断面は漏斗状もしくはV字状。長軸 1.42m、最大深度 0.51m を計る。覆土はレンズ状堆積に近い。平断面の形状からピットに属す可能性がある。SD369・370 に切られる。

SK696 (図版 30、写真図版 26)

4G1 に位置する。平面形は不整の楕円形で、断面半円状もしくは台形状を呈す。長軸 0.88m 以上、最大深度 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。SK372やSD369に切られる。図化し得た遺物として土師器長甕(319)がある。

溝 (SD)

下層で確認された溝は、規模・用途でそれぞれ異なるものがあるため、以下の2項目に大別して記述する。

a 区画溝

b 畑作関連と考えられる溝 (畝状小溝)

なお、下層で確認された溝の大半は、幅 0.2～0.5m 程度の小溝で、数条以上が平行して確認できることから「b 畝状小溝」と考えられる。

この種の溝群は調査区のほぼ全域で確認された。下層の遺構の主体はこの小溝群であり、上層とは遺構の様相が大きく異なる状況にある。また、ほかに明らかに規模の大きな溝も存在し、それについては「a 区画溝」として分けて記述を行う。

a 区画溝

SD271 (図版 11・27・31・34、写真図版 27)

4D～Fに位置する。N-83°-Eに走る溝で、最大幅1.93m、最大深度0.25mと幅に比べて深さは比較的浅い。下層で2m近い幅を有す溝はこの1例のみである。

b 畑作関連と考えられる溝 (畝状小溝)

溝の位置や方向、溝同士の間隔などからおおむね下のA～Eの5つのまとまりに分けられる。

A：調査区北東側の3E～3G・4E～4Gグリッドに位置し、東西方向にのびるSD297・298・299・300・321・324・334・335・357・361・368・437・540・541・601の溝群。軸はN-82～90°-E、N-87～90°-Wに収まる。SB906や溝群Eに切られる。

B：調査区南東側の4F・G、5F・Gグリッドに位置し、東西方向にのびるSD241・245・257～260・381・387・559の溝群。軸はN-84～88°-E、N-87～89°-Wに収まる。Aの溝群との間に少し空白域があるものの、軸がおおむね一致することから同時期の可能性が高いと推測する。

C：調査区西側の4C～E、5Dグリッドに位置し、北西-南東方向にのびるSD312・399・484・619の溝群。軸はN-20～32°-Wに収まる。SD271を切っている。軸はSB905・908に近い。

D：調査区南西側の4C、5C・Dグリッドに位置し、北西-南東方向にのびるSD278・382・410・413～417・421・423・424の溝群。軸はN-67～82°-Wに収まる。SB906に軸は近い。

E：調査区東側の3F・G、4F・G、5F・Gグリッドに位置し、南北方向にのびるSD290・305・320・349・351・353・407・432・440・674・683の溝群。軸はN-0～10°-E、N-0～10°-Wに収まる。軸はSB904・907に近い。Aの溝群を切る。SB906に切られる。

溝の切り合い関係等からは、AよりもEの溝群の方が新しい。

性格不明遺構 (SX)

SX384 (図版 34、写真図版 29)

5D3・4・8・9に位置する。平面形は不整の長楕円形で、断面は弧状を呈す。長軸2.41m、短軸0.64m、最大深度0.11mを計る。平面形態から溝の可能性もある。覆土は斜位堆積をなす。

ピット (P)

P248 (図版 34)

5F3・8に位置する。平面円形で、断面は半円状を呈す。長軸0.39m、最大深度0.1mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。ほぼ完形の須恵器広口壺(337)がほぼ正位の状態で出土した(図版34)。

第V章 遺 物

第1節 概 要

遺物量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして試掘調査（第1次調査）が1箱（平安時代の土器）、本発掘調査（第2次調査）40箱（奈良・平安時代の土器・土製品・石製品・銭貨・鉄滓・種子・炭化物、中・近世の陶磁器）のほか、平安時代の木製品（木柱 53本など）が大型水槽に保管されている。

本発掘調査において遺物が出土した層はⅢ・Ⅳ層で、平安時代から近世までの遺物が確認された。このうち、Ⅳa層が上層の遺構確認面、Ⅳc層が下層の遺構確認面で、遺物包含層は上層がⅢ層、下層がⅣb層にあたる。

遺物の図面図版では上層・下層で区分し、上層、下層の順に掲載したが、出土層位が不明な土器と中・近世の遺物については、遺物図面図版の最後（図版 52）に「上層・下層出土土器」として一括で載せた。また、各層では遺物の種別ごとに土器、土製品、石製品、木製品の順で載せ、さらに、遺物の種別ごとに、掘立柱建物 SB、井戸 SE、土坑 SK、溝 SD、性格不明遺構 SX、ピット P の順に掲載している。

出土遺物の記述についても、図面図版の順番に従い、上層出土遺物、下層出土遺物、上層・下層出土遺物の順で、種別（土器、土製品、石製品、木製品）、さらに種別ごとに掘立柱建物 SB、井戸 SE、土坑 SK、溝 SD、性格不明遺構 SX、ピット P の順で行う。なお、紙面の都合上、本章で記述できなかった観察項目も多いことから、個別の調整や法量などの詳細については観察表を参照されたい。

第2節 土器・陶磁器

林付遺跡から出土した土器の大半は平安時代であり、上層・下層で土師器、須恵器を中心に少量の黒色土器が出土しているが、灰釉陶器や緑釉陶器などの施釉陶器は確認できない。また、上層の包含層から中・近世の陶磁器が少量出土している。

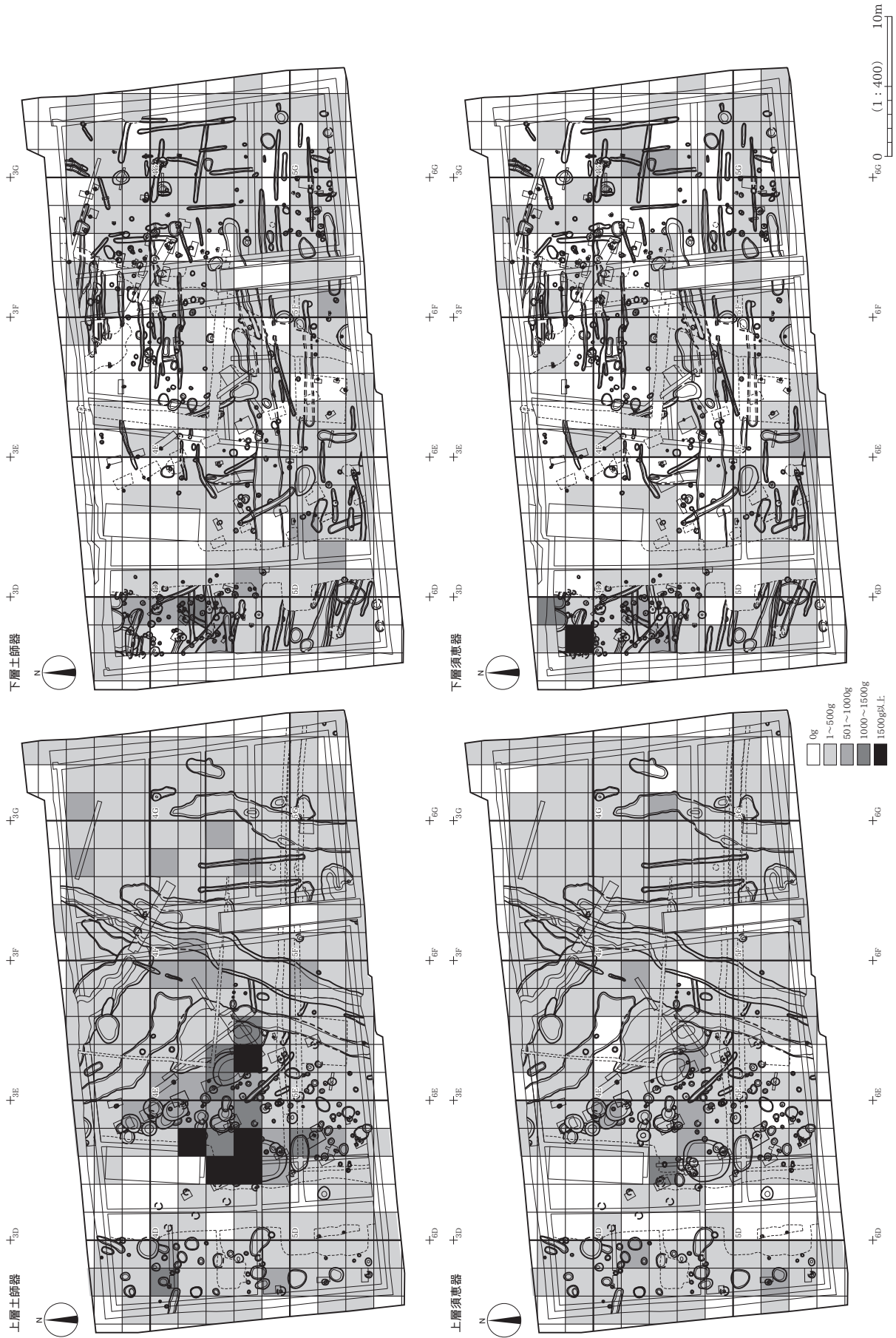
古代における上層・下層の土師器と須恵器のグリッド別重量分布をみると（第8図）、上層では土師器・須恵器とも SB901 内で多く、下層では西端域で多いことがわかる。上層では遺構の少ない調査区北東域でも遺物がある程度出土している点は留意されるが、上・下層とも遺構密度とおおむね一致する状況といえる。

A 実測図の表現と観察項目について

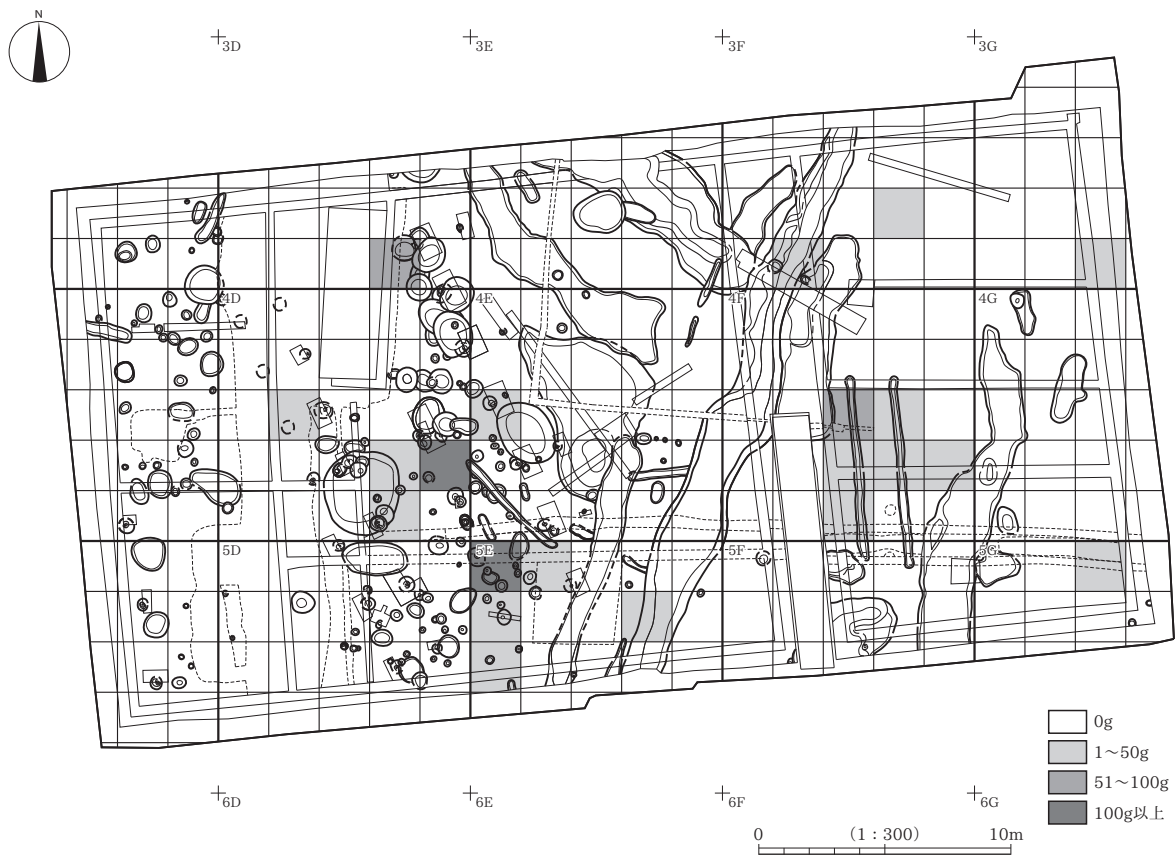
実測図では、残存径が 1/8 以下を目安に、径の復元が困難なものについて中軸線から稜線等を離すことで表現した。また、調整が変換する場所については実線とした。出土位置については、出土層位が分かるものについて記入し、不明なものは空欄とした。土器の色調については外面の色調を記録した。場所によって色調が異なるものもあるが、その場合は最も広い範囲で確認されるなど、平均的な色調を記入するように努めた。

胎土については、10～20倍のルーペを使用し、肉眼観察を行った。長石・石英・雲母・海綿骨針・角閃石・チャート・赤色粒子・白色粒子・その他砂粒が観察された。各鉢物を含有する土器については、観察表の胎土の欄にそれぞれ長・石・雲・海・角・チ・赤・白・他でそれらの有無を記載した。なお、含有鉢物の量が際立って多い場合には「◎」で示した。また、須恵器についてはこれまでの研究成果〔坂井 1989・春日 2000・2001 など〕を参考に下記の3群に分け、本文・観察表で記載した。

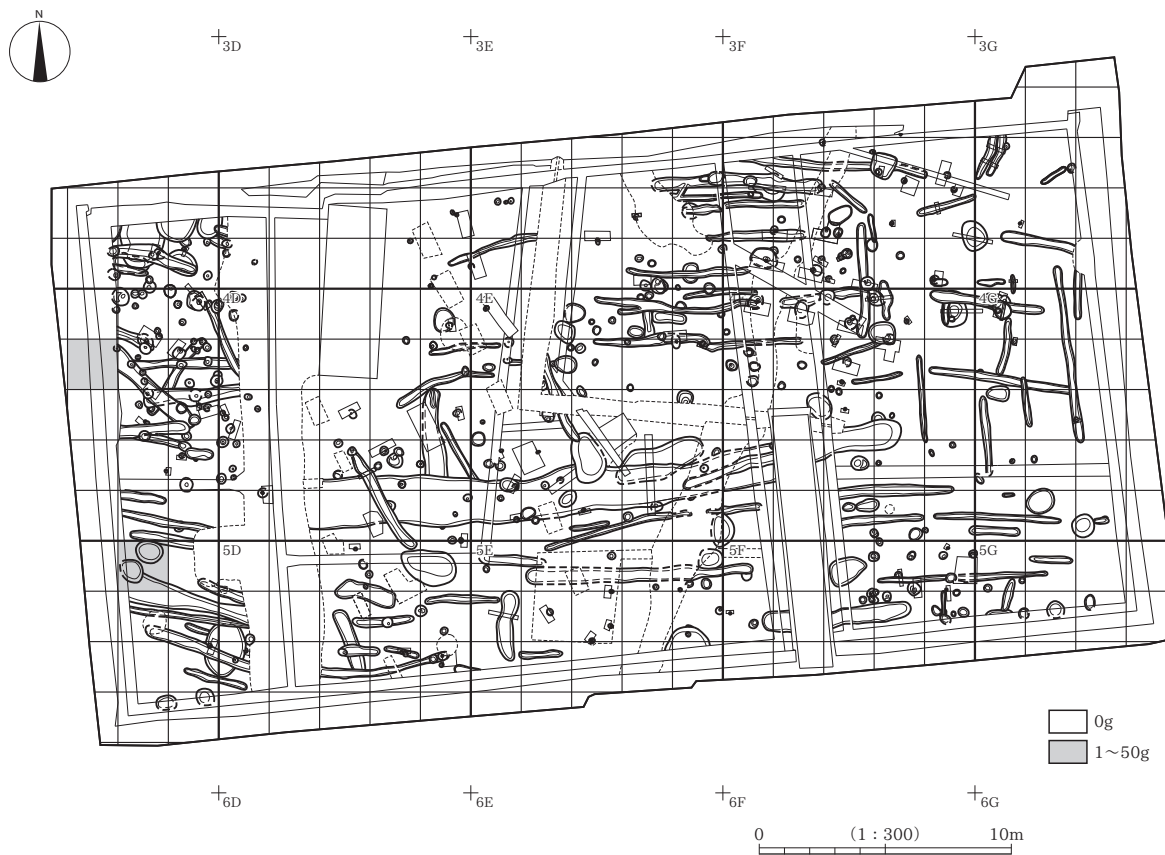
A 群…粘質が強く、比較的径の大きな長石・石英・砂粒を多く含む胎土のもの。笹神丘陵などを中心とした



第8図 上層・下層出土土器グリッド別重量分布図



第9図 上層鉄滓グリッド別重量分布図



第10図 下層鉄滓グリッド別重量分布図

阿賀北地域で生産された可能性が高いもの。

B 群…砂質が強く、混入物の少ない精白な胎土、または砂質が強く細かい白色粒子を多量に含む胎土のもの。
佐渡小泊窯跡群で生産された可能性が高いもの。

C 群…A・B 群以外のもの

なお、C 群の産地について、周辺では新津丘陵・角田山麓・西古志地域の窯跡群が存在し、また頸城地域なども候補として挙げられる。

このうち、粘質が強く 1mm 前後の細かい石英・長石を定量含む比較的精良な胎土のものを新津丘陵窯産とし、その可能性が高いものについては本文中で記述した。また、西古志窯産の可能性のあるものについても個別に記述した。なお、西古志窯産と記述した土器の中には、角田山麓窯産の可能性のあるものもある。

B 土器の分類

名称はなるべく形態を表現する述語を用い、これを細分する場合に A・B・C のアルファベットを付す。また、同一器種のうち法量の異なるものは I・II・III などのローマ数字をさらに付けた。なお、形態の細部の分類には、a・b・c などのアルファベット小文字を用いた（第 11 図）。須恵器、土師器の順で説明を行う。

須 恵 器

杯 蓋 口端部径により I（14～15cm 前後）・II（11～12cm 前後）に分類した。主体は II である。有台杯 B 類の II・III におおむね対応すると推測される。摘み部外面に墨書が施されたものもある。

有台杯 A 類：器高の低いものと、B 類：器高 4cm 以上の深身のものとして大別し、B 類はさらに口径で I（15～16cm 前後）・II（13～14cm 前後）・III（10cm 前後）に細分した。それぞれ杯蓋の口径におおむね対応すると考えられる。

B 類で主体をなすものは II である。底部の切り離し方法はヘラ切りと糸切りがある。

無台杯 口径で I（14cm 前後）・II（12～13cm 前後）・III（10cm 前後）に分類した。このうち主体は II である。底部の切り離し方法はいずれもヘラ切りで、糸切りは認められない。墨書土器が定量認められる。

長頸瓶 口縁端部の形態は、上へ摘みあげるものと上下に摘むものの 2 種類が存在する。出土数は多くない。

広口壺 肩の張る体部に、強く外反する短い口縁部をもつもの。高台が付く。1 点のみ確認できる。

甕 口縁部の形態により、A 類：長く外反してのびるもの、B 類：短く直線的にのびるもの、に区分した。A 類の中には大型品で口縁部外面に波状文が施されたもの（367）も存在する。タタキ具・当て具痕については、いずれも外面に平行線文、内面に同心円文が施される。

横 瓶 形になったのは 1 点のみである。

土 師 器

無台椀 口径で I（16cm 前後）・II（13cm 前後）に分類した。II が主体で、I は少ない。底部の切り離し方法は大半が糸切りである。墨書土器が定量認められる。

黒色土器 内面に黒色処理を施した土器を一括した。有台椀や緑釉陶器を模倣したものも存在する。数は少ない。

壺 確認できたのは図示した 1 点のみである。長い口縁部が外反してのびる形態である。

小型壺 A 類：精製のもの（333）と、B 類：粗製のもの（341）に分類した。小甕の可能性もあるが、333 は内外面、341 は内面でヘラミガキが認められることから小型壺として分類した。

鉢 口縁部の形態で A 類：体部から内湾しながらシンプルにおさまるもの、B 類：鉄鉢形で口縁部が内側に屈曲するもの、に分類した。数は少ない。

鍋 一定量存在する。口縁端部の形態により A 類：摘みあげるもの、と B 類：摘みあげないもの、とに分類した。摘みあげるものが多い。タタキ具・当て具を使用するものとしらないものがある。使用するものは、いずれも外面・内面ともに平行線文を有す。

長 甕 A類：ロクロ成形のもの、B類：非ロクロ成形のもの、に大別した。さらに、口縁部・口縁端部の形態により a（口縁部が外反し端部を摘みあげもしくは面取りするもの）・b（口縁部が外反し端部を丸く収めるもの）・c（口縁部が内湾気味にのび端部を尖り気味におさめるもの）に細分した。Aa類・Ba類が主体をなし、口縁端部形態 b類・c類は少ない。なお、Ba類はいわゆる「西古志型甕」、Bc類は「佐渡型甕」の特徴をもつ。また、Bb類は1点のみ確認されている（67）。口縁部が強く屈曲・外反するもので、山三賀遺跡における長甕 C系〔坂井 1989〕の口縁部形態に近い。

タタキ具・当て具痕を確認できるものについては、外面はいずれも平行線文で、内面も大半が平行線文であるが、例外的に同心円文を有すもの（319）もある。底部は丸底・平底ともに認められる。なお、底部外面に木葉痕をもつものが1点出土している（33）。

小 甕 A類：ロクロ成形のもの、B類：非ロクロ成形のもの、とに大別した。さらに、口縁部・口縁端部の形態により a（口縁部が外反し端部を摘みあげもしくは面取りするもの）・b（口縁部が外反し端部を丸く収めるもの）に細分した。Aa類・Ba類が主体をなし、Ab類は少ない。

円筒形土製品 器壁が厚く、口縁部はやや内側に傾斜しながらおさまる形で、底部は平底で中央に焼成前穿孔が行われている。内外面とも条間の広い深いハケメ調整で、内面に粘土紐痕を明瞭に残すなど作りは粗い。支脚として利用された可能性がある。

製塩土器 体部から口縁端部へ直立気味にのびる形態で、内面に粘土紐痕・指頭圧痕を残す。数は少ない。

C 上層出土の土器

1) 掘立柱建物 (SB)

SB901 (図版 35、写真図版 30)

1～33はSB901を構成する柱穴（ピット）内から出土した資料である。以下、ピットごとに記述する。

P59 (図版 35、写真図版 30)

土師器無台椀（1・2）がある。2の底部切り離しはヘラ切りである。

P101 (図版 35、写真図版 30)

図化できたのは須恵器無台杯（3）のみである。復元径で 15.8cm と比較的大きい。胎土は B 群である。

P112 (図版 35、写真図版 30)

須恵器無台杯（4・5）、土師器無台椀（6～8）、内面黒色土器（9）が出土している。4・5の胎土は両方とも B 群。4は口縁端部内面が凹んで沈線状に巡る。6～8はいずれも土師器無台椀のⅡ類である。6の底部切り離しは回転系切りである。8は外面に横位のヘラミガキ、内面に縦位のヘラミガキが認められる。9は土師器の椀で、内面は黒色処理されている。内外面には横位のヘラミガキが施されている。

P119 (図版 35、写真図版 30)

図化できたのは土師器の無台椀（10）1点と鍋 A類（11）1点である。11は1・2層から出土しており、外面は体部平行線文のタタキのち体部上半をヘラケズリ、内面は体部下半に平行線文の当て具痕が認められる。口縁部から体部外面にススが付着する。

P149 (図版 35、写真図版 30)

図化できたのは土師器無台椀（12）1点である。土師器無台椀Ⅱ類。

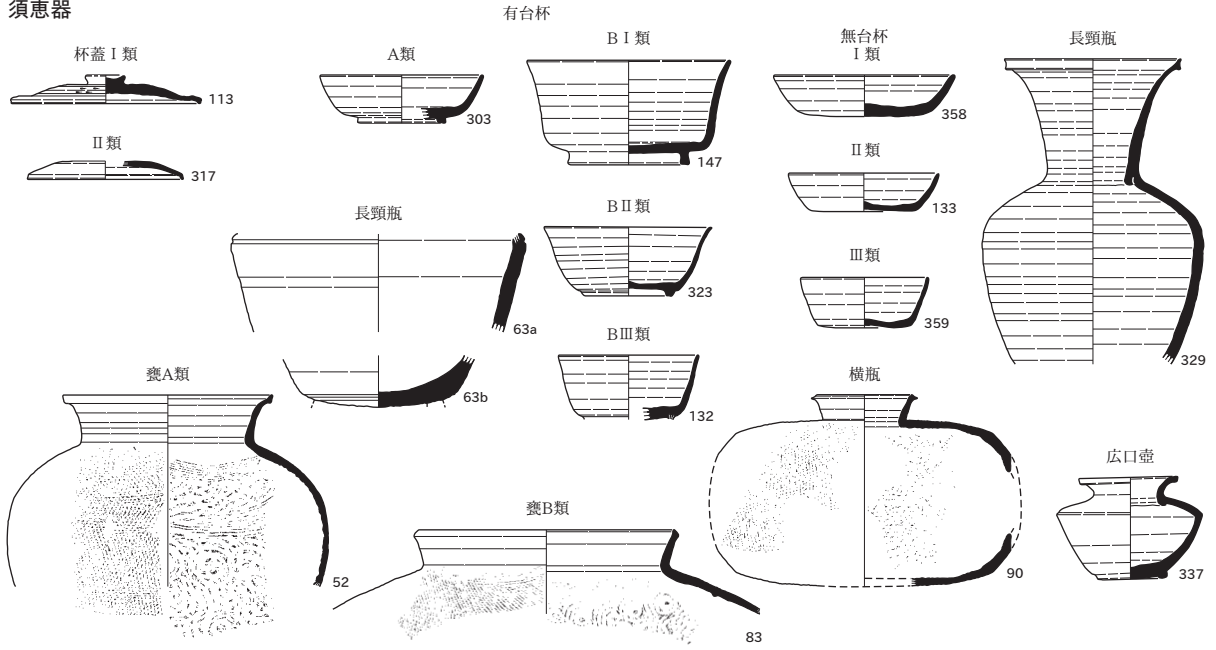
P152 (図版 35、写真図版 30)

須恵器長頸瓶（13）で、口縁端部は上に摘みあげられる。胎土は B 群。

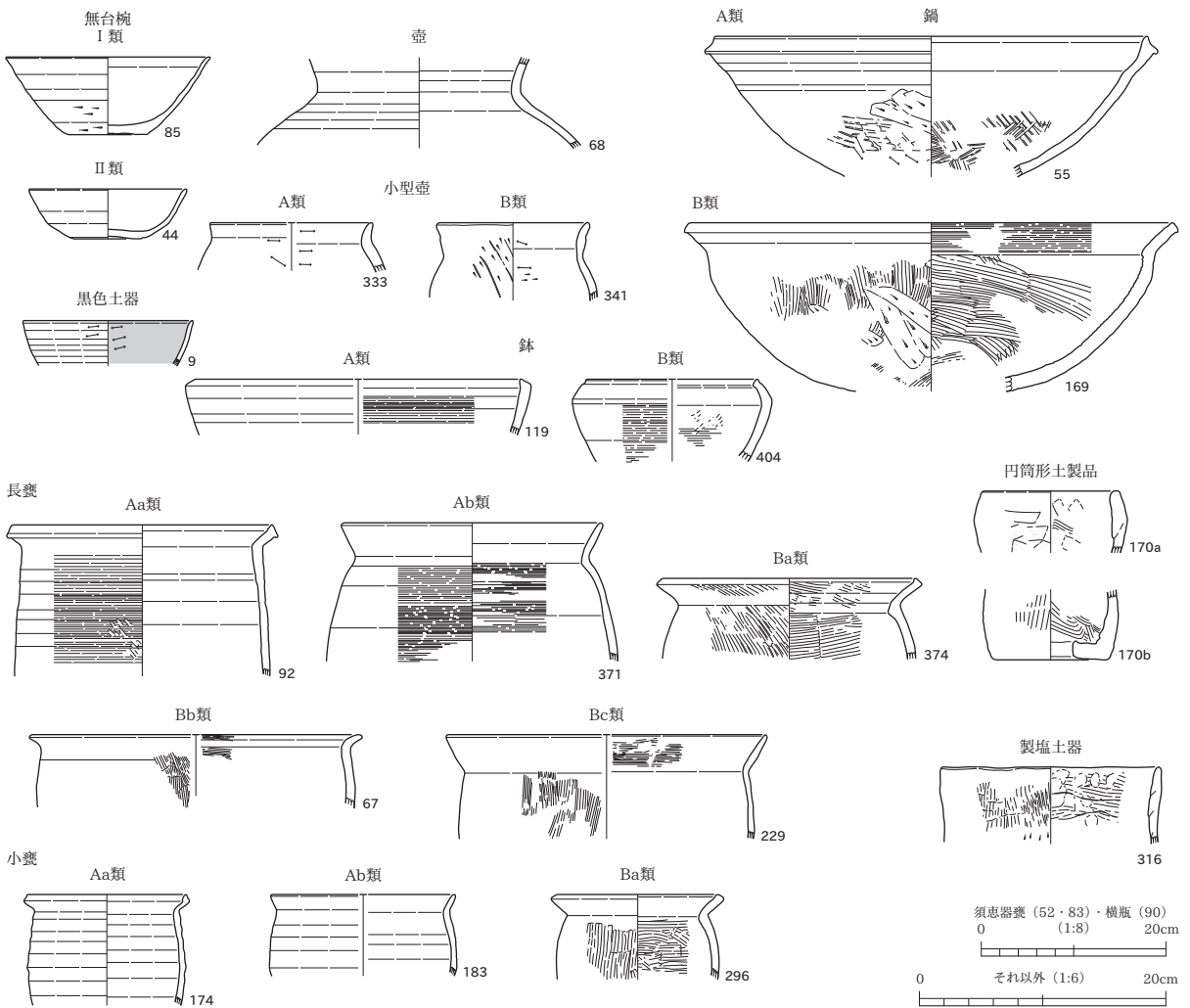
P187 (図版 35、写真図版 30)

図化し得たのは土師器の小甕 Aa類（14）1点のみで、他に須恵器無台杯の小片が1点出土している。内・外面はロクロナデで、口縁端部を上方へ摘み上げる。

須恵器



土師器



第 11 図 土器分類図

P191 (図版 35、写真図版 30)

須恵器杯蓋 (15) と土師器無台椀 (16)・長甕 (17～19) が出土している。15 は転用硯で、内面に墨痕を有す。胎土は C 群。16 は底部が高台状を呈し、内面に横位のヘラミガキを施す。底部切り離しは回転糸切りである。17 は土師器長甕 Aa 類で、口縁端部は直立気味に摘み上げられ丸く収まる。18 は非ロクロ甕の平底で、大きめの鉾物を多く含む粗い胎土である。19 はロクロ甕の尖り気味の丸底で、外面平行叩き、内面平行線文の当て具痕が認められる。

P194 (図版 35、写真図版 30)

図化し得たのは須恵器有台杯 (20) 1 点で、他に土師器長甕が出土している。20 は底部を欠損するが、推定復元口径約 15.4cm で、胎土は B 群。

P197 (図版 35、写真図版 30)

須恵器無台杯 (21) で、2 層からの出土である。胎土は B 群。

P202 (図版 35、写真図版 30)

土師器無台椀 (22) で、底部を欠く。外傾する体部から口縁部がやや上方へ屈曲する形態をなす。胎土は長石・石英のほかに、径 5mm 前後の白色凝灰岩を含むなど総じて粗い。

P203 (図版 35、写真図版 30)

須恵器無台杯 (23) と土師器小甕 (24) がある。両者とも 1 層から出土している。23 は II 類で、底部切り離しはヘラ切りのちナデ調整。胎土は B 群。24 は小甕 Aa 類で、体部から口縁部外面にススが、口縁部内面に炭化物が付着する。

P205 (図版 35、写真図版 30)

図化できた資料は土師器長甕 (25・26) である。25 は Aa 類で、口縁部から体部外面にススが付着する。26 はロクロ成形の平底である。

P206 (図版 35・42、写真図版 30・33)

土師器無台椀 (27)、須恵器無台杯 (28・29)、土師器長甕 (184) が図化し得た。27 は口縁部が短く外反する形態で底部を欠損する。28 は II 類。29 は底部外面に墨書が認められる。胎土は B 群である。

土師器長甕 (184) は Aa 類。体部外面にはカキメが観察される。また、体部外面にはススが認められる。

P207 (図版 35、写真図版 30)

図化できたのは須恵器無台杯 (30・32)・有台杯 (31)、土師器長甕 (33) である。30・32 は無台杯 II 類、31 は有台杯 II 類である。33 は底径 7.4cm と大きめの平底で外面には木葉痕 (網状葉脈圧痕) が認められる。

SB903 (図版 36、写真図版 30)

P422 (図版 36、写真図版 30)

図化できたのは須恵器有台杯 (34) 1 点で、深身の有台杯 B I 類にあたる。胎土は B 群で体部から口縁部はゆるやかに外反する。

P503 (図版 36、写真図版 30)

須恵器杯蓋 (35) 1 点が出土している。杯蓋 I 類で、胎土は B 群。天井部のゆがみが激しい。

2) 井 戸 (SE)

SE443 (図版 36、写真図版 30)

土師器無台椀 1 点 (36) が出土している。口縁部は内湾しながらシンプルに収まる形態である。

3) 土 坑 (SK)

SK17 (図版 36、写真図版 30)

一定量の土器が出土しているが、図化し得たのは須恵器無台杯 (37)・杯蓋 (38)、土師器長甕 (39) である。37・38 の胎土は B 群で、37 は須恵器無台杯 II 類、38 は須恵器杯蓋 I 類。37 の切り離しはヘラ切り後ナデ調整。

39 は土師器長甕 Aa 類。

SK77 (図版 36、写真図版 30)

図化し得たのは土師器小甕 (40) の体部下半から底部と考えられる。底部切り離しは回転糸切りである。体部外面にススが付着する。

SK78 (図版 36、写真図版 30)

図化し得たのは須恵器無台杯Ⅱ類 (41) 1 点である。胎土は B 群。

SK92 (図版 36・37、写真図版 30)

上層で確認された遺構の中で最多の遺物出土量である。土器のほかに、土錘 (238)、石帯 (255) が出土している。図化し得た土器は、須恵器無台杯 (42・43)、土師器無台椀 (44～50)、須恵器長頸瓶 (51)、須恵器甕 (52)、土師器長甕 (53)、土師器鍋 (54～57) である。

42・43 は両者とも須恵器無台杯Ⅱ類で胎土は B 群。42 の形態・胎土は 37 に類似する。44～50 はいずれも土師器無台椀Ⅱ類で、50 の底部外面には墨書が認められる。46 の内面にはヘラミガキが施されている。51 は外端接地高台を有す。胎土は B 群。52 の外面は平行線文のタタキが格子目状に認められる。内面には同心円文の当て具痕を有す。胎土は B 群。

53 は長甕 Aa 類。54～57 はいずれも鍋 A 類。55～57 は内外面とも平行線文が認められ、うち、55 の外面は平行線文のタタキのちへラケズリ・ヘラミガキを施す。55 の内面には口縁部から体部まで炭化物が付着する。56 は口縁部から体部下方までススが認められる。57 は体部外面にススが付着する。

SK95 (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは須恵器有台杯 (58) と土師器無台椀 (59・60) である。58 は胎土 B 群。59・60 はⅡ類。

SK105 (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは土師器の小甕 1 点 (61) で Aa 類である。内面は口縁部・体部で炭化物の付着が認められる。

SK107 (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは土師器無台椀 1 点 (62) で、Ⅱ類である。

SK122 (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは須恵器の長頸瓶 (63a・b)、有台杯 (64) と土師器の小甕 (65)、長甕 (66・67) である。63a・b の胎土はどちらも B 群で、同一個体と考えられる。底部は丸みをもち、高台部を欠損する。64 は須恵器有台杯の口縁部と考えられる。胎土は B 群。65 は土師器小甕 Ba 類で、外面は縦方向のヘラケズリ痕が認められる。66 は土師器長甕 Aa 類。67 は土師器長甕 Bb 類で、短い口縁部が水平気味に外へ強く外反する。体部外面は縦位のハケメ、口縁部から頸部内面は横位のハケメが施される。口縁部が強く屈曲・外反するもので、山三賀遺跡における長甕 C 系〔坂井 1989〕の口縁部形態に近い。

SK125 (図版 37、写真図版 31)

土師器壺 (68) と土師器長甕 (69) を図化し得た。68 は頸部で、約 1/6 周の遺存率である。69 は土師器長甕 Aa 類。

SK129 (図版 38、写真図版 31)

図化できたのは土師器無台椀 1 点 (70) で、Ⅱ類。

SK141 (図版 38、写真図版 31)

図化できたのは土師器無台椀 1 点 (71) で、Ⅱ類。

SK145 (図版 38、写真図版 31)

土器は一定量出土している。図化できたのは、須恵器無台杯 (72)、土師器無台椀 (73)、黒色土器 (74)、土師器無台椀 (75～77)、土師器小甕 (78a・b、79) である。

72～74 は底部外面に墨書が確認でき、73・74 には「川合」と記されている。72 の胎土は B 群。74 は内

面が黒色処理された土師器有台椀で、比較的高い内端接地高台が付き、高台の底には沈線状の凹みが巡る。内面は放射状のヘラミガキが確認される。75～77はいずれも土師器無台椀Ⅱ類である。76は体部下端ロクロケズリが行われている。78・79は土師器小甕Aa類で、78の口縁部は直立気味に、79の口縁部は内側に摘みあげている。両者とも口縁部・体部の外面全体にススが、内面の口縁部のみに炭化物が認められる。

SK150 (図版38、写真図版31)

図化し得た土器は、須恵器無台杯(80)、土師器無台椀(81・82)、須恵器甕(83)である。80は胎土B群。81は土師器無台椀Ⅱ類で、内面に横位のヘラミガキが認められる。82は底部外面に「古」の墨書が記されている。83は甕B類で、外面は平行線文のタタキ、内面には同心円文の当て具痕が観察される。胎土はB群。

SK181 (図版38、写真図版31)

図化し得たのは土師器無台椀(84・85)である。84は土師器無台椀Ⅱ類で、底部切り離しは回転糸切りである。85は口径16.5cmの土師器無台椀Ⅰ類で、器高6.25cmと比較的大形である。85の外面下半はロクロケズリが施されており、底部切り離しはヘラ切りである。底部外面に「古」の墨書が記されている。

SK183 (図版38、写真図版31)

一定量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯(86・87)、杯蓋(88・89)、横瓶(90)である。86は須恵器無台杯Ⅱ類、87はⅠ類である。86の胎土はB群。87の胎土はC群である。86の口縁部が直線的に外傾するのに対し、87は底部から口縁部にかけて内湾気味にのび、器壁も厚くシャープさを欠く。西古志窯産の可能性がある。88は胎土B群、89は胎土C群である。89の摘み部は凹む。焼成不良で、内外面とも黒味の強い色調をなす。90は、外面に平行線文のタタキが格子目状に入り、内面には同心円文の当て具痕が認められる。側端部は粘土接合部で欠損しており、粘土で円盤状に閉塞されていたと考えられる。

SK190 (図版39、写真図版31)

図化できたのは須恵器無台杯(91)、土師器長甕(92)、土師器小甕(93・94)である。91は須恵器無台杯Ⅱ類で、胎土はB群である。92は土師器長甕Aa類で、体部外面の一部に平行線文のタタキが認められる。94の底部切り離しは回転糸切りで、体部外面にはススが、体部内面には炭化物が観察される。

SK220 (図版39、写真図版31)

図化し得たのは須恵器無台杯(95・96)、須恵器有台杯(97)、土師器長甕(98)、土師器小甕(99)である。95・96ともに、無台杯Ⅱ類で、胎土はB群である。96は底部外面に「館」と推定される墨書である。97は深身の須恵器有台杯BⅡ類で、胎土はB群である。98は非ロクロの土師器長甕B類で、外面は縦位のハケメ、内面は横位のハケメが観察されるほか、体部内・外面には一部で指頭圧痕も認められる。また、体部内面で炭化物が観察される。99はロクロ成形の小甕の底部で、底部切り離しは回転糸切りである。体部最下端にはロクロケズリ痕が認められる。

4) 溝 (SD)

SD34 (図版39、写真図版32)

図化できたのは須恵器有台杯(100)、須恵器無台杯(101)、土師器無台椀(102)、土師器小甕(103)である。100は外端接地の高台部で、胎土はC群である。101の胎土はB群。底部外面に墨書を有す。102は土師器無台椀のⅡ類である。103はロクロ成形の小甕の底部で、底部切り離しは回転糸切りである。

SD66 (図版39・40、写真図版32)

比較的多量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯(104～106・110・111)、須恵器有台杯(107・109)、須恵器杯蓋(112～114)、須恵器甕(116)、土師器無台椀(108)、土師器鉢(119)、土師器鍋(123)、土師器長甕(115・117・118)、土師器小甕(120～122)である。

104・105・109～112は胎土C群、106・107・113・114は胎土B群の須恵器である。104・105は須恵器無台杯Ⅱ類で、器高3cm程度と浅身の形態である。両者とも器壁は厚い。104・105は新津丘陵窯産の可

能性が高い。106は胎土B群。107は体部上方から上を欠く。深身のB類で、比較的小形のものである。胎土はB群。109は深身の須恵器有台杯BⅡ類。胎土はC群。112・113は須恵器の杯蓋Ⅰ類、114は杯蓋Ⅱ類である。113は体部外面にロクロケズリ痕が認められる。114は転用硯で、内面に墨が付着する。胎土は112がC群、113・114がB群である。

108は底部外面に墨書を有す。119は土師器鉢A類で、比較的急な傾斜で立ち上がった後、口縁端部はやや内側に摘み上げることで面をもつ。123は土師器鍋A類で、内湾する口縁部をもち、口縁端部は内側に摘み上げている。115・117は非ロクロ成形の長甕Ba類で、内外面ともハケメ調整が施されている。いわゆる西古志型甕と考えられる。115は体部外面下半にスガが付着する。118はロクロ成形のAa類。

120～122はいずれも非ロクロ成形の小甕Ba類で、体部外面は斜位、内面は横位のハケメ調整を行う。120は口縁部が外へ短く屈曲・外反する形態で、体部外面、口縁部・体部内面にハケメ調整を行う。口縁部内面には炭化物が付着する。121は口縁部・体部内外面ともハケメ調整。122はBb類である。120・121は西古志型甕の特徴をもつ。

SD69 (図版40、写真図版32)

定量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯(124・125)、土師器無台椀(126・127)である。124・125とも胎土B群である。125は底部外面に墨書を有す。126・127はともにⅡ類である。126は体部から口縁部まで内湾しながらシンプルに収まるのに対し、127は口縁端部がやや外反する。127の器壁は比較的薄い。

SD88 (図版40、写真図版32)

図化できたのは土師器小甕(128・129)2点で、どちらもロクロ成形である。128は小甕Aa類で、口縁端部をやや内側に摘み上げる。体部外面にスガ、口縁部内面に炭化物が認められる。

SD96 (図版40、写真図版32)

図化できたのは須恵器無台杯(130)と土師器長甕(131)である。130は胎土B群で、底部はヘラ切り後一部ナデ調整が行われている。131はAa類で、口縁端部は摘み上げられやや内傾する。

SD130 (図版40、写真図版32)

定量の土器が出土しているが、図化できたのは須恵器有台杯(132)1点である。132はBⅢ類で、胎土はB群。高台部を欠損する。

SD137 (図版40、写真図版32)

定量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯(133・134)、須恵器杯蓋(137)、須恵器長頸瓶(138)、土師器無台椀(135・136)で、136は内面黒色処理が施されている。

須恵器の胎土は、138がA群、それ以外がB群である。133はⅡ類で、底部はヘラ切り後一部ナデ調整である。134は底部外面に墨書が確認できる。137は体部が扁平な形態で、口縁端部は丸く収まる。138は内端接地の高台をもつ。体部下方外面には一部ロクロケズリも認められる。136は体部外面の下方で横位のヘラミガキが、体部内面に縦位のヘラミガキが認められる。

SD210 (図版40、写真図版32)

定量の土器が出土している。図化し得たのはいずれも須恵器で、有台杯(139～141)、杯蓋(143・144)、長頸瓶(142)がある。胎土は139・142・144がB群、140・141・143がC群。

139はAⅢ類、140・141はAⅡ類である。139の高台は外端接地で、体部から口縁部まで外方へ直線気味に立ち上がる比較的シャープなつくりで、端部はやや外反して丸く収まる。140・141は内端接地の高台をもち、体部から口縁部へ内湾しながら直立気味に立ち上がる形態である。143は扁平な体部で器高の浅い形態である。144は山笠状の形態である。

SD218 (図版40、写真図版32)

図化できたのは須恵器有台杯(145)1点である。AⅡ類で、胎土はC群。外端接地の高台をもつ。

SD219 (図版 40、写真図版 32)

図化し得たのは須恵器無台杯 (146) 1 点である。Ⅱ類で、胎土は B 群。

5) 性格不明遺構 (SX)

SX209 (図版 40、写真図版 32)

定量の土器が出土しているが、図化できたのは須恵器有台杯 (147) 1 点である。大形の B I 類で、胎土は A 群。体部から口縁端部へは外反しながらのびる。

SX229 (図版 40・41、写真図版 32・33)

上層の遺構の中では SK92 に次ぐ遺物出土量で、土器のほかに土錘 4 点(241～244)と木製の曲げ物 1 点(291)も出土している。図化し得た土器は、須恵器杯蓋 (150)、土師器無台碗 (148・149・151～161)、黒色土器 (162)、土師器長甕 (163)、土師器小甕 (164)、土師器鍋 (165) で、土師器無台碗が多い特徴がある。

150 は胎土 B 群。土師器無台碗はいずれも口径 13cm 前後とⅡ類に分類される。155～161 は底部外面に墨書が認められるが、159 では底部をはみ出て体部下方にまで墨書が及ぶ。159 は「川合中」、156・158・160・161 は「川合」の文字を有す。162 は内面黒色処理された土師器の有台碗である。内端接地の高台で、高台底には沈線状の凹みが巡る。内面は放射状のヘラミガキが施されている。底部外面の高台に囲まれた中を転用硯として使用している。

163 は底径 12.6cm と広い平底で、体部下方外面には平行線文のタタキが、同内面には平行線文の当て具痕が観察される。164 の底部切り離しは回転糸切り。体部から底部内面に炭化物が付着する。165 は鍋 A 類で、内湾する口縁部から端部を内側に屈曲させて摘み上げている。

6) ピ ッ ト (P)

P102 (図版 41、写真図版 33)

図化できたのは須恵器長頸壺 (166) である。底部から高台部の破片で、胎土は C 群である。高台内は転用硯として利用されている。

P103 (図版 41、写真図版 33)

図化できたのは須恵器有台杯 (167) と土師器無台碗 (168) である。167 は B II 類で、内端接地の高台が付く。胎土は B 群。168 は口縁端部をやや外へ摘んで丸く収める。

P110 (図版 41、写真図版 33)

図化し得たのは土師器鍋 (169) と円筒形土製品 (170a・170b) である。169 は土師器鍋 B 類で、端部は面をもつ。調整は体部外面が縦位のハケメのちヘラケズリ、口縁部内面はカキメ、体部内面が横位のハケメ調整である。体部外面下半にススガ、体部内面下半に炭化物が付着する。170a、170b は、胎土・器厚・調整・色調とも共通することから同一個体と考えられる。鉢物を多く含む粗い胎土で、条間の広いハケメやケズリなど調整は粗い。器壁は厚い。全体に円筒状の形態になると考えられ、口縁部はやや内側に傾斜し、端部が丸く収まる。底部中央に焼成前穿孔が行われており、推定孔径は 1.2cm である。器壁は厚い。今回の調査でこの種の土器はこの 1 点のみの出土である。

P118 (図版 41、写真図版 33)

図化できたのは 1 層から出土した土師器鍋 (171) 1 点である。鍋 B 類で、口縁端部はやや内側に摘み上げる。調整は、体部外面がロクロナデのち体部下半を平行線文のタタキ、一部のちケズリである。内面はロクロナデで、体部下半に平行線文の当て具痕が認められる。

P127 (図版 41、写真図版 33)

図化し得たのは、須恵器無台杯 (172) 1 点である。胎土は B 群で、底部外面に墨書を有す。

P155 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは土師器長甕 (173) 1 点である。Aa 類。

P168 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは土師器小甕 (174) 1 点である。Aa 類。口縁部から体部外面にススが、口縁部内面に炭化物が付着する。

P172 (図版 42、写真図版 33)

図化し得たのは須恵器無台杯 (175・176) である。いずれもⅡ類で、1 層からの出土である。胎土は、175 が C 群、176 が B 群で、175 は新津丘陵産と推測される。

P175 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは、土師器無台椀 (177・178)、須恵器無台杯 (179)、土師器小甕 (180) である。177・178 は土師器無台椀Ⅱ類。179 はⅡ類で、胎土は B 群。180 は Aa 類で、口縁端部は上方へ摘み上げている。

P178 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは須恵器甕 (181) 1 点である。須恵器甕 A 類で、胎土は B 群。体部外面は平行線文のタタキが格子目状に認められる。体部内面には同心円文の当て具痕を残す。

P204 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは土師器無台椀 (182) と土師器小甕 (183) である。182 の底部切り離しは回転糸切り。底部はやや高台状をなす。体部・口縁部の開きは比較的強く、浅身の形状。183 は土師器小甕 Ab 類である。

7) 遺構外 (図版 42・43、写真図版 33・34)

図化し得た資料は、須恵器無台杯 (185～199)、須恵器有台杯 (200～202)、須恵器杯蓋 (203・230)、須恵器長頸瓶 (204)、土師器無台椀 (205～214・216～225・227・228・231)、黒色土器 (215・226)、土師器長甕 (229・233)、土師器小甕 (232・234) である。

須恵器無台杯 (185～199)

須恵器無台杯の胎土は、185 が A 群、187・199 が C 群、それ以外が B 群である。底部切り離しはいずれもヘラ切りで、185・199 はヘラ切りののちナデを行っている。189～199 は底部外面に墨書が認められる。

185 は須恵器無台杯Ⅱ類で、体部から口縁端部にかけてやや外反しながらのびるやや深身の形態をなす。186 は口縁端部がやや尖り気味に収まる。187～191 は、直線的に外傾して開く体部をもち、口縁端部は丸く収める。191 の体部の開きは他よりもやや大きく、器高も浅身である。

189 は底部外面の中央 1 か所と、それを中心として十字方向の底部外面周縁 3 か所で「○」印の墨痕が観察される。191 の底部外面に記された墨書の文字は、細字で流暢な筆であり、今回出土した墨書の中では異質である。接合しないが同一個体の底部外面でも墨書が認められる。193・197 の底部外面には「別」、198 は「足」、199 には「正」の墨書がそれぞれ記されていた。199 は西古志窯産の可能性のある・

須恵器有台杯 (200～202)

200・201 は B Ⅲ類、202 は A Ⅱ類で、胎土は 200・201 が B 群、202 が C 群である。202 は西古志窯産の可能性のある。高台は、200 が外端接地、201 が水平接地、202 が内端接地である。

須恵器杯蓋 (203・230)

203 は杯蓋Ⅰ類で、胎土は C 群。内面には墨痕が認められ、転用硯として使用されたと考えられる。230 も転用硯であり、内面に墨痕を残す。出土グリッドは 4D12 で、SB901 に近い位置関係にある。胎土は B 群である。摘み部分に「口〔川カ〕井庄」の墨書を有す。

須恵器長頸瓶 (204)

204 は胎土 B 群。体部から下は欠損する。

土師器無台椀 (205～214・216～225・227・228・231)

205 はⅠ類で、他と比べてやや大きい法量である。208 は内湾する体部から口縁部がやや強く外反する形態で、体部・口縁部外面には一部で赤彩が認められる。214 の胎土は、石英・チャート・砂粒を含むが、石英に

は7mm大と大きめの鋳物が目立つ。212・216～225、227・228・231の底部外面には墨書が認められる。217・220・225・228では「川合」、227では「川合中」の文字が確認される。また、212・218・231では「合」の可能性のある文字がみられ、「川合」と墨書されていた可能性がある。なお、217の外面には赤彩も確認される。大半が春日編年のVI期に収まるもので、一部V期まで遡る可能性のあるものが存在する。

黒色土器 (215・226)

215は内面黒色処理されており、内外面とも横位のヘラミガキが確認される。底部は高台状を呈し、切り離しはヘラ切りである。体部は浅い皿状の形態になると推測され、182に近い形態と考えられる。緑釉陶器を模倣した可能性がある。226の内面は黒色処理されており、横位のヘラミガキが行われている。底部外面に「川合」の墨書を確認できる。

土師器長甕 (229・233)

229は土師器長甕Bc類で、佐渡型甕と考えられる。体部外面は縦位のハケメ、口縁部内面は横位のハケメ痕が確認できる。また、口縁部・体部外面にはススガ、口縁部・体部内面には炭化物が認められる。233は非ロクロの長甕底部である。平底で、体部下端には横位のヘラケズリ痕が認められる。鋳物を多く含む粗い胎土である。

土師器小甕 (232・234)

232は小甕Ba類である。口縁部から体部外面には縦位のハケメ調整が、体部内面には横位のハケメ調整が施されている。いわゆる西古志型甕と考えられる。口縁部と体部外面にススガ、口縁部内面に炭化物が付着する。234はロクロ成形の小甕の平底である。

D 下層出土の土器

1) 掘立柱建物 (SB)

下層の掘立柱建物を構成する柱穴のうち、図化し得た遺物が伴うものは、SB906のP340のみである。

SB906 (図版47、写真図版37)

P340 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(294)1点で、口縁部を欠損する。2層からの出土で、胎土はB群に属す。

2) 土 坑 (SK)

SK284 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器有台杯(295)1点である。AⅡ類で、内端接地の高台をもつ。胎土はC群で西古志窯産と考えられる。

SK331 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは土師器小甕(296)1点である。非ロクロのBa類で、体部外面は縦位のハケメ、体部内面は横位のハケメ調整痕が認められる。口縁端部は面をもつ。胎土に長石・石英を多く含む。西古志型甕と考えられる。口縁部・体部外面にススガ、内面は口縁部と体部上方に炭化物が認められる。

SK360 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(297)1点である。4層からの出土で、無台杯Ⅱ類。胎土はC群である。内湾する体部から口縁端部がやや外へ反る。底部切り離しはヘラ切りで、切り離し後一部ナデ調整が認められる。西古志窯産と推測する。

SK366 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは土師器小甕(298)1点で、2層からの出土である。非ロクロのBb類。器面摩滅のため調整は不明である。口縁部内面に炭化物が認められる。

SK388 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器有台杯(299)1点である。AⅡ類で、内端接地の高台をもち、内湾する体部から口縁

端部はやや外側へ反って収まる。胎土はC群である。

SK411 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは土師器小甕 (300) 1点である。非ロクロのBa類で、体部外面に縦位のハケメ調整を、口縁部と体部内面には横位のハケメ調整を施す。口縁部は短く外へ屈曲し、口縁端部は面をもつ。長石・石英を多量に含む粗い胎土である。西古志型甕と考えられる。

SK510 (図版 47、写真図版 37)

一定量の土器が出土している。図化し得たのは須恵器無台杯 (301・302・304～306)、須恵器有台杯 (303)、土師器長甕 (307・308) である。

須恵器無台杯はいずれも胎土B群である。301はほぼ完形。302はシャープなつくりで、体部から口縁部は直線的に外方へのびる。304～306は底部外面に墨書を有し、306には「知」の文字が記されている。

303は須恵器有台杯AⅡ類で、胎土はC群である。西古志窯産と推測される。外端接地の高台を有す。

307・308は長甕Aa類。307の体部外面には縦位のヘラケズリ痕が観察される。また、体部外面にススが、体部内面には炭化物が認められる。308は体部外面にススの付着が観察される。

SK524 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器無台杯 (309) 1点である。胎土はB群である。体部外面に墨書が認められる。

SK526 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器無台杯 (310) 1点である。Ⅱ類で、胎土はB群。

SK583 (図版 47、写真図版 37)

下層の遺構の中で最も多い出土量である。図化し得たのは須恵器無台杯 (311～315) である。311～314は3層からの出土で、遺存率が高く、正位に近い状態でまとまりをもって出土した一括性の高い土器群である。315は4層からの出土で、底部外面に墨書を有す。いずれも胎土はB群である。

SK653 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは製塩土器 (316) 1点である。外面は縦位のハケメ調整で、一部ヘラケズリも認められる。内面は横位のハケメ調整で、指頭圧痕が多く観察される。内面には粘土紐の接合痕を残す。

SK696 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは土師器長甕 (319) である。Aa類で、体部外面に平行線文のタタキが、体部内面に同心円文の当て具痕が認められる。

3) 溝 (SD)

SD246 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器杯蓋 (317) 1点である。Ⅱ類で、胎土はB群。

SD271 (図版 47、写真図版 37)

図化し得たのは黒色土器 (318) 1点で、内面を黒色処理された土師器無台碗である。内面はヘラミガキ。底部外面に墨書を有す。

SD334 (図版 48、写真図版 37)

定量の土器が出土している。図化し得たのは須恵器無台杯 (321) と須恵器有台杯 (320) で、ともに1層からの出土である。320は胎土C群でAⅡ類。口縁端部がやや外反する。321はⅡ類で胎土はC群。どちらも新津丘陵窯産の須恵器である可能性が高い。

SD417 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは土師器無台碗 (322) 1点である。Ⅱ類で、口縁端部は短く外反する。

SD461 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器有台杯 (323)、須恵器無台杯 (324) である。どちらも胎土はB群である。323は深身

のBⅡ類である。口縁部は外反し、端部はやや外へ摘むように収まる。器壁は薄い。324はⅡ類である。底部外面に「正」の墨書が確認できる。

SD481 (図版 48、写真図版 37)

土器が定量出土している。図化し得たのは須恵器無台杯(325・326)、土師器小甕(327)である。325・326はⅡ類で、ともに胎土はB群。327はAa類。口縁部内面に炭化物が巡る。

SD507 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器無台杯(328)1点である。Ⅱ類で、胎土はB群。器高は比較的浅い。

SD508 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器無台杯(330)、須恵器長頸瓶(329・331)である。330はⅡ類で、胎土はC群。新津産と考えられる。底部外面に墨書を有す。329・331は胎土B群。

SD543 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器杯蓋(332)である。Ⅰ類で、胎土はB群。転用硯で内面に墨痕が付着する。

SD600 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは土師器小型壺(333)1点である。精製の小型壺A類で、口縁部は上方に短く外反してのび、口縁端部は丸く収まる。内外面とも横位のヘラミガキが認められる。

SD601 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは土師器長甕(334)1点である。非ロクロの平底で、体部下方外面には斜位のヘラケズリが、同内面にはハケメ調整が施される。底径は8.0cmである。

4) 性格不明遺構 (SX)

SX384 (図版 48、写真図版 37)

図化し得たのは須恵器有台杯(335)1点である。内端接地の高台をもち、胎土はC群で、西古志あるいは角田山麓産須恵器と推測する。

5) ピ ッ ト (P)

P247 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは須恵器無台杯(336)1点である。胎土はC群。底部外面に墨書を有す。

P248 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは須恵器広口壺(337)1点である。2層からの出土。ほぼ完形で、正位の状態出土した。胎土はB群で内端接地高台を有す。

P287 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは土師器甕の底部(338)1点で、小型甕と考える。非ロクロで、丸味をもつ平底である。内面には炭化物が認められる。外面には縦方向のヘラケズリ痕が認められる。また、底部内外面はナデで、内面には指頭圧痕も観察される。西古志型甕の底部である可能性がある

P301 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは須恵器無台杯(339)1点である。Ⅱ類。胎土はC群で、新津丘陵窯産に近い。

P406 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは土師器無台椀(340)1点である。Ⅰ類で、底部外面に墨書を有す。体部上方外面に沈線状の凹みが2条平行する。内面はヘラミガキ。底部切り離しはヘラ切り。仏鉢形土器の可能性もある。

P426 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは土師器小型壺(341)1点である。粗製の非ロクロ成形B類で、厚手の口縁部が上方へやや外反してのび、端部は丸く収まる。調整は、口縁部から体部外面を斜位のヘラケズリ、口縁部から肩部までの一部内面を横位のヘラミガキ、体部内面は横位のヘラケズリを行う。なお、外面のケズリは単位の両端に線状の痕跡

を残す。

P452 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは土師器長甕 (342) 1 点である。非ロクロの Ba 類で、口縁部は外反して、端部は面をもつ。体部は内外面ともハケメ調整が認められる。西古志型甕と考えられる。体部外面にススが認められる。細かい鉾物を多量に含む胎土である。

P478 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは土師器小甕 (343) 1 点。ロクロ成形の平底で、底部切り離しは回転糸切りである。

P488 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは須恵器杯蓋 (344) 1 点である。Ⅱ類で、胎土は B 群。転用碗で、内面に墨痕を残す。摘み部に墨書が認められる。

P498 (図版 48、写真図版 38)

図化し得たのは須恵器無台杯 (345) 1 点である。Ⅱ類で、胎土は B 群。底部外面に墨書を有す。

P545 (図版 49、写真図版 38)

図化し得たのは土師器小甕 (346) 1 点。ロクロ成形の平底で、底部切り離しは回転糸切りである。

P561 (図版 49、写真図版 38)

図化し得たのは土師器小甕 (347) 1 点。Aa 類で、体部外面にスス、口縁部内面に炭化物が認められる。

P575 (図版 49、写真図版 38)

図化し得たのは土師器小甕 (348) 1 点。Aa 類で、体部外面にスス、口縁部内面に炭化物が認められる。

6) 遺 構 外 (図版 49・50、写真図版 38)

図化し得た資料は、須恵器無台杯 (349～360、364)、須恵器有台杯 (361～363)、須恵器杯蓋 (365・366)、須恵器甕 (367)、土師器無台椀 (368・369)、土師器長甕 (370～374・377)、土師器小甕 (375・376・378)、土師器鉢 (379) である。

須恵器無台杯 (349～360、364)

須恵器無台杯の胎土は、350・358 が A 群、352・353・355・357・359・364 が B 群、351・354・356・360 が C 群である。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、ヘラ切りのちナデ調整を行っている。

349 は須恵器無台杯Ⅰ類で、箱形を呈する比較的大形のものである。350 はⅡ類で、粒子が比較的大きな長石・石英を多く含む胎土である。354 は新津丘陵窯産と推測される。356・358 はⅠ類で、やや大振りの法量をもち、器壁は厚めである。356 は新津丘陵窯産、358 は阿賀野川以北の窯跡産と考えられる。359 はⅢ類と径が小さく、箱形を呈する。364 は体部外面に墨書が認められる。

須恵器有台杯 (361～363)

361 は BⅠ類で胎土 B 群、362 が AⅢ類で胎土 C 群、363 が AⅡ類で胎土 C 群である。361 は内端接地の高台をもち、体部から口縁端部までゆるく外反しながら長くのびる。362 は水平接地の高台をもつ。西古志窯産と推測する。363 は外端接地高台で、口縁部は短くやや外反する。新津丘陵窯跡群産の可能性が高い。

須恵器杯蓋 (365・366)

365 は杯蓋Ⅱ類、366 は杯蓋Ⅰ類で、ともに胎土は B 群に属す。

須恵器甕 (367)

367 は胎土 C 群で西古志窯産と推測される。口縁部外面には 2 条の波状文が確認できる。

土師器無台椀 (368・369)

368 はⅡ類。69 は外面に赤彩が確認される。底部外面には「川合」の墨書が記されるが、「合」の口辺上の三画目の横線が 1 本抜ける。

土師器長甕 (370～374・377)

370 は非ロクロの土師器長甕 Ba 類で、頸部で屈曲して短い口縁部が外へのびる。体部外面は縦位のハケメ調整、体部内面は横位のハケメ調整で、全体的に器壁は薄い。胎土には鉾物が多く含まれる。体部外面は上半部を除いてススが認められる。374 は Ba 類で、外面は口縁部から体部まで斜位のハケメ調整、内面は口縁部から体部まで横位のハケメ調整が認められる。370・374 ともいわゆる西古志型甕と考えられる。

371 は Ab 類で、比較的長い口縁部が直線的に外傾してのび、端部は丸く収まる。体部外面にススの付着が認められる。372・373 は Aa 類で、372 は体部内面に指頭圧痕が確認できる。両者とも体部外面にススの付着が観察される。377 はロクロ成形の甕で、丸底である。外面に平行線文のタタキ、内面に平行線文の当て具痕が観察される。体部から底部外面にはススが付着する。

土師器小甕 (375・376・378)

375 は小甕 Bb 類である。外面には斜位のハケメ調整が、内面には横位のハケメ調整が施されている。西古志型甕の可能性もある。376 はロクロ成形の小甕で、Aa 類である。内外面ともカキメが認められるが、体部下外面にはヘラケズリ痕も確認できる。378 はロクロ成形の小甕の底部である。平底で、底部切り離しは回転糸切りである。体部から底部外面にはススが、同内面には炭化物が認められる。

土師器鉢 (379)

379 は平底の精製の鉢で、体部・底部の内外面にヘラミガキを行い、体部外面には赤彩が施される。

E 上層・下層出土の土器 (図版 52、写真図版 39)

ここでは、出土層位が不明な古代の土器と、中・近世の遺物について記述する。

須恵器無台杯 (394・395、398～401)

胎土は、394・400・401 が B 群、395・398・399 が C 群である。395・399 は新津丘陵窯産と推測され、398 は西古志窯産の可能性が高い。なお、395・399 は底部外面にヘラ状工具による「×」の線刻が、400・401 は底部外面に墨書が認められる。

須恵器有台杯 (396・397)

396・397 とも胎土は C 群である。396 は西古志窯産もしくは角田山麓窯産の可能性が高い。内端接地高台で、体部より上を欠損する。底部外面端に「川合」の墨書が認められるが、「合」の口辺上の三画目の横線が 1 本抜ける。397 は西古志窯産と推測される。A II 類で、外端接地高台が付く。

土師器無台椀 (402・403)

402 は II 類で、口縁部はやや外反し、体部外面には赤彩が認められる。底部切り離しはヘラ切りで、体部下端はロクロケズリが行われている。403 は底部切り離しは回転糸切りである。底部外面に「吉」の墨書を有す。底部の器壁は厚い。

土師器鉢 (404)

鉢 B 類で、口縁部は内側に屈曲し、端部は上方へやや摘んで面をもつ。体部内外面にカキメが認められる。形態からいわゆる「仏鉢形土器」に位置づけられる。

土師器長甕 (405～408)

405・406 は非ロクロの甕である。405 は Ba 類で、体部外面と口縁部・体部内面にハケメ調整を行う。西古志型甕と考えられる。406 はあまり膨らまない体部から頸部が直線的に内傾して延び、外へ屈曲して内湾気味の短い口縁部がつくものである。外面の調整は、口縁部に指頭圧痕を残し、頸部から体部にかけて深い縦位のハケメを施し、体部にはヘラケズリ痕も確認できる。内面調整は、口縁部に横位のハケメを、頸部が横位のヘラケズリ、体部はヘラナデを行う。この種の形態の土器は、今回の調査ではこの 1 点のみである。

407・408 は Aa 類である。407 は体部外面のロクロナデによる凸部と口縁部・体部内面の一部にカキメ痕を

残す。408 は体部内外面の一部にカキメ痕が認められ、体部内面はカキメのち一部ハケのち斜位のヘラナデが行われている。また、外面には体部上方を除いてススが観察される。

中世陶磁器 (410)

410 は珠洲焼のすり鉢底部と考えられる。底部外面はヘラナデ・ハケメ調整が認められる。

近世陶器 (409)

409 は肥前産の陶器皿で、高台を除いてやや緑がかかった透明釉がかけられており、見込みには蛇の目状に釉剥ぎされている。年代は17世紀後半から18世紀前半に位置づけられる。

第3節 土製品

1) 上層 (図版 44、写真図版 35)

以下に述べる土製品とした遺物は、支脚と鍛冶関連遺物である鞆の羽口、土錘の3種である。上層では、支脚が計1点、羽口が計3点、土錘が計18点出土しており、そのうち20点を図化した(235～254)。

支脚 (図版 44、写真図版 35)

235 はSB901のP207から出土した。上端部分のみ半周ほどの遺存である。全体にミガキが施される。

羽口 (図版 44、写真図版 35)

236 は4F19グリッドから出土した。断面形は略円形で、上端部分のみ1/3周ほどの遺存である。外径約4cm、孔径約2.2cmで、色調は灰色を呈す。上端部は溶解によるガラス化が一部で認められ、暗緑灰色となる。

土錘 (図版 44、写真図版 35)

計18点出土しており、全て図化した(237～254)。大半が細型管状であるが、大型管状のもの(240・245・251)も存在する。分布はSB901内とその周辺に集中しており、遺構ではSX229から4点と比較的多く出土している。いずれも中央部分が若干膨らむ形態で、ナデ調整が行われている。

2) 下層 (図版 50、写真図版 39)

土製品とした遺物は、支脚と土錘の2種である。下層では支脚が計1点、土錘が計3点出土しており、全て図化した(380～383)。

支脚 (図版 50、写真図版 39)

383 は4D13グリッドの包含層出土遺物で、略円形と考えられる。径の半分ほどの遺存率で、上下ともに欠損する。縦位のハケメ調整が施されている。

土錘 (図版 50、写真図版 39)

大型管状(380)、細型管状(381・382)がある。上層出土の土錘と形態的な違いは認められない。

第4節 石製品

1) 上層 (図版 44、写真図版 35)

上層では石製品が8点出土した(255～262)。内訳は石帯1点・椎状錘1点・砥石4点・軽石2点である。ほかに自然礫がコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)にして1箱出土している。

石帯(255)はSK92の3層から出土している。ほぼ完形であるが、隅1か所をわずかに欠く。縦長3.65cm、横長3.85cm、厚さ0.8cm、重量26.5cmである。裏面は四隅に潜り穴が穿たれている。表面・側面は研磨により光沢を帯びるが、裏面は粗い研磨で光沢を帯びない。色調は白色系に属す。石材は石英である(糸魚川フオッサマグナムミュージアムの茨木洋介氏の御教示による)。当遺跡出土の石帯は、現状でこの1点のみである。

椎状錘(256)は4E17からの出土である。ほぼ完形であるが、数か所で剥離がある。全体の形状は頂部・底

部が平坦気味で、頂部に向かって窄まる截頭錐形を呈するが、全体に丸みをもつ。頂部側の中央には貫通する1孔が穿たれている。長軸長4.9cm、短軸長3.3cm、厚さ2.3cmで、重量は45.5g。全面が研磨されている。石材は蛇紋岩である。

257～260は砥石である。257がSK78、259はP147、258・260は包含層からの出土である。258は目が粗く、荒砥用に使用されたと推測される。

261・262は軽石。261は楕円形で丸みをもつ形状である。262は一方が平坦で、反対側が土手状に高まる形状をなす。前者は全体に磨り痕が観察できるのに対し、後者は平坦な部分のみ磨り面として利用されている。

2) 下層 (図版 51、写真図版 39)

下層では石製品が5点出土した(384～388)。内訳は磨石状石製品1点と砥石4点である。ほかに自然礫がコテナ(内径55.4×33.6×10.0cm)にして1箱出土しており、うち搬入礫1点を図化した(389)。

384はSK388からの出土である。扁平な形態で全体に丸みをもつ。重量は1,910gと重い。形態から磨石状石製品とした。

385～388は砥石で、388は三角形の形状をなす小型の製品である。全体に磨り痕が認められるが、先端部の摩耗が特に激しい。389は磨り面が観察されないため搬入礫に分類した。海や川の河口で入手できる石である。

第5節 木製品

林付遺跡出土の木製品は、木柱53点(上層27点・下層26点)、棒状製品6点、板状製品1点、円形板状製品3点である。なお、木柱の多くは樹種同定を行ったが、それ以外は樹種同定を行っておらず、樹種は不明である。

1) 上層 (図版 45・46、写真図版 35・36)

上層の木製品で図化したのは、木柱21点(263～283)、棒状製品4点(284・285・287・289)、板状製品1点(286)、曲げ物の底と考えられる円形板状製品3点(288・290・291)である。

SB901の柱の径は、10cm以下3本、10～15cm 10本、15～20cm 4本、20～25cm 0本、25～30cm 1本、30～35cm 1本である。最小がP318の径8.7cm、最大がP276の径31.9cmである。

木柱には、先端を鉛筆の芯のように尖らす加工をしたものと、水平に加工したものの2通りが存在する。SB901では、水平の加工がP112(264)・P146・P203(274)・P205(275)・P206(276)の木柱で確認され、それ以外は尖らす加工である(別表5)。

棒状製品としたのは284・285・287・289で、289がSE40、それ以外がSE10からの出土である。284・287・289は厚さ0.5cm以下と細い箸状の製品である。285は厚さ1cmとやや太めで先端を丸く加工している。

286は上端部断面が長方形をなし、中央部断面は不整のやや丸みをもつ長方形を呈することから板状製品とした。SE10からの出土である。下端部は一部欠損するが、遺存部から尖り気味の形状であったと考えられる。

288・290・291は形状から円形板状製品としたが、いずれも曲げ物板と判断される。288がSE10、290がSE443、291がSX229の出土である。290は完形で、小口面に打ち込まれた木釘が8か所で確認できる。

2) 下層 (図版 51、写真図版 39)

下層の木製品で図化・樹種同定したのは木柱4本(390～393)である。390がクリ、391・393がコナラ属コナラ節、392がカエデ属である。391以外はいずれも先端部を水平に加工している。

第6節 金属製品 (図版 46、写真図版 36)

銭貨が上層で2点出土している(292・293)。いずれも遺構外で、包含層であるⅢ層からの出土である。292は天聖元寶の文字がある。渡来銭で、初鑄年は北宋期の1023年である。293は摩滅が激しく文字は不明である。

第VI章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

A 測定試料と測定方法

出土した柱根のうち、5 試料（第1表）について、酸—アルカリ—酸洗浄ののちに加速器質量分析（AMS）法により放射性炭素（ ^{14}C ）年代測定を行った。いずれも、材の外側の数年分を採取したものである。年代測定は米国の Beta Analytic Inc.（ベータ社）で実施され、測定には 3MV HVEE タンデトロン加速器が使用された。

B 結果

測定結果および暦年較正年代を第1表に示す。なお、各用語の意味は次の通りである。

- 1) 未補正 ^{14}C 年代値 (measured radiocarbon age) : 試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。
- 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値: 試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。
- 3) 補正 ^{14}C 年代値 (conventional radiocarbon age) : $\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。
- 4) 暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセットは、INTCAL04 : Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については, Marine04) である。また、較正曲線のスムーズ化には Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) の理論を用いた。なお、暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率) \cdot 2 σ (95% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

第2節 樹種同定

A 分析試料

試料は、上層の柱根から採取された 24 点および下層の柱根から採取された 4 点の合計 28 点である (第2表)。

B 分析方法

試料は、カミソリを用いて新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柾目と同義)、接線断面 (板目と同義) の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって 40 ~ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

第1表 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ^{14}C 年代 (y BP)	$\delta^{13}\text{C}$	補正 ^{14}C 年代 (y BP)	暦年較正年代 (Cal AD)	測定番号
No.17 (P206)	1140 \pm 40	-23.3	1170 \pm 40	2 σ : AD 770 ~ AD 980 1 σ : AD 780 ~ AD 900 交点 : AD 880	Beta-289006
No.19 (P216)	1160 \pm 40	-24.9	1160 \pm 40	2 σ : AD 770 ~ AD 980 1 σ : AD 810 ~ AD 900, AD 920 ~ 950 交点 : AD 890	Beta-289007
No.23 (P383)	1290 \pm 40	-27.9	1240 \pm 40	2 σ : AD 670 ~ AD 890 1 σ : AD 690 ~ AD 810 交点 : AD 770	Beta-289008
No.26 (P503)	1140 \pm 40	-26.3	1120 \pm 40	2 σ : AD 810 ~ AD 1010 1 σ : AD 890 ~ AD 980 交点 : AD 900, 920, 950	Beta-289009
No.28 (P659)	1230 \pm 40	-26.1	1210 \pm 40	2 σ : AD 690 ~ AD 900 1 σ : AD 770 ~ AD 880 交点 : AD 780	Beta-289011

C 結果

樹種同定の結果、上層の柱根 24 点の樹種は、クリ 10 点、ネズコ 7 点、キハダ属 5 点、マツ属単維管束亜属 1 点、トネリコ属 1 点、下層の柱根 4 点の樹種は、コナラ属コナラ節 2 点、クリ 1 点、カエデ属 1 点と同定された（第 2 表）。クリ、コナラ属コナラ節、キハダ属、カエデ属、トネリコ属は温帯を中心に広く分布する広葉樹であり、マツ属単維管束亜属、ネズコは温帯に分布する針葉樹である。いずれの樹種も温帯に分布し高木となる樹種であり、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。

主要な分類群の顕微鏡写真を示す（第 12 図）とともに、同定根拠となった特徴を記載する。

マツ属単維管束亜属 *Pinus* subgen. *Haploxyylon* マツ科 第 12 図- 1

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁は平滑である。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

ネズコ *Thuja standishii* Carr. ヒノキ科 第 12 図- 2・3

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞がみられる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2～4 個存在する。放射柔細胞の水平壁と接線壁が接する部分において、水平壁が山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造ができる、いわゆるインデンチャーがよく発達している。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、樹脂細胞が存在する。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 第 12 図- 4・5

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 第 12 図- 6

横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

キハダ属 *Phellodendron* ミカン科 第 12 図- 7

横断面：年輪のはじめに大型でやや厚壁の丸い道管が単独あるいは 2 個複合して 2～3 列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で方形の小道管が、多数集合して斜め方向および接線方向に帯状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は同性である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。接線断面：放射組織は多列の同性放射組織型で、紡錘形を呈する。幅は 1～3 細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

第 2 表 樹種同定結果

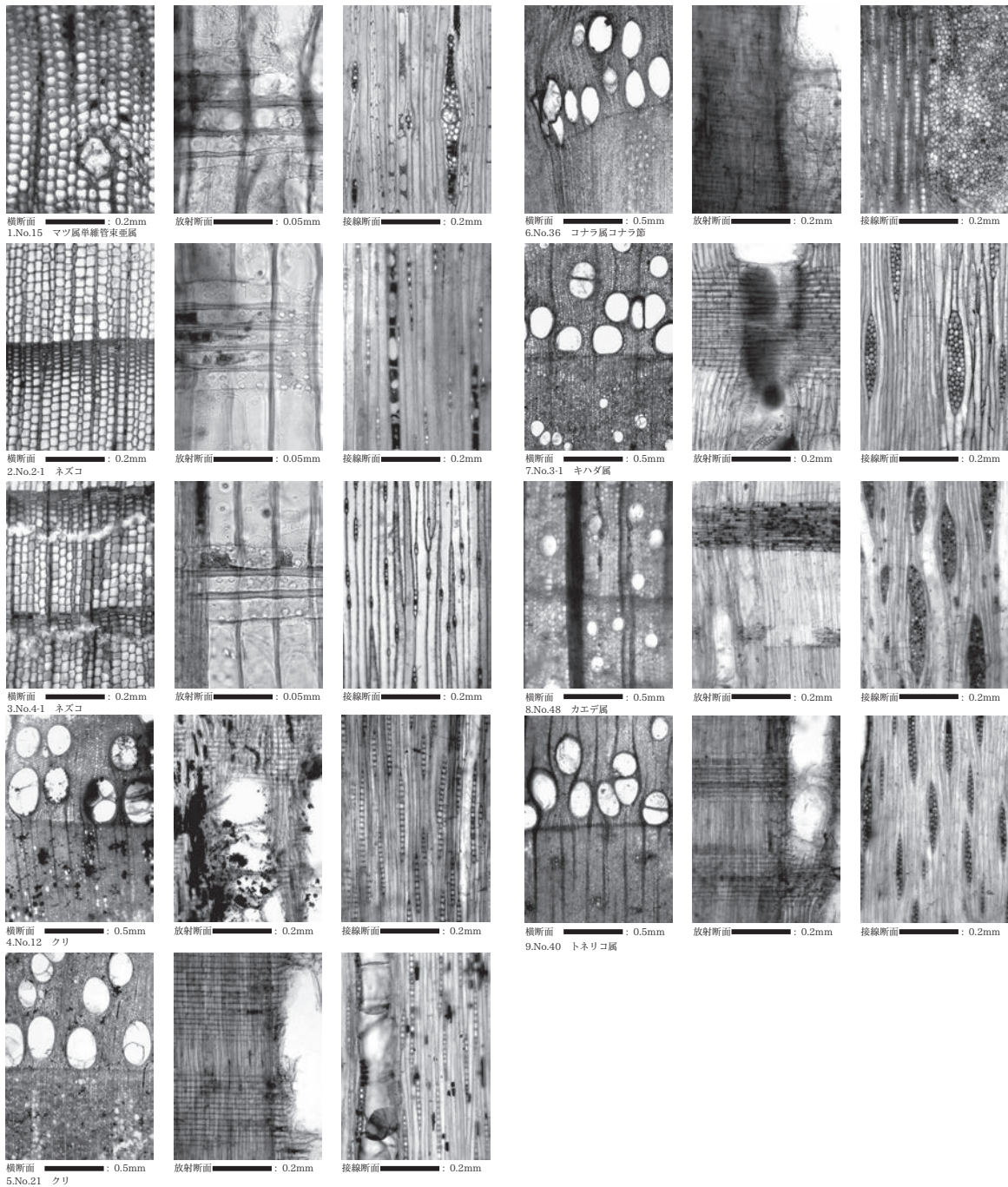
試料 No.	遺構	グリッド	結果 (学名/和名)	取り上げ No.	備考
1	P59	SB901	4E16	<i>Phellodendron</i>	キハダ属 1 上層
2	P101	SB901	4D23.24	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 2-1 上層
3	P112	SB901	3D25.4D5	<i>Phellodendron</i>	キハダ属 3-1 上層
4	P119	SB901	4E11	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 4-1 上層
5	P146	SB901	3D19.20.24.25	<i>Phellodendron</i>	キハダ属 5-2 上層
6	P149	SB901	5E6	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 6 上層
7	P152	SB901	4D10.4E6	<i>Phellodendron</i>	キハダ属 7 上層
8	P187	SB901	5E1	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 8 上層
9	P191	SB901	5D4	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 9 上層
10	P192	SB901	5D15	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 10 上層
11	P194	SB901	5D8.9	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 11 上層
12	P197	SB901	4E22	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 12 上層
13	P199	SB901	5D14	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 13 上層
14	P202	SB901	4D17	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 14 上層
15	P203	SB901	4D7	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyylon</i>	マツ属単維管束亜属 15 上層
16	P205	SB901	4D18	<i>Phellodendron</i>	キハダ属 16 上層
17	P206	SB901	4D13	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 17 上層
18	P207	SB901	5D3	<i>Thuja standishii</i> Carr.	ネズコ 18 上層
19	P216	SB901	5E2.3	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 19 上層
20	P232	SB901	4D14	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 20 上層
21	P318	SB901	3D20	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 21 上層
22	P339	SB906	3F22	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 23 下層
23	P383	SB901	4E12	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 29 上層
24	P422	SB903	4C24	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 34 上層
25	P436	SB907	3F8.13	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 36 下層
26	P503	SB903	5C14	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属 40 上層
27	P630		3F16	<i>Acer</i>	カエデ属 48 下層
28	P659		5E8	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 51 下層

カエデ属 *Acer* カエデ科 第12図-8

横断面：小型で丸い道管が単独あるいは2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、内壁には微細ならせん肥厚が存在する。放射組織は、平伏細胞からなる同性である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～6細胞幅である。道管の内壁には微細ならせん肥厚が存在する。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 第12図-9

横断面：年輪のはじめに、大型で厚壁の丸い道管がほぼ単独で1～3列配列する環孔材である。孔圏部外では、小型でまると厚壁の道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では翼状から連合翼状である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。内部にはチロースが著しい。放射組織は同性である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～3細胞幅である。



第12図 木材写真

第3節 古植生・古環境の復元

A 分析試料

植物珪酸体分析・花粉分析を行った試料は、基本層序 B 地点のⅢ層～Ⅴ層・SD361 覆土の 8 点 (図版 2) および井戸 (SE40) 覆土最下層 (4 層) から採取された 1 点 (図版 13) の計 9 点である。

B 分析方法

1) 植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を 105℃で 24 時間乾燥(絶乾)
- ②試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加(0.1mg の精度で秤量)
- ③電気炉灰化法 (550℃・6 時間) による脱有機物処理
- ④超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散
- ⑤沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- ⑥封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- ⑦検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

2) 花粉分析

花粉の分離抽出は、中村 (1967) の方法をもとに、以下の手順で行った。

- ①試料から 1cm^3 を秤量
- ② 0.5% リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加えて 15 分間湯煎
- ③水洗処理後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- ④ 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- ⑤水洗処理後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す
- ⑥再び氷酢酸を加えて水洗処理
- ⑦沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- ⑧検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ~ 1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン (-) で結んで示した。イネ属については、中村 (1974, 1977) を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

C 結果

1) 植物珪酸体分析

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 3 表および第 13・14 図に示した。また、主要な分類群について顕微鏡写真を示す (第 15 図)。

〔イネ科〕 イネ、イネ (穎の表皮細胞由来)、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族 A (チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科] チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等
 [イネ科-その他] 表皮毛起源、棒状珪酸体
 [樹木] その他

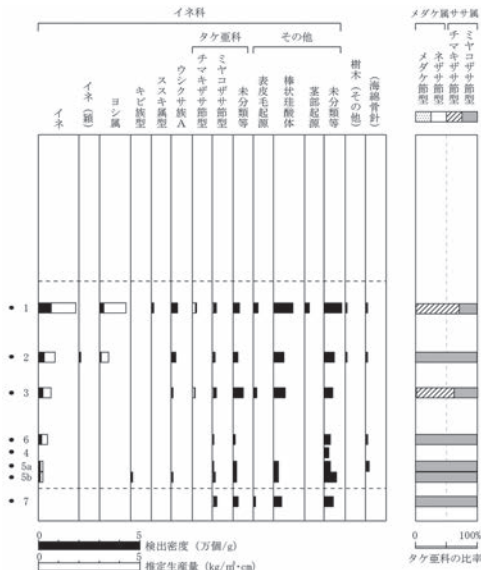
なお、植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものにはイネ以外にもムギ類、ヒエ属型 (ヒエが含まれる)、エノコログサ属型 (アワが含まれる)、キビ属型 (キビが含まれる)、ジユズダマ属 (ハトムギが含まれる)、オヒシバ属 (シコクビエが含まれる)、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

第3表 植物珪酸体分析結果

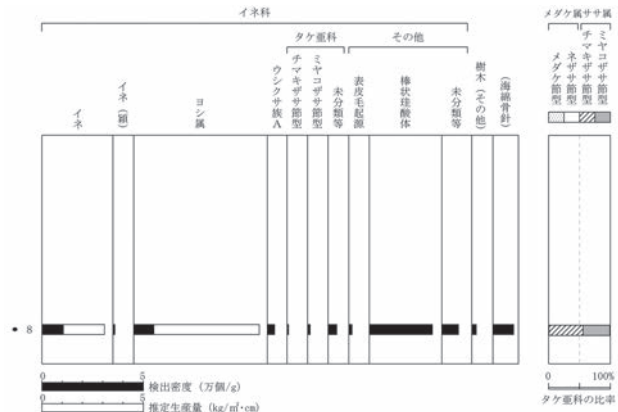
分類群	学名	地点・試料							SE40
		1	2	3	4	5a	5b	6	
イネ科	Gramineae								
イネ	<i>Oryza sativa</i>	64	28	21		7	7	15	107
イネ籾殻 (穎の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)		7						7
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	21	7						100
キビ族型	Panicaceae type						7		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7							
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type	29	21	7			7		33
タケ亜科	Bambusoideae								
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	21		14					7
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	21	14	21		7	15	8	23
未分類等	Others	29	21	48		15	15	8	23
その他のイネ科	Others								
表皮毛起源	Husk hair origin	21		14					8
棒状珪酸体	Rod-shaped	93	49	55		22	22		38
茎部起源	Stem origin	21							
未分類等	Others	86	49	41	22	30	60	30	45
樹木起源	Arboreal								
その他	Others	7	7						20
(海綿骨針)	Sponge spicules	7	7			15		8	
植物珪酸体総数	Total	422	203	220	22	82	135	60	135

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/ m ² · cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出									
イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.89	0.82	0.61	0.22	0.22	0.44		3.15
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.35	0.44						6.33
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09							
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.16	0.10						0.05
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.06	0.04	0.06	0.02	0.04	0.02	0.07	0.04

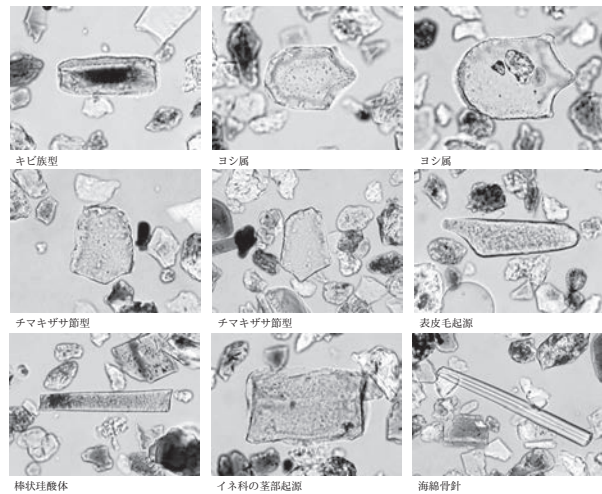
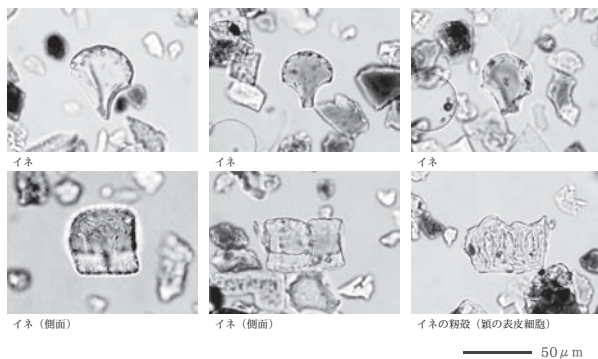
タケ亜科の比率 (%)									
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	71		63					56
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	29	100	38	100	100	100	100	44
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0	0	0



第13図 基本層B地点における植物珪酸体分析結果



第14図 SE40における植物珪酸体分析結果



第15図 植物珪酸体写真

2) 花粉分析

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 23、樹木花粉と草本花粉を含むもの 6、草本花粉 24、シダ植物孢子 2 形態の計 55 である。また、寄生虫卵 2 分類群が認められた。分析結果を第 4 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した (第 17・18 図)。また、主要な分類群について顕微鏡写真を示す (第 16 図)。また、以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、エゴノキ属、モクセイ科、タニウツギ属

[樹木花粉と b 草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属-ガマズミ属

[草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ゴキツル、ツリフネソウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、オオバコ属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物孢子] 単条溝孢子、三条溝孢子

[寄生虫卵] 回虫卵、肝吸虫卵

(2) 花粉群集の特徴

基本層序 B 地点 (試料 1 ~ 7)

下位の V 層 (試料 7) では、花粉密度が比較的 low、樹木花粉の占める割合が約 55%、草本花粉が約 25%、シダ植物孢子が約 20% である。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、トチノキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属などが伴われる。IV c 層 (試料 5a、5b、6) および SD361 覆土 (試料 4) では、樹木花粉のスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、草本花粉のイネ科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。IV b 層 (試料 3) から III 層 (試料 1) にかけては、草本花粉が約 70% を占める。草本花粉ではイネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科などが伴われる。また、III 層ではオモダカ属、ミズアオイ属、ソバ属も認められた。樹木花粉ではスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが検出され、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も認められた。III 層では、寄生虫卵の回虫卵、肝吸虫卵が検出された。

SE40 (試料 8)

覆土最下層 (試料 8) では、花粉密度が高く、樹木花粉の占める割合が約 15%、草本花粉が約 45%、樹木・草本花粉が約 40% である。草本花粉ではイネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属などが伴われる。樹木・草本花粉ではクワ科-イラクサ科が優勢で、ユキノシタ科も認められた。樹木花粉ではハンノキ属、スギ、エノキ属-ムクノキなどが検出された。

D 考 察

1) 植物珪酸体分析

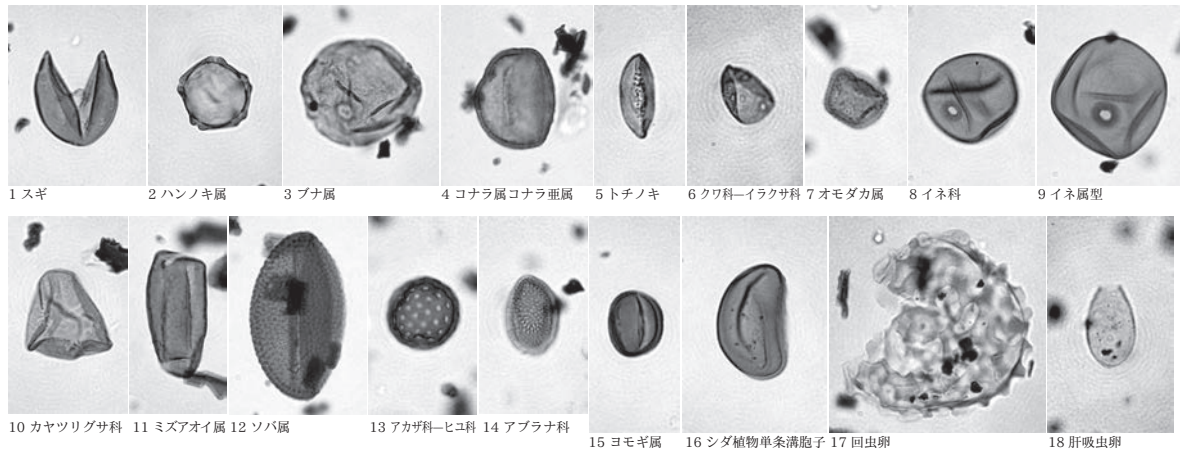
基本層序 B 地点 (試料 1 ~ 7)

V 層 (試料 7) と SD361 覆土 (試料 4) を除く 6 試料からイネが検出された。このうち、III 層 (試料 1) では密

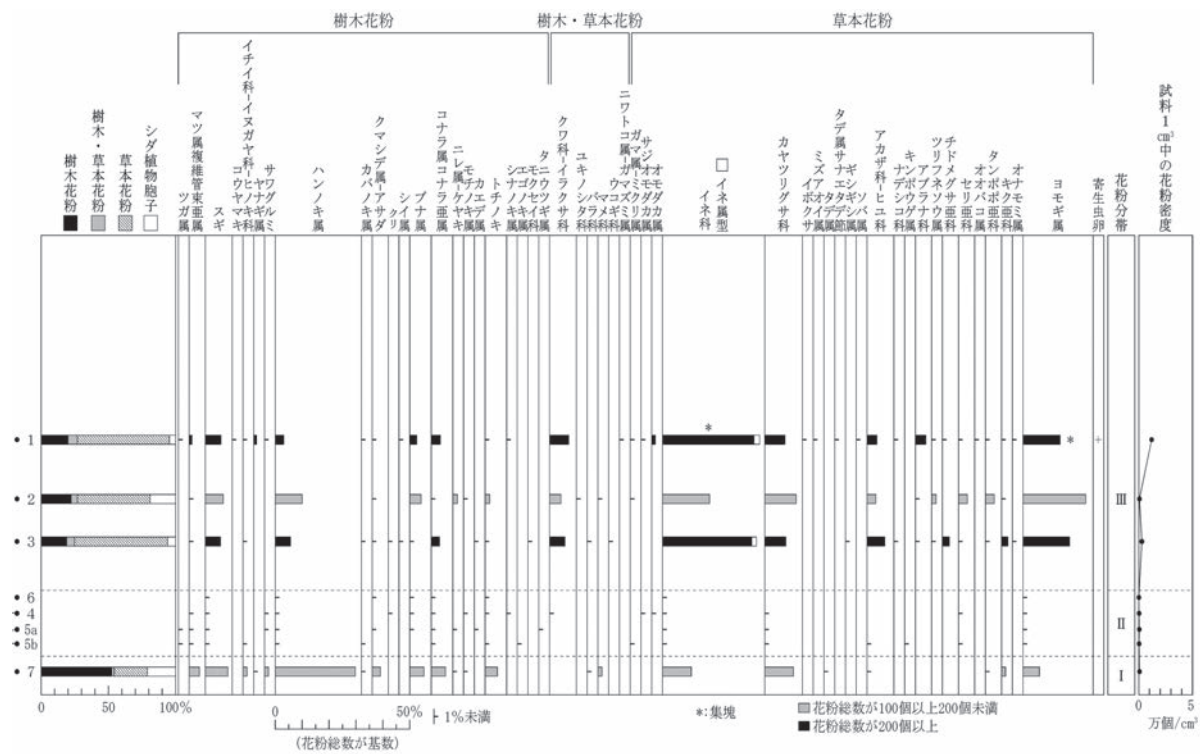
第4表 花粉分析結果

学名	分類群	和名	基本層序 B 地点							SE40		
			III層 試料 1	IV a 層 試料 2	IV b 層 試料 3	SD361 覆土 試料 4	IV c 層 試料 5a 試料 5b 試料 6			V層 試料 7	4層 試料 8	
Arboreal pollen		樹木花粉										
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1					1	1			
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	6	1	4	1	1	1			5	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>		マツ属単維管束亜属			1							
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	31	8	24	4	9	8	3	11	10	
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ	1									
Taxaceae-Cephalotaxaceae		イチイ科-イヌガヤ科	3		2			1		2	2	
Cupressaceae		ヒノキ科										
<i>Salix</i>		ヤナギ属	6							1	3	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	1			1	1			2		
<i>Juglans</i>		クルミ属										1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	17	12	24	14	23	10	7	39	15	
<i>Betula</i>		カバノキ属	4		1			1		1	2	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	3	1	2		2		1	4	2	
<i>Castanea crenata</i>		クリ			3	2						
<i>Castanopsis</i>		シイ属	3		3							
<i>Fagus</i>		ブナ属	14	5	3	5	8		3	7	2	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	18	1	13	2	6	3	3	7	2	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ		2				3		1	3	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ									5	
<i>Ilex</i>		モチノキ属		1		1				1	1	
<i>Acer</i>		カエデ属			1			1				
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ	3	2	3	2		1	3	6		
<i>Tilia</i>		シナノキ属	1			1						
<i>Syrax</i>		エゴノキ属						1				
Oleaceae		モクセイ科			1							2
<i>Weigela</i>		タニウツギ属					1					
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉										
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	38	5	24	1						172
Saxifragaceae		ユキノシタ科		1								17
Rosaceae		バラ科			1						1	
Leguminosae		マメ科		1							2	
Araliaceae		ウコギ科			1							
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属	1									
Nonarboreal pollen		草本花粉										
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属	1	1				1				1
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属	2			1						
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	7			1						
Gramineae		イネ科	182*	21	140	1	6	4	9	14	121	
<i>Oryza type</i>		イネ属型	11		7	1						15
Cyperaceae		カヤツリグサ科	40	14	33	4	7	4		14	21	
<i>Aneilema keisak</i>		イボクサ	1									
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属	2									
<i>Polygonum</i>		タデ属									1	
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	1									
<i>Rumex</i>		ギシギシ属			1							
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	5									
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒコ科	20	4	28			1		1	21	
Caryophyllaceae		ナデシコ科	2		1						2	
<i>Thalictrum</i>		カラマツソウ属									1	
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属						1				
Cruciferae		アブラナ科	21	1	1							1
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属	2	2	1							
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科	1		11							
Apiioideae		セリ亜科	1	4	2	1		1				
<i>Plantago</i>		オオバコ属	2									
Lactuicoideae		タンポポ亜科	3	4	1						1	
<i>Actinostemma lobatum</i>		ゴキツル										1
Asteroidae		キク亜科	5	1	10						2	
<i>Xanthium</i>		オナモミ属	1		2							
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	74*	28	73	2	5	6	3	8	19	
Fern spore		シダ植物胞子										
Monolate type spore		単条溝胞子	18	24	20	7	27	21	15	27	10	
Trilate type spore		三条溝胞子	8	4	7	1	8	2	5	8	9	
Arboreal pollen		樹木花粉	112	33	85	33	56	27	20	87	50	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	39	7	26	1	0	0	0	3	189	
Nonarboreal pollen		草本花粉	384	80	311	11	18	18	12	41	203	
Total pollen		花粉総数	535	120	422	45	74	45	32	131	442	
Pollen frequencies of 1cm ³		試料 1cm ³ 中の花粉密度	1.2	7.2	3.0	3.5	5.4	3.5	2.3	8.3	5.5	
			× 10 ⁴	× 10 ²	× 10 ³	× 10 ²	× 10 ²	× 10 ²	× 10 ²	× 10 ²	× 10 ⁴	
Unknown pollen		未同定花粉	16	4	9	5	3	5	6	10	5	
Fern spore		シダ植物胞子	26	28	27	8	35	23	20	35	19	
Helminth eggs		寄生虫卵										
<i>Ascaris (lumbricoides)</i>		回虫卵	1									
<i>Clonorchis sinensis</i>		肝吸虫卵	2									
Total		計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
Helminth eggs frequencies of 1cm ³		試料 1cm ³ 中の寄生虫卵密度	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			× 10									
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Charcoal fragments		微細炭化物	(++)	(+)	(+)							

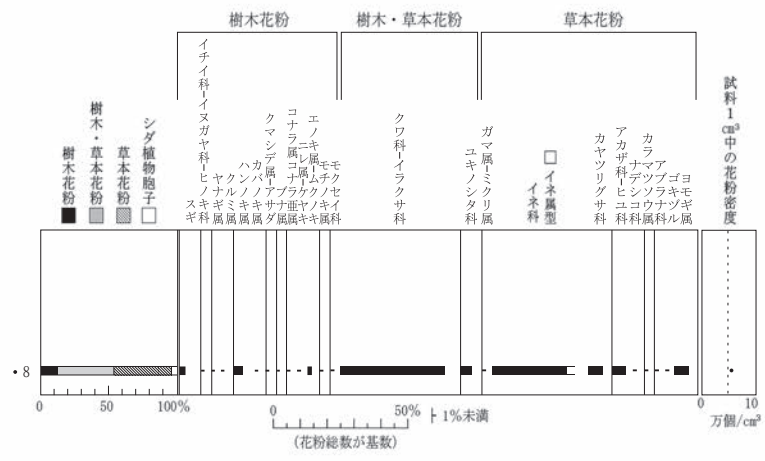
*: 集塊



第16図 花粉・孢子・寄生虫卵写真



第17図 基本層序B地点における花粉ダイアグラム



第18図 SE40における花粉ダイアグラム

度が6,400個/gと高い値であり、IV a層（試料2）で2,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

IV b層（試料3）では密度が2,100個/gと比較的低い値であり、IV c層（試料5a・5b・6）では700～1,500個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。また、前述のように畑稲作（陸稲栽培）の場合はイネの密度は水田跡と比較してかなり低くなる。

イネ以外の分類群では、下位のV層からIV b層にかけてはミヤコザサ節型などが検出され、部分的にウシクサ族Aなども認められたが、いずれも少量である。IV a層からIII層にかけてはヨシ属、ススキ属型、樹木（その他）が出現している。おもな分類群の推定生産量によると、IV a層より上位ではイネが優勢であり、ヨシ属も比較的多くなっている。

以上の結果から、下位のV層からIV b層にかけては、ササ属（ミヤコザサ節）などは少量見られるものの、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。IV a層からIII層にかけては、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であり、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

SE40（試料8）

試料8では、イネが10,700個/gとかなり高い密度で検出され、イネの籾殻（穎の表皮細胞）も認められた。イネ以外の分類群ではヨシ属が10,000個/gと多量に検出され、ウシクサ族A、ミヤコザサ節型、樹木（その他）なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、イネおよびヨシ属が優勢である。

同試料は、SE40覆土の最下層であることから、周辺で利用されていたイネ（稲藁）やヨシ属が何らかの形で井戸内に混入もしくは投棄された可能性が考えられる。また、当時の遺構周辺にはウシクサ族、ササ属、および何らかの樹木が生育していたと考えられる

2) 花粉分析

基本層序B地点（試料1～7）

V層の堆積当時は、周囲の湿地的なところにハンノキ属をはじめトチノキなどが生育し、周辺にはブナ属、コナラ属コナラ亜属などの冷温帯落葉広葉樹林およびスギ林が分布していたと考えられる。また、日当たりの良いところにはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類が生育していたと推定される。

IV c層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

IV b層からIII層にかけては調査地点もしくはその近辺で稲作が行われており、周辺にはヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒコ科などの草本類が生育していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが分布していたと推定される。III層では少量ながらソバ属が検出され、ソバの栽培が示唆される。

III層では、寄生虫卵の回虫卵、肝吸虫卵が検出されたが、低密度であることから、集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。

SE40（試料8）

覆土最下層では、クワ科－イラクサ科およびイネ科（イネ属型を含む）が特徴的に検出された。クワ科－イラクサ科については、クワ科の樹木や、路傍や荒地に生育するカナムグラ、カラムシなどの草本が考えられる。イネ科については、植物珪酸体分析で多量に検出されたイネおよびヨシ属などが考えられる。これらの植物については何らかの形で井戸内に混入もしくは投棄された可能性が考えられる。また、当時の遺構周辺には樹木が少なく、周辺地域にハンノキ属、スギ、エノキ属－ムクノキなどが分布していたと考えられる。

第Ⅶ章 墨書土器

第1節 出土地点及び遺構

林付遺跡からは65点の墨書土器が出土した(第5表)。上層からの出土が47点、下層からの出土が14点、不明が4点である。上層出土の47点の内、遺構からの出土は20点である。両面廂付建物SB901に近接あるいは重複する遺構からの出土が多く、とくにSX229からは7点、SK145からは3点出土している。下層出土の14点の内、遺構からの出土は12点である。大半は調査区北西部からの出土であり、SK510からは3点出土している(第19図)。

第2節 器種と墨書部位

墨書土器65点の内訳は、須恵器が33点(上層19点、下層11点、不明3点)、土師器(内黒土器を含む)が32点(上層28点、下層3点、不明1点)である。下層では須恵器の比率が高い(約78.6%)が、上層では土師器の比率が高くなり(約59.6%)、下層と上層とで須恵器と土師器の比率が逆転している。器種は須恵器が無台杯・有台杯・杯蓋、土師器が無台碗・有台碗で、すべて食膳具である。

墨書部位は、須恵器杯(無台・有台ともに含む)31点では、底部外面29点(約93.5%)、体部外面2点(約6.5%)で大半が底部外面である。杯蓋はすべて摘部に墨書されている。土師器碗(無台・有台ともに含む)32点は、すべて底部外面に記されている。

これまでに新潟県内から出土した墨書土器では、土師器碗の場合、約65%が体部外面への墨書で、底部外面への墨書は約34%である[小林・相沢2004]。こうした傾向からすると、全点が底部外面に記される本遺跡の例はやや特異であるが、その理由は定かではない。

第3節 主な文字の検討

墨書土器65点の内、文字を判読できたものは29点(推定によるものを含む。以下に記す点数も同じ)である。以下、主な文字について検討する。なお、記号様ものを記した墨書土器が2点(189・309)ある。

「川合」(73・74・156・158・160・161・217・220・225・226・228・369・396)

「川合」と記された墨書土器は13点出土した。369(下層出土)・396(不明)以外はすべて上層出土であり、SK145からは2点(73・74)、SX229からは4点(156・158・160・161)と、まとまって出土している。396以外はすべて土師器碗の底部外面に比較的大きな文字で記されている。

396は須恵器有台杯の底部外面の左端に小さく記されており、他とは書き方が異なる。器種によって書き方を変えている可能性がある。「川合」は地名と考えられる。遺跡の西約3kmに河井(西蒲区河井)の地名があり、また西蒲区潟頭に川井浦・川井前、同区桜林に川井切の字名がある[巻町1994]。川合(河井・川井)は、現在よりも広い範囲を含んでいたのかもしれない。

「川合中」(159・227)

2点出土した。159は「川合」の墨書土器が4点出土したSX229からの出土である。2点とも土師器無台碗の底部外面に比較的大きな文字で記されている。地名の「川合」に続けて記される「中」については、「川合」

という地域内での位置を示しているとも考えられるが、後述するように、本遺跡が荘園の荘所である可能性があることからすれば、複数棟存在する荘所の建物群の中で、特定の建物の位置を示しているとも考えられる。

「口〔川カ〕井庄」(230)

須恵器杯蓋の摘部に記されている。1文字目は「川」の2・3画目は確認できるが、1画目が不明瞭なため、「口〔川カ〕」とした。しかし、「川合」(13点)・「川合中」(2点)の墨書土器が多く出土しており、また、付近に河井の地名があることから「川井庄」の可能性が高い。3文字目の「庄」の文字の大きさに比して1・2文字目は小さく記されている。おそらく、始めに「庄」と記し、その後「川井」と書き足したのでであろう。「川井庄」という荘園名は文献資料には見られない。本墨書土器は文献資料に登場しない「川井庄」の存在を示すとともに、本遺跡が「川井庄」の荘所(荘園の諸経営を行なう拠点施設)である可能性を示している。

「古」(82・85)

2点とも土師器無台碗の底部外面に記されている。「古」の墨書土器は、市内秋葉区の萱免遺跡、阿賀野市腰廻遺跡、胎内市船戸桜田遺跡などから出土している¹⁾。

「別」(193・197)

2点出土したほか、172も「別」と記されている可能性がある。いずれも須恵器無台杯の底部外面に大きく記され、記載位置も類似している。管見の限り、「別」の墨書土器の出土例は県内ではみられない。

「正」(199・324)

2点とも須恵器無台杯の底部外面に記されている。「正」の墨書土器は、新発田市曾根遺跡などで出土している。

「館」(96)

文字の下半分が欠損しているため読みきることができないが「館」と推定される。須恵器無台杯の底部外面に大きく記されている。「館」は荘所の建物を示している可能性がある。「館」の墨書土器は、上越市榎井A遺跡や阿賀野市腰廻遺跡から出土している。この内、榎井A遺跡は、出土した木簡や墨書土器から古代荘園の荘所跡と考えられており、本遺跡の性格を考える上で重要である。

その他

「足」(198)は須恵器無台杯の底部外面に記されている。「足」は比較的多くの遺跡から出土する文字種であり、市内江南区の駒首瀧遺跡、新発田市曾根遺跡などから出土している。

「知」(306)は下層遺構のSK510から出土した3点のうち1点である。須恵器無台杯の底部外面の左寄りにやや小さな文字で記される。

「吉」(403)は土師器無台碗の底部外面に大きく記される。「吉」は事物の良好な状態を意味する文字であり、比較的多くの遺跡から出土する文字種である。県内では胎内市蔵ノ坪遺跡、田上町保明浦遺跡、見附市上田遺跡などから出土している。

第4節 ま と め

前述したように、「口〔川カ〕井庄」(230)からは、本遺跡が文献資料に登場しない古代荘園「川井(川合・河井)庄」の荘所であった可能性が考えられる。県内では上越市榎井A遺跡、同市岩ノ原遺跡、加茂市馬越遺跡が古代荘園の荘所に関わる遺跡とされている。この内、岩ノ原遺跡からは「石井庄」の墨書土器が出土しており、文献に見られる東大寺領石井荘の荘所であることが明らかとなった。榎井A遺跡は「御田」と記された木簡や「庄」の墨書土器などから荘所と考えられるが、文献に見られるいずれかの荘園の荘所なのか、あるいは文献に登場し

1) 以下、県内の出土事例については、青森県2008「新潟県の墨書・刻書土器」『青森県史 資料編 古代2出土文字資料』などを用いた。

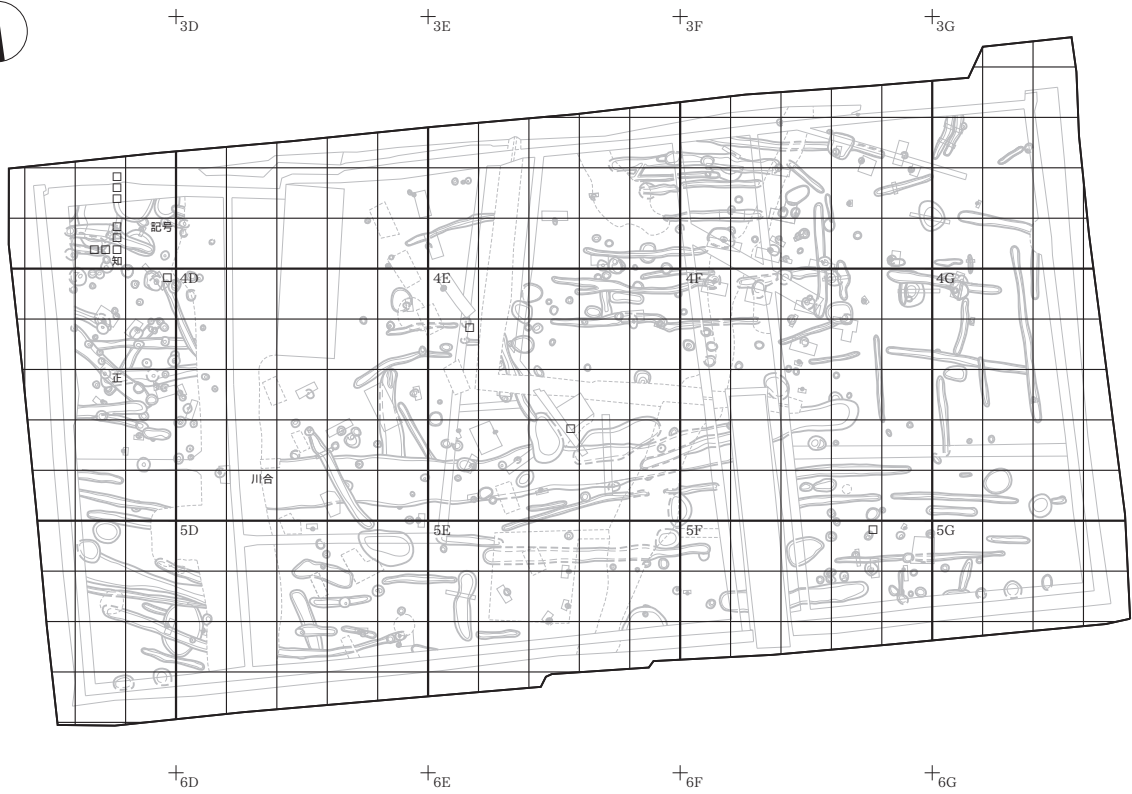
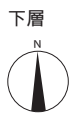
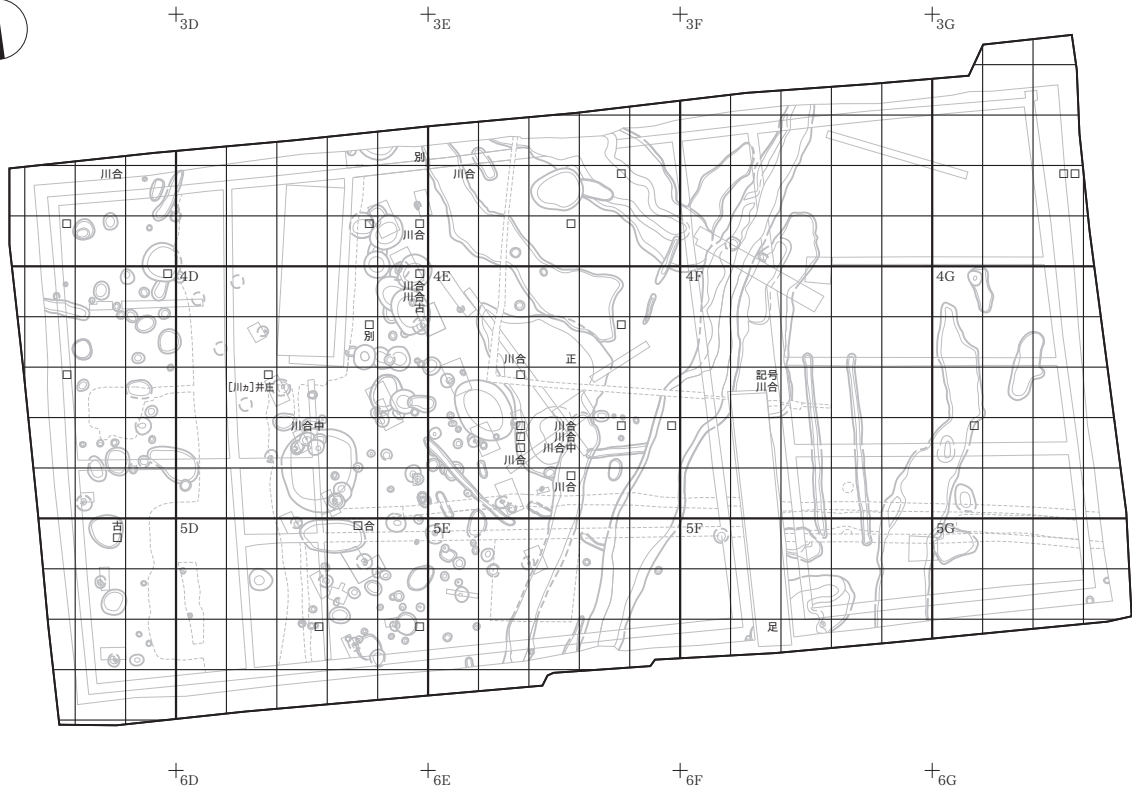
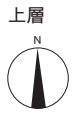
第4節 ま と め

ない荘園の荘所なのか明らかでない。馬越遺跡は「妙越庄」の墨書土器が出土しており、文献に登場しない荘園の荘所の可能性が高い。

榎井A遺跡、馬越遺跡ともに9世紀代を中心とする遺跡であり、本遺跡も9世紀の遺跡である。9世紀の荘園については不明な点が多いが、近年、中央の院宮王臣家と在地の富豪層や国司との連携による広汎な院宮王臣家領荘園の存在が想定されている〔吉川2002〕。本遺跡や馬越遺跡も、このような荘園の荘所の可能性がある。

第5表 墨書土器一覧表

1	図版	図版番号	出土遺構・グリッド			種別	器種	積文	墨書部位	備考
			遺構	グリッド	層位					
2	図版35	29	P206(SB901)	4D12	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
3	図版36	50	SK92	4E12	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
4	図版38	72	SK145	4D5	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
5	図版38	73	SK145	4D5	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
6	図版38	74	SK145	4D5・4D19	上層	土師器	有台碗	川合	底部外面	内黒土器
7	図版38	82	SK150	4D5	上層	土師器	無台碗	古	底部外面	
8	図版38	85	SK181	4C24・5C4	上層	土師器	無台碗	古	底部外面	
9	図版39	96	SK220	4D12・4D13	上層	須恵器	無台杯	觥	底部外面	
10	図版39	101	SD34	4C5	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
11	図版39	108	SD66	4E15・4E20	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
12	図版40	125	SD69	4E23	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
13	図版40	134	SD137	3E19	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
14	図版41	155	SX229	4E9	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
15	図版41	156	SX229	4E23	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
16	図版41	157	SX229	4E17	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
17	図版41	158	SX229	4E18	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
18	図版41	159	SX229	4E18	上層	土師器	無台碗	川合中	底部外面	
19	図版41	160	SX229	4E17	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
20	図版41	161	SX229	4E18	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
21	図版41	172	P127	4D9	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	「別」の可能性あり
22	図版42	189		4F12	上層	須恵器	無台杯	(記号)	底部外面	底部外面外周部3箇所にも「○」印。中央にも「○」印。
23	図版42	190		4C13	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
24	図版42	191		3G18	上層	須恵器	無台杯	□□	底部外面	
25	図版42	192		3D24	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
26	図版42	193		4D9	上層	須恵器	無台杯	別	底部外面	
27	図版42	194		3C23	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
28	図版42	195		3E23	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
29	図版42	196		4G16	上層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
30	図版42	197		3D15	上層	須恵器	無台杯	別	底部外面	
31	図版42	198		5F12	上層	須恵器	無台杯	足	底部外面	
32	図版42	199		4E8・4E14	上層	須恵器	無台杯	正	底部外面	
33	図版43	212		4E17	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
34	図版43	216		4E19	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
35	図版43	217		4E7・4E12	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
36	図版43	218		3D25	上層	土師器	無台碗	合	底部外面	
37	図版43	219		5C4	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
38	図版43	220		3D15・3D25	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
39	図版43	221		4E17	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
40	図版43	222		3E23	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	線刻(×)有り
41	図版43	223		5D13	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
42	図版43	224		5D15	上層	土師器	無台碗	□	底部外面	
43	図版43	225		3C19	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
44	図版43	226		3E16	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	内黒土器
45	図版43	227		4D18	上層	土師器	無台碗	川合中	底部外面	
46	図版43	228		4F12	上層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
47	図版43	230		4D12	上層	須恵器	杯蓋	□〔川カ〕井庄	摘部	転用硯
48	図版43	231		5D4	上層	土師器	無台碗	□合	底部外面	
49	図版47	304	SK510		下層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
50	図版47	305	SK510	3C19・3C24	下層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
51	図版47	306	SK510	3C25	下層	須恵器	無台杯	知	底部外面	
52	図版47	309	SK524	5D7	下層	須恵器	無台杯	(記号)	体部外面	正位・「井」を○で囲む
53	図版47	315	SK583	3C24	下層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
54	図版47	318	SD271	4E18	下層	土師器	無台碗	□	底部外面	内黒土器
55	図版48	324	SD461	4C14	下層	須恵器	無台杯	正	底部外面	
56	図版48	330	SD508	3C24	下層	須恵器	無台杯	□□□	底部外面	
57	図版48	336	P247	5F4	下層	須恵器	無台杯	□/□	底部外面	
58	図版48	340	P406	4E6	下層	土師器	無台碗	□	底部外面	
59	図版48	344	P488	4C5・4D1	下層	須恵器	杯蓋	〔中カ〕	摘部	転用硯
60	図版48	345	P498	3C24・4C4	下層	須恵器	無台杯	□	底部外面	
61	図版49	364		3C19	下層	須恵器	無台杯	□	体部外面	
62	図版49	369		4D22	下層	土師器	無台碗	川合	底部外面	
63	図版52	396		4E18 トレンチ	不明	須恵器	無台杯	川合	底部外面	
64	図版52	400		5G1 トレンチ	不明	須恵器	無台杯	□	底部外面	
65	図版52	401		排土	不明	須恵器	無台杯	□	底部外面	
66	図版52	403		3C18 土ソッコウ	不明	土師器	無台碗	吉	底部外面	



0 (1 : 300) 10m

第 19 図 墨書土器のグリッド別出土位置と文字（出土層位不明のものは除く）

第Ⅷ章 総 括

第 1 節 遺 構

SB901 の時期

本遺跡出土土器の変遷案については次節で触れるが、この変遷案が妥当であるとすれば、4期に位置づけたP112はSB901を構成する柱穴であり、3期が下層にあたることから、SB901の上限は4期に位置づけられる。また、5期に位置づけたSK145、P103がSB901の柱穴を切っていることから、SB901の下限は5期の中と判断される。

なお、多量の土器や石帯が出土したSK92は、SB901の桁行のほぼ中央、東側の廂部分におおむね収まる場所に位置しており、SB901に関連した遺構である可能性が高いと推測する。SK92出土土器は5期と考えられることから、SB901の下限に近い時期のものと考えられる。

SB902については、建物の軸がSB901に近いことから、SB901とほぼ同じ時期と考える。SB903については、建物の軸がSB901に近いことや、SB903を構成するP503の柱根の年輪年代測定の結果（第Ⅵ章）から、SB901に後続する建物と推測したい。

なお、SE10・40は覆土の状況が類似しており（第Ⅳ章B）、近い時期が推測される。SE40はSB901-P192を切ることからSB901以降と考えられる。SB901にはSE443が、SB903にはSE10もしくはSE40の井戸が伴っていた可能性が考えられる。

SB901 の柱根深度

SB901の柱根最深部の標高は別表1のとおりである。柱根深度は、後世の沈降や建造時の地形の影響を多分に受けている可能性があり、先端部の形状も考慮する必要があるだろう。実際、林付遺跡のSB901では、平らに加工した柱に比べて尖らした加工の柱の方が深度は深い傾向にある。

ただし、いずれも尖らした加工をもつ南端2列の柱根列の深度をみると、P191・197、P192・216が深いのに対し、中央のP187・P149は浅い。また、西側の廂部分にあたるP194・199の標高も高い（図版9）。以上のことから、身舎の両端の列は柱を深く打ち込んだのに対し、中央や廂部分の列は比較的浅い打ち込みであった可能性が推測される。

SB901 の柱根の樹種について

SB901の木柱は21本を樹種同定したが、クリが最も多く8本、次いでヒノキ科のネズコ（別名クロベ・ゴロウヒバ）で7本、以下キハダ属5本、トマツ属単維管束亜属1本である。なお、SB901を含む上層では、計24本を樹種同定し、クリ10本、ネズコ7本、キハダ属5本、トネリコ属1本、マツ属単維管束亜属1本であった（第2表）。クリが最も多い点は県内の他遺跡と共通する〔春日2008〕が、ネズコが一定量使用されている事例は県内では確認できない。

また、木柱には、先端を鉛筆の芯のように尖らす加工をしたものと、水平に加工したものの2通りが存在する。SB901では、水平の加工がP112（264）・P146・P203（274）・P205（275）・P206（276）の木柱で確認され、それ以外は尖らす加工である（別表5）。

樹種による加工の違いはみられないが、264・276は径がそれぞれ約28cm・32cmと比較的太く、径の大きい柱に水平の加工を行う傾向がある。また、水平に加工した木柱は北側の桁柱に集中しており、地盤の違いによる使い分けの可能性もある。

第2節 遺物

A 土器・遺構の編年的位置づけ

今回の調査で出土した土器はおおむね9世紀代のものが主体をなし、他に中世・近世の資料もわずかだが確認されている。以下では中心をなす古代の土器について、食膳具を中心にその変遷を概観したい。

林付遺跡が位置する西蒲原地域における古代の土器については、西蒲原全域の遺跡を対象として編年が示されたもの〔春日2000〕の他に、釈迦堂遺跡出土土器を対象としたもの〔江口2000・春日2006〕などがある。また、西蒲原地域より調査資料の蓄積が充実している古志郡西部（西古志地域）では、田中氏や春日氏によって編年案が整備されてきており〔田中2003・2005、春日2002・2005_{など}〕、釈迦堂遺跡出土土器との並行関係の検討も行われている〔春日2006〕。また、釈迦堂遺跡と西古志地域の八幡林官衙遺跡では、ともに貞観5（863）年の地震と考えられる痕跡（噴砂・断層）が存在し、両遺跡間の土器の並行関係や実年代を考えるうえで重要な指標のひとつとなっている〔春日2006〕。

西古志地域と西蒲原地域は郡域が異なるものの、西古志型甕や西古志丘陵窯産の須恵器の分布などから、島崎川・西川を利用して比較的密な交流・交易関係にあったと考えられる〔春日2000・2007_{など}〕。なお、島崎川と西川はかつて一連の河川であった可能性がある〔坂井1995〕。林付遺跡出土資料にも西古志型甕や西古志丘陵窯産の須恵器が少なくない量認められる。

今回出土した土器の変遷や編年的位置づけについては、主に上記の研究成果を参考にした。

土器の変遷については、食膳具の形態や器種の消長、須恵器の産地の他、出土層位や遺構の切り合い関係などから、1期から5期に区分した（第20図）。一定量の出土がある遺構出土資料を基本的に使用し、必要に応じて遺構外出土資料も使用した。また、墨書土器については、主な墨書の変遷を確認するためその一部を提示した。なお、下層遺構を1～3期、上層遺構を4・5期に位置づけている。

既存の編年との並行関係については第6表のように考える。おおむね春日編年〔1999〕のIV-3期からVI-3期に収まると推測する。なお、3期と4期の境界は、間層を挟む上層と下層の境界にあたる。既存編年との対比については、前記のとおり地震痕跡を基にした資料の前後関係・実年代とも絡む時期と推測され、今回の調査では同様の地震痕跡を確認できなかったことから点線で示した。

1 期

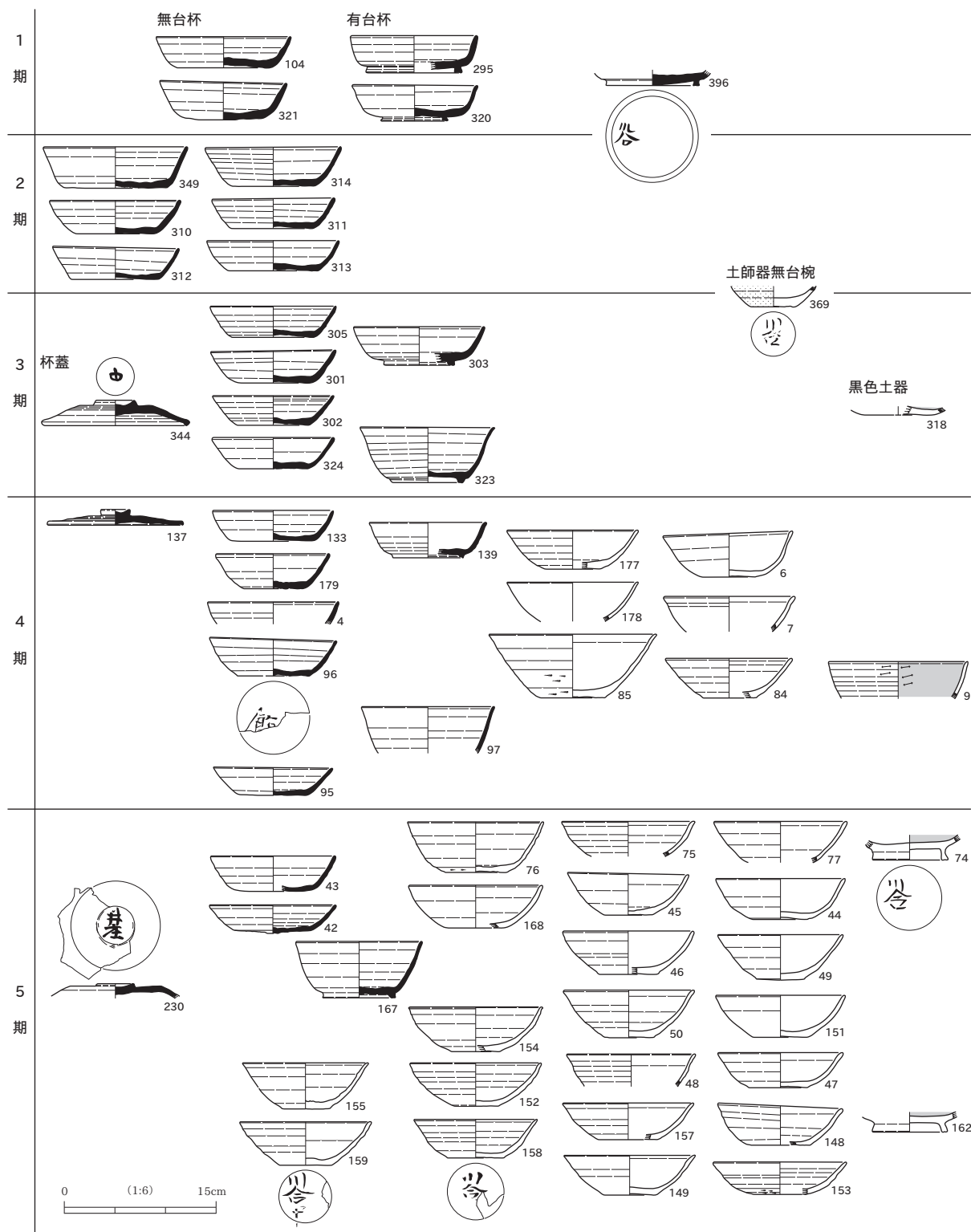
一定量の遺物を出土する遺構はないが、SK284（295）やSD334（320・321）の資料が該当すると推測する。295は八幡林官衙遺跡I地区11トレンチⅢ層出土の70・76（第21図）と類似する。また、SD334出土の320は、八幡林官衙遺跡I地区11トレンチⅢ層出土の75（第21図）に近い形態であり、下ノ西遺跡I区SE201出土の5（第21図）とも類似するが、口径はより大きい。2期へ下がる可能性もあるが、1期に含めた。

須恵器は佐渡小泊窯産以外の製品が主体を占める時期で、器壁は総じて厚くシャープさを欠く。西古志丘陵窯産と考えられるもの（295・320）や西古志もしくは角田山麓窯産と考えられるもの（396）、新津丘陵窯産と推測されるもの（321）が確認できる。春日編年のIV-3期におおむね並行する時期と推測する。

2 期

SK583で一定量の土器が出土しており、とりわけ須恵器無台杯（310～314）はまとまりをもって出土しており、一括性の高い土器群と考えられる。下ノ西遺跡I区SE201・203に類似した形態が認められる。釈迦堂遺跡ではXI a・X a層の土器に類似したものが認められる（第21図）。

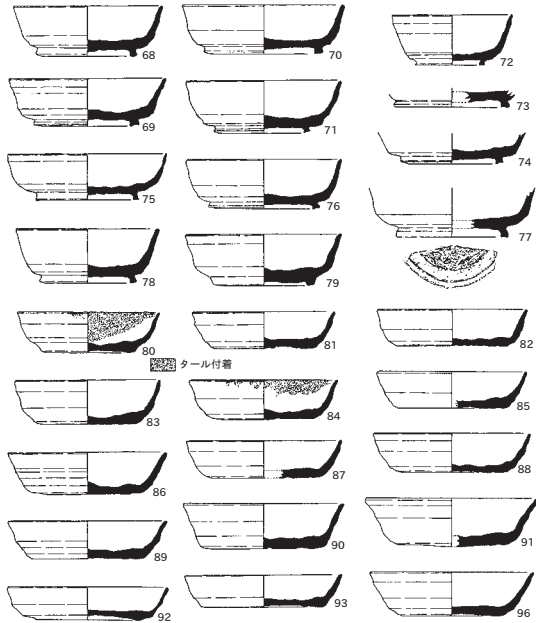
須恵器は佐渡小泊窯産の製品が主体をなすが、西古志丘陵窯産や新津丘陵窯産も存在する。春日編年のV-1期におおむね対応すると考える。



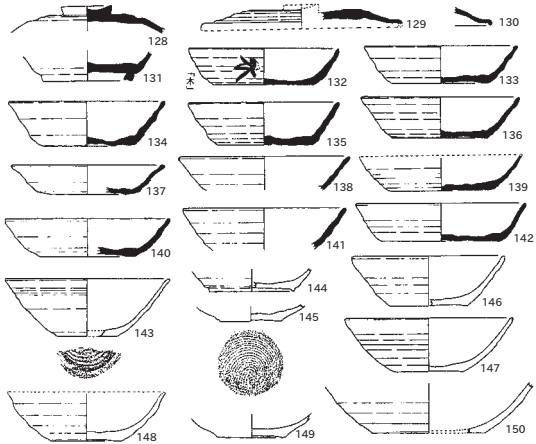
1 期	104 : SD66	295 : SK284	320 · 321 : SD334	396 : 遺構外
2 期	310 : SK526	311~314 : SK583	349 · 369 : 遺構外	
3 期	301~303 · 305 : SK510	318 : SD271	323 · 324 : SD461	344 : P488
4 期	4 · 6 · 7 · 9 : SB901-P112	84 · 85 : SK181	95~97 : SK220	133 · 137 : SD137 139 : SD210 178 · 179 : P175
5 期	42~50 : SK92	74~77 : SK145	148 · 149 · 151~155 · 157~159 · 162 : SX229	167 · 168 : P103 230 : 遺構外

第 20 図 林付遺跡出土土器の変遷案

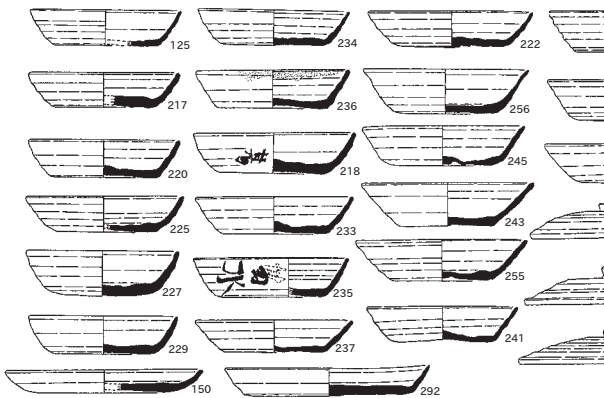
八幡林官衛遺跡 I 地区11トレンチ III層 [田中ほか1994]



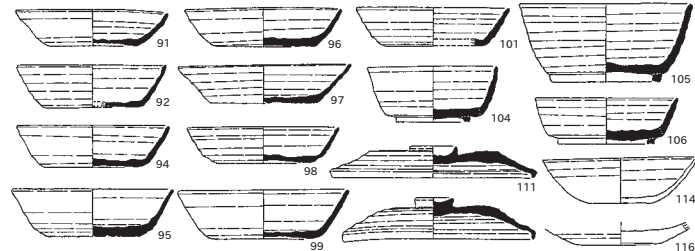
八幡林官衛遺跡 I 地区11トレンチ II層 [田中ほか1994]



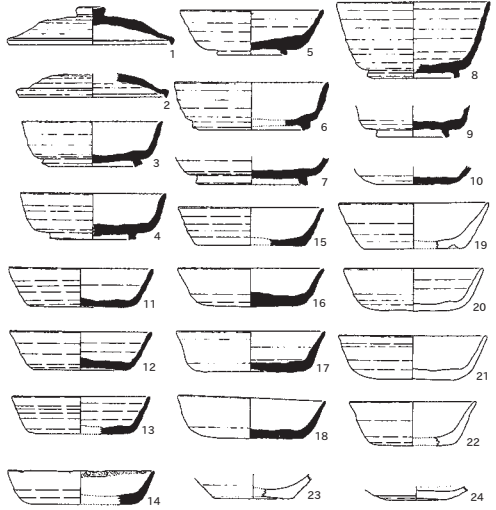
积迦堂遺跡 Xa層 [江口ほか2000]



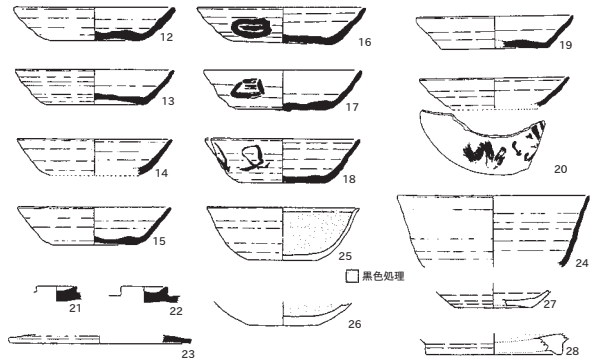
积迦堂遺跡 IXa層 [江口ほか2000]



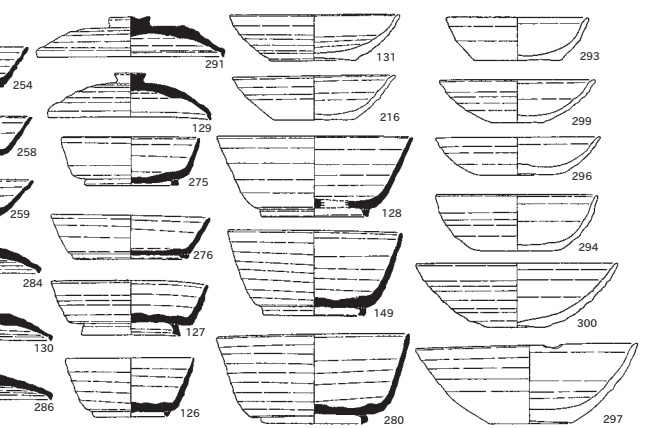
下ノ西遺跡 I 区SE201 [田中1998]



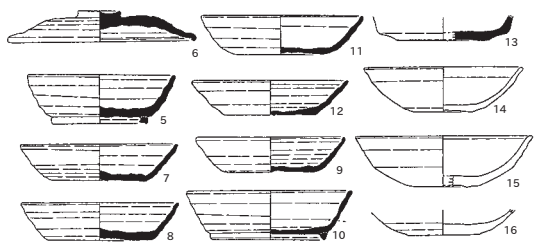
下ノ西遺跡 I 区SE203 [田中1999]



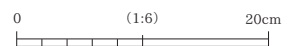
积迦堂遺跡 XIa層 [江口ほか2000]



积迦堂遺跡 VIII層 [江口ほか2000]



第 21 図 参考資料



第6表 林付遺跡における主な遺構の編年の位置づけ

春日編年〔1999〕	下ノ西編年〔田中2003〕	釈迦堂遺跡〔江口2000〕	本書	主な遺構
IV-2・3	5・6期		1期	SD334
V-1	7期		2期	SK583
V-2	+	XI a層		
		X a層	3期	SK510 SD461
VI-1	8期	IX a層		
		(863年)	4期	SK220 P112・175
VI-2・3期	9期	VII a層	5期	SK92・145 P103 SX229

※ 春日編年・下ノ西編年・釈迦堂遺跡各層との並行関係は春日〔2005〕を参考にした。

3 期

SK510やSD461の資料を基準とした。SK510は2期としたSK583を切る土坑である。SK510の須恵器無台杯(301・302・305)は、2期のものに比べて全体的に小ぶりで、体部はより外側へ開く器形である。釈迦堂遺跡ではX a層出土の土器に類似したものが多い。また、SD461の須恵器有台杯(323)は下ノ西遺跡I区SE203の24に器形が類似する(第21図)。369は遺構外出土資料であるが、体部外面に赤彩が認められることや、今回出土した土師器無台碗の中では古相の形態と考えられることなどから該期に位置づけた。

2期同様、佐渡小泊窯産の製品が主体をなすが、西古志丘陵窯産(303)も存在する。春日編年のV-2・VI-1期を中心とする時期に対応すると推測する。

4 期

4期からは上層遺構である。4期はSK220、P112・175出土土器を中心に基準資料として用いた。食膳具は土師器無台碗が主体を占める。

土師器無台碗の形態は釈迦堂遺跡のIX a層のものに近い。また、八幡林官衙遺跡I地区11トレンチII層の土師器無台碗とも類似する。P175出土須恵器無台杯(179)は下ノ西遺跡I区SE203の18に器形が類似し、SK220出土の95も下ノ西遺跡I区SE203出土の15(第21図)に形態が近い。

須恵器は、佐渡小泊窯産の製品でほぼ占められるものと推測される。当期は春日編年VI-1期を中心とする時期に位置づけられると考える。

5 期

SK92・145、SX229出土資料を中心に使用した。食膳具は引き続き土師器無台碗が主体を占めるが、その割合は4期よりも増加すると推測される。SK92出土の須恵器無台杯42は4期よりも器高が浅いもので、釈迦堂遺跡のVIII層12に近い形態である。また、SK92出土の48やSX229出土の153・158は釈迦堂遺跡のVIII層出土の14・15に近い形態と考える(第21図)。

須恵器は、佐渡小泊窯産の製品でほぼ占められるものと推測する。春日編年VI-2・3期におおむね対応するものと推測する。

B 土器の器種構成比率

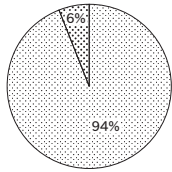
第7表の上2つは、上層・下層のピットを除いた遺構(SE・SK・SD・SX)出土食膳具の構成比率である。上層では土師器が62%、黒色土器が1%、須恵器が37%であるのに対し、下層では須恵器が94%、土師器が6%で、上層と下層で大きな違いがみられる。既に確認したとおり、下層は春日編年のIV-3からVI-1期を中心とした時期、上層はVI-1期からVI-3期を中心とする時期に位置づけられると考える。

下層の食膳具の比率は、西川流域に位置する江添C遺跡(V期)に近い(第22図)。V期に西川流域は新津丘陵周辺に比べて土師器が少ないとの指摘〔春日1999・2003〕があるが、林付遺跡も似たような状況にあった可能性が推測される。

上層の食膳具の比率をみると、下層に比べ土師器の量が増加する状況がうかがえる。VI-2期を中心とする時期に位置づけられるSX229では土師器の比率が95%と高く、V期でみられた西川流域と新津丘陵周辺の土師

第7表 上・下層遺構（Pは除く）出土食膳具の構成比率と主な遺構出土土器の食膳具・器種構成比率

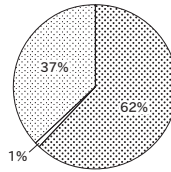
下層遺構出土土器（Pは除く）



食膳具構成比率

種類	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
土師器	23	12	5.90	14.11
黒色土器	0	0	0.00	0.00
須恵器	367	73	94.10	85.89
総計	390	85	100.00	100.00

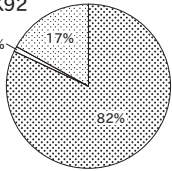
上層遺構出土土器（Pは除く）



食膳具構成比率

種類	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
土師器	909	394	61.67	63.35
黒色土器	22	14	1.49	2.25
須恵器	543	214	36.84	34.40
総計	1474	622	100.00	100.00

SK92



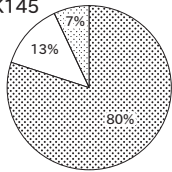
食膳具構成比率

種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	270	121	82.82	83.45
黒色土器	1	2	0.31	1.38
須恵器	55	22	16.87	15.17
総計	326	145	100.00	100.00

器種構成比率

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	杯蓋	1	1	0.26	0.56
須恵器	無台杯	54	21	14.29	11.80
土師器	無台碗	270	121	71.43	67.98
黒色土器	無台碗	1	2	0.26	1.12
食膳具計		326	145	86.24	81.46
須恵器	甕	9	4	2.38	2.25
貯蔵具計		9	4	2.38	2.25
土師器	長囊	16	11	4.23	6.18
土師器	小囊	10	7	2.65	3.93
土師器	鍋	17	11	4.50	6.18
煮炊具計		43	29	11.38	16.29
総計		378	178	100.00	100.00

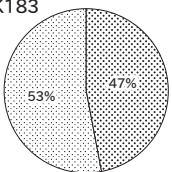
SK145



種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	55	18	79.71	78.26
黒色土器	9	4	13.04	17.39
須恵器	5	1	7.25	4.35
総計	69	23	100.00	100.00

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	無台杯	5	1	5.16	3.33
土師器	無台碗	55	18	56.70	60.00
黒色土器	無台碗	9	4	9.28	13.33
食膳具計		69	23	71.14	76.66
貯蔵具計		0	0	0.00	0.00
土師器	長囊	4	2	4.12	6.67
土師器	小囊	23	4	23.71	13.34
土師器	鍋	1	1	1.03	3.33
煮炊具計		28	7	28.86	23.34
総計		97	30	100.00	100.00

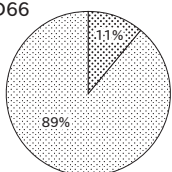
SK183



種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	20	12	46.51	57.14
黒色土器	0	0	0.00	0.00
須恵器	23	9	53.49	42.86
総計	43	21	100.00	100.00

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	杯蓋	2	1	2.22	2.33
須恵器	無台杯	21	8	23.34	18.60
土師器	無台碗	20	12	22.22	27.90
食膳具計		43	21	47.78	48.83
須恵器	壺	2	1	2.22	2.33
須恵器	鉢	1	1	1.11	2.33
須恵器	横瓶	6	2	6.66	4.65
貯蔵具計		9	4	9.99	9.31
土師器	長囊	21	8	23.34	18.60
土師器	小囊	13	6	14.45	13.96
土師器	鍋	4	4	4.44	9.30
煮炊具計		38	18	42.23	41.86
総計		90	43	100.00	100.00

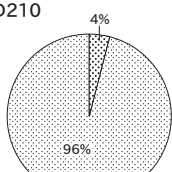
SD66



種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	16	14	10.60	25.00
黒色土器	0	0	0.00	0.00
須恵器	135	42	89.40	75.00
総計	151	56	100.00	100.00

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	杯蓋	48	13	21.15	13.13
須恵器	有台杯	8	3	3.52	3.03
須恵器	無台杯	79	26	34.80	26.27
土師器	無台碗	16	14	7.05	14.14
食膳具計		151	56	66.52	56.57
貯蔵具計		0	0	0.00	0.00
土師器	長囊	43	18	18.95	18.18
土師器	小囊	18	9	7.93	9.09
土師器	鍋	15	16	6.60	16.16
煮炊具計		76	43	33.48	43.43
総計		227	99	100.00	100.00

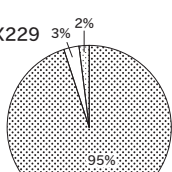
SD210



種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	3	2	3.66	5.88
黒色土器	0	0	0.00	0.00
須恵器	79	32	96.34	94.12
総計	82	34	100.00	100.00

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	杯蓋	26	8	22.03	16.33
須恵器	有台杯	9	3	7.63	6.12
須恵器	無台杯	44	21	37.29	42.86
土師器	無台碗	3	2	2.54	4.08
食膳具計		82	34	69.49	69.39
須恵器	壺	22	2	18.64	4.08
須恵器	鉢	2	2	1.70	4.08
貯蔵具計		24	4	20.34	8.16
土師器	長囊	12	11	10.17	22.45
煮炊具計		12	11	10.17	22.45
総計		118	49	100.00	100.00

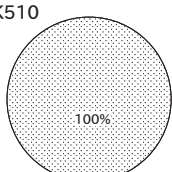
SX229



種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	205	80	94.91	89.89
黒色土器	6	5	2.78	5.62
須恵器	5	4	2.31	4.49
総計	216	89	100.00	100.00

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	無台杯	5	4	2.10	3.96
土師器	無台碗	205	80	86.14	79.21
黒色土器	無台碗	6	5	2.52	4.95
食膳具計		216	89	90.76	88.12
貯蔵具計		0	0	0.00	0.00
土師器	長囊	10	8	4.20	7.92
土師器	小囊	7	2	2.94	1.98
土師器	鍋	5	2	2.10	1.98
煮炊具計		22	12	9.24	11.88
総計		238	101	100.00	100.00

SK510



種類	口縁部残存率/36	計測破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
土師器	0	0	0.00	0.00
黒色土器	0	0	0.00	0.00
須恵器	68	11	100.00	100.00
総計	68	11	100.00	100.00

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率(残存率)	比率(破片数)
須恵器	有台杯	7	1	8.75	7.14
須恵器	無台杯	61	10	76.25	71.43
食膳具計		68	11	85.00	78.57
貯蔵具計		0	0	0.00	0.00
土師器	長囊	12	3	15.00	21.43
煮炊具計		12	3	15.00	21.43
総計		80	14	100.00	100.00

凡例：■ 須恵器 ■ 土師器 □ 黒色土器

器の比率の違いがVI-2期には解消された可能性が高いとする春日氏の論〔春日2003〕と一致する。

C 煮炊具について

林付遺跡では上層・下層ともにいわゆる西古志型甕〔坂井1990・1996、坂井・山本・田中1992、春日1999・2000・2007^{など}〕が一定量確認された。西古志型長甕・小甕は口縁端部を面取りし、ハケメ成形を特徴とする甕で、島崎川流域を中心に分布し、蒲原郡の西川流域で一定量確認できるなど、信濃川左岸では郡域を超えた分布が確認されている〔春日2000・2006・2007〕。また、存続時期については、春日編年のIV期に出現し、V期に増加するが、VI期には確認できなくなるとされる〔春日2007〕。

当遺跡における西古志型長甕・小甕の割合は、図版掲載遺物に限れば、下層で甕全体の約3割、上層で甕全体の1割程度である。下層で多い状況にあり、V期に西古志型甕が増加するとの指摘と一致する。また、上層ではSD34・SD66で西古志型甕が認められるものの、それ以外の遺構での出土はない。このことから、VI期にはほとんど使用されていない可能性が高い。

西古志型甕以外では、229は佐渡型甕と考えられ、98も色調や胎土、器壁の薄さからその可能性がある。佐渡型甕は今回の調査ではこの1点もしくは2点のみの出土であり、全体に占める割合はごくわずかである。

406はいわゆる「武蔵型甕」〔春日2007〕の長釜C1類にあたるを考える。この種の土器は越後ではV・VI期に魚沼地域に分布の中心があり、信濃川沿いでも点的に分布が確認できるとされる〔春日2007〕。周辺では加茂市の馬越遺跡で認められる。当遺跡が信濃川と密接な関係を有していたことが推測されるとともに、当遺跡周辺に信濃川から派生する河川交通網が存在したと考えられる（第23図）。

以上、煮炊具の様相からは、林付遺跡が位置する地域は島崎川・西川を利用して西古志地域と密接な関係を有していたことがうかがえるとともに、信濃川を利用した交通網でも重要な位置にあった可能性が推測される。西川と信濃川に挟まれた場所に立地する本遺跡の特徴を示す土器様相といえよう。

D 権状錘

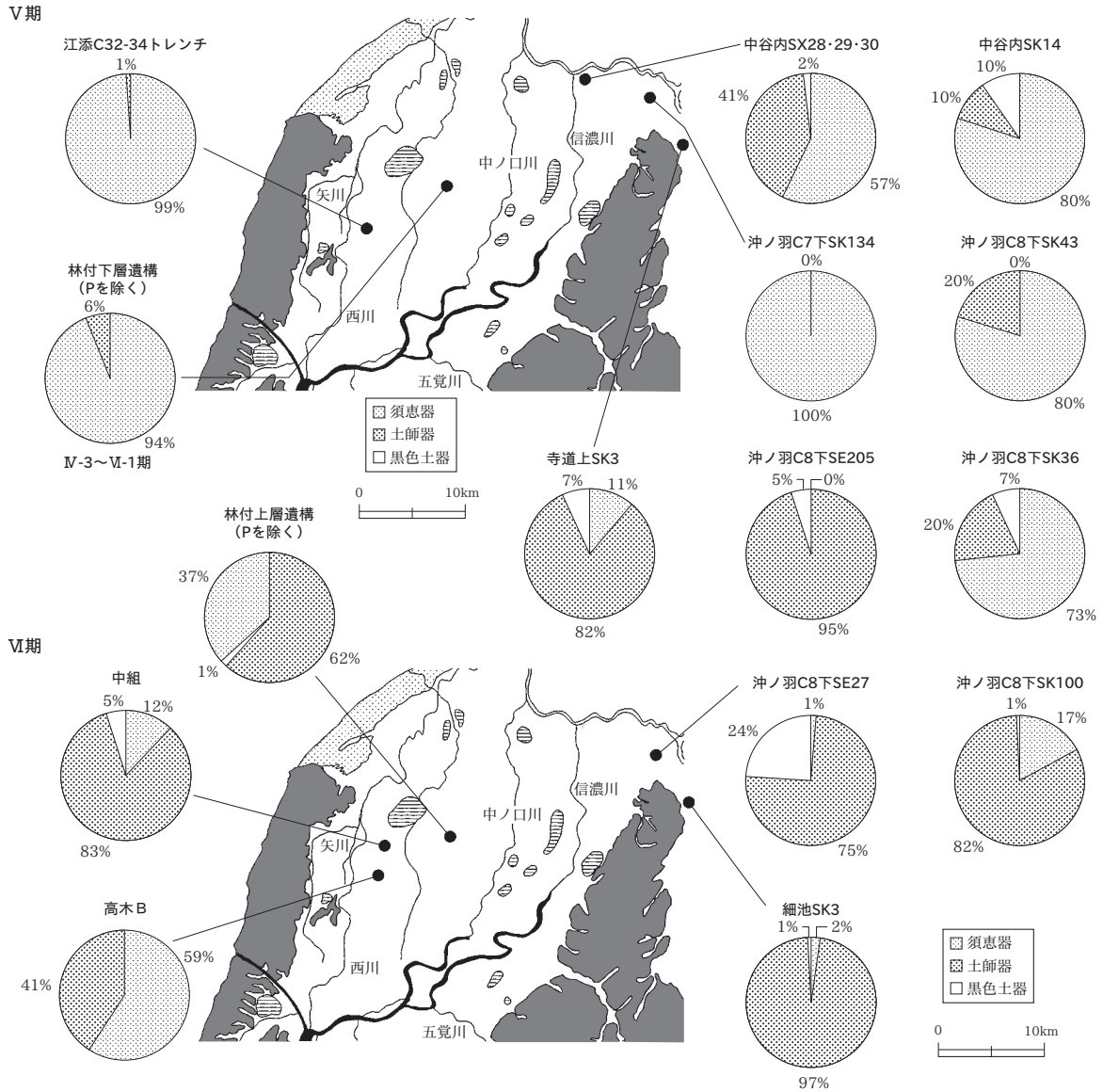
新潟県内における古代の権状錘は、管見の限り10遺跡、15点を数える。地域別にみると、岩船郡が2遺跡（3点）、蒲原郡が7遺跡（10点）、頸城郡が1遺跡（2点）で、蒲原郡に多い傾向がうかがえる。一方、八幡林官衙遺跡のある古志郡や、国衙推定地である頸城郡で少ない点は留意される。包含層出土のため細かな時期を特定できないものも多いが、8世紀前半から10世紀前半の幅に収まり、9世紀代が多いものと推測される（第24図）。

林付遺跡の権状錘（256）は4E17グリッドから出土した。当グリッドには多量の土器や石帯が出土したSK92が位置する。石材は蛇紋岩で、周辺の採集地としては弥彦山周辺の海岸沿いが最短距離にあたる（糸魚川フォッサマグナムミュージアムの茨木洋介氏の御教示による）。

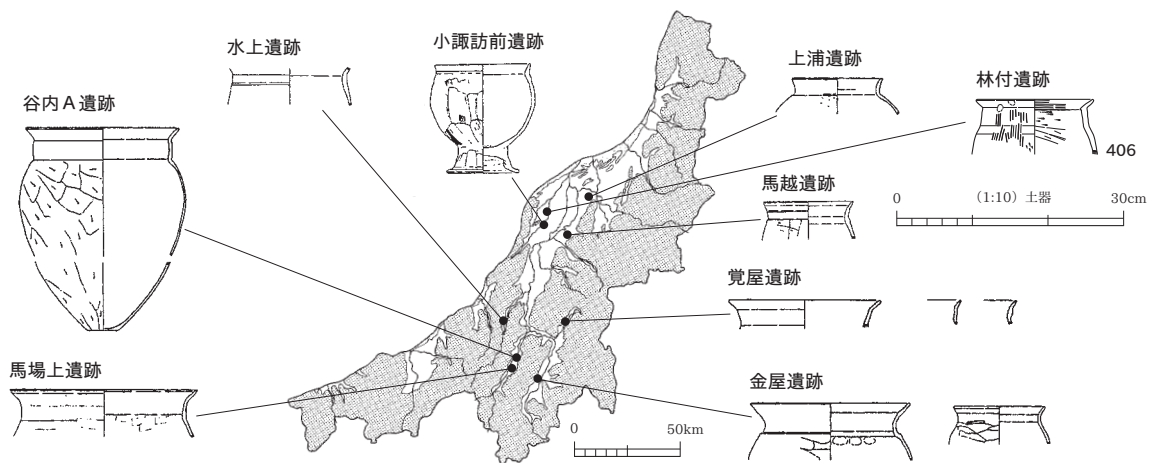
形態は扁平で、底から上部に向かって厚さが薄くなり、側面からは二等辺三角形状にみえる特徴をもつ。形態的に近い資料としては、西部遺跡（第24図1・2）、的場遺跡（第24図8・10）が挙げられる。

古代の権状錘は棹秤に使用された製品であり、地方末端行政的な村落遺跡も含め、公的な色彩を帯びる遺跡からの出土が多いことが指摘されている〔望月2003〕。林付遺跡や馬越遺跡とともに初期荘園関連遺跡と考えられ、どちらも石帯が出土するなど公的色彩の強い遺跡といえる。

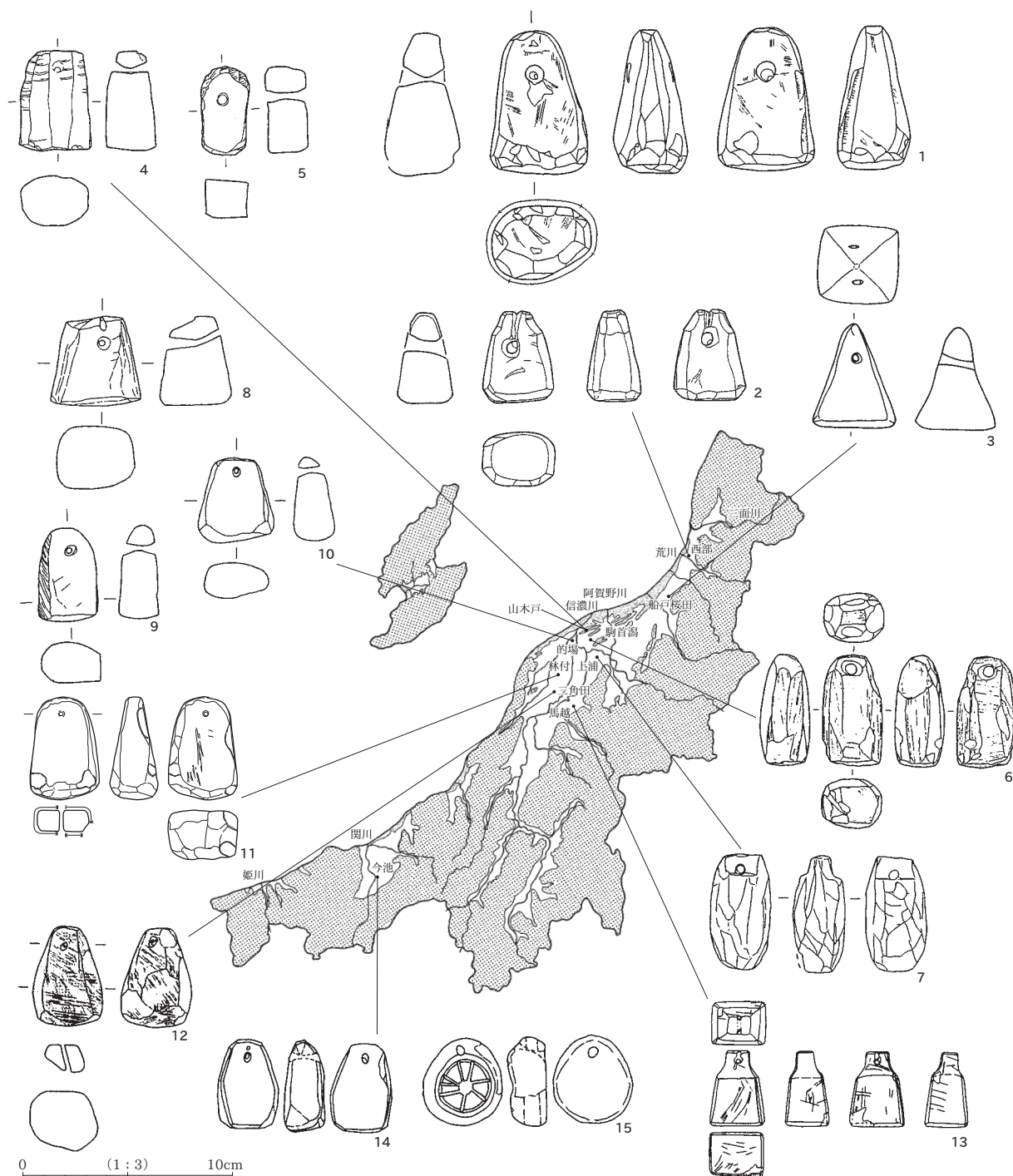
佐渡小泊窯産須恵器の流通に関する研究からは、信濃川の河口から内水面交通を利用して内陸部へ供給されたと考えられる〔坂井1988・1996、春日1991^{など}〕。不明な点が多いものの、権状錘出土遺跡が越後平野に多く分布することは、古代に越後平野の集落が内水面を利用した交易で大きな役割を担っていたことがひとつの要因と考えられる。



第22図 食膳具の構成比率 (春日2003に追加)



第23図 「武蔵型甕」を出土した主な遺跡 (春日2007に追加・一部改変)



遺跡名	市町村名	No.	権状錘		点数	出土位置	層位	時期 (ローマ数字は春日編年 1999)	文献
			石材	重さ(g)					
1 西部遺跡	村上市	1	頁岩	87.1	2	SD2008	1層	10世紀第1四半世紀 VII期	[鈴木・三井ほか 2010]
		2	流紋岩	43.9			XI層		
2 船戸椋田遺跡	胎内市	3			1	G16		8～10世紀初頭	[水澤・吉村 2002]
3 山木戸遺跡	新潟市	4		49.8	2	5C12	5層	9世紀中葉～10世紀初頭	[小池・本間 1992] [諫山 2004]
		5		27.8		5B14			
4 駒首潟遺跡	新潟市	6	流紋岩	40.0	1	16J19		9世紀 V・VI期	[渡邊・相沢ほか 2009]
5 上浦A遺跡	新潟市	7	泥岩	25.0	1	C58-18		8・9世紀 II 3～VI 2期主体	[川上 1997]
6 的場遺跡	新潟市	8	頁岩	83.3	3	4D13 包3		8世紀前半～10世紀前半 (主体は9世紀)	[小池・藤塚ほか 1993]
		9	砂岩	33.6		6D7			
		10	凝灰岩	32.3		4D4			
7 林付遺跡	新潟市	11	凝灰岩	45.5	1	4E17	III層	9世紀後半 VI期	
8 三角田遺跡	燕市	12	凝灰岩	52.0	1	SX2	2層	8世紀前半	[松島 2001]
9 馬越遺跡	加茂市	13	粘板岩	25.55	1	I13-5		8世紀後半 IV-1～3期	[伊藤 2005]
10 今池遺跡	上越市	14	安山岩		2	B地区 F25区			[戸根・坂井ほか 1984]
		15	泥岩			B地区 SE311			

第24図 県内出土の古代権状錘

E 「川合（川井）」墨書土器

今回の調査で出土した「川合（川井）」と記された墨書土器は、「川合」が13点、「川合中」2点、「□〔川カ〕井庄」1点の計16点である。「川合（川井）」については地名と考えられる（第Ⅶ章）。以下では、この「川合（川井）」墨書土器の年代について概観する（第20図）。

もっとも古相を示すものは396で、本書の1期もしくは2期に収まると推測される。次いで2期もしくは3期と考える369がある。下層出土もしくは下層出土の可能性が高い「川合（川井）」墨書土器はこの2点のみで、他はいずれも上層出土である。このことから、「川合（川井）」墨書土器の大半は本書の4・5期に属すといえる。

墨書の文字をみると、396の「川合」の「合」の口辺上の三画目の横線が1本抜けていることがうかがえる。369の「合」も同様の可能性が高い。他の「川合（川井）」墨書土器でこの種の文字が確認できないことから、下層（3期頃）までは「川合」が主として使用され、上層（4・5期）で「川合」が主体になった可能性も推測される。

また、「□〔川カ〕井庄」墨書土器である230は5期頃と推測され、「川合」墨書土器が最も多い時期に位置づけられる。「カワイ」に「井」が使用されているのはこの230の1点のみである。230のみ荘園を示す「庄」が記されること、「川合（井）」墨書土器のうち230・396のみが須恵器で、それ以外は土師器であること、さらに230が今回出土した墨書土器の中では数の少ない須恵器杯蓋への墨書であることなどは、230の土器並びに「川井」がやや特異で例外的な使用である可能性を示唆する。

なお、正保元（1644）年の「正保越後国絵図」や享和2（1802）年「越後国全図」、天保9（1838）年「護国絵図取調二付仕立之正場絵図」では、「川井」の文字が使用されているのに対し、元禄13（1700）年「越後国蒲原郡岩船郡絵図」や文政元（1818）年「越後輿地全図」では「河井」の文字がみられる。

第3節 遺跡の位置づけ

林付遺跡は越後平野の中央、信濃川左岸の沖積地内の自然堤防上に立地し、標高は上層で約1m、下層で約0.6～0.7mを計る。出土遺物から下層が9世紀前半、上層が9世紀後半を主体とする時期で、中心時期は9世紀第2四半世紀から9世紀第4四半世紀と考えられる。

下層より下の層であるV層では、遺物が確認できないこと、自然木が複数か所で認められたことから、下層以前は低湿な環境にあり、まだ集落が形成されていなかった可能性が高い。自然科学分析でも低湿な環境を推測させるデータが得られている（第Ⅵ章）。また、集落の存続期間や盛行時期は、北北東約8.5kmに位置する釈迦堂遺跡とおおむね一致する。なお、釈迦堂遺跡とは、腰帯や仏鉢の出土でも共通する。

狭い調査範囲ということもあり遺跡の内容は不明な点が多いが、下層では畑の畝と考えられる溝状遺構を中心に、比較的小規模な掘立柱建物などが確認されている。上層では、身舎面積87.9m²、廂部分を含めた建物面積140m²と規模の大きな2間6間で2面廂をもつ掘立柱建物（SB901）などが確認された。上層の遺構は調査区西側に偏っており、発掘調査対象地が上層集落の東端域にあたる可能性が推測される。

「川合（川井）」墨書土器から、当遺跡の位置する地域が9世紀代に「カワイ」という地名であったことが明らかになった。遺跡の西約3kmには河井（西蒲区河井）の地名があり、西蒲区瀧頭に川井浦・川井前、同区桜林に川井切の字名がある。当時の川合（川井）は、今よりも広い範囲を含んでいた可能性がある（第Ⅶ章）。なお、前述の江戸時代の絵図では、「赤館-河（川）井-漆山-国見-今井-…」と線で結ばれており、河（川）井と今井間がルートとして機能していたことが分かるとともに、両地域の関連性がうかがえる。

SB901は、本書の4期に造られた後、5期に廃絶されたと考えられ（第Ⅶ章第1節）、おおむね9世紀第3・4四半世紀に存在したといえる。SB901周辺で出土した石帯や権状錘、「川井庄」・「館」墨書土器などから、SB901は文献資料に登場しない古代荘園「川合（川井）庄」の荘所関連施設であった可能性が高い（第Ⅶ章）。なお、

該期は北陸において初期荘園の活動の最盛期にあたる〔宇野 1991〕。

上層では大規模な掘立柱建物（SB901・SB903?）や石帯・権状錘などが確認されている。一方、緑釉・灰釉陶器は認められず、煮炊具は西蒲原地域の特徴をもつ（第Ⅷ章第2節）。以上のことから、在地有力者の存在が示唆される。なお、SB901 建物の面積は、有力豪族が関係したと考えられる荘園の建物としては大きい部類に位置づけられる〔宇野 1996〕。

今回の調査で水田跡は確認されなかったが、植物珪酸体や花粉分析結果からは、上層において調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推測される（第Ⅵ章）。遺構の分布状況からは、調査区外の東方に水田域が存在する可能性が推測される。なお、SE10・40・443 では水洗選別により炭化米が検出されている。

上層と下層の間には厚さ約 0.2～0.4m の層（Ⅳb 層・間層）が確認された。出土遺物からは、上層と下層との間で大きな断絶は認められない。このことから、この間層は短期間のうちに形成されたと考えられ、河川の氾濫や洪水などの自然災害による堆積が想定される。なお、釈迦堂遺跡では遺物包含層が間層を挟んで 5 層確認されているが、出土遺物からは上下の層で年代的に大きな開きは認められず、林付遺跡と同様な状況といえる。これらの間層の多くは洪水による堆積と考えられている〔江口 2000〕。

また、釈迦堂遺跡では貞観 5（863）年の大地震の痕跡も確認されている。今回の調査では地震の痕跡を確認できなかったが、釈迦堂遺跡の地震の前後の層（Ⅸa 層→Ⅷa 層）から出土した遺物は、林付遺跡の下層と上層の遺物にそれぞれ近い時期と推測される点は留意される。

県内において 9 世紀は集落の新たな動きが見られる時期にあたり、当遺跡のように沖積地内の微高地の自然堤防上に形成され、掘立柱建物を主体とする集落が各地域で確認されるようになる。林付遺跡の上層では、掘立柱建物、井戸、土坑、畑地がセットになって構成されていたと推測され、王朝国家（型）村落〔坂井 1989〕、春日論文〔春日 1995〕の E 類に近い集落構造と考えられる。春日氏は 9 世紀前半に出現するこの E 類集落が、平面積 60m² 以上の大形の掘立柱建物が存在するケースが多いことを指摘し、その背景として農民の階層分化という側面のほかに、この時期官衙関連遺跡が消滅することから、「律令期に官人として官衙周辺に居住していた有力者の一部が、当期には中核的な存在として新たに集落を再編していった結果とも考えうる」とする〔春日 1995〕。

また、坂井秀弥氏はこの種の代表的な遺跡として、新潟市の小丸山遺跡や胎内市中倉遺跡、加茂市の鬼倉遺跡などを挙げ、これらの遺跡は新たな水田開発が大きな要因となり成立したとし、また、鬼倉遺跡では灌漑施設とみられる遺構や多量の墨書土器、銭貨・石帯などの出土遺物から、一定の有力者の居住を考え、新たな水田開発がこのよう有力者に主導されたことを推定した〔坂井 1999〕。

なお、鬼倉遺跡から南西約 700m に位置する馬越遺跡では、出土した「妙越庄」の墨書土器から文献資料に見られない荘園の存在が明らかとなっており、銅製・石製の帯金具や権状錘、祭祀関連の木製品などから、官衙的様相が指摘されている〔伊藤 2005〕。文献に出ない荘園であることや、石帯・権状錘といった出土遺物など、林付遺跡は鬼倉遺跡・馬越遺跡と共通する点が多い。

以上、林付遺跡は調査面積が狭く、不明な点が多々あるものの、9 世紀の在地有力者による新田開発や荘園経営に関連した遺跡と捉えられる。律令体制から王朝国家段階への過程や、鎧瀧東域における低湿地開発の変遷を考える上で重要な調査事例となろう。

今後は、遺構・遺物における他遺跡との関係や比較・検討をはじめ、文献や自然科学の成果も取り入れながら、川合（井）庄の範囲や経営実態、成立過程やその後の変遷などを検討することを課題としたい。

とりわけ周辺の遺跡では、南西方向約 5.5km に位置し、緑釉陶器や「池津」と記された墨書土器などから西蒲原の拠点的な集落であった可能性の高い中組遺跡〔春日 2000〕や、北北東約 5.7km に位置し、灰釉陶器などが採集され、鎧瀧東域における拠点集落の可能性が高い五之上曾根上遺跡〔関 2000〕が目玉される。

引用・参考文献

- ア 相田 泰臣 2004 「IV 3 古墳時代土器の編年的位置づけと御井戸遺跡の動向」『御井戸遺跡』II 巻町教育委員会
 荒川 隆史 2004 「第四章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 青田遺跡』新潟県教育委員会 財団法人
 新潟県埋蔵文化財調査事業団
 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡』新潟市教育委員会
 伊藤 秀和 2005 『馬越遺跡』新潟県加茂市教育委員会
 宇野 隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究—北陸を舞台として』桂書房
 1996 「越における律令的生産構造の展開—山・里・海辺の営みと古代国家—」『越と古代の北陸』名著
 出版
 江口 友子 2000 「第七章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 100 集 釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会 財団
 法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 江口友子・小濱 亨・河崎昭一・村上義則 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 100 集 釈迦堂遺跡』新潟県教育
 委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日 真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第 8 号 新潟考古学談話
 会
 1993 「王朝国家期の越後—上越市一之口遺跡（西地区）・新潟市小丸山遺跡を事例として」『新潟考古』
 第 4 号 新潟県考古学会
 1995 「古代集落の展開—越後を事例として」『研究紀要』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 1996 「越後・佐渡における 9 世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第 6 号 北陸古代土器研究会
 1999 「第 4 章—第 2 節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
 2000 「第 5 章 まとめ」『吉田町史』資料編 1 考古・古代・中世 吉田町
 2001 「第 VI 章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 104 集 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会 財団
 法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 2002 「古代古志郡の考古学的検討」『新潟考古学談話会会報』第 24 号 新潟考古学談話会
 2003 「第七章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 123 集 沖ノ羽遺跡Ⅲ（C 地区）』新潟県教育
 委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三
 賀編年」の検討を中心に—」『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会
 2006 「新潟市釈迦堂遺跡出土土器について」『陶磁器の社会史 吉岡康暢先生古希記念論集』桂書房
 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第 18 号 新潟県考古学会
 2008 「越後における古墳時代～中世の柱材について」『新潟考古』第 19 号 新潟県考古学会
 加藤 学 1999 「第 V 章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉 A 遺跡』新潟県教育委員会 財団法
 人新潟県埋蔵文化財調査事業団
 川上 貞雄 1997 『上浦 A 遺跡』新津市教育委員会
 小池邦明・本間桂吉 1992 『山木戸遺跡第 1 次発掘調査概報』新潟市教育委員会
 小池邦明・藤塚 明ほか 1993 『新潟市市場遺跡』新潟市教育委員会
 小池邦明 1999 『山木戸遺跡第 2 次発掘調査概報』新潟市教育委員会
 小林昌二・相沢 央 2004 「新潟県内出土墨書土器の基礎的考察」『資料学研究』1
- サ 坂井 秀弥 1988 「律令期の須恵器系譜—越後西南部における 2 つの系譜を巡って—」『高井梯三郎先生喜寿記念論集
 歴史学と考古学』真陽社
 1989 「第七章まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 山三賀Ⅱ遺跡』
 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
 1990 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第 1 号 新潟県考古学会
 1995 「古代越後平野の環境・交通・官衙」『木簡研究』第 17 号 木簡学会
 1996 「水辺の古代官衙遺跡」『越と古代の北陸』名著出版
 1999 「第 4 章—第 1 節 総論」『新潟県の考古学』高志書院

- 2008 『古代地域社会の考古学』 同成社
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥・山本 肇・田中 靖 1992 「新潟県八幡林遺跡出土土器と長岡市須恵器窯跡資料」『北陸古代土器研究』第2号 北陸古代土器研究会
- 笹澤 正史 2003 「第1節 時代概説」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 鈴木俊成・三ツ井明子ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集 西部遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 関 雅之 2000 「Ⅴ 整理調査のまとめ」『新潟県新潟東村の所蔵の考古資料整理報告—谷川忠壽美氏収集資料の調査記録—』 新潟県教育委員会
- タ 田中 靖 1998 『和島村埋蔵文化財調査報告書第7集 下ノ西遺跡』 新潟県和島村教育委員会
1999 『和島村埋蔵文化財調査報告書第8集 下ノ西遺跡Ⅱ』 新潟県和島村教育委員会
2003 『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集 下ノ西遺跡Ⅳ』 新潟県和島村教育委員会
2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 八幡林遺跡Ⅳ』 新潟県和島村教育委員会
- 田中 靖・桑原陽一 1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』 新潟県和島村教育委員会
- 戸根与八郎・坂井秀弥ほか 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- マ 卷 町 1994 『巻町史』通史編下 巻町
- 松島 悦子 2001 『燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 三角田遺跡』 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 1999 『中条町埋蔵文化財調査報告第16集 中倉遺跡3次』 中条町教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告第25集 船戸桜田遺跡4次・5次 船戸川崎遺跡6次』 中条町教育委員会
- 望月 精司 2003 「古代権状錘に関する一考察—北陸出土権衡資料の検討を中心として—」『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
- ヤ 山口 栄一 1984 「西川町の遺跡」『西川町史考』2 西川町
- 吉川 真司 2002 「院宮王臣家」『日本の時代史5 平安京』 吉川弘文館
- ワ 渡邊ますみ・相沢 央ほか 2009 『駒首潟遺跡 第3・4次調査』 新潟市教育委員会

第Ⅵ章 引用・参考文献

- カ 金原 正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法』 角川書店
- サ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 大阪市立自然科学博物館
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 1985 『木材の構造』 文永堂出版
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣
- 杉山 真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』 同成社
- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学』19 日本文化財科学会
- ナ 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として」『第四紀研究』13 日本第四紀学会
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』no.10 日本文化財科学会
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 大阪市立自然科学博物館
- フ 藤原 宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 日本文化財科学会
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—」『考古学と自然科学』17 日本文化財科学会
- マ 前山 精明 2010a 「遺跡の位置と環境」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』 新潟市教育委員会
- 前山 精明 2010b 「縄文時代の大沢谷内北遺跡」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』 新潟市教育委員会
- ヤ 山田 昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別1号 植生史研究会
- T Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2),

別表1 遺構計測表

凡 例

1. 平面形・断面形については第5・6図の分類による。
2. 上端長軸・最大深度は、遺構プランが確定した段階での長軸最大値と上端面から最深部までの値である（第IV章第3節）。

3. 底面標高は、遺構最深部における標高である。
4. 柱根下端標高は、柱根が出土した際の下端の標高を示す。
5. 出土遺物実測図No.は、図面図版の遺物番号に対応する。
6. 空欄は不明もしくは無いことを示す

上層掘立柱建物

図面図版番号	写真図版番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		桁行 (m)		梁行 (m)	
			N-24° -W		床東建物 (二面廂)		87.9		6間×2間		14.9		5.9	
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	
9		P 59	4E16	円形	漏斗状	0.48	0.90	0.30	○	0.01	有	1・2		
9・10	5	P 101	4D23・24	円形	漏斗状	0.68	0.62	0.46	○	0.48	有	3		
9・10	5	P 112	3D25, 4D5	円形	U字状	(0.85)	0.62	0.34	○	0.19	有	4~9		
9		P 119	4E11	円形	漏斗状	0.54	0.72	0.38	○	0.30	有	10・11		
9・10	5	P 146	3D19・20・24・25	円形	漏斗状	0.92以上	0.61	0.40	○	0.38	有			
9・10	5・6	P 149	5E6	円形	漏斗状	0.60	0.83	0.23	○	0.27	有	12		
9		P 152	4D5・10	円形	U字状	(0.69)	0.64	0.36	○	-0.23	有	13		
9・10	6	P 187	5D5, 5E1	円形	U字状	0.75	0.62	0.49	○	0.37	有	14		
9		P 191	5D4	円形	漏斗状	(0.64)	0.85	0.28	○	-0.13	有	15~19		
9		P 192	5D10・15	円形	U字状	(0.40)	0.58	0.44	○	-0.07	有			
9・10	6	P 194	5D8・9	円形	U字状	(0.54)	0.53	0.61	○	0.24	有	20		
9・11	6	P 197	4E22	円形	漏斗状	(0.52)	0.65	0.45	○	0.30	有	21		
9・11	6・7	P 199	5D14	円形	漏斗状	(0.54)	0.34	0.65	○	0.69	有			
9・11	7	P 202	4D17	円形	漏斗状	(0.50)	0.49	0.55	○	0.38	有	22		
9・11	7	P 203	4D7	円形	U字状	(0.43)	0.28	0.28	○	0.22	有	23・24		
9・11	7	P 205	4D18	円形	漏斗状	(0.60)	0.64	0.40	○	0.33	有	25・26		
9・11	7・8	P 206	4D12・13	円形	U字状	(0.74)	0.76	0.28	○	0.22	有	27~29・184		
9・12	8	P 207	4D23, 5D3	円形	漏斗状	(0.45)	0.68	0.31	○	0.19	有	30~33・235		
9		P 216	5E2・3	円形		(0.50)			○	-0.17	有			
9・12	8	P 232	4D14・15	円形	漏斗状	(0.47)	0.55	0.08	○	0.11	有			
9		P 318	3D20	円形		(0.33)	0.24	0.20	○	0.24	有			
9・12	8	P 383	4E12・17	円形	漏斗状	(0.38)	0.27	0.35	○	0.07	有			
9・12	8	P 393	4E1	円形	V字状	(0.28)	0.26	0.29	○	0.07	有			
9		P 595	4E23	円形	漏斗状?	(0.19)	0.16	0.47	○	0.53	有			
図面図版番号	写真図版番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		長軸 (m)		短軸 (m)	
			N-24° -W				5.5		1間×1間		2.5		2.2	
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	
12	9	P 156	4C4	円形	半円状	0.35	0.12				有			
12	9	P 158	4C10	円形	半円状	0.49	0.13				有			
12		P 173	4C14	円形	弧状	0.53	0.07				有			
図面図版番号	写真図版番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		桁行 (m)		梁行 (m)	
			N-10° -W		不明		不明		不明		不明		不明	
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	
12	9	P 422	4C23・24	円形	漏斗状	(0.64)	0.52	0.21	○	0.07	有	34		
12	9・10	P 503	5C14	円形	漏斗状	(0.52)	0.42	0.34	○	0.15	有	35		
12	9	P 504	5C9	円形	漏斗状	0.49	0.48	0.24	○	0.19	有			

上層 井戸・土坑・溝・性格不明遺構・ピット

図面図版番号	写真図版番号	遺構	グリッド	確認面	形態		規模 (m)		最深標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	備考
					平面	断面	上端長軸	最大深度				
							上端長軸	最大深度				
13	10	SE 10	5C9	IVa層	円形	箱状	1.09	1.09	-0.14	有	284~288	
13	10	SE 40	5D10・15	IVa層	円形	箱状	0.90	0.91	0.14	有	289	
13	10	SE 443	5D2・7	IVa層	円形	半円状	0.93	0.56	0	有	36・290	
13	10	SK 1	3C20	IVa層	楕円形	弧状	0.90	0.08	1.06			
13	11	SK 7	4C8・9	IVa層	円形	弧状	0.82	0.09	0.92	有		
13	11	SK 9	4C10, 4D6	IVa層	円形	箱状	0.99	0.27	0.84	有		
13	11	SK 17	3C25, 3D21, 4C5, 4D1	IVa層	円形	台形状	1.58	0.55	0.73	有	37~39	
13		SK 42	4E21・22, 5E1・2	IVa層	楕円形	弧状	1.12	0.14	1.06	有		
13		SK 52	5F12	IVa層			0.57以上	0.16	0.95			
13		SK 54	4D25, 4E21	IVa層	楕円形	弧状	0.65	0.04	1.12			
14	11	SK 57	4E16・21	IVa層	円形	弧状	0.78	0.14	1.05	有	237	
14		SK 61	5E1	IVa層	楕円形	弧状	0.67	0.13	1.05	有		
11・14	12	SK 64	5D14・15	IVa層	円形	弧状	1.04	0.13	0.90	有		
14	12	SK 70	4E14・19	IVa層	楕円形	弧状	0.59	0.08	0.88	有		
14	12	SK 71	4E19・24	IVa層	楕円形	弧状	0.88	0.07	0.95	有		
14・15	12	SK 77	4D15, 4E11	IVa層	楕円形	台形状	1.10	0.29	0.82	有	40	
10・14	12	SK 78	3D20・24・25	IVa層	楕円形	半円状	1.47	0.33	0.66	有	41・257	
14		SK 79	3D19・24	IVa層	円形	半円状	1.01	0.28	0.76	有		
6	12	SK 81	3D14・15	IVa層		台形状	1.51以上	0.3	0.69	有		
15	12・13	SK 92	4E11・12・16・17	IVa層	楕円形	弧状	2.76	0.45	0.74	有	42~57・238・255	
10・15	13	SK 95	3D25, 3E21, 4D5, 4E1	IVa層	円形	半円状	1.45	0.28	0.80	有	58~60	
15	13	SK 105	4D9・10	IVa層	円形	半円状	0.97以上	0.24	0.80	有	61	
15	13	SK 106	4D10・15	IVa層	円形	半円状	0.98	0.28	0.77	有		
15		SK 107	4D14・15	IVa層	楕円形	弧状	1.48	0.2	0.87	有	62	
15	13	SK 122	4D15	IVa層	円形	半円状	1.03	0.39	0.63	有	63~67	
15	13	SK 125	3D24・25, 4D4・5	IVa層	円形	半円状	1.07	0.33	0.68	有	68・69	
16	13	SK 129	3E18・19	IVa層	楕円形	弧状	2.07	0.15	0.82	有	70	
16	13	SK 141	5D9・14	IVa層	円形	半円状	0.84	0.16	0.90	有	71	
16	14	SK 142	3E19	IVa層	楕円形	弧状	1.47以上	0.12	0.87			
16	14	SK 145	4D5・10, 4E1・6	IVa層	楕円形	台形状	1.82	0.63	0.45	有	72~79	
16	14	SK 150	4D4・5	IVa層	円形	半円状	1.80	0.51	0.57	有	80~83	
4		SK 164	4C19・20・24	IVa層	楕円形	弧状	1.13	0.25		有		
4		SK 167	4C14・15	IVa層	楕円形	弧状	1.08	0.08		有		
4		SK 181	4C24, 5C4	IVa層	楕円形	弧状	1.43	0.18		有	84・85	

観 察 表

図面図版 番号	写真図版 番号	遺構	グリッド	確認面	形態		規模 (m)		最深標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	備考
					平面	断面	上端長軸	最大深度				
17	14	SK 183	4D18・19・23・24	IVa層	楕円形	弧状	3.36	0.21	0.83	有	86~90・239	
5		SK 188	5D5・10, 5E1・6	IVa層	楕円形	弧状	1.23	0.15		有		
17	14	SK 190	4D23・24, 5D3・4	IVa層	長楕円形	弧状	2.62	0.29	0.85	有	91~94	
17	14	SK 215	4G21	IVa層	楕円形	半円状	1.19	0.16	0.80	有		
17		SK 220	4D12・13・17・18	IVa層	楕円形	半円状	0.94	0.22	0.82	有	95~99	
4		SD 5	4C3・4・9	IVa層		半円状	0.59	0.20	0.82	有		
4		SD 22	3C20・25, 3D16	IVa層		弧状	0.51	0.08	1.06			
4		SD 34	4C5	IVa層		半円状	0.57	0.34	0.78	有	100~103	
6		SD 46	5E11	IVa層		台形状	0.29	0.02	1.07	有		
4		SD 55	4E21	IVa層		弧状	0.32	0.04	1.12			
4・14		SD 56	4D20, 4E16・21・22, 5E2	IVa層		弧状	0.37	0.08	1.12	有		
4		SD 60	4E16・17・21・22	IVa層		半円状	0.30	0.11	1.07	有		
5		SD 65	5E8・9・13・14	IVa層		弧状	0.54	0.09	1.02	有		
6・8	14・15	SD 66	3F8・12・13・16ほか	IVa層		台形状	2.60	0.42	0.62	有	104~123	
6	15	SD 69	4E14・18・19・23ほか	IVa層		弧状	1.10	0.16	0.99	有	124~127	
6	15	SD 88	3D15・20, 3E11・16ほか	IVa層		弧状	1.94	0.10	0.92	有	128・129	
6	15	SD 96	3E11・12・17	IVa層		弧状	0.56	0.10	0.89	有	130・131	
6	15	SD 124	3E25, 4E5	IVa層		半円状	0.32	0.18	0.82	有		
8	15・16	SD 128	3F11・12・16・17・21	IVa層		弧状	1.38	0.60	0.88	有		
8	15	SD 130	3F18・22・23, 4F2ほか	IVa層		弧状	2.35	0.37	0.63	有	132	
6		SD 132	4E5・10	IVa層		半円状	0.20	0.10	0.92	有		
6	15・16	SD 137	3E12・13・14・15ほか	IVa層		弧状	3.34	0.56	0.47	有	133~138	
6		SD 208	4E19・20	IVa層		弧状	0.38	0.08	0.92	有		
8	16	SD 210	4F20・25, 4G1・6ほか	IVa層		弧状	2.50	0.18	0.94	有	139~144・240	
6		SD 212	4E22・23	IVa層		弧状	0.41	0.05	1.08			
5		SD 217	5E4	IVa層		半円状	0.30	0.16	0.92			
8	16	SD 218	4F8・13・18・23, 5F3	IVa層		半円状	0.42	0.20	0.81	有	145	
8		SD 219	4F9・14・19・24, 5F4	IVa層		半円状	0.38	0.22	0.76	有	146	
18	16	SX 165	4C20・25, 4D16・21	IVa層	不整形	弧状	2.18	0.14	0.96			
18	16	SX 209	5F8・9・13・14	IVa層			3.05以上	0.34	0.67	有	147	
18	16・17	SX 213	5F3	IVa層	楕円形?	弧状	1.77以上	0.17	0.83	有		
18	17	SX 214	5G1	IVa層	不整形	弧状	1.79以上	0.18	0.83	有		
19	17	SX 222	4G7・8・12・13	IVa層	長楕円形	弧状	2.80	0.10	0.83	有		
19	17	SX 223	4G1・2	IVa層	不整形	弧状	1.82	0.60	0.90	有		
19	17	SX 229	4E1・2・3・6ほか	IVa層	不整形	弧状	7.50	0.48	0.49	有	148~165・241~244・291	
14		P 28	5D14	IVa層	円形		0.68	0.40	0.57	有		
14		P 36	5E1	IVa層	円形	漏斗状	0.32	0.58	0.61			
2		P 51	5F12	IVa層	円形	U字状	0.18以上	0.22	0.86			
6		P 82	3D14	IVa層	円形	U字状	0.36	0.35	0.68	有		
5		P 102	4D14・15・19・20	IVa層	円形	U字状	0.57	0.49	0.58	有	166	
11		P 103	4D18	IVa層	円形	U字状	0.66	0.39	0.67	有	167・168	
5		P 110	4D19	IVa層	円形	U字状	0.31	0.37	0.69	有	169・170	
15	13	P 111	4D10	IVa層	円形	半円状	0.42	0.16	0.91	有		
5		P 118	4D10・15, 4E6・11	IVa層	円形	半円状	0.73	0.28	0.81	有	171	
15		P 127	4D9	IVa層	円形	漏斗状	0.98	0.55	0.50	有	172	
5		P 147	5D9・10	IVa層	円形	半円状	0.70	0.29	0.88	有	259	
4		P 155	4C5・10	IVa層	円形	半円状	0.84			有	173	
4		P 168	4C19・24	IVa層	楕円	弧状	1.03			有	174	
4		P 172	4C4・5・10	IVa層	円形	弧状	0.56			有	175・176	
4		P 175	4C5, 4D1	IVa層	円形	半円状	0.45以上			有	177~180	
4		P 178	4C15・20	IVa層	円形	半円状	0.68			有	181	
5		P 204	4D13・18	IVa層	楕円	半円状	0.81			有	182・183	
7・8		P 269	4G16	IVa層		V字状		0.20				
2		P 699	5C20	IVa層		U字状		0.24				
2		P 700	5C20	IVa層		半円状		0.10				

下層掘立柱建物

図面図版 番号	写真図版 番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		長軸 (m)		短軸 (m)	
			N-4° -W		総柱建物		17.6		2間×2間		4.4		4.0	
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	出土遺物実測図No.	
24		SB904	P 462	4C15	円形	U字状	0.43	0.10						
24			P 464	4C14	円形	U字状	0.27	0.18					有	
24			P 468	4C9	円形	U字状	0.20	0.10					有	
24	18		P 476	4C10	方形	漏斗状	0.51	0.50	0.24	○	0.13		有	
24			P 491	4D11	円形	U字状	0.29	0.08					有	
24			P 492	4D6	円形	U字状	0.21	0.10						
24			P 493	4D1	円形	半円状	0.30	0.30						
24			P 494	4C4	円形	半円状	0.24	0.16						
24	18		P 500	4C5	円形	U字状	0.31	0.39	0.36				有	
図面図版 番号	写真図版 番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		長軸 (m)		短軸 (m)	
			N-41° -W								2.5		2.4	
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	出土遺物実測図No.	
24	18	SB905	P 479	4C4・9	円形	漏斗状	0.63	0.42	0.25	○	0.16			
24			P 552	4C5	円形	漏斗状	0.59	0.34	0.40	○	0.27			
24	18・19		P 617	3C24	円形	漏斗状	0.45	0.58	0.20	○	0.08			

図面図版番号	写真図版番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		長軸 (m)		短軸 (m)
			N-16° -W		総柱建物		13.3		2間×2間		3.9		3.4
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	出土遺物実測図No.
25		SB906	P 336	3F17	円形	半円状	0.30	0.16					
25	19		P 337	3F21・22	円形	漏斗状	1.11	0.41	0.27	○	0.33		
25	19		P 339	3F22	円形	U字状	0.46	0.43	0.26	○	0.11	有	
25			P 340	4F1	円形	U字状	0.66	0.55	0.07				294
8			P 341	4F2	円形	U字状	0.71	0.42	0.14			有	
25	19		P 343	4F3	円形	漏斗状	0.51	0.24	0.11			有	
25	20		P 346	3F17・18	円形	漏斗状	0.40	0.33	0.36	○	0.29	有	
25			P 350	3F23・24	円形	弧状	0.52	0.40	0.46				
25	20		P 352	3F23, 4F3	円形	漏斗状	0.55	0.34	0.30	○	0.33		
図面図版番号	写真図版番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		長軸 (m)		短軸 (m)
			N-5° -W		総柱建物		13.7		2間×2間		3.7		1.9
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	出土遺物実測図No.
25	20	SB907	P 362	3F14	円形	U字状	0.24	0.29	0.25	○	0.06		
25	20		P 436	3F12・13	円形	U字状	0.27	0.52	0.12	○	-0.03		
25			P 519	3F9						○	0.03		
25			P 593	3F12・13・17・18	円形	U字状	0.32	0.28					
図面図版番号	写真図版番号	建物番号	方位		建物形式		身舎面積 (㎡)		間数		長軸 (m)		短軸 (m)
			N-24° -W		総柱建物		13.7		2間×2間		3.7		3.7
			遺構	グリッド	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱根	柱根下端標高 (m)	遺物有無	出土遺物実測図No.
25		SB908	P 390	3D25	円形	漏斗状	0.18	0.22					
25			P 391	3D25, 3E21	円形	U字状	0.26	0.19	0.26	○	0.33		
25			P 392	4E1	円形	V字状	0.24	0.21	0.32	○	0.27		
25	21		P 394	4D5	円形	U字状	0.26	0.32	0.10			有	
25			P 643	4D4・9	円形	半円状	0.29	0.14					
25			P 644	3D19・24	円形	半円状	0.21	0.10					
25			P 645	3D20	円形	U字状	0.15	0.17	0.28				

下層 土坑・溝・性格不明遺構・ピット

図面図版番号	写真図版番号	遺構	グリッド	確認面	形態		規模 (m)		底面標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	備考
					平面	断面	上端長軸	最大深度				
2	4	SK 234	5G7	IVc層		弧状		0.18	0.65			
26	21	SK 262	5E9・10・14・15	IVc層		弧状	1.8以上	0.08	0.62	有		
26	21	SK 266	5E5	IVc層	楕円形	半円状	1.01	0.21	0.43	有		
26	21	SK 267	4E25, 4F21, 5E5, 5F1	IVc層	楕円形	弧状	1.35	0.19	0.50	有		
26		SK 281	5G6	IVc層		弧状	1.07以上	0.14	0.61			
26	21	SK 282	4F23・24	IVc層	楕円形	弧状	0.92	0.09	0.54	有		
26	21	SK 283	5F3	IVc層	楕円形	弧状	1.51	0.11	0.58			
26	21・22	SK 284	4G22・23	IVc層	円形	弧状	0.93	0.11	0.53	有	295	
26	22	SK 285	4G17・21・22	IVc層	円形	弧状	1.15	0.15	0.47			
27	22	SK 297	3E25	IVc層	円形	弧状	0.80	0.06	0.55			
27	22	SK 306	4G6・11	IVc層	楕円形	弧状	0.91	0.11	0.54	有		
27	22	SK 311	4E13・17・18	IVc層	楕円形	弧状	2.00	0.24	0.36	有		
27	22	SK 327	4E4	IVc層	楕円形	弧状	0.66	0.09	0.48	有		
27	23	SK 330	4E2・3・7・8	IVc層	円形	半円状	0.96	0.22	0.32	有		
27	23	SK 331	4E7・8	IVc層	円形	半円状	0.88	0.20	0.35	有	296	
27	23	SK 347	3F18	IVc層	楕円形	弧状	1.02	0.05	0.63			
27	23	SK 355	4F3・4・8・9	IVc層	円形	弧状	1.13	0.16	0.47	有		
27	23	SK 360	3F13・14	IVc層	円形or隅丸方形	台形状	1.11	0.18	0.42	有	297	
28	23	SK 366	3F20・25, 3G16・21	IVc層	円形	半円状	1.20	0.27	0.32	有	298	
28	24	SK 372	4G1	IVc層	円形	弧状	0.78	0.07	0.61			
28	24	SK 388	4F12・13	IVc層	楕円形	半円状	1.17	0.29	0.37	有	299・384	
21		SK 411	5C10・15, 5D6・11	IVc層	楕円形	弧状	2.30	0.22		有	300	
28	24	SK 418	5C4	IVc層	円形	弧状	1.06	0.13	0.61	有		
28	24	SK 420	4C24, 5C4	IVc層	円形	弧状	1.09	0.16	0.59	有		
28	24	SK 510	3C19・24	IVc層	楕円形	弧状	2.03以上	0.26	0.54	有	301~308	
29	24	SK 512	4E2・3	IVc層	円形	弧状	0.88	0.10	0.44			
29	24	SK 524	3C24・25	IVc層	楕円形	半円状	1.31	0.16	0.61	有	309	
29		SK 525	3C18・19・23	IVc層			0.62以上	0.15	0.62	有		
29		SK 526	3C19・20・25	IVc層		弧状	1.62以上	0.19	0.57	有	310	
29	25	SK 527	3C20, 3D16	IVc層	楕円形	弧状	1.14以上	0.13	0.62	有		
29	25	SK 562	3F16・17	IVc層	円形or楕円形	弧状	1.30以上	0.20	0.39	有		
30	25	SK 583	3C23・24	IVc層	楕円形	半円状	1.46	0.36	0.40	有	311~315	
30	25	SK 641	4D5	IVc層	円形	弧状	0.97	0.06	0.41			
30	25・26	SK 653	5D4・5	IVc層	楕円形	台形状orV字状	2.28	0.37	0.31	有	316	
30	26	SK 678	4F5	IVc層	楕円形	漏斗状orV字状	1.42	0.51	0.12	有		
30	26	SK 696	4G1	IVc層	楕円形	半円状or台形状	0.88以上	0.20	0.46	有	319	
31		SD 241	5G2	IVc層		弧状	0.27	0.06	0.67			
31		SD 245	5F4・5, 5G1・2	IVc層		半円状	0.30	0.08	0.62			
31	26	SD 246	5F6・7・8・9	IVc層		弧状	0.85	0.13	0.55	有	317	
31		SD 256	5G1・6	IVc層		弧状	0.36	0.07	0.68	有		
31		SD 257	4F25, 4G21	IVc層		弧状	0.35	0.03	0.62	有		
31		SD 258	4F23・24	IVc層		弧状	0.37	0.03	0.63	有		
31		SD 259	4F25, 4G21・22	IVc層		弧状	0.28	0.02	0.61	有		
31		SD 260	4F18・19・20・23ほか	IVc層		弧状	0.46	0.03	0.63	有		
26		SD 265	5E2・3・4・5, 5F1	IVc層		弧状	0.34	0.06	0.62	有		
11・31	27	SD 271	4D17~20・22~25ほか	IVc層		弧状	1.93	0.25	0.42	有	318・385	
31		SD 275	5E11・12	IVc層		半円状	0.29	0.06	0.66			
31	27	SD 277	5E1・6・11	IVc層		弧状	0.71	0.11	0.60	有		
2・31		SD 278	5D15, 5E11	IVc層		弧状	0.32	0.06	0.64			
31		SD 280	5D10, 5E6	IVc層		半円状	0.35	0.14	0.55	有		
31		SD 290	4G11・16	IVc層		弧状	0.34	0.06	0.65	有		
8・27	22	SD 298	3E24・25, 3F21	IVc層		半円状	0.34	0.10	0.51			

観 察 表

図面図版 番号	写真図版 番号	遺構	グリッド	確認面	形態		規模 (m)		底面標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	備考
					平面	断面	上端長軸	最大深度				
31		SD 299	3E25, 3F21, 4E5, 4F1	IVc層		半円状	0.24	0.10	0.52			
31	27	SD 300	4E3・4・5, 4F1	IVc層		半円状	0.41	0.14	0.44	有		
31		SD 305	4F9・14・15・19・20	IVc層		半円状	0.23	0.05	0.60	有		
31		SD 310	4F10, 4G6・7・12	IVc層		弧状	0.37	0.06	0.58	有		
31		SD 312	4E7・12・13・18	IVc層		半円状	0.46	0.12	0.49	有		
32	27	SD 314	5D13・14	IVc層		半円状	0.47	0.11	0.60	有		
32	27	SD 315	5D8・9	IVc層		半円状	0.37	0.17	0.54	有		
32	27	SD 316	5D12・13・14・15	IVc層		半円状	0.39	0.13	0.63	有		
32		SD 320	5F5・10	IVc層		半円状	0.17	0.06	0.68			
31	27	SD 321	4E3・4	IVc層		半円状	0.23	0.13	0.45	有		
31		SD 322	4E4・5	IVc層		弧状	0.44	0.08	0.53	有		
32		SD 323	4E4	IVc層		U字状	0.39	0.26	0.33			
32		SD 324	4E4・5・8・9・10	IVc層		半円状	0.47	0.15	0.45	有		
32	27	SD 334	3E14・15・19・20ほか	IVc層		弧状	0.67	0.11	0.53	有	320・321	
32		SD 335	3E20, 3F16・17	IVc層		半円状	0.30	0.11	0.55	有		
32		SD 348	3F13・18	IVc層		半円状	0.27	0.08	0.59	有		
32		SD 349	3F18・19・23・24	IVc層		弧状	0.22	0.03	0.61			
25・32		SD 351	3F18・23, 4F3	IVc層		弧状	0.43	0.06	0.61	有		
32	27	SD 353	3F24, 4F4	IVc層		弧状	0.47	0.08	0.59			
22		SD 357	3E20	IVc層		半円状	0.39	0.09	0.52			
2・32		SD 361	3F11・12・13・14・15	IVc層		半円状	0.38	0.13	0.51	有		
32		SD 363	3G11	IVc層		弧状	0.34	0.03	0.50	有		
32		SD 364	3G11	IVc層		半円状	0.35	0.08	0.46			
32		SD 367	3F25	IVc層		弧状	0.27	0.02	0.65	有		
32		SD 368	3G21	IVc層		弧状	0.28	0.02	0.64			
30・32		SD 369	4F5, 4G1・2	IVc層		半円状	0.48	0.07	0.60			
30・32		SD 370	4F5	IVc層		弧状	0.24	0.04	0.61			
32		SD 381	4G23	IVc層		弧状	0.25	0.04	0.55	有		
32	27	SD 382	5D14	IVc層		半円状	0.25	0.07	0.67	有		
32		SD 387	4G21	IVc層		半円状	0.14	0.04	0.57			
32		SD 399	4D18・19・23・24, 5D4	IVc層		半円状	0.48	0.17	0.45	有		
22		SD 402	4E6	IVc層		半円状	0.22					
32		SD 407	4G1・6	IVc層		半円状	0.28	0.08	0.52	有		
33	28	SD 410	5C15, 5D11	IVc層		弧状	0.32	0.05	0.79	有		
33	28	SD 413	5C9・10・15, 5D11	IVc層		半円状	0.50	0.17	0.63	有		
33	27・28	SD 414	5C10	IVc層		弧状	0.25	0.04	0.77			
33	27・28	SD 415	5C9・10, 5D6	IVc層		弧状	0.27	0.10	0.75	有		
33	27・28	SD 416	5C4・5・9・10, 5D6	IVc層		弧状	1.23	0.14	0.67	有		
33	27・28	SD 417	5C5・10, 5D1・6	IVc層		半円状	0.42	0.22	0.70	有	322	
33	28	SD 421	4C24・25, 5C4・5	IVc層		弧状	0.44	0.09	0.69	有		
33	28	SD 423	4C24・25	IVc層		弧状	0.37	0.06	0.70			
33	28	SD 424	4C19・24	IVc層		弧状	0.39	0.05	0.68	有		
33		SD 432	3G22, 4G2・7・8ほか	IVc層		半円状	0.39	0.09	0.55	有		
33		SD 437	4E10, 4F2・6・7	IVc層		半円状	0.34	0.07	0.54	有		
33		SD 438	3G12	IVc層		弧状	0.20	0.03	0.57			
33		SD 439	3G16・17・21・22	IVc層		弧状	0.47	0.03	0.56	有		
33		SD 440	3G22・23, 4G2・3	IVc層		弧状	0.30	0.04	0.56			
33		SD 456	4C20	IVc層		半円状	0.42	0.12	0.57	有		
2・33	28	SD 461	4C13・14・15	IVc層		半円状	0.53	0.12	0.57	有	323・324・386	
33	28	SD 465	4C9・14・15	IVc層		弧状	0.77	0.08	0.61	有		
33	28	SD 475	4C5・9・10・14・15	IVc層		弧状	0.40	0.07	0.70	有		
33		SD 481	4C9・10・14・15ほか	IVc層		半円状	0.70	0.24	0.48	有	325~327	
33		SD 482	4C3・4・9	IVc層		半円状	0.49	0.12	0.64	有		
33	28	SD 483	4C9・10, 4D6	IVc層		半円状	0.44	0.14	0.62	有		
33		SD 484	4C5, 4D1・6	IVc層		弧状	0.34	0.02	0.74	有		
30・33		SD 507	3C23・24	IVc層		半円状	0.35	0.11	0.69	有	328	
28・33		SD 508	3C23・24・25	IVc層		半円状	0.70	0.20	0.59	有	329~331	
33		SD 522	3E15	IVc層		半円状	0.24	0.08	0.45			
33		SD 528	3C20, 3D16	IVc層		弧状	0.36	0.06	0.71	有		
22		SD 538	3E20	IVc層		半円状	0.24					
33		SD 540	3E20, 3F16	IVc層		U字状	0.24	0.18	0.41	有		
33		SD 541	3F23, 4F2・3	IVc層		弧状	0.44	0.08	0.48			
2・33	28	SD 543	4C13・14・15・19・20	IVc層		V字状	0.32	0.18	0.50	有	332	
34		SD 558	4E22・23・24・25ほか	IVc層		半円状	0.29	0.16	0.52	有		
34		SD 559	4E25, 4F21	IVc層		半円状	0.32	0.09	0.56			
34		SD 564	4E22・23	IVc層		弧状	0.22	0.04	0.65			
34	28	SD 599	5E1・2	IVc層		半円状	0.41	0.16	0.55	有		
34		SD 600	4E15・18・19・20	IVc層		弧状	1.28	0.35	0.27	有	333	
34	28	SD 601	3E20・25, 3F16・17ほか	IVc層		半円状	0.47	0.16	0.51	有	334	
34		SD 616	3C20・25, 3D16・21	IVc層		弧状	0.41	0.07	0.70	有		
34	29	SD 618	4D10・15・20	IVc層		弧状	0.91	0.08	0.56	有		
34		SD 619	4D15・20, 4E16	IVc層		U字状	0.26	0.17	0.44	有		
34	29	SD 620	4D9・10・14・15, 4E6	IVc層		半円状	0.35	0.13	0.46	有		
34		SD 625	4F7・8・9	IVc層		半円状	0.23	0.07	0.55	有		
34		SD 626	4F8・9	IVc層		半円状	0.18	0.06	0.52			
34	29	SD 650	3D25, 3E16・17・21・22	IVc層		弧状	0.36	0.03	0.41			
34		SD 651	4D10	IVc層		弧状	0.26	0.06	0.46			
34	29	SD 652	5D8・13	IVc層		弧状	0.59	0.11	0.63	有		
34		SD 674	4G6・7・11・12	IVc層		半円状	0.26	0.08	0.59	有		
34		SD 683	3G21, 4G1	IVc層		半円状	0.16	0.06	0.60			
34	29	SD 689	3F19・20, 3G16	IVc層		弧状	0.32	0.07	0.52			
34	29	SX 384	5D3・4・8・9	IVc層	長楕円形	弧状	2.41	0.11	0.62	有	335	
23		P 247	5F4	IVc層	楕円形	漏斗状	0.37			有	336	
34		P 248	5F3・8	IVc層	円形	半円状	0.39	0.10	0.62	有	337	
23		P 287	4F20, 4G16	IVc層	楕円形	半円状	0.46			有	338	

図面図版番号	写真図版番号	遺構		グリッド	確認面	形態		規模 (m)		底面標高 (m)	遺物有無	遺物実測図番号	備考
						平面	断面	上端長軸	最大深度				
23		P	301	4F19	IVc層	円形	U字状	0.21			有	339	
22		P	406	4E6	IVc層	楕円形	漏斗状	0.33			有	340	
21		P	426	4D19	IVc層	円形	漏斗状	0.62	0.58	0.05	有	341	
21		P	452	4D11	IVc層	円形	U字状	0.39			有	342	
21		P	478	4C9	IVc層	円形	半円状	0.48			有	343	
21		P	488	4C5、4D1	IVc層	円形	U字状	0.54			有	344	
21		P	498	3C24、4C4	IVc層	円形	半円状	0.49	0.24	0.49	有	345	
21・30		P	545	3C23・24	IVc層	円形	半円状	0.46			有	346	
34		P	557	4E24	IVc層	円形	漏斗状	0.47	0.41	0.27	有		
33		P	561	4C10・15	IVc層	円形	半円状	0.50	0.36	0.36	有	347	
22		P	575	5F1	IVc層	円形	半円状	0.42	0.26	0.37	有	348	
22・23		P	630	3F16・17	IVc層	円形	U字状	0.33	0.50	0.13			柱根出土
22		P	659	5E8・13	IVc層	円形	漏斗状	0.24	0.16	0.24			柱根出土

別表2 土器観察表

凡 例

- 出土位置 遺構出土遺物について、グリッド・層位が特定できるものについては記載した。
- 法 量 括弧付の数値は遺存率の低いものである。
- 胎 土 「含有物」の欄については、胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「長」は長石、「石」は石英、「雲」は雲母、「海」は海綿骨針、「角」は角閃石、「チ」はチャート、「赤」は赤色粒、「白」は白色粒、「砂」は砂礫である。比較的大きい粒を含む場合には括弧内に粒径も記した。また、多量に含むものについては◎で示した。「分類(群)」の欄は、須恵器の胎土について、第V章第2節に記した分類によりA～Cに分けた。観察はルーペを用いた肉眼観察による。
- 色 調 土器の外表面の色調について記した。記号は『新版 標準土色帳』[農林水産省農林水産技術会議事務局 1967]による。
- 焼 成 酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。
- 底 部 「ヘラ切り」は回転ヘラ切りによる底部切り離し、「糸切り」は回転糸切りによる底部切り離しを示す。
- 遺 存 率 口縁部と底部について分数表示で遺存割合を示した。

上 層

図面図版番号	遺物番号	出土位置		種類	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺存率		備考
		遺構	グリッド			層位	口径	底径	器高	含有物			分類(群)	外面	内面	底部	口縁部	
35	1	SB901-P59	4E16		土師器 無台碗	(15.0)			長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
35	2	SB901-P59	4E16		土師器 無台碗		5.6		長・砂		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		10/36	
35	3	SB901-P101	4D24		須恵器 無台杯	(15.8)			白	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
35	4	SB901-P112	3D25		須恵器 無台杯	13.0			白	B	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		口端内凹む
35	5	SB901-P112	4D5		須恵器 無台杯	(13.8)			白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		
35	6	SB901-P112	3D25		土師器 無台碗	12.7	2.6	4.55	赤・白		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	25/36	36/36	右回転
35	7	SB901-P112	3D25		土師器 無台碗	12.8			長・石・海・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		
35	8	SB901-P112	4D5		土師器 無台碗	(14.0)					にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	3/36	
35	9	SB901-P112	4D5		黒色土器 無台碗	13.8			砂		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	1/36	内黒処理
35	10	SB901-P119	4E11		土師器 無台碗	(13.0)					明黄褐 (10YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		
35	11	SB901-P119	4E11	1・2層	土師器 鍋	38.7			長・雲・海・赤・白		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	タタキ後一部ヘラケズリ	当て具痕		12/36		口・体外スス
35	12	SB901-P149	5E6	Ⅲ層	土師器 無台碗	13.2			石・赤		淡赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36		
35	13	SB901-P152	4D5		須恵器 長頸瓶	4.8			白◎	B	暗灰 (N3/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
35	14	SB901-P187	5E1		土師器 小囊	(14.6)			長・石・赤・砂		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
35	15	SB901-P191	5D4		須恵器 杯蓋				長	C	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				転用視 左回転
35	16	SB901-P191	5D4	Ⅲ層	土師器 無台碗		6.6		石・白・砂		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ヘラミガキ	糸切り		17/36	
35	17	SB901-P191	5D4		土師器 長囊	(15.6)			石・赤・砂		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		
35	18	SB901-P191	5D4		土師器 長囊		7.0		長・石 (5mm)・雲・砂		にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ			14/36	大きい鉱物多い(粗い)
35	19	SB901-P191	5D4		土師器 長囊				長・石・砂		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	タタキ	当て具痕	尖底			
35	20	SB901-P194	5D8		須恵器 有台杯	(15.4)			白・砂	B	灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		
35	21	SB901-P197	4E22	2層	須恵器 無台杯	(12.0)			白	B	灰 (N5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		
35	22	SB901-P202	4D17		土師器 無台碗	(12.8)			長・石・白 (5mm)		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		
35	23	SB901-P203	4D7	1層	須恵器 無台杯	11.5	8.4	2.85	長・白	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ調整	16/36	17/36	右回転
35	24	SB901-P203	4D7	1層	土師器 小囊	14.0			長・石・赤・砂		にぶい橙 (5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	カキメ	4/36		口・体外スス、口内炭化物
35	25	SB901-P205	4D18		土師器 長囊	(25.0)			長・石・雲		灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ		3/36		口・体外スス
35	26	SB901-P205	4D18		土師器 長囊		6.8		長・石・赤・砂		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ハケメ		13/36	
35	27	SB901-P206	4D12		土師器 無台碗	(15.0)					にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		
35	28	SB901-P206	4D12		須恵器 無台杯	12.0				B	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		
35	29	SB901-P206	4D12		須恵器 無台杯		(8.4)		石・白	B	青灰 (5BG5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	墨書土器
35	30	SB901-P207	5D3		須恵器 無台杯	12.0	7.8	3.1	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ調整	5/36	10/36	
35	31	SB901-P207	5D3		須恵器 有台杯	(13.0)			雲・白	B	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		

観 察 表

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺存率		備 考
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
35	32	SB901-P207	5D3		須恵器	無台杯	(12.8)			白	B	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		
35	33	SB901-P207	5D3		土師器	長甕		7.4		長・石・雲・砂		褐灰 (5YR5/1)	酸化			木炭痕 (網状炭脈)	36/36		細かい鉱物多量に含む
36	34	SB903-P422	4C23		須恵器	有台杯	(14.9)			白	B	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		
36	35	SB903-P503	5C14		須恵器	杯蓋	15.0		2.0	白	B	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		ゆがみ激しい
36	36	SE443	5D2		土師器	無台碗	(13.0)			赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
36	37	SK17	3C25	3層	須恵器	無台杯	12.4	7.2	2.95	白	B	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ調整	12/36	24/36	左回転
36	38	SK17	3C25		須恵器	杯蓋	15.6			白・赤	B	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		
36	39	SK17	3C25		土師器	長甕	23.0			長・角・赤・白・砂		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	カキメ	ロクロナデ		5/36		
36	40	SK77	4D15		土師器	小甕		6.6		長・雲・赤		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	18/36		左回転 体外スス
36	41	SK78	3D25		須恵器	無台杯	13.3	9.2	3.3	白	B	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	8/36	
36	42	SK92	4E12	3層	須恵器	無台杯	12.4	7.5	2.8	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後一部ナデ調整	11/36	14/36	左回転
36	43	SK92	4E17		須恵器	無台杯	12.2	6.0	3.5	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	9/36	5/36	
36	44	SK92	4E17		土師器	無台碗	12.7	6.2	4.05	長・石・海		橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	6/36	36/36	右回転
36	45	SK92	4E12	3層	土師器	無台碗	12.0	5.0	4.2	雲・海・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	23/36	36/36	右回転
36	46	SK92	4E12	3層	土師器	無台碗	12.8	5.8	4.3	長・石・雲・海・砂		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ヘラミガキ	糸切り	12/36	16/36	右回転
36	47	SK92	4E12	3層	土師器	無台碗	12.2	5.7	3.5	長・石・赤・砂		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	12/36	36/36	右回転
36	48	SK92	4E12		土師器	無台碗	12.7			石・雲・海・白		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		
36	49	SK92	4E17		土師器	無台碗	12.3	4.8	4.5	長・雲・海・赤		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	15/36	15/36	
36	50	SK92	4E12	2層	土師器	無台碗	12.8	5.0	4.7	長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	2/36	36/36	墨書土器 右回転
36	51	SK92	4E12 4E17	3層 Ⅲ層	須恵器	長頸瓶		7.7		長・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	36/36		左回転 外端接地高台
36	52	SK92	4E11 4E12 4E16 5E13 4D13	1~4層 Ⅲ層	須恵器	甕	22.0			長・石・海・白	B	灰白 (N7/)	還元	タタキ カキメ	カキメ 当て具痕		10/36		
36	53	SK92	4E12		土師器	長甕	(22.6)			長・石・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	カキメ	ロクロナデ		1/36		
36	54	SK92	4E12	3層	土師器	鍋	40.8			雲・赤・白		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ		5/36		
37	55	SK92	4E12	3・4層	土師器	鍋	35.0			長・石・赤		褐灰 (10YR6/1)	酸化	タタキ後ヘラケズリ ヘラミガキ	当て具痕		6/36		口・体内炭化物
37	56	SK92	4E12 4E16	3層 Ⅲ層	土師器	鍋	(36.0)			長・石・雲・海・赤		黒褐 (10YR3/1)	酸化	タタキ ヘラケズリ	ヘラケズリ 当て具痕		2/36		口・体外スス
37	57	SK92	4E12 4E17	3層 Ⅲ層	土師器	鍋	(42.0)			雲・海・白・赤		橙 (7.5Y7/6)	酸化	ロクロナデ タタキ	ロクロナデ 当て具痕		4/36		体外スス、体内炭化物
37	58	SK95	4D5		須恵器	有台杯		8.4		白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		17/36		
37	59	SK95	4D5		土師器	無台碗	12.4	5.9	3.9	長・石・赤・白		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	9/36	18/36	
37	60	SK95	4D5		土師器	無台碗	12.6	6.0	3.4	長・石・赤・白・砂		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	20/36	29/36	右回転
37	61	SK105	4D10		土師器	小甕	15.2			長・雲・赤		淡赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		口・体内炭化物
37	62	SK107	4D15		土師器	無台碗	14.0			長・石		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		
37	63a	SK122	4D15		須恵器	長頸瓶				石・海・白	B	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				63bと同一個体
37	63b	SK122	4D15		須恵器	長頸瓶		5.1		石・海・白	B	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	10/36		63aと同一個体 高台部欠損
37	64	SK122	4D15 4D13	Ⅲ層	須恵器	有台杯	13.8			白	B	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36		
37	65	SK122	4D15		土師器	小甕	11.2			長・石・赤・白・砂		明赤褐 (5YR5/6)	酸化	ヘラケズリ	ヨコナデ		8/36		細かい石英砂粒多く含む
37	66	SK122	4D15		土師器	長甕	(24.0)			長・石・海		橙 (5YR7/6)	酸化	カキメ	ロクロナデ		3/36		
37	67	SK122	4D15		土師器	長甕	(26.4)			長・石・雲・海・赤・砂		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ハケメ	ハケメ		2/36		
37	68	SK125	3D24		土師器	壺				長・石・赤		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				
37	69	SK125	3D25		土師器	長甕	(22.0)			長・石・赤・砂		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	カキメ	ロクロナデ		1/36		
38	70	SK129	3E18		土師器	無台碗	12.4	4.0	3.85	石・白		浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラミガキ	糸切り	18/36	16/36	右回転
38	71	SK141	5D9		土師器	無台碗	11.8	5.0	3.6	石・白・砂		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	34/36	20/36	右回転
38	72	SK145	4D5		須恵器	無台杯		(5.7)		白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3/36		墨書土器
38	73	SK145	4D5		土師器	無台碗		5.5		石・雲・白		橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	36/36		墨書土器 右回転
38	74	SK145	4D5 4D19	Ⅲ層	黒色土器	有台碗		7.5		長・石・雲		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ヘラミガキ (放射状)	ヘラ切り	36/36		墨書土器 内端接地高台 内黒処理
38	75	SK145	4D5		土師器	無台碗	13.0			石・海・白		灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		8/36		
38	76	SK145	4D5		土師器	無台碗	13.4	6.0	5.0	長・石・海・赤		灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ調整	4/36	36/36	右回転
38	77	SK145	4D5		土師器	無台碗	13.0			石・海・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		10/36		
38	78a	SK145	4D5		土師器	小甕	13.0			石・砂		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		11/36		口・体外スス、口内炭化物
38	78b	SK145	4D5		土師器	小甕		6.7		石・砂		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	7/36		体外スス
38	79	SK145	4D5		土師器	小甕	10.6			雲・海		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36		口・体外スス、口内炭化物
38	80	SK150	4D5		須恵器	無台杯	12.8			石・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺存率		備 考
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
38	81	SK150	4D5		土師器	無台碗	14.0	6.0	4.6	長・石・雲・海	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラミガキ	糸切り	8/36	7/36		
38	82	SK150	4D5		土師器	無台碗		5.6		石・チ・海・白・ 砂	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		34/36	墨書土器	
38	83	SK150	4D5		須恵器	甕	27.0			白・砂	灰 (N6/)	還元	タタキ カキメ	当て具痕		7/36			
38	84	SK181	4C24		土師器	無台碗	12.4	5.2	3.9	長・石・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	22/36	9/36		
38	85	SK181	4C24 5C4		土師器	無台碗	16.5	6.4	6.25	石・雲・海・砂	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	1/36	36/36	墨書土器	
38	86	SK183	4D24		須恵器	無台杯	12.0	6.6	3.0	白	オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	9/36		
38	87	SK183	4D19		須恵器	無台杯	13.8			長・雲	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36			
38	88	SK183	4D24		須恵器	杯蓋				白	青灰 (5PB6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					
38	89	SK183	4D24		須恵器	杯蓋				白	灰 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					
38	90	SK183	4D24		須恵器	横瓶	10.0			白	青灰 (5PB6/1)	還元	タタキ	当て具痕		7/36		円盤閉塞	
39	91	SK190	5D4		須恵器	無台杯	13.2	7.6	3.1	白	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	5/36	13/36		
39	92	SX190	5D4		土師器	長甕	21.0			長・石・雲	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	カキメ タタキ	ロクロナデ		6/36			
39	93	SK190	5D4		土師器	小甕	14.0			雲・赤	にぶい黄橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36			
39	94	SK190	5D4		土師器	小甕		5.8		長・石・赤・白	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	体外スス、体内炭 化物	
39	95	SK220	4D12		須恵器	無台杯	11.8	6.8	2.8	白	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	20/36	36/36	左回転	
39	96	SK220	4D12 4D13	Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.4	7.2	3.7	白	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	19/36	19/36	墨書土器 左回転	
39	97	SK220	4D12		須恵器	有台杯	13.0			白	灰 (10Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36			
39	98	SK220			土師器	長甕				石・海・白	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ハケメ 一部指圧	ハケメ 一部指圧				体内炭化物	
39	99	SK220			土師器	小甕		7.4		長・石・雲・海・ 白	にぶい橙 (2.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		20/36	左回転	
39	100	SD34	4C5	3層	須恵器	有台杯		7.0		雲・海	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		外端接地	
39	101	SD34	4C5	3層	須恵器	無台杯		(7.0)		石・白	青灰 (5BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	墨書土器	
39	102	SD34	4C5	2層	土師器	無台碗	13.0			長・石・雲・赤・ 砂	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36			
39	103	SD34	4C5	2層	土師器	小甕		7.8		長・石・チ・角・ 雲・赤・白	淡赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		14/36		
39	104	SD66	5E4	5層	須恵器	無台杯	13.2	9.0	3.1	長・石・白	灰白 (2.5GY8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後一 部ナデ調整	15/36	22/36		
39	105	SD66	4E20 4E25 4E25	4層 5層 1層	須恵器	無台杯	12.4	9.0	3.3	石・赤・白	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	15/36	18/36	右回転	
39	106	SD66	5E4	4層	須恵器	無台杯	12.0			白	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36			
39	107	SD66	5E10	1層	須恵器	有台杯		6.2		白	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		12/36		
39	108	SD66	4E20 4E15	4層 Ⅲ層	土師器	無台碗		4.8		石	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		11/36	墨書土器	
39	109	SD66			須恵器	有台杯	(14.0)			赤・白	暗青灰 (5B3/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36			
39	110	SD66	4E20 4E13	4層 Ⅲ層	須恵器	無台杯	13.4			長・石・白	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		8/36			
39	111	SD66	5E9	1層	須恵器	無台杯		8.2		石・赤	灰白 (2.5Y8/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		20/36	左回転	
39	112	SD66	3F21		須恵器	杯蓋	13.7		2.4	長 (5mm前後 含む)・石・白・ 砂	明青灰 (5PB7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		25/36			
39	113	SD66	4F2 4F7	2層 1層	須恵器	杯蓋	15.0		2.3	白	明青灰 (5PB7/1)	還元	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ		2/36			
39	114	SD66	4F11	4層	須恵器	杯蓋	13.0			白	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		内転用祝	
39	115	SD66	5E10	5層	土師器	長甕	21.6			長・石・雲・海・ 赤・砂	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ		20/36		体外下半スス 西 古志型甕	
39	116	SD66	5F11		須恵器	甕	21.4			長	灰 (7.5Y5/1)	還元	タタキ	タタキ		5/36			
39	117	SD66	5E5	3層	土師器	長甕	(21.0)			長・石・雲・赤・ 砂	灰白 (10YR8/2)	酸化	ハケメ	ハケメ		4/36		西古志型甕	
39	118	SD66	5E4 5E24	1層	土師器	長甕	22.0			長・石・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ		6/36			
40	119	SD66	5E14		土師器	鉢	(26.4)			長・石・雲・海・ 砂	淡橙 (5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	カキメ		3/36		試掘4TYに同一個 体	
40	120	SD66	4E25	5層	土師器	小甕	14.0			長・石◎・赤◎	灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ハケメ	ハケメ		6/36		西古志型甕 口内 炭化物	
40	121	SD66	4F2	2・5層	土師器	小甕	(19.0)			長・石・雲	淡赤橙 (2.5YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ		2/36		西古志型甕	
40	122	SD66	4E20	4層	土師器	小甕	(16.0)			長・石・雲・海	橙 (2.5YR6/6)	酸化	ハケメ	ハケメ		4/36			
40	123	SD66	4E24	1層	土師器	鍋	(34.2)			長・石・雲・海	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36			
40	124	SD69	4E23		須恵器	無台杯	(11.8)	(8.0)	3.05	白	B 明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		
40	125	SD69	4E23	1層	須恵器	無台杯				白	B 灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			墨書土器	
40	126	SD69	4E18		土師器	無台碗	12.7			石・雲	橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36			
40	127	SD69	4E18		土師器	無台碗	14.0			長・石・白	灰白 (7.5YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		13/36			
40	128	SD88	3E22		土師器	小甕	13.0			長・雲・赤・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		9/36		体外スス、口内炭 化物	
40	129	SD88	3E23		土師器	小甕		7.4		長・石・雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36		
40	130	SD96	3E12		須恵器	無台杯		8.0		白	B 明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		13/36		
40	131	SD96	3E12		土師器	長甕	23.6			長・石・雲・白	橙 (5YR7/6)	酸化	カキメ	ロクロナデ		5/36			
40	132	SD130	3F23 4E4	1層 Ⅲ層	須恵器	有台杯	11.0			白	B 明赤褐 (2.5YR5/6)	還元	ロクロナデ ヘラズリ	ロクロナデ	ヘラ切り		8/36		
40	133	SD137	3E12		須恵器	無台杯	11.8	8.2	3.05	白	B 灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		2/36	11/36	
40	134	SD137	3E19		須恵器	無台杯		9.0		白	B 灰白 (N8/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	墨書土器	

観 察 表

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺存率		備 考
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
40	135	SD137	3E20	4~8層	土師器	無台碗	(12.6)			長・雲・海		にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		
40	136	SD137	3E20	4~8層	黒色土器	無台碗		5.9		長・石		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ		5/36	内黒処理	
40	137	SD137	3E20 3E25	4~8層 Ⅲ層	須恵器	杯蓋	13.5		1.5	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36		右回転
40	138	SD137	3E25		須恵器	長頸瓶		9.0		長・石 (5mm大) ◎	A	オリーブ黒 (7.5Y3/1)	還元	ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ		36/36	内端接地高台	
40	139	SD210	5F5	1層	須恵器	有台杯	11.4	7.0	3.5	雲・白	B	暗灰 (N3/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	1/36	15/36	外端接地高台
40	140	SD210	4G11	1層	須恵器	有台杯	(14.0)	(7.6)	(4.5)	長・白 (6mm大あり)	C	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3/36	2/36	内端接地高台
40	141	SD210	4G6	1層	須恵器	有台杯	13.2	7.7	5.2	長	C	明青灰 (5PB7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	6/36	21/36	右回転 内端接地高台
40	142	SD210	4G6 4F25 4F24 5E8	1層 1層 Ⅲ層 Ⅲ層	須恵器	長頸瓶	8.8			白	B	暗灰 (N3/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36		
40	143	SD210	5F5	1層	須恵器	杯蓋	12.9			長・雲・白	C	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ		8/36		転用硯
40	144	SD210	5F5	1層	須恵器	杯蓋	12.8		2.7	白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36		
40	145	SD218	4G18	1層	須恵器	有台杯	12.0	7.0	3.75		C	暗緑灰 (10G4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	12/36	外端接地高台
40	146	SD219	4F19 4F8	1層 Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.0	8.2	3.2	長・白	B	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	13/36	28/36	
40	147	SX209	5F8 5F4	1層 Ⅲ層	須恵器	有台杯	16.0	9.4	8.3	長 (5mmが多い)	A	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	6/36	36/36	右回転
40	148	SX229	4E18		土師器	無台碗	12.2	6.0	3.6	長・石・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り後 ナデ調整	32/36	32/36	
40	149	SX229	4E23		土師器	無台碗	13.0	5.0	3.9	長・石		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	19/36	26/36	
40	150	SX229	4E13	3層	須恵器	杯蓋				白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ ヘラケズリ	ロクロナデ				右回転
40	151	SX229	4E8 4E9		土師器	無台碗	12.4	5.4	4.1	長・石 (5mm前後定置) ・雲・海		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り後 ヘラケズリ	6/36	36/36	
41	152	SX229	4E18		土師器	無台碗	12.8	4.3	4.3	石・雲・海・赤		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	1/36	36/36	右回転
41	153	SX229	4E13	1層	土師器	無台碗	13.0	5.2	3.2	長・石・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ ヘラケズリ	ロクロナデ	糸切り	14/36	6/36	
41	154	SX229	4E12		土師器	無台碗	13.0	4.8	4.4	長・石・雲・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	9/36	12/36	
41	155	SX229	4E9		土師器	無台碗	12.4	4.8	4.55	長・石・雲・海		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	13/36	36/36	墨書土器 左回転
41	156	SX229	4E23		土師器	無台碗		5.0		長・石		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		25/36	墨書土器 右回転
41	157	SX229	4E17		土師器	無台碗	12.8	5.8	3.65	長・石・雲・海・白		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	7/36	9/36	墨書土器
41	158	SX229	4E18	3層	土師器	無台碗	12.0	5.6	3.85	長・石・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	14/36	29/36	墨書土器
41	159	SX229	4E18	3層	土師器	無台碗	13.0	5.2	4.3	長・石・雲・海・赤		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	16/36	29/36	墨書土器 右回転
41	160	SX229	4E17		土師器	無台碗		5.0		長・石・雲		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		24/36	墨書土器 右回転?
41	161	SX229	4E18		土師器	無台碗		5.4		長・石・雲		灰白 (5Y8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	墨書土器
41	162	SX229	4E7	1層	黒色土器	有台碗		7.4		長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	放射状ヘラ ミガキ			28/36	高台内転用硯 内端接地高台 内黒処理
41	163	SX229	4E18		土師器	長囊		12.6		長・石・雲		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	格子タタキ	当て具痕			6/36	
41	164	SX229	4E18	4層	土師器	小囊		7.4		長・石・雲・チ・赤		浅赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	体~底内炭化物 右回転
41	165	SX229	4E18	3層	土師器	鍋	34.0			長・石・雲・海・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36		
41	166	P102	4D20 4E1	Ⅲ層	須恵器	長頸壺		11.6		石・雲・白	C	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		16/36	高台内転用硯
41	167	P103	4D18 4D10 4D13 4D20	Ⅲ層 Ⅲ層 Ⅲ層 Ⅲ層	須恵器	有台杯	12.4	7.2	5.6	白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	21/36	右回転 内端接地高台
41	168	P103	4D18		土師器	無台碗	13.0	5.4	4.2	長・石・雲		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	15/36	19/36	
41	169	P110	4D19		土師器	鍋	39.0			長・石・雲・海		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ハケメ ヘラケズリ	カキメ ハケメ		9/36		体外下半スス、体内下半炭化物
41	170 a		4D22	Ⅲ層	土師器	円筒形土製品	10.2			長・石・雲・海・チ・白・砂		にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ヘラケズリ	ヘラケズリ ハケメ 指圧		5/36		鉱物多く含む粗い胎土 支脚か
41	170 b	P110	4D19		土師器	円筒形土製品		9.2		長・石・雲・海・チ・白		にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ハケメ	ハケメ		13/36		鉱物多く含む粗い胎土 支脚か
41	171	P118	4E6 4D20	1層 Ⅲ層	土師器	鍋	42.2			長・石・雲・海・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ タタキ 一部ヘラケズリ	ロクロナデ 当て具痕		11/36		
41	172	P127	4D9		須恵器	無台杯		7.3		長・石・雲	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	5/36		墨書土器
42	173	P155	4C10		土師器	長囊	(22.0)			長・石・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
42	174	P168	4C24		土師器	小囊	12.8			長・石・雲		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		13/36		口・体外スス、口内炭化物
42	175	P172	4C5 4C5 4C9 4E17	1層 Ⅲ層 Ⅲ層 Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.6	7.6	3.3	長・石・雲・白	C	にぶい黄橙 (10YR7/4)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	6/36	36/36	右回転
42	176	P172	4C5	1層	須恵器	無台杯	12.7	6.4	3.1	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	9/36	
42	177	P175	4D1	1層	土師器	無台碗	12.8	5.4	3.85	長・石		橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	7/36	器面の摩滅激しい
42	178	P175	4D1		土師器	無台碗	13.0					にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺 存 率		備 考
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
42	179	P175	4D1	1層	須恵器	無台杯	11.0	5.8	3.35	白	B	青灰 (10BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	7/36	28/36	右回転
42	180	P175	4D1	1層	土師器	小甕	16.0			長・石・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		内炭化物
42	181	P178		2層	須恵器	甕	20.0			白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	格子タタキ	当て具痕		9/36		
42	182	P204			土師器	無台碗	14.2	6.0	4.0	長・石・雲・チ		灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	1/36	35/36	左回転
42	183	P204	4D18		土師器	小甕 (14.8)				長・石・雲・砂		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36		器面の摩滅激しい 体外スス
42	184	P206	4D12		土師器	長甕	23.0			長・石・雲・角		橙 (5YR7/6)	酸化	カキメ	ナデ		7/36		SB901
42	185	遺構外	4F12	Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.0	9.5	4.1	長・石 (5mm 前後あり)・白	A	灰 (7.5Y6/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	7/36	25/36	右回転
42	186	遺構外	4E14 4E15	Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.0	7.4	3.2	白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	15/36	右回転
42	187	遺構外	4D23	Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.6	8.5	3.2	石・赤 (定量あり) ・白	C	にぶい黄橙 (10YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	9/36	22/36	右回転
42	188	遺構外	4C4	Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.0	7.8	3.1	長・石・白	B	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	19/36	19/36	
42	189	遺構外	4F12	Ⅲ層	須恵器	無台杯	11.8	7.6	3.2	石・チ・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	7/36	22/36	墨書土器 右回転
42	190	遺構外	4C13	Ⅲ層	須恵器	無台杯	11.5	5.4	3.2	石・白	B	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	11/36	墨書土器
42	191	遺構外	3G18	Ⅲ層	須恵器	無台杯	12.0	7.0	2.8	石・白	B	明青灰 (5BG7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	7/36	22/36	墨書土器 (字体異なる)
42	192	遺構外	3D24	Ⅲ層	須恵器	無台杯		7.0		石・白	B	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8/36	墨書土器
42	193	遺構外	4D9	Ⅲ層	須恵器	無台杯		7.4		石・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		12/36	墨書土器 右回転
42	194	遺構外	3C23	Ⅲ層	須恵器	無台杯		9.0		石・海・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8/36	墨書土器
42	195	遺構外	3E23	Ⅲ層	須恵器	無台杯		9.0		長・石・赤	B	灰白 (2.5GY8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		10/36	墨書土器
42	196	遺構外	4G16	Ⅲ層	須恵器	無台杯		9.0		石・白	B	明オリーブ灰 (5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5/36	墨書土器
42	197	遺構外	3D15	Ⅲ層	須恵器	無台杯		7.4		石・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	墨書土器
42	198	遺構外	5F12	Ⅲ層	須恵器	無台杯		8.0		石・白	B	オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		10/36	墨書土器
42	199	遺構外	4E8 4E14	Ⅲ層	須恵器	無台杯		6.0		石・赤・白	C	青灰 (5BG6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		5/36	墨書土器
42	200	遺構外	5E10	Ⅲ層	須恵器	有台杯	9.6	6.4	4.5	雲・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	2/36	17/36	右回転 外端接地 高台
42	201	遺構外	4F24	Ⅲ層	須恵器	有台杯	9.3	5.6	4.9	雲・白	B	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	11/36	36/36	右回転 水平接地
42	202	遺構外	3F16	Ⅲ層	須恵器	有台杯	12.4	7.2	4.0	雲・海・白 (6 ~8mm大あり)	C	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	12/36	左回転? 内端接 地
43	203	遺構外	3D19	Ⅲ層	須恵器	杯蓋	13.7		2.6	石・雲・白	C	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		内転用硯
43	204	遺構外	3D25 4E1 試掘3T	Ⅲ層	須恵器	長頸壺	12.5			白	B	灰 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		
43	205	遺構外	4E17	Ⅲ層	土師器	無台碗	15.6	5.2	5.5	石・雲・海・赤・ 白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	8/36	21/36	
43	206	遺構外	4D5	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.0	5.6	4.95	長・石・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	5/36	36/36	右回転
43	207	遺構外	4E17	Ⅲ層	土師器	無台碗	13.6	5.8	4.5	長・石・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	7/36	16/36	右回転
43	208	遺構外	3E16	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.8	5.2	4.4	長・石		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	5/36	13/36	右回転 外赤彩
43	209	遺構外	4E17	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.8	4.7	4.0	雲・海		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	5/36	36/36	右回転
43	210	遺構外	4D14	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.2	5.6	4.1	長・石・雲・白		にぶい橙 (5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	2/36	13/36	右回転
43	211	遺構外	4C24	Ⅲ層	土師器	無台碗	11.8	5.4	3.6	石・雲・角・砂		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	7/36	19/36	右回転
43	212	遺構外	4E17	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.4		石・雲		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	墨書土器
43	213	遺構外	3E18	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.8	4.7	3.85	長・石・海		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	4/36	36/36	右回転
43	214	遺構外	3E18	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.2	4.8	4.4	石 (7mm大あり) ・チ・砂		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	13/36	12/36	
43	215	遺構外	3F16 3F17	Ⅲ層	黒色土器	無台碗		6.0		長・石・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラ切り		17/36	鉢軸陶器模倣 内 黒処理
43	216	遺構外	4E19	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.8		石		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	?		8/36	墨書土器
43	217	遺構外	4E7 4E12	Ⅲ層	土師器	無台碗	13.1	5.0	4.4	長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	9/36	36/36	墨書土器 右回転 外赤彩
43	218	遺構外	3D25	Ⅲ層	土師器	無台碗	12.0	5.6	3.9	長・石・海・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	12/36	9/36	墨書土器 右回転
43	219	遺構外	5C4	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.6		長・石・白		浅黄橙 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		18/36	墨書土器 右回転
43	220	遺構外	3D15 3D25	Ⅲ層	土師器	無台碗	13.0	5.0	4.2	長・石・雲・海 ◎・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	11/36	29/36	墨書土器 右回転
43	221	遺構外	4E17	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.2		長・石・チ		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		18/36	墨書土器 右回転
43	222	遺構外	3E23	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.8		長・石・雲		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		34/36	墨書 刻字「x」
43	223	遺構外	5D13	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.6		石・海		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		9/36	墨書土器
43	224	遺構外	5D15	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.2		長・石・海・赤		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		18/36	墨書土器
43	225	遺構外	3C19	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.4		石・雲		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		11/36	墨書土器 右回転 墨書土器 内黒処 理
43	226	遺構外	3E16	Ⅲ層	黒色土器	無台碗		6.0		長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ヘラミガキ	糸切り		22/36	
43	227	遺構外	4D18	Ⅲ層	土師器	無台碗		4.4		長・石・雲・海 ◎		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	墨書土器 右回転
43	228	遺構外	4F12	Ⅲ層	土師器	無台碗		5.2		長・石・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	墨書土器 右回転
43	229	遺構外	4E17	Ⅲ層	土師器	長甕 (25.8)				長・石・雲・砂		にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ハケメ	口縁部ハケ メ 体部ナデ?		2/36		佐渡型甕 口・体 外スス、口・体内 炭化物
43	230	遺構外	4D12	Ⅲ層	須恵器	杯蓋				白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				墨書土器 内転用 硯
43	231	遺構外	5D4	Ⅲ層	土師器	無台碗		6.0		長・石		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		13/36	墨書土器

観 察 表

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺存率		備 考
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
43	232	遺構外	4D19	Ⅲ層	土師器	小甕	14.3			長・石・雲		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ハケメ	口縁部ロク ロナデ 体部ハケメ		7/36		西古志型甕 口・ 体外スス、口内炭 灰物
43	233	遺構外	3E14	Ⅲ層	土師器	長甕		6.8		長・石・赤・白・ 砂		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ヘラケズリ	ナデ	ナデ 指圧		16/36	鉱物を多く含む胎 土
43	234	遺構外	5D4	Ⅲ層	土師器	小甕		5.6		長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	右回転

下層

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺存率		備 考
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
47	294	SB906 -P340	4F1	2層	須恵器	無台杯		7.0		白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	
47	295	SK284			須恵器	有台杯	12.3	9.3	3.7	長・石 (2~ 3mm)、雲・砂	C	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	13/36	水平 (内端) 接地 高台
47	296	SK331	4E7	3層	土師器	小甕	13.0			長◎・石◎		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ		14/36		西古志型甕 口・ 体外スス、口・体 内上半炭灰物
47	297	SK360	3F14	4層	須恵器	無台杯	12.4	9.4	3.3	長・石・砂	C	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	7/36	36/36	右回転
47	298	SK366	3F20	2層	土師器	小甕	14.0			長・石・雲・赤・ 砂		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化		ヘラナデ		1/36		口内炭灰物
47	299	SK388	5E4	Ⅳb層	須恵器	有台杯	13.1	7.3	4.2	長・石・海・白・ 砂	C	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	8/36	20/36	内端接地高台
47	300	SK411			土師器	小甕 (13.4)				長◎・石◎・ 雲・赤		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ハケメ	ハケメ		2/36		西古志型甕
47	301	SK510			須恵器	無台杯	12.2	7.0	3.3	長・石・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	35/36	36/36	右回転
47	302	SK510			須恵器	無台杯	11.8	7.0	2.9	白	B	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	5/36	16/36	黒の染み出し
47	303	SK510			須恵器	有台杯	12.8	6.8	3.8	長・石・雲・白 ◎	C	灰 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36	11/36	外端接地高台
47	304	SK510			須恵器	無台杯		7.0		長・石・白	B	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	墨書土器
47	305	SK510			須恵器	無台杯	12.4	8.0	3.1	雲・白	B	明青灰 (10BG7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	18/36	墨書土器
47	306	SK510	3C25 3C25	Ⅳb層	須恵器	無台杯	12.0	8.0	3.15	長・石・白	B	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	5/36	5/36	墨書土器
47	307	SK510			土師器	長甕	21.4			長・石・雲		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ ヘラケズリ	カキメ		4/36		体外スス、体内炭 灰物
47	308	SK510			土師器	長甕 (19.0)				長・石・雲・砂		橙 (2.5YR6/6)	酸化	カキメ	カキメ		3/36		体外スス
47	309	SK524	5D7 5D7	Ⅳb層	須恵器	無台杯 (12.0)				石	B	明青灰 (10BG7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36		墨書土器
47	310	SK526			須恵器	無台杯	12.6	8.0	3.3	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	19/36	36/36	
47	311	SK583	3C24	3層	須恵器	無台杯	11.8	8.2	3.0	石・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	31/36	36/36	取り上げNo.5
47	312	SK583	3C24	3層	須恵器	無台杯	12.4	8.6	3.05	白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	29/36	36/36	右回転 取り上げ No.2・3
47	313	SK583	3C24	3層	須恵器	無台杯	13.0	8.8	3.0	石・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	18/36	19/36	右回転 取り上げ No.6
47	314	SK583	3C24	3層	須恵器	無台杯	13.3	8.0	3.9	石・白	B	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	31/36	36/36	右回転 取り上げ No.1・7
47	315	SK583	3C24	4層	須恵器	無台杯				石・白	B	灰 (N5/)	還元			ヘラ切り			墨書土器
47	316	SK653			土師器	製塩 土器	17.5			長・石・雲・赤・ 砂		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ハケメ ヘラケズリ	ハケメ 指 圧 接合痕		7/36		
47	317	SD246	5F9		須恵器	杯蓋	12.3			白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ ヘラケズリ	ロクロナデ		8/36		
47	318	SD271	4E18		黒色土器	無台碗		(7.0)		石・海		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ヘラミガキ	糸切り		2/36	墨書土器 内黒 処理
47	319	SK696	4G1	2層	土師器	長甕	22.9			長・石・雲・赤・ 砂		淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	カキメ タタキ	カキメ 当て具痕		7/36		
48	320	SD334	3F7	1層	須恵器	有台杯	12.3	6.5	3.6	石・白	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	20/36	36/36	右回転 外端接 地高台
48	321	SD334	3F7 3F16	1層 Ⅳb層	須恵器	無台杯	12.3	7.8	3.9	長・石・雲	C	灰白 (5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	21/36	36/36	右回転
48	322	SD417			土師器	無台碗	12.6	4.9	4.3	長・石・雲・海		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	3/36	22/36	右回転
48	323	SD461	4C15		須恵器	有台杯	13.0	6.8	5.45	長・石・白	B	青灰 (10BG5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	30/36	36/36	左回転
48	324	SD461	4C14		須恵器	無台杯	11.8	6.8	3.1	白	B	オリブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	14/36	18/36	墨書土器 右回 転
48	325	SD481			須恵器	無台杯	11.6	8.0	3.1	長・石・白	B	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	23/36	36/36	左回転
48	326	SD481			須恵器	無台杯	12.0	7.8	3.5	石・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	9/36	
48	327	SD481			土師器	小甕	15.0			長・石・雲・赤		淡橙 (5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36		口内炭灰物
48	328	SD507			須恵器	無台杯	12.8	8.3	2.75	雲・白	B	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	6/36	8/36	
48	329	SD508	3C24 3C25 4C10	Ⅳb層	須恵器	長頸壺	14.0			石・白	B	青灰 (5PB6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		
48	330	SD508	3C24		須恵器	無台杯	12.6	7.8	3.15	長・石・白・黒	C	明オリブ灰 (2.5G7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	1/36	19/36	墨書土器 左回 転
48	331	SD508	3C24 4D11	Ⅳb層	須恵器	長頸壺		10.4		石・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	内端接地高台
48	332	SD543	3C20 3C25	Ⅳb層 Ⅳb層	須恵器	杯蓋	14.5		2.6	白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		9/36		内転用硯 右回 転
48	333	SD600	4E19		土師器	小型甕 (13.4)				長・石・雲・赤・ 白		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ヘラミガキ	ヘラミガキ		2/36		
48	334	SD601	3F16 3F16	Ⅳb層	土師器	長甕		8.0		長・石・雲・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ヘラケズリ	ハケメ	ハケメ		14/36	

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法 量 (cm)			胎 土		色 調	焼成	調 整 ・ 手 法			遺 存 率		備 考		
		遺構	クワッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類(群)			外面	内面	底部	口縁部	底部			
48	335	SX384			須恵器	有台杯		8.9			石・白	C	にぶい黄 (10YR6/4)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		8/36	内端接地高台	
48	336	P247	5F4		須恵器	無台杯		9.0			長・石・白	C	灰白 (10Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		20/36	墨書土器 右回転	
48	337	P248		2層	須恵器	広口壺	7.8	5.4	8.2		白	B	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	11/36	36/36	内端接地高台	
48	338	P287			土師器	小甕		4.7			長・石・雲・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヘラケズリ	指圧 ナデ	ナデ			36/36	西古志型甕? 内 炭化物
48	339	P301	4F19		須恵器	無台杯	12.0	8.0	2.9		石・白	C	明オリープ灰 (2.5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	10/36		
48	340	P406	4E6		土師器	無台碗	(15.8)	(6.0)	(5.8)		石・海◎		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラ切り	2/36	4/36	沈線状の凹み2条 墨書土器	
48	341	P426	4D19	IVb層	土師器	小型壺	12.0				長・石・雲・白		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	へらケズリ 深い線状痕	ナデ ヘラケズリ 一部ヘラミ ガキ		7/36			
			5D3																		
48	342	P452	4D11		土師器	長甕	(21.5)				長・石・チ・赤		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ハケメ	ハケメ			4/36	西古志型甕 体外 スス 1~2mm の産物多く含む	
48	343	P478	4C9		土師器	小甕		6.9			長・石・雲・海・ チ・砂		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		18/36		
48	344	P488			須恵器	杯蓋	15.0		2.5		長・石・白	B	灰 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	9/36		墨書土器 内転用 観	
48	345	P498			須恵器	無台杯	13.0	7.5	3.3		石・白	B	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	14/36	18/36	墨書土器	
49	346	P545			土師器	小甕		5.0			長・石・雲・白・ 砂		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36		
49	347	P561			土師器	小甕	13.7				長・石・雲・海		褐灰 (10YR4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	体外スス、口内炭 化物	
49	348	P575	5F1	1層	土師器	小甕	14.5				長・石・雲・白		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ			4/36	体外スス、口内炭 化物	
49	349	遺構外	5F5	IVb層	須恵器	無台杯	14.0	10.0	4.1		白		灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	10/36	19/36	左回転	
49	350	遺構外	5E16	IVb層	須恵器	無台杯	12.8	8.6	3.5		長・石 (5~ 7mm前後多い)	A	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	21/36		
49	351	遺構外	4F16 5F2	IVb層	須恵器	無台杯	12.0	8.8	3.0		石・雲	C	灰白 (7.5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	18/36		
49	352	遺構外	4E13	IVb層	須恵器	無台杯	12.2	8.4	3.6		白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	11/36	36/36	左回転	
49	353	遺構外	4G19	IVb層	須恵器	無台杯	11.8	7.3	2.9		長・白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	10/36	26/36		
49	354	遺構外	4E24	IVb層	須恵器	無台杯	12.7	9.2	2.85		長・石・雲・白	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	7/36	15/36		
49	355	遺構外	5D15	IVb層	須恵器	無台杯	12.6	8.1	3.25		長・石・雲・白	B	灰白 (7.5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	18/36	36/36	左回転	
49	356	遺構外	4E9 4E10	IVb層	須恵器	無台杯	13.6	10.4	3.7		長・石・雲・海・ 白	C	明オリープ灰 (2.5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	8/36	23/36	右回転	
49	357	遺構外	5D7	IVb層	須恵器	無台杯	12.6	8.4	3.2		白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	3/36	17/36		
49	358	遺構外	4E20	IVb層	須恵器	無台杯	14.2	8.4	3.3		長・石・白	A	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	21/36		
49	359	遺構外	4G2	IVb層	須恵器	無台杯	10.0	7.4	4.0		石・白	B	灰白 (5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	13/36	19/36	左回転	
49	360	遺構外	4E24	IVb層	須恵器	無台杯	13.0	7.5	3.2		石 (3~5mm 前後あり)・雲・ 白	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	5/36	14/36		
49	361	遺構外	4C9	IVb層	須恵器	有台杯	14.8	9.5	6.95		白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	2/36	14/36	内端接地高台	
49	362	遺構外	5F3	IVb層	須恵器	有台杯	11.0	7.0	4.2		長・石・白	C	灰白 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3/36	5/36	水平接地高台	
49	363	遺構外	5E7 5E11	IVb層	須恵器	有台杯	12.2	7.4	3.8		長・石・白	C	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	8/36	28/36	右回転 外端接地 高台	
49	364	遺構外	3C19	IVb層	須恵器	無台杯	(8.0)				長・白	B	明青灰 (5BG7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	3/36		墨書土器	
49	365	遺構外	4G16	IVb層	須恵器	杯蓋	12.0		2.3		白	B	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ ヘラケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	7/36			
49	366	遺構外	4D13	IVb層	須恵器	杯蓋	14.6		2.1		白	B	黄白 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	24/36			
49	367	遺構外	4F2 4F12	IVb層	須恵器	甕	(45.8)				石・白	C	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ 波状文	ロクロナデ			3/36		
49	368	遺構外	4C10	IVb層	土師器	無台碗	12.6	4.5	3.9		長・石・雲・海		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	22/36	21/36		
49	369	遺構外	4D22	IVb層	土師器	無台碗		4.4			長・石・雲		橙 (2.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	墨書土器 外赤彩	
49	370	遺構外	5D7	IVb層	土師器	長甕	22.0				長◎・石◎・チ ◎・赤◎		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ハケメ	ハケメ			22/36	体外スス 西古志 型甕	
49	371	遺構外	5D3	IVb層	土師器	長甕	21.0				長・石・雲・チ		橙 (7.5YR7/6)	酸化	カキメ	カキメ			7/36	体外スス	
49	372	遺構外	3C25	IVb層	土師器	長甕	22.8				長・石・雲・チ・ 赤		橙 (5YR7/6)	酸化	カキメ	カキメ	口縁部カキ メ 体部ロ クロナデ一 部指圧		6/36		体外スス
50	373	遺構外	4E23	IVb層	土師器	長甕	19.0				長・石・雲・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ	不明			4/36	体外スス	
50	374	遺構外	5F6	IVb層	土師器	長甕	20.6				長・石・雲・赤		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ハケメ	ハケメ			8/36	西古志型甕	
50	375	遺構外	4D25	IVb層	土師器	小甕	13.4				長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ハケメ	ハケメ			5/36	西古志型甕?	
50	376	遺構外	5F6	IVb層	土師器	小甕	14.3				長・石◎・雲 ◎・海・白		にぶい黄 (5YR7/3)	酸化	カキメ ヘラケズリ	カキメ			3/36		
50	377	遺構外	4G16	IVb層	土師器	長甕					長・石・雲・海・ 白		にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	タタキ	当て具痕				体~底外スス	
50	378	遺構外	4C14	IVb層	土師器	小甕		7.1			長・石・雲・海		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		36/36	右回転 体・底外 スス、体・底内炭 化物	
50	379	遺構外	4G16	IVb層	土師器	鉢		5.0			長・石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		36/36	外赤彩	

観 察 表

上層・下層・陶磁器

図面 図版 番号	遺物 番号	出土位置			種別	器種	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	調整・手法			遺存率		備考
		遺構	グリッド	層位			口径	底径	器高	含有物	分類 (群)			外面	内面	底部	口縁部	底部	
52	394	遺構外	3D25 トレンチ		須恵器	無台杯	12.6	8.5	3.25	石・白	B	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	23/36	36/36	右回転
52	395	遺構外	4G8土 ソッコウ		須恵器	無台杯	12.4	8.2	2.9	石・白	C	明青灰 (5B7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整 線刻「×」	2/36	36/36	
52	396	遺構外	4G18 トレンチ		須恵器	有台杯		9.2		長・石◎・白◎	C	灰白 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		36/36	墨書土器「川合」 右回転 内端接地 高台
52	397	遺構外	4G3土 ソッコウ		須恵器	有台杯	11.8	6.0	3.6	長・石・雲	C	灰 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	15/36	36/36	右回転 外端接地 高台
52	398	遺構外	5F1土 ソッコウ 5F6土 ソッコウ		須恵器	無台杯	11.6	7.5	3.4	長・石・白	C	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	16/36	36/36	右回転
52	399	遺構外	4G8土 ソッコウ		須恵器	無台杯	12.2	8.0	3.3	チ・白	C	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整 線刻「×」	3/36	21/36	右回転
52	400	遺構外	5G1 トレンチ		須恵器	無台杯	12.0	7.6	3.8	石・海・白	B	青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整	7/36	18/36	墨書土器
52	401	遺構外	排土		須恵器	無台杯				石・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元		ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整			墨書土器
52	402	遺構外	確認5T	Ⅱb層	土師器	無台碗	11.8	5.0	3.8	長・石・雲		にぶい濁 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	27/36	右回転 外赤彩
52	403	遺構外	3C18土 ソッコウ		土師器	無台碗		5.6		長・石・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		糸切り		36/36	墨書土器 右回転
52	404	遺構外	4G8 トレンチ		土師器	鉢	(13.8)			長・石・雲・赤		淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	口縁部ロク ロナデ 体部カキメ	口縁部ロク ロナデ 体部カキメ		1/36		
52	405	遺構外	5D21土 ソッコウ		土師器	長甕	(21.4)			長・石・雲・赤		にぶい橙 (5YR6/3)	酸化	ハケメ	ハケメ		3/36		西古志型甕
52	406	遺構外	排土		土師器	長甕	15.2			長・石・雲・海・ 白		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	深いハケメ ヘラケズリ 指圧	ハケメ ヘラケズリ ナデ		1/36		
52	407	遺構外	排土		土師器	長甕	20.4			石・雲		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ カキメ	カキメ		7/36		
52	408	遺構外	4D7 攪乱		土師器	長甕	19.8			長・石・雲・チ・ 赤・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ カキメ	カキメ後一 部ハケメ後 ヘラナデ		7/36		体外スス
52	409	遺構外	3D19	Ⅲ層	肥前陶器	皿		4.3				灰白 (2.5Y7/1)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整		28/36	内外縁軸 水平接 地高台
52	410	遺構外	3E19	Ⅲ層	珠洲焼	すり鉢		(13.0)				灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	カキメ	ヘラナデ・ ハケメ		4/36	

別表 3 土製品観察表

上層

図面図版番号	遺物番号	出土位置			器種	法量 (cm)			重量 (g)	色調	焼成	備考
		遺構	グリッド	層位		長さ	径	孔径				
44	235	SB901-P207	5D3		支脚	2.45	3.5		17.5	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	
44	236		4F19	Ⅲ層	羽口	2.8	4.0	2.2	12.5	灰 (5Y6/1)	酸化	
44	237	SK57	4E16		土鉢	4.85	1.2	0.45	0.6	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	
44	238	SK92	4E12	2層	土鉢	3.7	1.4	0.4	5.5	灰白 (2.5Y8/1)	酸化	
44	239	SK183	4D24		土鉢	4.1	1.4		6.0	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	
44	240	SD210	5F5	1層	土鉢	3.2	1.5	0.6	5.5	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	
44	241	SX229	4E18	6層	土鉢	4.7	1.2	0.4	4.5	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	
44	242	SX229	4E23		土鉢	3.4	1.2	0.35	3.0	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	
44	243	SX229	4E18		土鉢	3.5	1.25	0.45	4.0	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	
44	244	SX229	4E18	6層	土鉢	4.1	1.2	0.4	4.0	灰白 (10YR8/2)	酸化	
44	245		4D15	Ⅲ層	土鉢	4.1	1.75	0.55	8.5	橙 (7.5YR7/6)	酸化	
44	246		4C20	Ⅲ層	土鉢	4.2	1.1		4.5	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	
44	247		4D18	Ⅲ層	土鉢	4.6	1.4	0.4	7.5	黄灰 (2.5Y4/1)	酸化	
44	248		4E22	Ⅲ層	土鉢	4.2	1.05	0.35	4.5	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	
44	249		4E21	Ⅲ層	土鉢	4.2	1.3	0.4	5.0	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	
44	250		4D20	Ⅲ層	土鉢	3.7	1.1	0.35	3.5	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	
44	251		5D10	Ⅲ層	土鉢	4.0	1.55	0.5	8.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	
44	252		4E24	Ⅲ層	土鉢	2.45	1.25	0.4	2.5	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	
44	253		5D13	Ⅲ層	土鉢	2.5	1.0	0.4	2.0	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	
44	254		5D4	Ⅲ層	土鉢	2.2	0.9	4.5	1.0	灰白 (5Y8/2)	酸化	

下層

図面図版番号	遺物番号	出土位置			器種	法量 (cm)			重量 (g)	色調	焼成	備考
		遺構	グリッド	層位		長さ	径	孔径				
50	380		4C9	Ⅳb層	土鉢	2.8	1.8	0.5	6.5	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	
50	381		4C20	Ⅳb層	土鉢	3.2	1.1	0.4	4.0	灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	
50	382		5E6	Ⅳb層	土鉢	3.9	1.15	0.4	4.5	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	
50	383		4D13	Ⅳb層	支脚	4.1	4.2		31.5	灰黄濁 (10YR4/2)	酸化	

別表 4 石製品観察表

上層

図面図版番号	遺物番号	出土位置			種別	機種	遺存状態	法量 (cm)			重量 (g)	備考
		遺構	グリッド	層位				長	幅	厚		
44	255	SK92		3層	石製品	石帯	ほぼ完形	3.65	3.85	0.8	26.5	石英
44	256		4E17	Ⅲ層	石製品	権状錘	ほぼ完形	4.9	3.3	2.3	45.5	蛇紋岩
44	257	SK78			石製品	砥石	上下端欠	4.5	4	1.5	43.5	
44	258		4C3	Ⅲ層	石製品	砥石	裏面・側一部欠	3.8	3.05	0.9	7.5	
44	259	P147	5D9		石製品	砥石	上下端一部欠	5.9	3.2	2.2	54	
44	260		5G9	Ⅲ層	石製品	砥石	上下端・側一部欠	5.1	3.5	1.7	47.5	
44	261		4D22	Ⅲ層	軽石		ほぼ完形	6.9	13.3	5.2	232	
44	262		4E12	Ⅲ層	軽石		上下端・側欠	13.3	12.6	8.8	419	

下層

図面図版番号	遺物番号	出土位置			種別	機種	遺存状態	法量 (cm)			重量 (g)	備考
		遺構	グリッド	層位				長	幅	厚		
50	384	SK388			石製品	磨石状石製品	ほぼ完形	12.9	16.2	6.0	1910	
50	385	SD271	4E19		石製品	砥石	上下端・側一部欠	5.8	3.7	0.8	22	
50	386	SD461			石製品	砥石	上下端・側一部欠	4.7	2.7	0.8	15	
51	387	P313	5D13		石製品	砥石	下端欠	5.7	4.7	3.1	83.5	
51	388		5C15	Ⅳb層	石製品	砥石	下端欠	4.7	3	1.55	23.0	
51	389		4F18	Ⅳb層	石製品	搬入碟	下端欠?	7.0	4.1	2.4	90.5	

別表 5 木製品観察表

上層

図面図版番号	遺物番号	出土位置			器種	遺存状態	法量 (cm)			木取	加工	樹種	自然科学分析 (放射性炭素年代測定・樹種同定) 試料No.	取り上げNo.
		遺構	グリッド	層位			長	幅	厚					
45	263	SB901-P59	4E16		木柱		69.5	12.7	10.8	丸木材	尖	キハダ属	1	1
45	264	SB901-P112	3D25, 4D5		木柱		70.5	28.1	26.2	丸木材	平	キハダ属	3	3-1
45	265	SB901-P119	4E11		木柱		57.1	13.1	8.1	丸木材	尖	ネズコ	4	4-1
45	266	SB901-P149	5E6		木柱		61.7	9.1	8.3	丸木材	尖	クリ	6	6
45	267	SB901-P152	4D10		木柱		96.8	15.8	15.2	分割材	尖	キハダ属	7	7
45	268	SB901-P187	5E1		木柱		43.5	9.5	5.9	丸木材	尖	クリ	8	8
45	269	SB901-P191	5D4		木柱		90.9	17.0	17.0	丸木材	尖	クリ	9	9
45	270	SB901-P192	5D15		木柱		105.0	12.3	13.4	丸木材	尖	クリ	10	10
45	271	SB901-P194	5D8		木柱		66.6	13.5	11.3	丸木材	尖	ネズコ	11	11
45	272	SB901-P197	4E22		木柱		53.6	12.0	8.3	丸木材	尖	クリ	12	12
45	273	SB901-P202	4D17		木柱		41.2	10.8	12.0	丸木材	尖	ネズコ	14	14
45	274	SB901-P203	4D7		木柱		41.3	16.7	16.8	丸木材	平	マツ属単維管束亜属	15	15
45	275	SB901-P205	4D18		木柱		51.3	17.4	16.4	丸木材	平	キハダ属	16	16
45	276	SB901-P206	4D13		木柱		77.6	31.9	27.5	丸木材	平	ネズコ	17	17
46	277	SB901-P207	5D3		木柱		91.7	12.2	14.4	丸木材	尖	ネズコ	18	18
46	278	SB901-P216	5E2・3		木柱		95.0	10.7	11.2	丸木材	尖	クリ	19	19
46	279	SB901-P232	4D14		木柱		64.2	13.8	13.5	丸木材	尖	クリ	20	20
46	280	SB901-P318	3D20		木柱		42.7	8.7	8.0	丸木材	尖	クリ	21	21
46	281	SB901-P383	4E17		木柱		55.8	13.9	8.6	丸木材	尖	クリ	23	29
46	282	SB903-P422	4C24		木柱		75.9	14.6	16.2	丸木材	尖	クリ	24	34
46	283	SB903-P503	5C14		木柱		58.7	16.0	11.2	丸木材	尖	トネリコ属	26	40
46	284	SE10	5C9	5	棒状製品	上端欠	13.0	0.6	0.5	榧目				2
46	285	SE10	5C9	5	棒状製品	上端欠	15.7	1.3	1.0	榧目				3
46	286	SE10	5C9	5	板状製品	下端一部欠	21.9	2.5	1.4	榧目				4
46	287	SE10	5C9	5	棒状製品	完形	19.3	0.6	0.4	榧目				1
46	288	SE10	5C9	5	円形板状製品 (曲物の底)	半分欠		8.2	0.8	榧目				5
46	289	SE40		4	棒状製品	下端一部欠	14.8	0.5	0.4	榧目				
46	290	SE443	5D7	2	円形板状製品 (曲物の底)	完形		16.7	0.9	榧目				2
46	291	SX229	4E14	3	円形板状製品 (曲物の底)	端一部欠		19.1	0.8	榧目				1

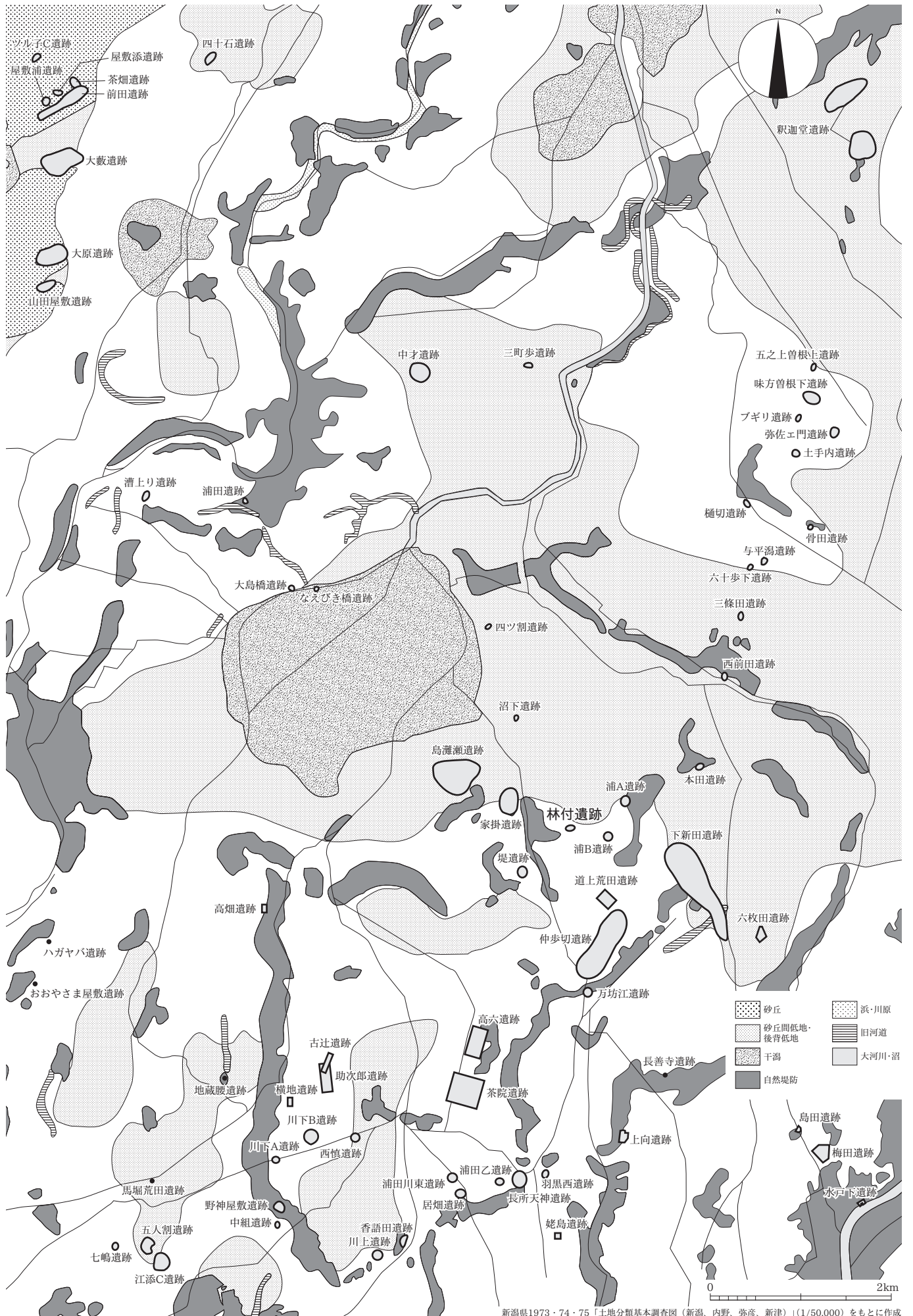
下層

図面図版番号	遺物番号	出土位置			種別	遺存状態	法量 (cm)			木取	加工	樹種	自然科学分析 (放射性炭素年代測定・樹種同定) 試料No.	取り上げNo.
		遺構	グリッド	層位			長	幅	厚					
51	390	SB906-P339	3F22		木柱		69.4	12.0	10.8	丸木材	平	クリ	22	23
51	391	SB907-P436	3F12・13		木柱		33.7	11.7	11.1	丸木材	尖	コナラ属コナラ節	25	36
51	392	P630	3F16・17		木柱		46.2	12.4	8.4	丸木材	平	カエデ属	27	48
51	393	P659	5E8		木柱		24.5	9.5	6.0	丸木材	平	コナラ属コナラ節	28	51

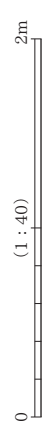
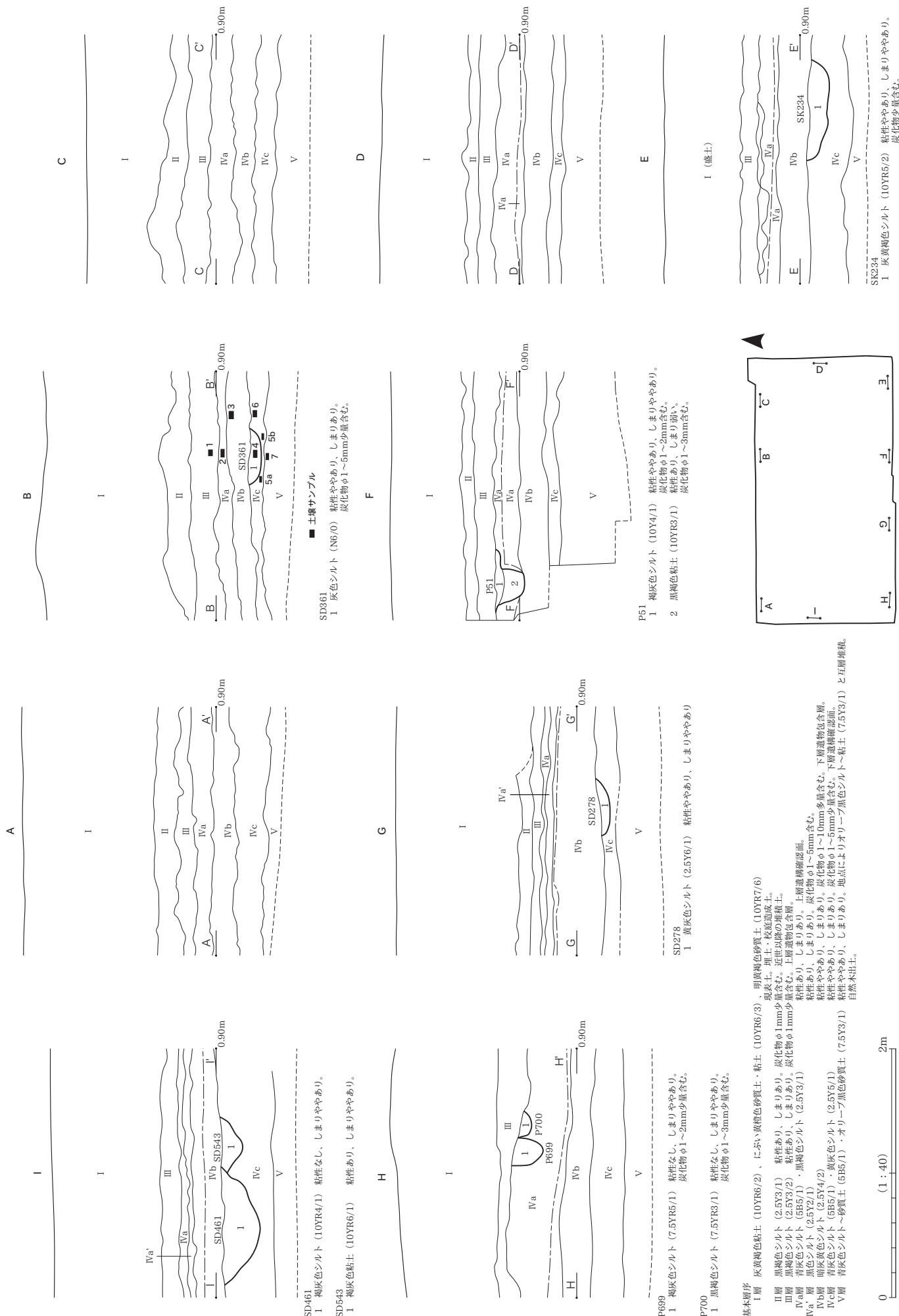
別表 6 金属製品観察表

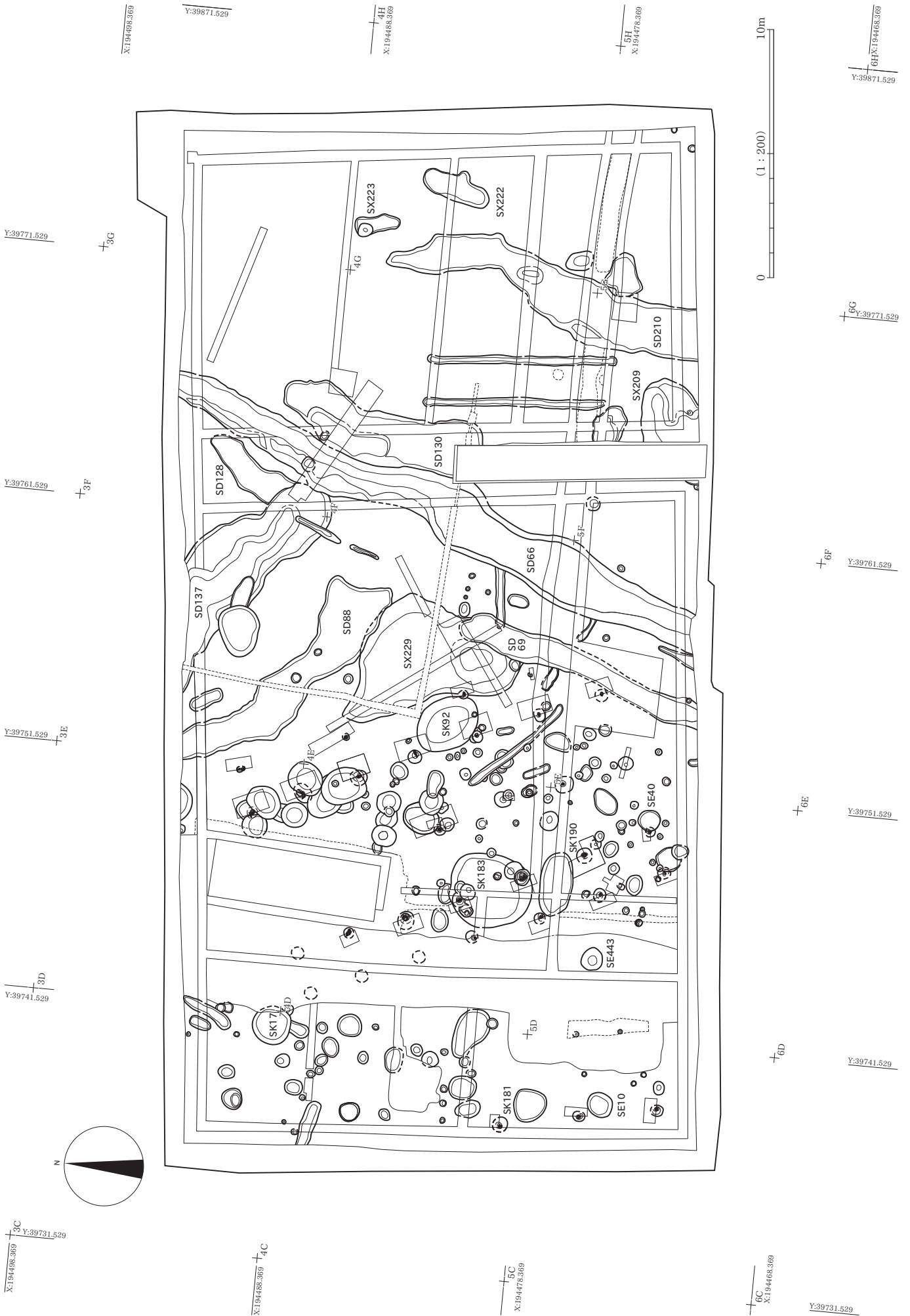
図面図版番号	遺物番号	出土位置		銭貨名	法量 (cm)			重量 (g)	初鋳年	備考
		グリッド	層位		外径	内径	厚			
46	292	4E17	Ⅲ層	天聖元寶	2.4	0.7	0.15	2.5	1023年	完形
46	293	4G16	Ⅲ層		2.2	0.7	0.05	0.5		半分欠損・摩滅激しい

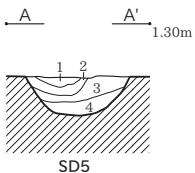
圖 版



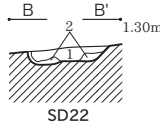
新潟県1973・74・75「土地分類基本調査図(新潟、内野、弥彦、新津)」(1/50,000)をもとに作成



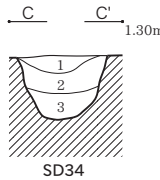




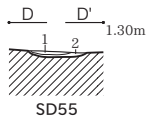
- SD5
- 1 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 2 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。1層より粘性あり。
 - 3 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。1・2層より粘性あり。
 - 4 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



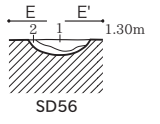
- SD22
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) 粘性あり、しまりあり。



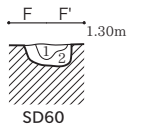
- SD34
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm含む。
 - 3 にぶい黄褐色粘土 (10YR4/3) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



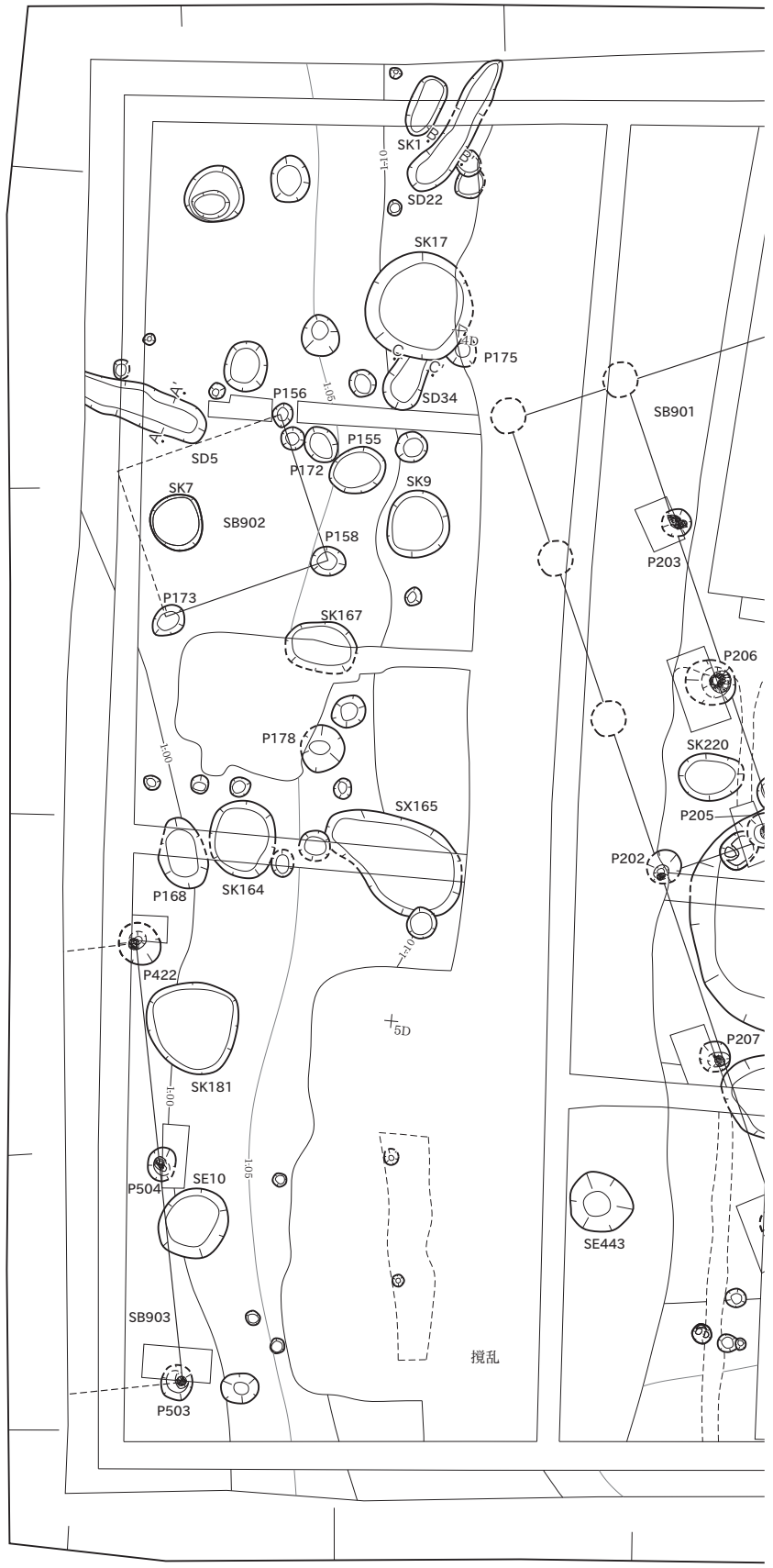
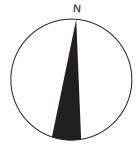
- SD55
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm多量含む。
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



- SD56
- 1 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 1~6mmの炭含む。しまり、ややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

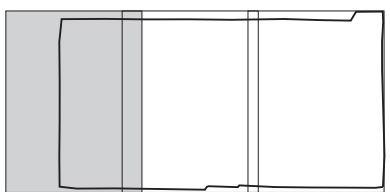


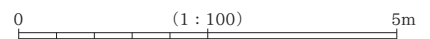
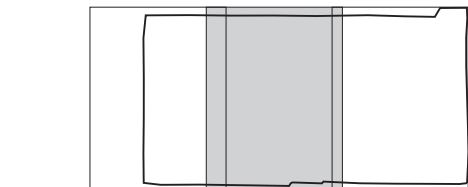
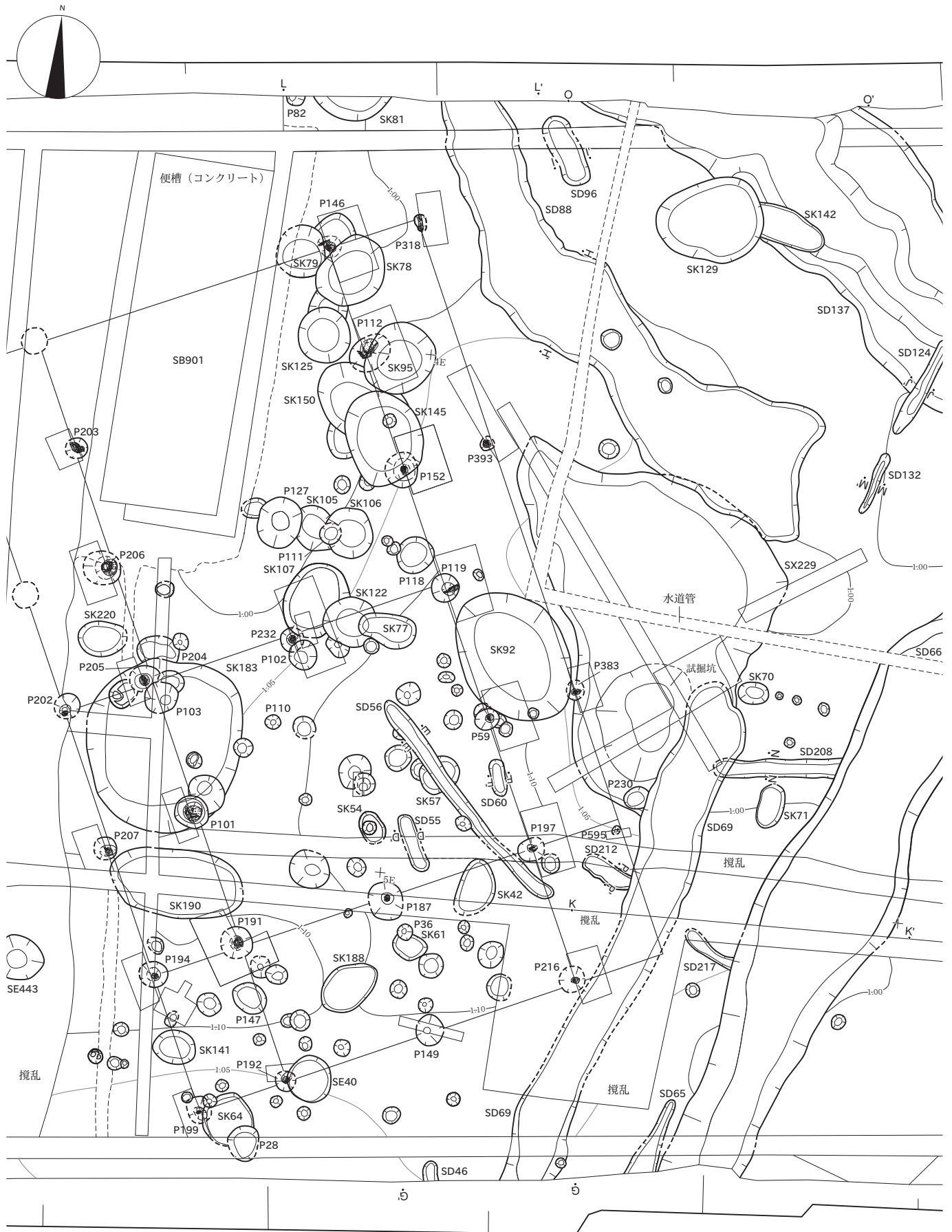
- SD60
- 1 褐灰色シルト (7.5YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 2 灰褐色シルト (7.5YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。

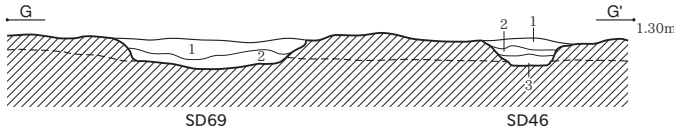


0 (断面図 1:40) 2m

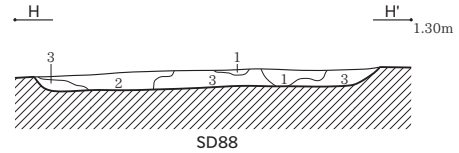
0 (平面図 1:100) 5m



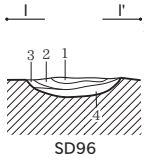




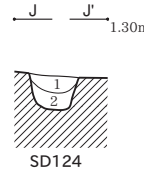
- SD69**
 1 褐灰色粘土 (7.5YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 2 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
- SD46**
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。炭層。
 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。



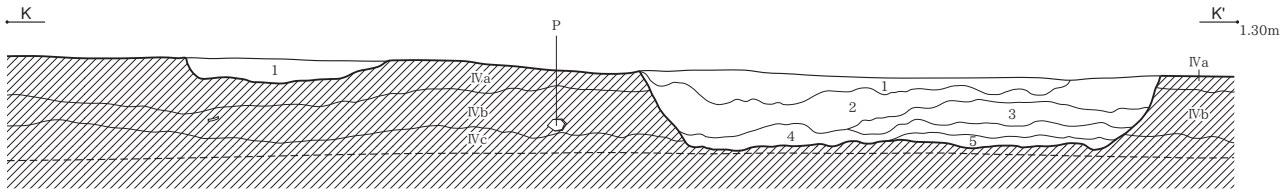
- SD88**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。



- SD96**
 1 暗灰黄褐色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりあり。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 3 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。
 4 灰色粘土 (5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。

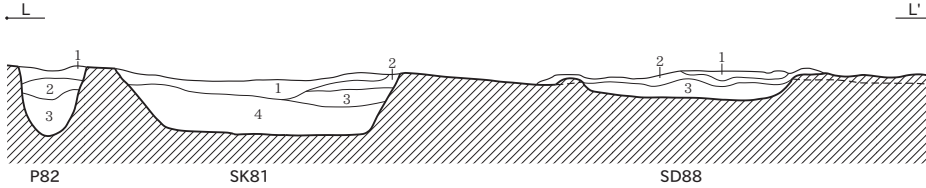


- SD124**
 1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりややあり。



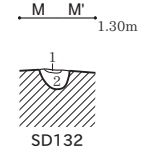
- SD69**
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2~3mm含む。

- SD66**
 1 黄灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 2 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。
 3 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。鉄分多い。
 4 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 5 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。

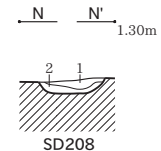


- P82**
 1 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。
- SK81**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 4 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

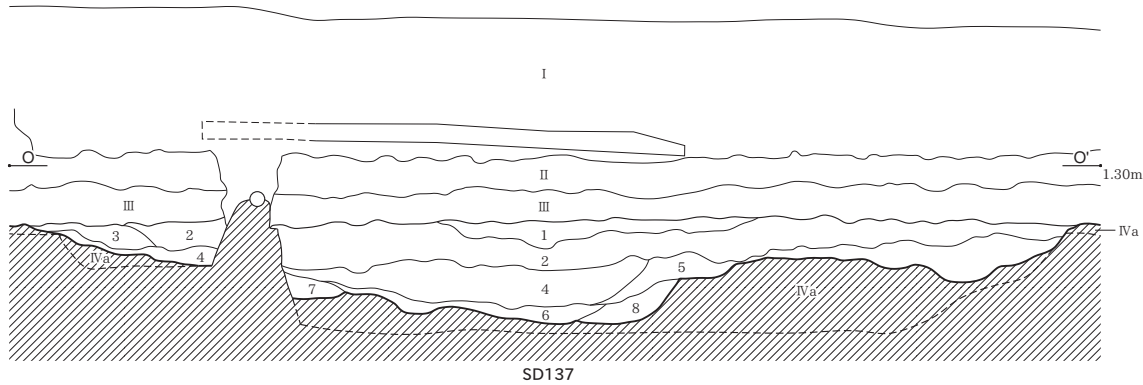
- SD88**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。



- SD132**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 灰色シルト (7.5Y5/1) φ1~2mmの炭含む。

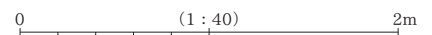


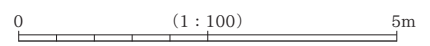
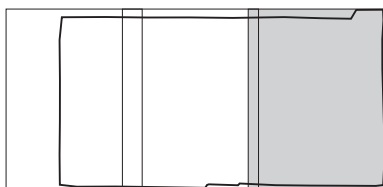
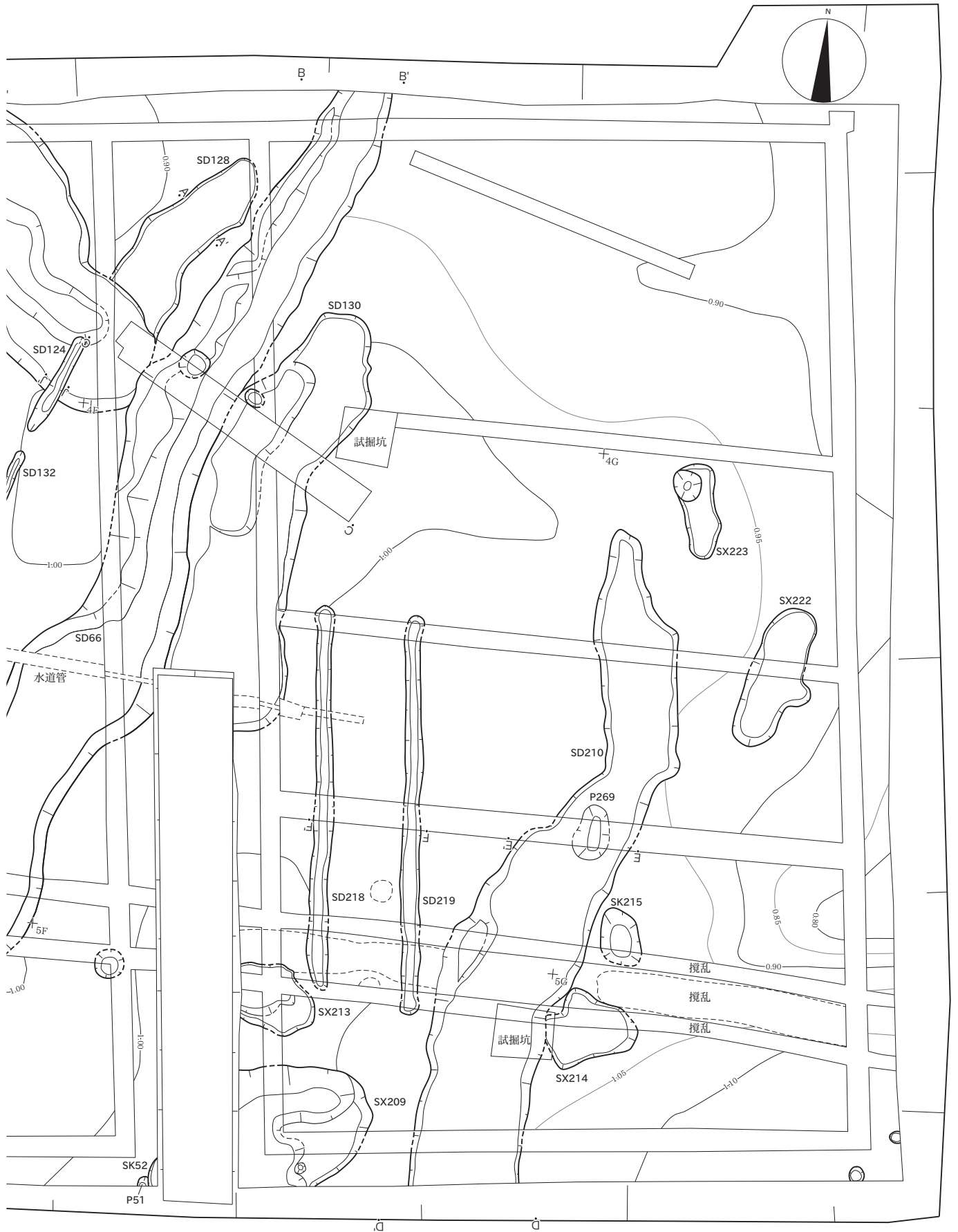
- SD208**
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性なし、しまりあり。炭化物少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性なし、しまりあり。

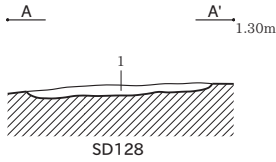


- SD137**
 1 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。
 2 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm少量含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm少量含む。
 4 灰色シルト (10Y4/1) とオリーブ黒色シルト (5Y3/1) の混合土 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 5 灰色シルト (10Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。
 6 褐灰色粘土 (10Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 少量混じる。
 7 灰色シルト (10Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm少量含む。
 8 灰色シルト (10Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 少量混じる。

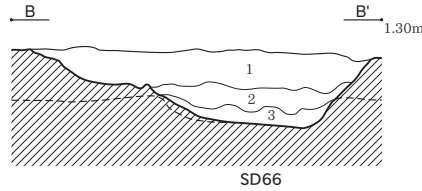
- SD212**
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性なし、しまりあり。



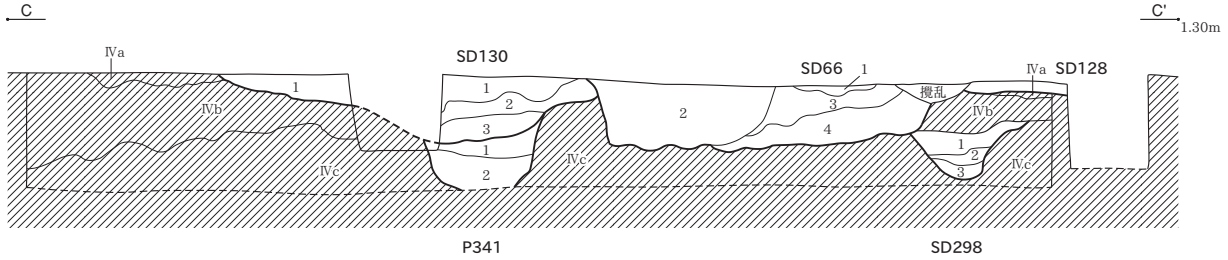




SD128
1 灰色シルト (7.5YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

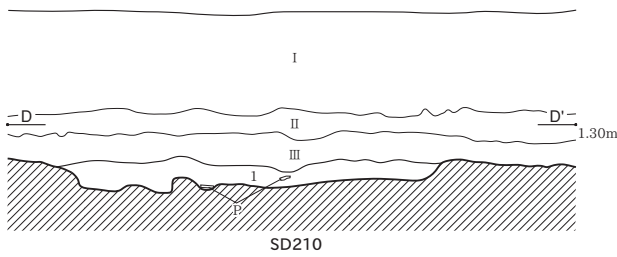


SD66
1 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~4mm含む。
3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

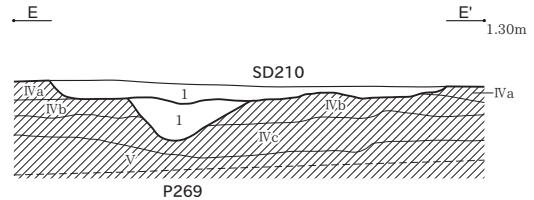


SD66
1 黄灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。
2 褐灰色シルト (10YR4/1) と黄灰色シルト (10YR6/1) の混合土 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。
3 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。
4 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。鉄分多い。
SD130
1 黒褐色シルト (10Y3/1) 粘性ややあり、しまりあり。褐灰色シルト (10YR4/1) 混じる。炭化物φ1~5mm少量含む。
2 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。
3 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。

下層P341
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。3層よりやや明るい。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。
2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。灰色シルト混じる。炭化物φ1~5mm少量含む。
下層SD298
1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。鉄分多い。
2 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。オーリーブ黒色シルト (5Y3/1) 混じる。
3 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。灰色砂質土混じる。

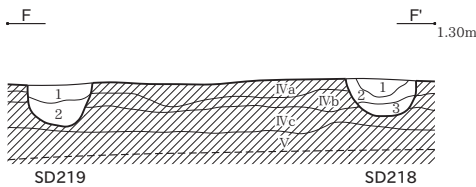


SD210
1 灰色粘土 (N6/1) 粘性あり、しまりややあり。暗灰色粘土多量混じる。黄色砂質土少量混じる。炭化物φ1~2mm少量含む。



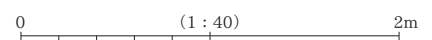
SD210
1 灰色粘土 (N6/1) 粘性あり、しまりややあり。暗灰色粘土多量混じる。黄色砂質土少量混じる。炭化物φ1~2mm少量含む。

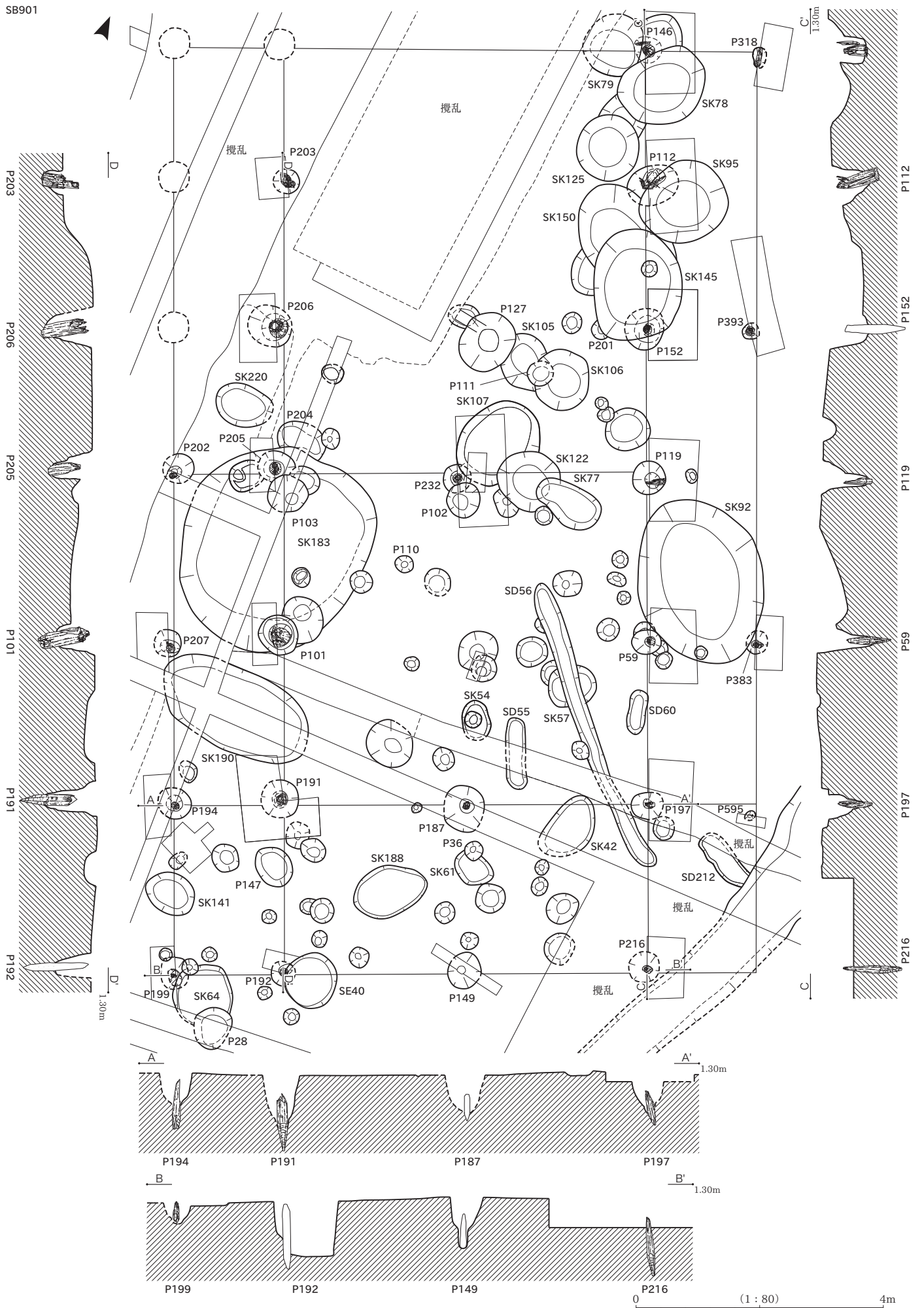
P269
1 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ2~10mm含む。

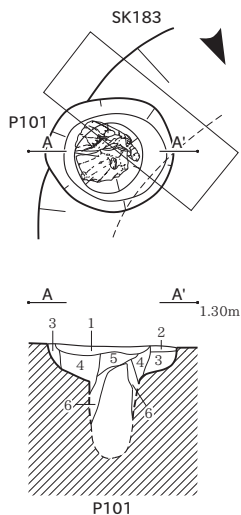


SD219
1 灰色シルト (N6/1) 粘性ややあり、しまりあり。黄色砂質土少量混じる。炭化物φ1~5mm少量含む。
2 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまりややあり。黄色砂質土少量混じる。炭化物φ5~10mm少量含む。

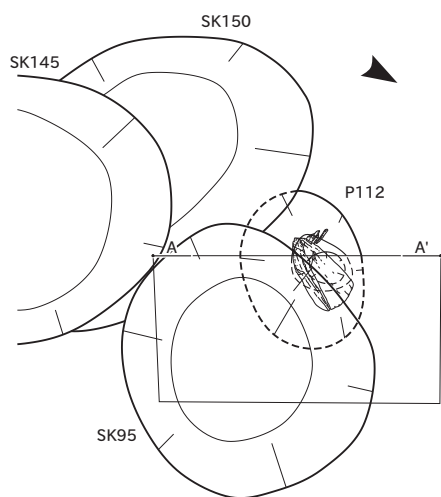
SD218
1 黄灰色シルト (N6/1) 粘性ややあり、しまりあり。黄色砂質土多量混じる。炭化物φ2~5mm少量含む。
2 灰色シルト (N6/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ5~10mm少量含む。
3 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ5~10mm多量含む。



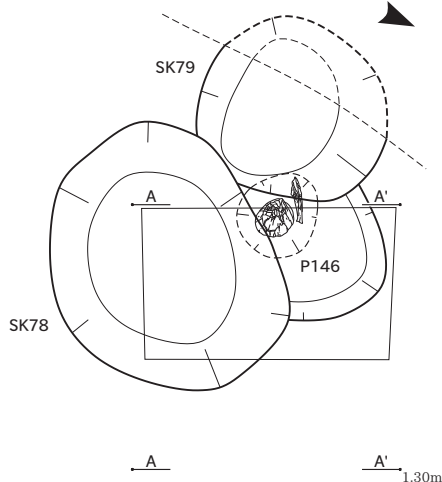




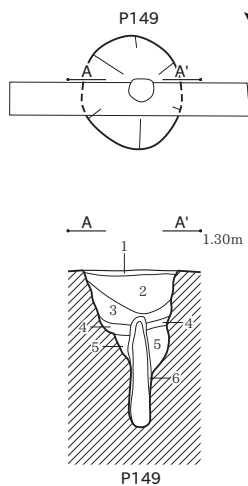
- P101
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 5 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 6 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。



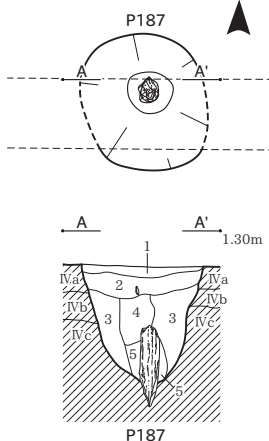
- P112
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。



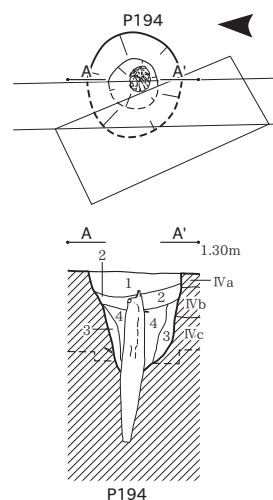
- P146
- 1 緑灰色シルト (5G6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまり弱い。



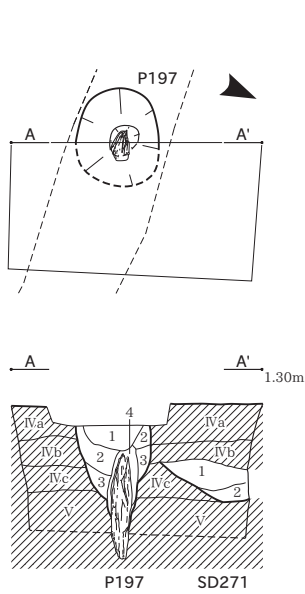
- P149
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 3 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 5 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 6 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり弱い。



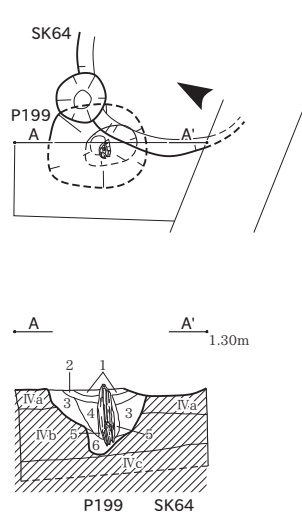
- P187
- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 2 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 5 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり弱い。



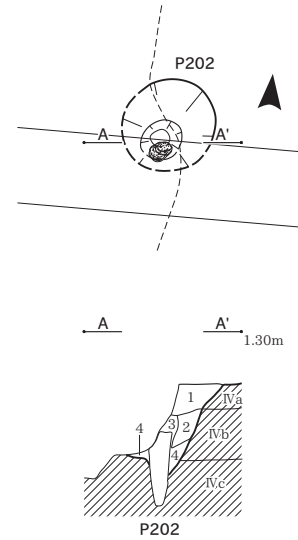
- P194
- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり弱い。



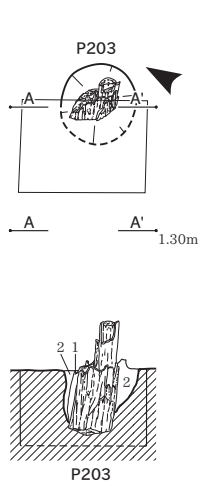
- P197**
- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 暗灰色粘土 (N3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 5 灰色粘土 (N6/1) 粘性あり、しまり弱い。
- SD271**
- 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



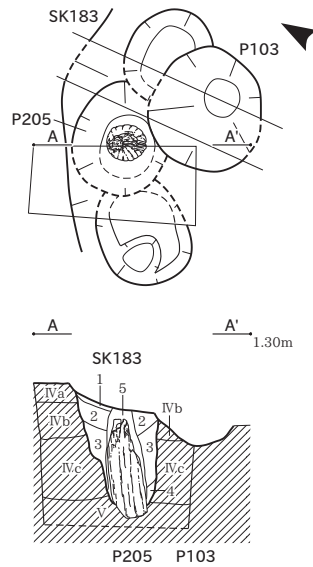
- P199**
- 1 暗黄褐色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰色シルト (N5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 暗灰色シルト (N3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 4 暗灰色粘土 (N3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 5 灰色粘土 (N4/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 6 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまり弱い。



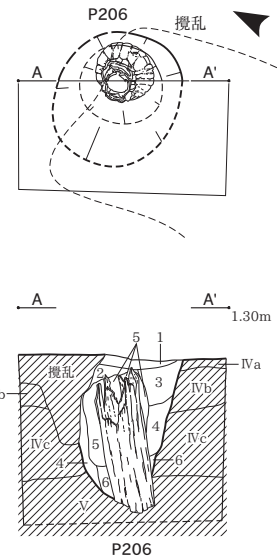
- P202**
- 1 灰色シルト (N4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 暗灰色粘土 (N3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまり弱い。



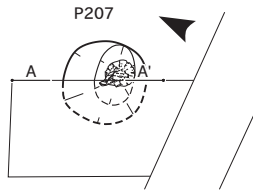
- P203**
- 1 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性あり、しまり弱い。
 - 2 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまり弱い。



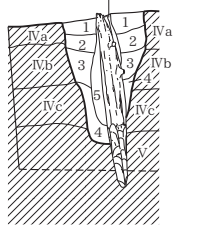
- P205**
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 暗灰色粘土 (N3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 4 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 5 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。



- P206**
- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 暗黄褐色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 4 灰色粘土 (N5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 5 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 6 灰色粘土 (N4/1) 粘性あり、しまり弱い。

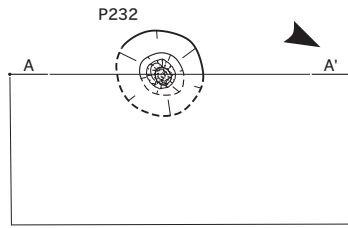


P207

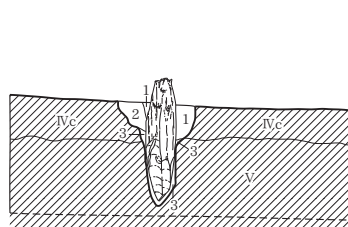


P207

- P207
- 1 褐灰色シルト (7.5YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 暗褐灰色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 暗灰色粘土 (N3/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 暗灰色粘土 (N3/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 5 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり弱い。

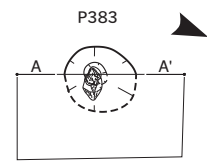


P232

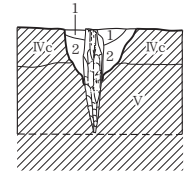


P232

- P232
- 1 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。
 - 2 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
 - 3 灰オリーブ色砂質土 (5Y6/2) 粘性なし、しまり弱い。

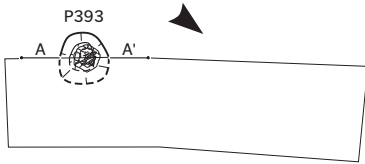


P383

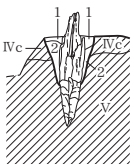


P383

- P383
- 1 灰色シルト (N5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物1~4mm含む。
 - 2 灰色粘土 (N6/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。

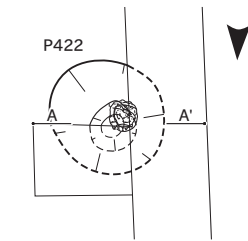
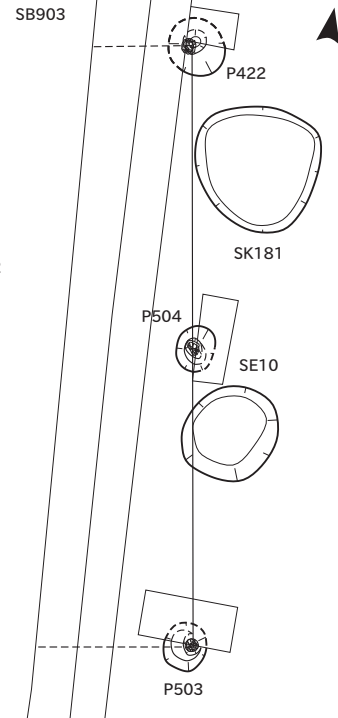
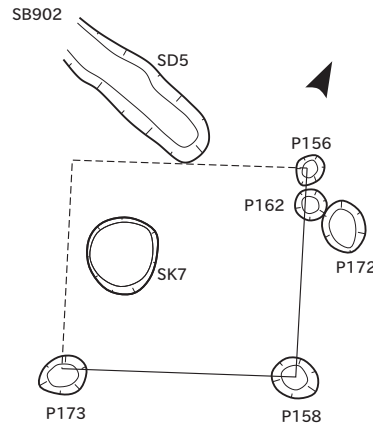


P393

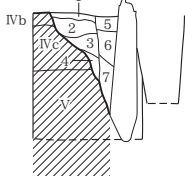


P393

- P393
- 1 灰色シルト (N5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~4mm含む。
 - 2 灰色粘土 (N6/1) 粘性ややあり、しまり弱い。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまり弱い。

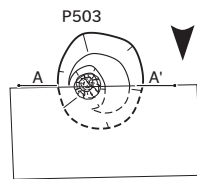


P422

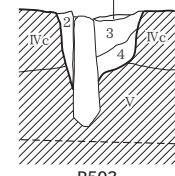


P422

- P422
- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 灰色粘土 (N6/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 5 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 6 暗灰黄色粘土 (2.5Y5/2) 粘性あり、しまり弱い。
 - 7 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまり弱い。

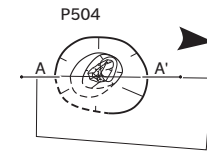


P503

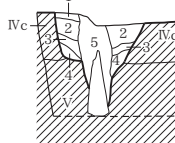


P503

- 503
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 3 灰黄褐色粘土 (10YR6/2) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性あり、しまり弱い。



P504

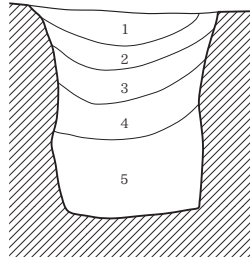
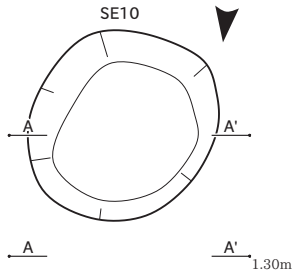


P504

- P504
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰黄褐色粘土 (10YR6/2) 粘性あり、しまりややあり。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 5 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。

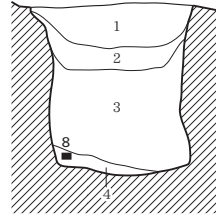
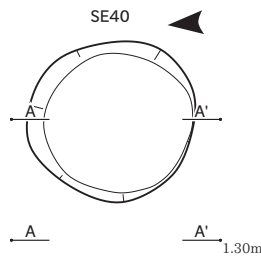
0 (掘立柱平面 1:80) 4m

0 (その他 1:40) 2m



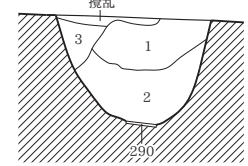
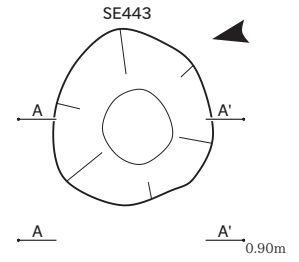
SE10

- SE10
- 1 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm多量含む。
 - 2 灰色粘土 (N4/0) 粘性あり、しまりあり。1層より明るい、暗灰色粘土多量混じる。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 3 灰色粘土 (N4/0) 粘性あり、しまりあり。2層より明るい、暗灰色粘土ブロック少量混じる。炭化物φ3~5mm含む。
 - 4 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性あり、しまりなし。灰色粘土ブロック多量混じる。
 - 5 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性あり、しまりなし。灰色粘土ブロック多量混じる。

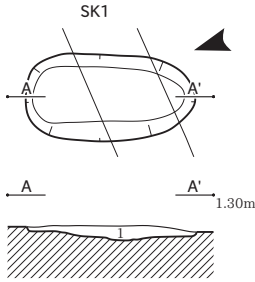


SE40 ■ 土壌サンプル

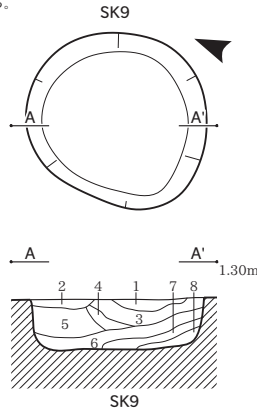
- SE40
- 1 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまりややあり。木質片多量含む。



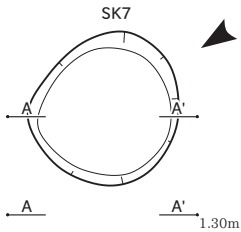
- SE443
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりややあり。灰黄色粘土ブロック混じる。粘性あり、しまり弱い。
 - 2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。灰黄色粘土ブロック混じる。
 - 3 灰黄色粘土 (2.5Y6/2) 粘性あり、しまりややあり。



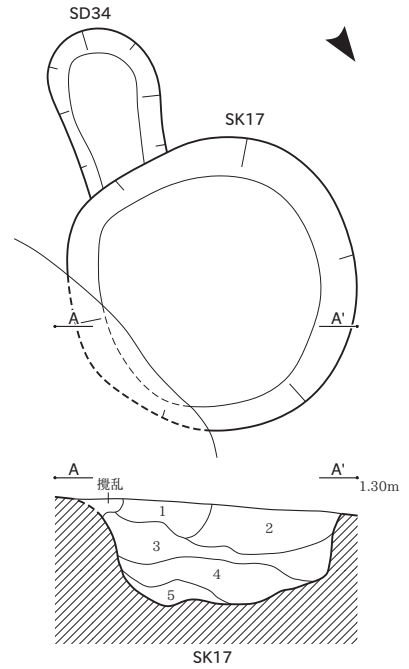
- SK1
- 1 暗褐色粘土 (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり。



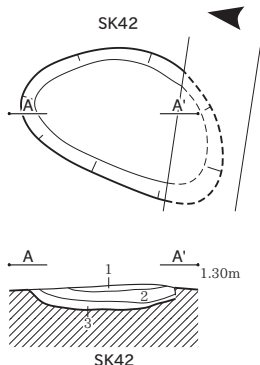
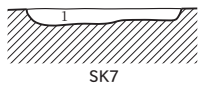
- SK9
- 1 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 2 褐灰色シルト (7.5YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。1層混じる。
 - 3 褐灰色粘土 (7.5YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 褐灰色粘土 (7.5YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 5 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 6 にぶい褐色粘土~シルト (7.5YR5/3) 粘性あり、しまりややあり。
 - 7 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性弱い、しまりややあり。
 - 8 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性あり、しまりややあり。7層やや混じる。



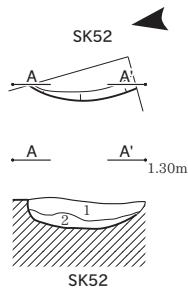
- SK7
- 1 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~4mm少量含む。



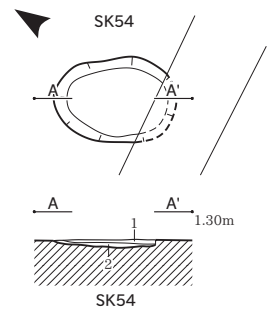
- SK17
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 4 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm含む。
 - 5 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm含む。



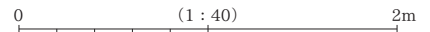
- SK42
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1)
 - 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。炭化物φ1~3mm含む。
 - 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

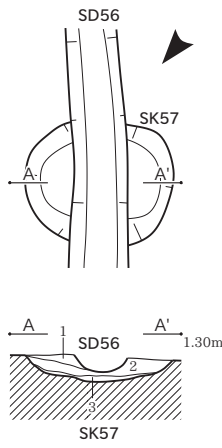


- SK52
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

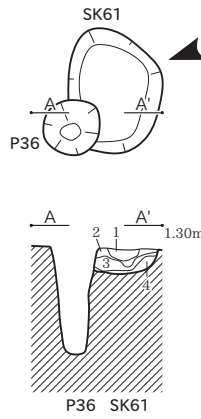


- SK54
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm多量含む。
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。

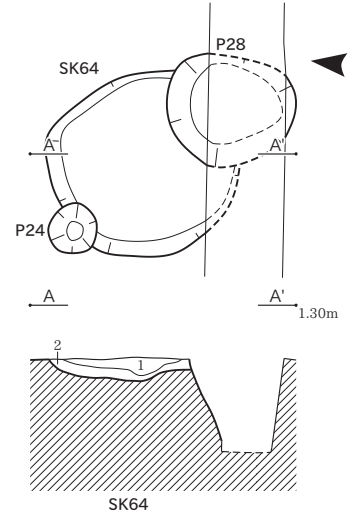




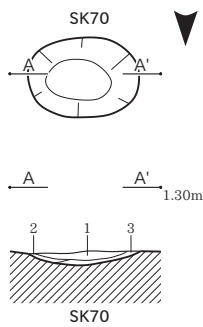
SK57
 1 褐色シルト (7.5YR4/6) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 2 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 褐色シルト (7.5YR4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。



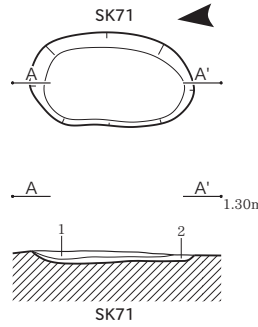
SK61
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 3 黒色シルト (10YR1.7/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭層。
 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



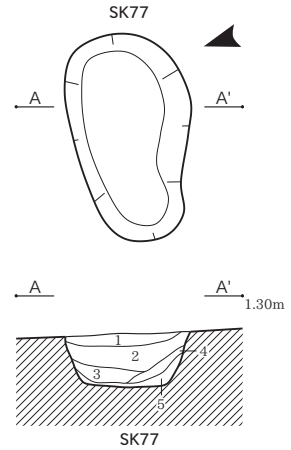
SK64
 1 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~6mm含む。
 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。



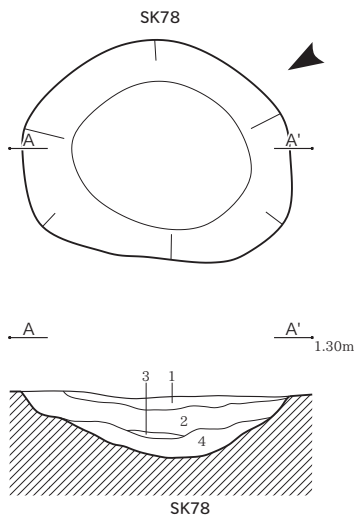
SK70
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 黒色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり、しまり弱い。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



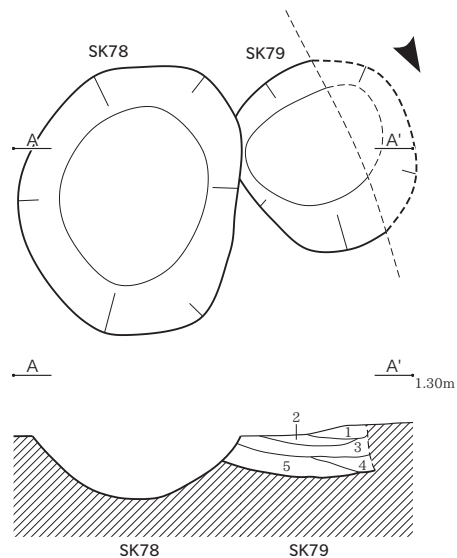
SK71
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 2 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



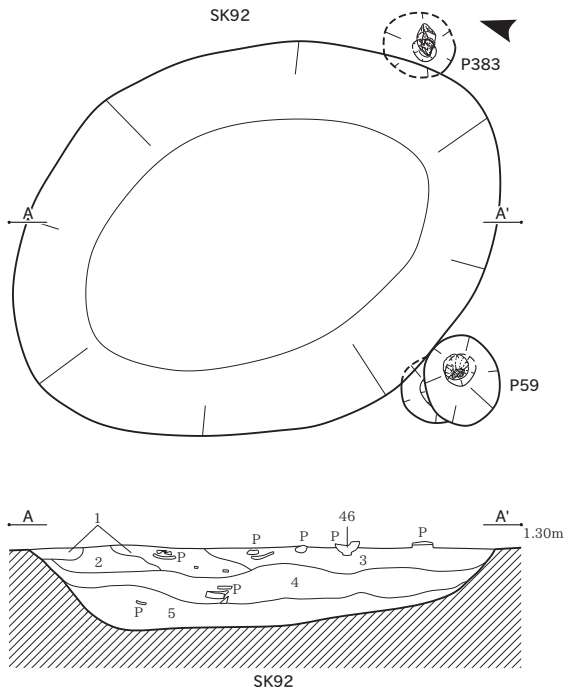
SK77
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm含む。
 2 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり弱い。
 4 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 5 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



SK78
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm含む。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm多量含む。
 4 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。

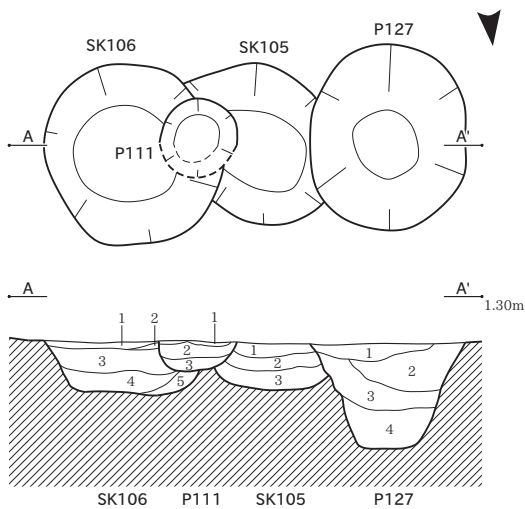


SK79
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 4 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 5 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性ややあり、しまり弱い。



SK92

- SK92
- 1 灰褐色シルト (7.5YR4/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm含む。
 - 2 褐色シルト (7.5YR4/3) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 3 褐色シルト (7.5YR4/3) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 4 灰褐色シルト (7.5YR5/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 5 灰褐色シルト (7.5YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - P 土器

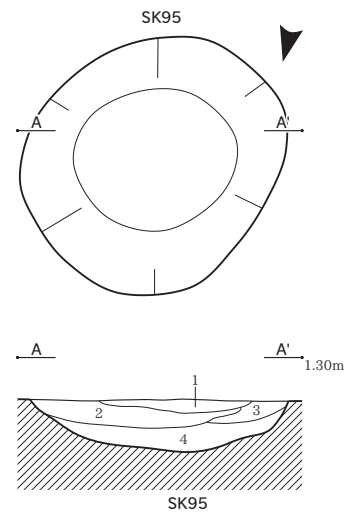
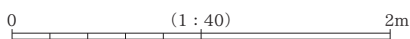


- SK105
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

- SK106
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~4mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 3 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。
 - 5 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。

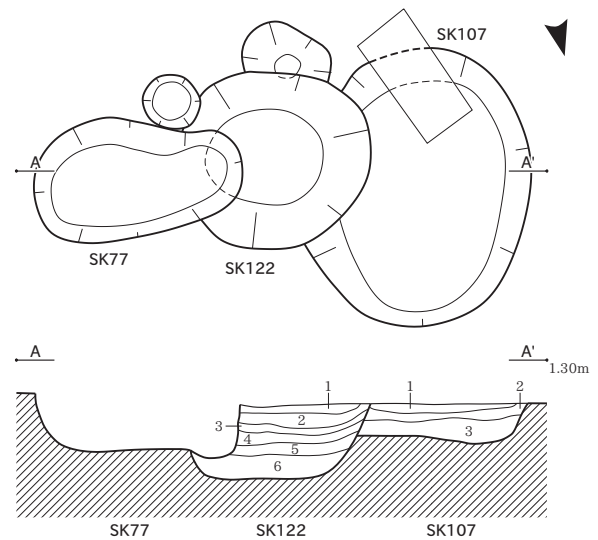
- P111
- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。

- P127
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~3mm含む。
 - 4 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。



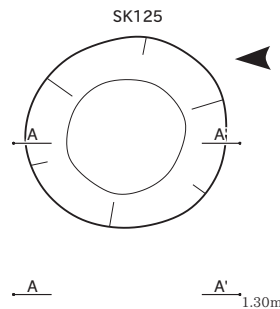
SK95

- SK95
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



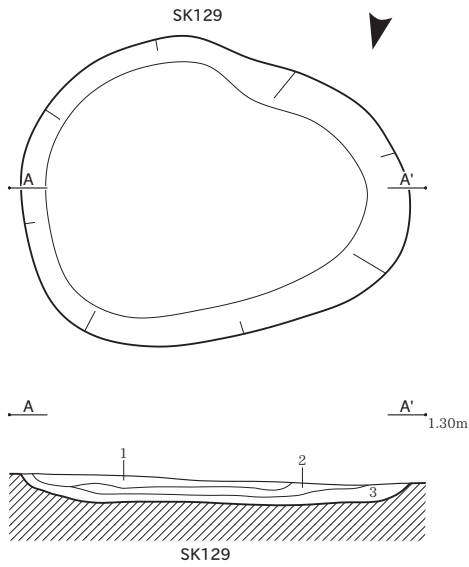
- SK107
- 1 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (7.5YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。

- SK122
- 1 褐灰色シルト (7.5YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~3mm含む。
 - 5 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 6 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

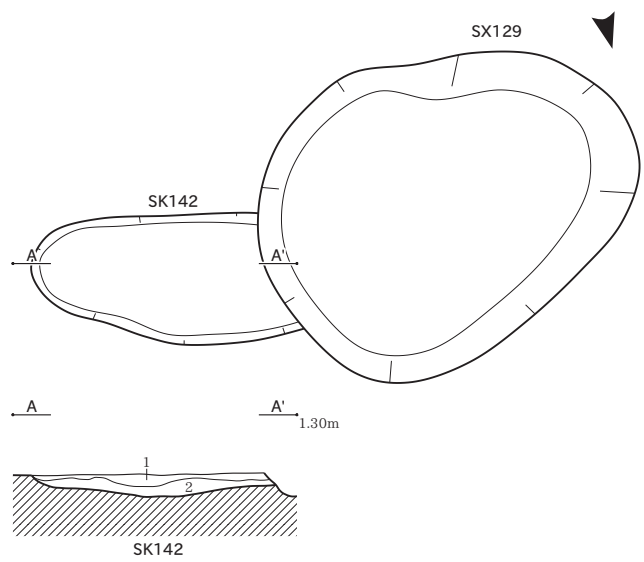


SK125

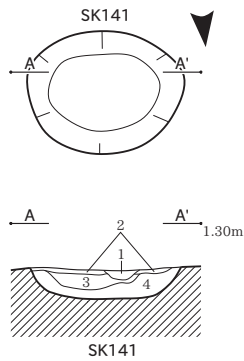
- SK125
- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~6mm含む。
 - 2 灰色粘土 (7.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 3 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性あり、しまり弱い。



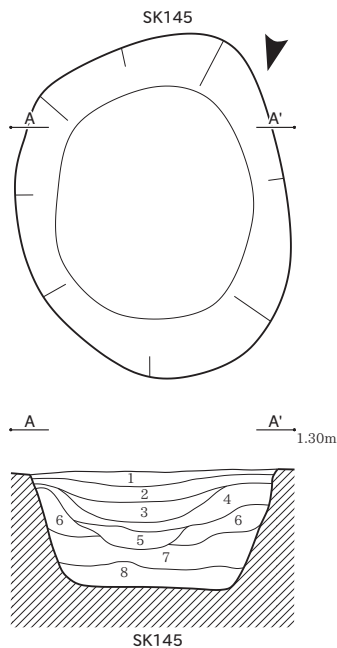
- SK129
- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 2 黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭層。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。



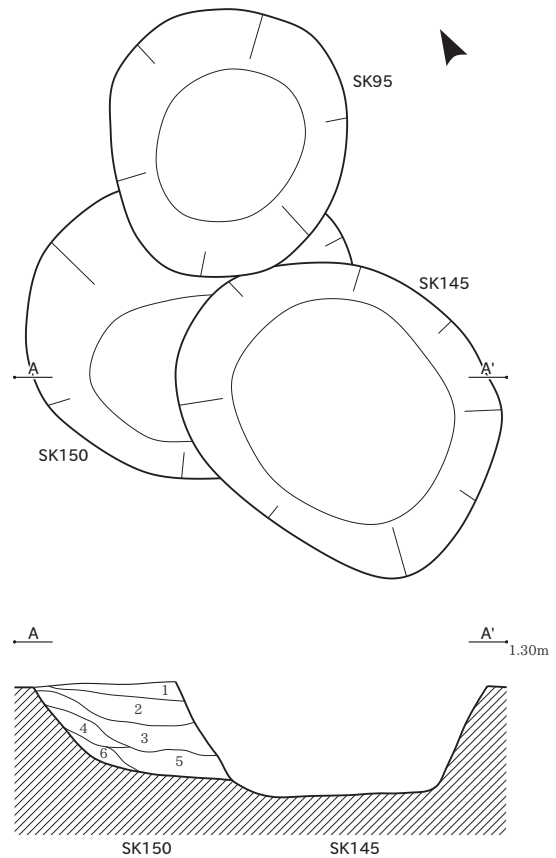
- SK142
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~10mm多量含む。
 - 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。



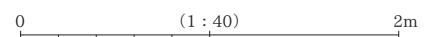
- SK141
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 4 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。

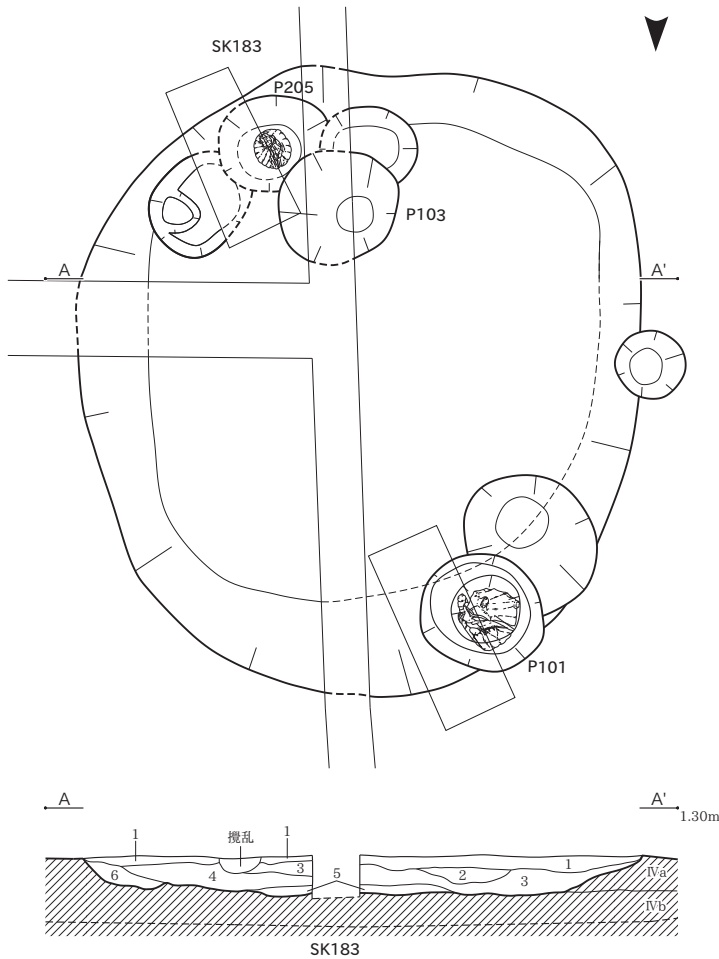


- SK145
- 1 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1~4mm含む。
 - 4 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む (3層に比べ少ない)。
 - 5 黒色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭層。
 - 6 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 7 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。
 - 8 灰色粘土 (5Y6/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

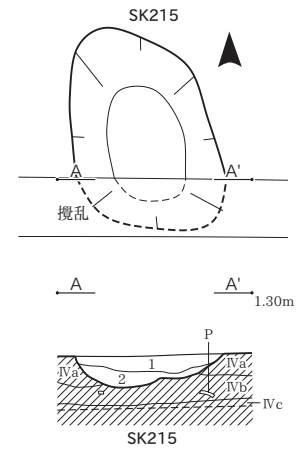


- SK150
- 1 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 4 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 5 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 6 灰色粘土 (5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

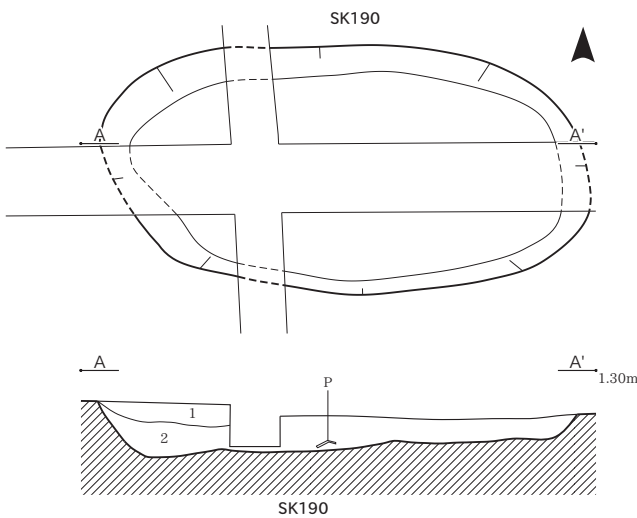




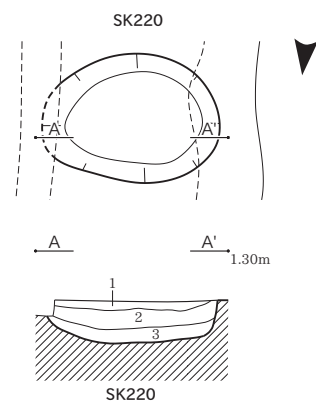
- SK183
- 1 灰黄褐色粘土 (10YR6/2) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 2 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 3 黄灰色粘土 (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 4 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 5 灰色粘土 (N4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm多量含む。
 - 6 灰色粘土 (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



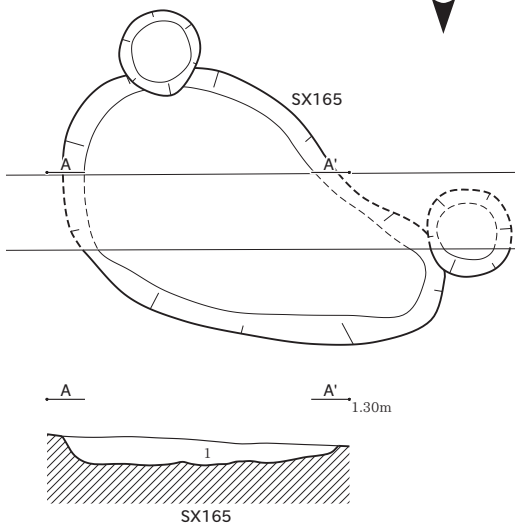
- SK215
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり。しまりあり。
黄灰色砂質土多量混じる。
 - 2 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり。しまりややあり。
炭化物φ5~10mm少量含む。



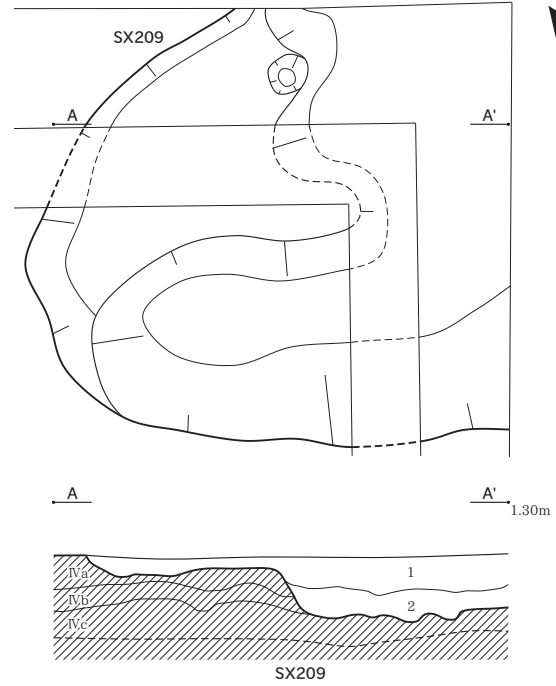
- SK190
- 1 灰色シルト (5YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



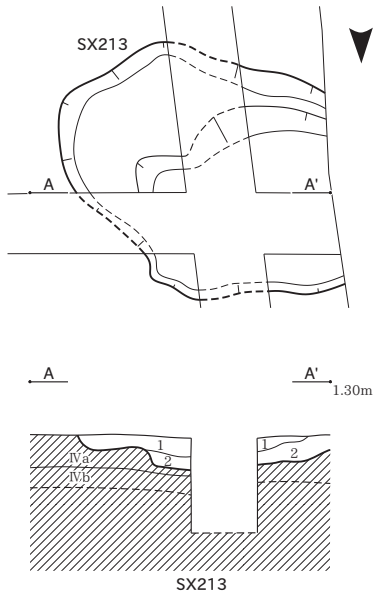
- SK220
- 1 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~4mm含む。
 - 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。
 - 3 黒色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物多量含む。



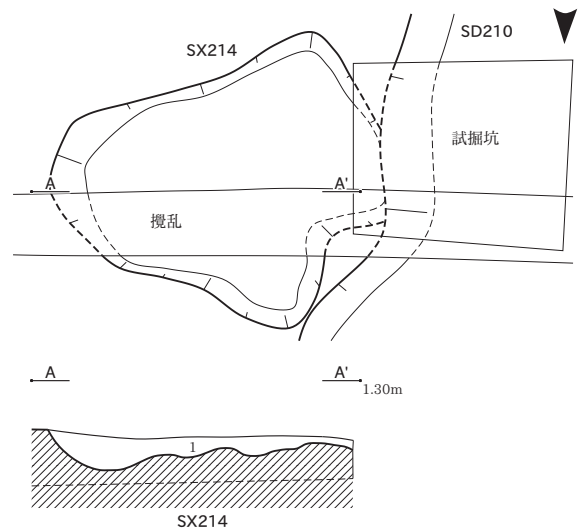
SX165
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm多量含む。
 2 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm少量含む。



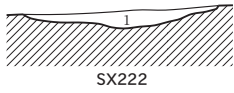
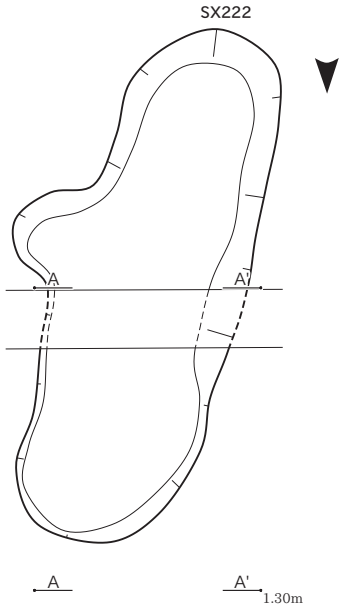
SX209
 1 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり。黄灰色シルトブロック多量混じる。炭化物φ5~10mm少量含む。
 2 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりややあり。灰白色粘土ブロック多量混じる。炭化物φ5~20mm少量含む。



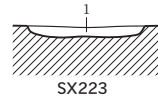
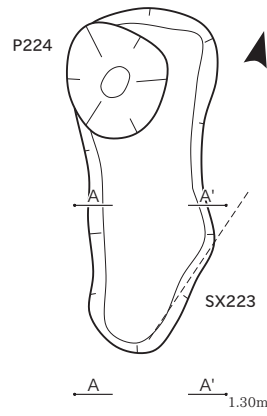
SX213
 1 灰色シルト (N5/0) 粘性なし、しまりあり。黄灰色砂質土多量混じる。炭化物φ10~20mm少量含む。
 2 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりあり。灰白色砂質土少量混じる。



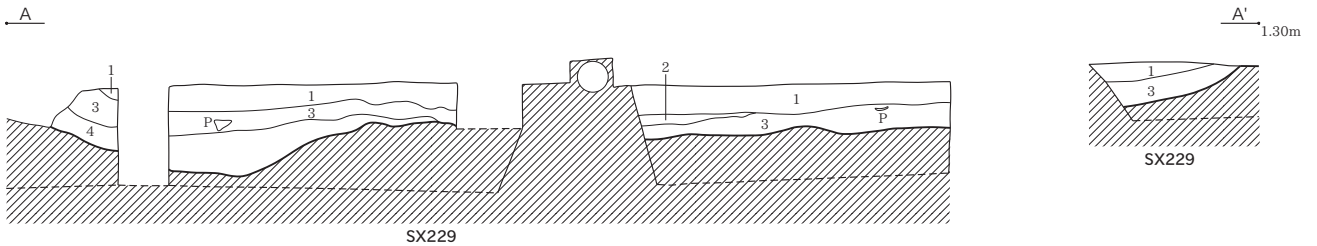
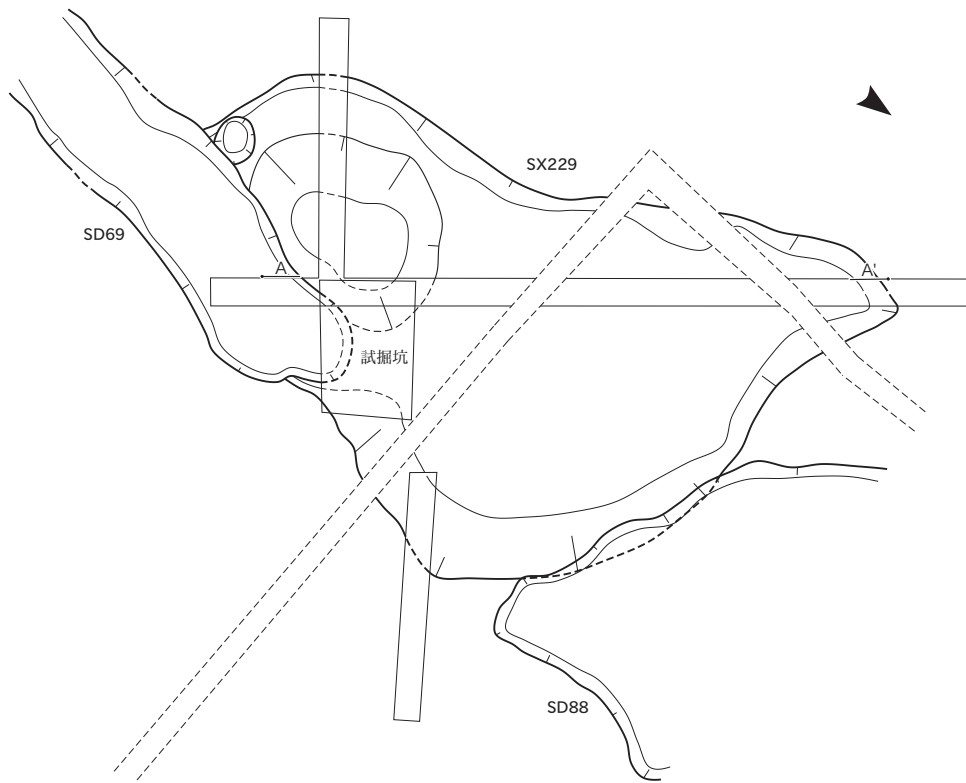
SX214
 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。黄灰色砂質土多量混じる。炭化物φ5~10mm少量含む。



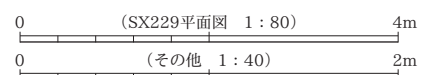
SX222
1 暗灰色粘土 (N3/0) 粘性ややあり、しまりあり。灰色砂質土ブロック少量混じる。



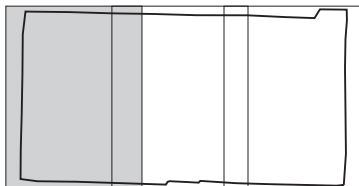
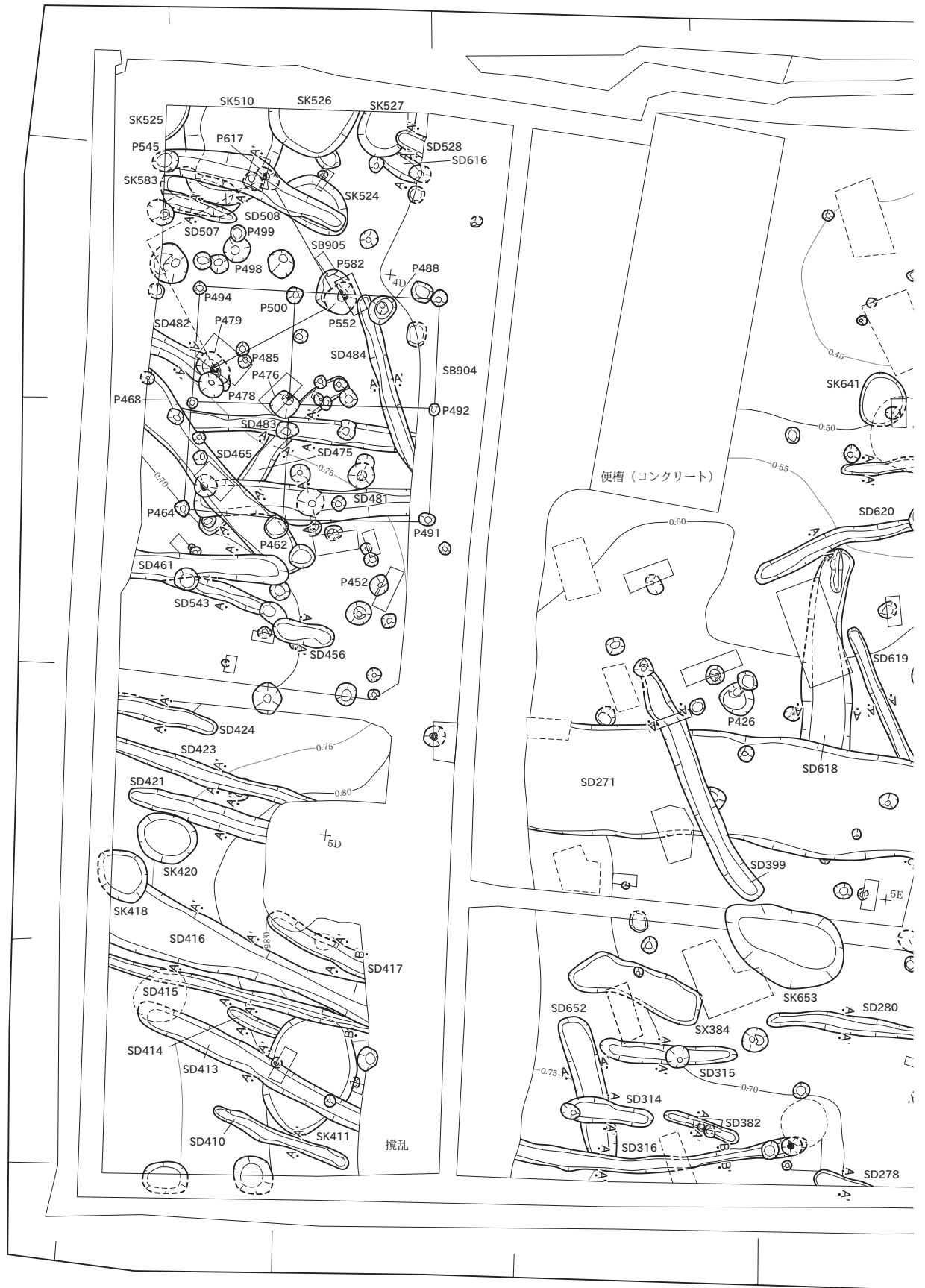
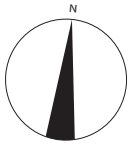
SX223
1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。緑灰色砂質土多量混じる。炭化物φ1~10mm少量含む。



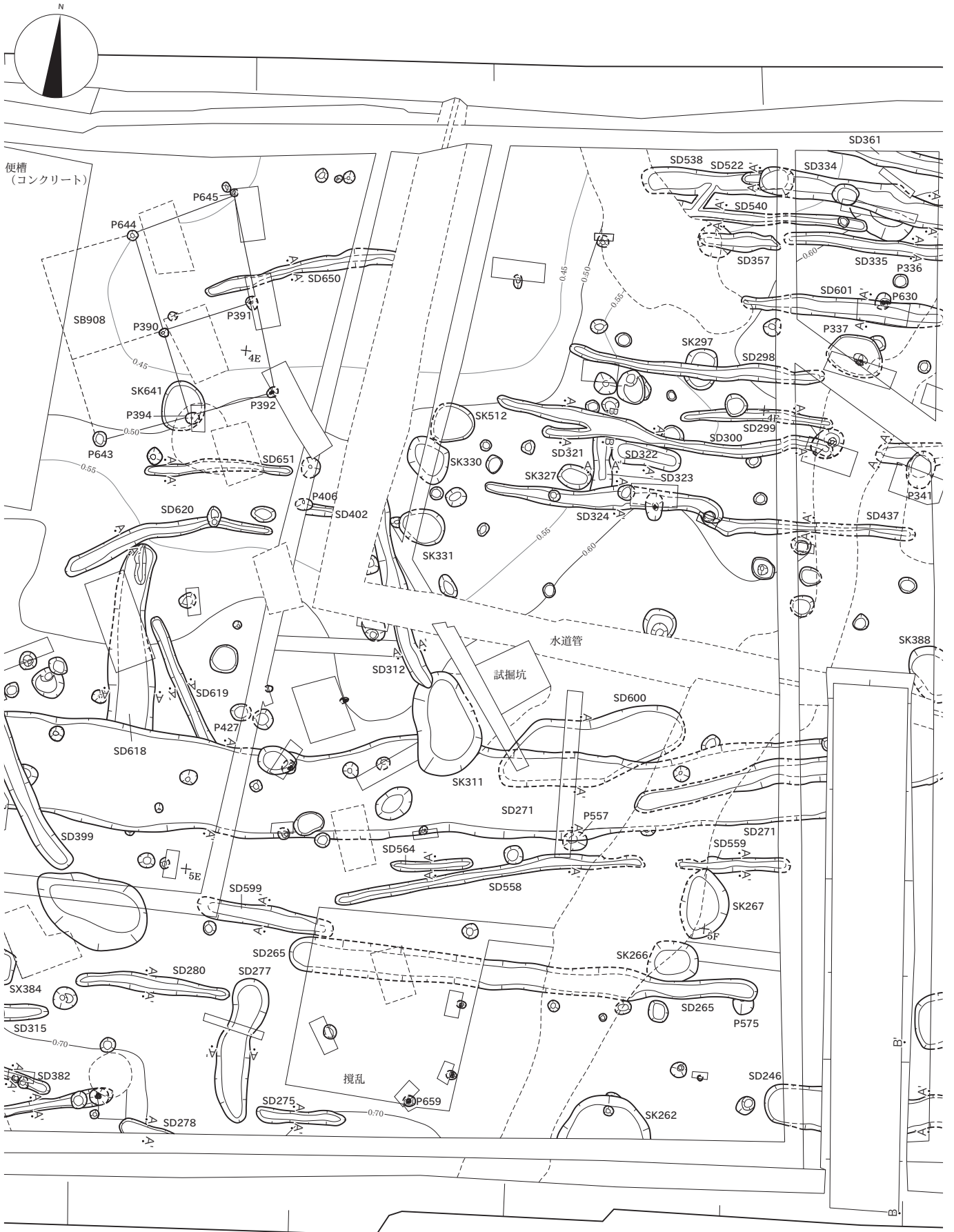
SX229
1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
2 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性あり、しまりややあり。
3 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。
4 褐色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm多量含む。







0 (1 : 100) 5m

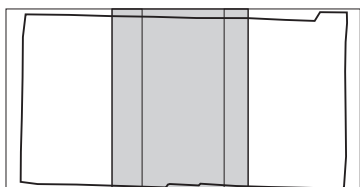


便槽
(コンクリート)

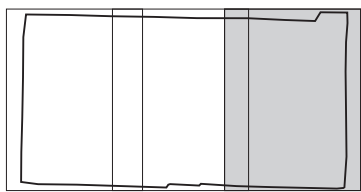
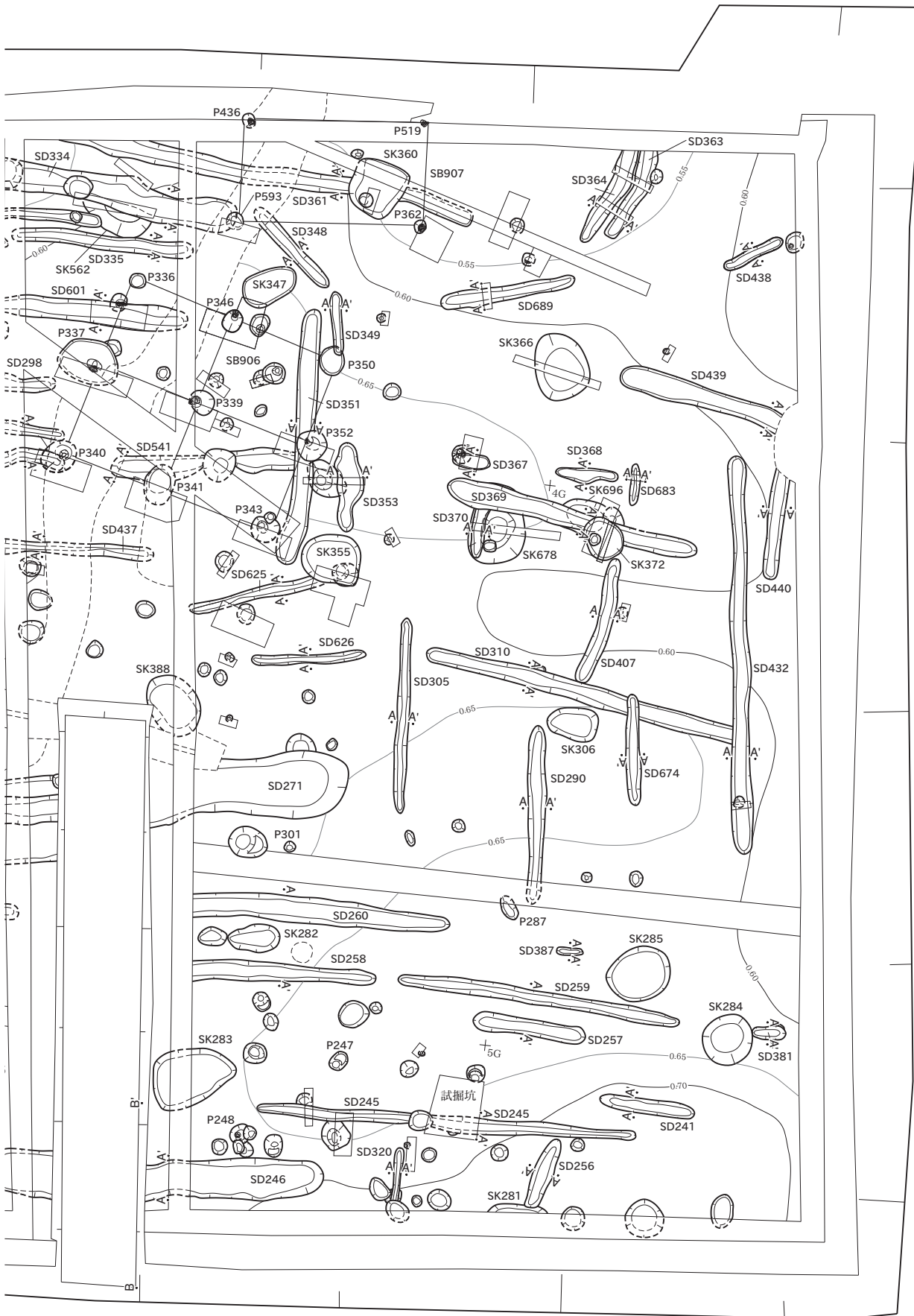
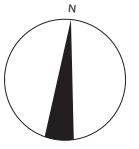
水道管

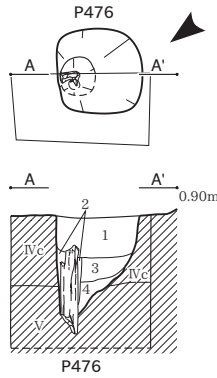
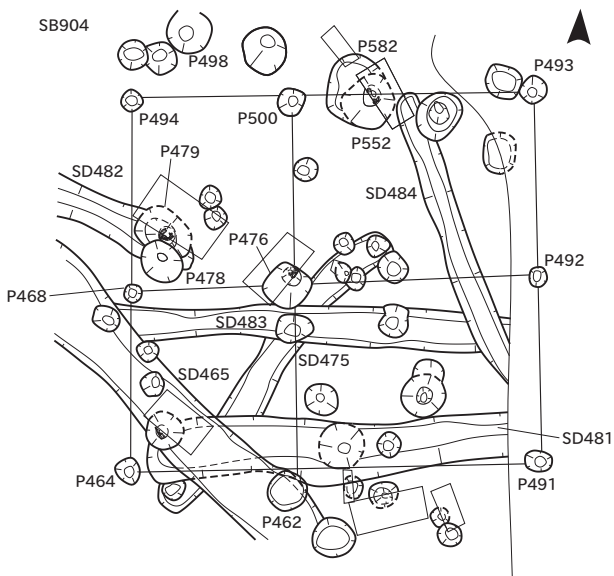
試掘坑

攪乱

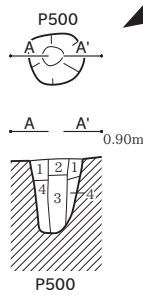


0 (1 : 100) 5m

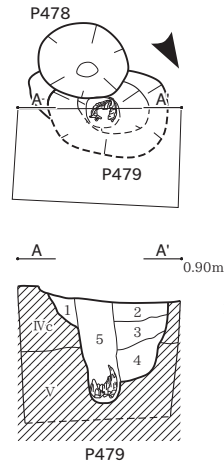
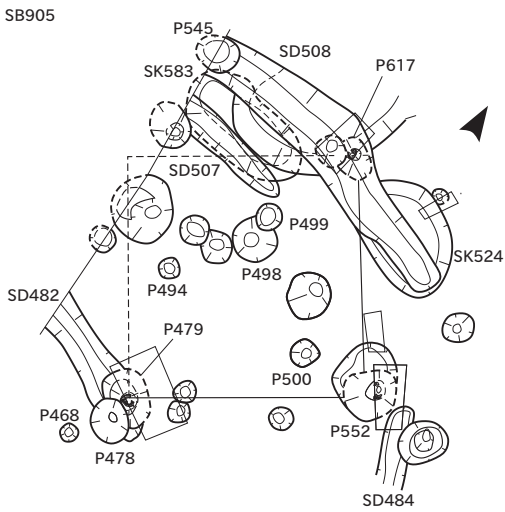




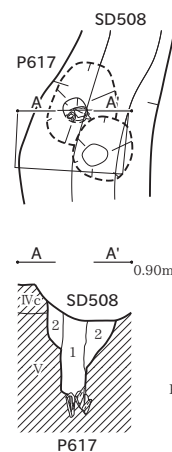
- P476
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 2 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 3 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性あり、しまりややあり。



- P500
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまり弱い。
 - 4 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。



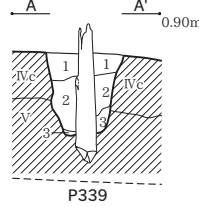
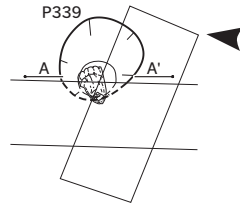
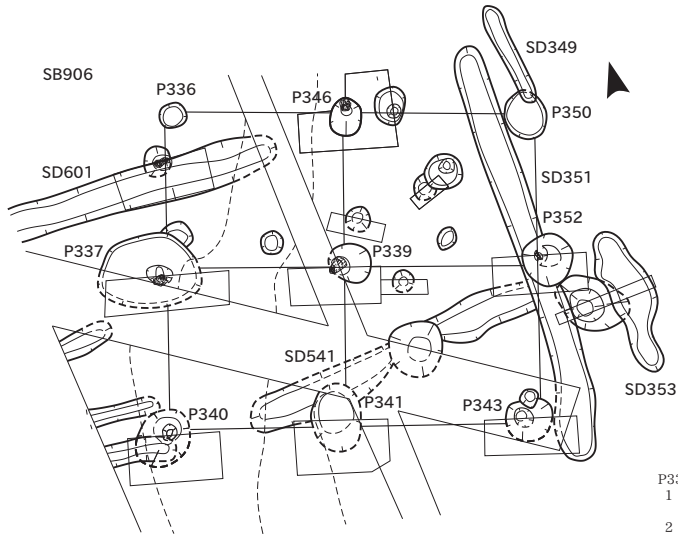
- P479
- 1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 - 2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 4 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 - 5 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性あり、しまりなし。



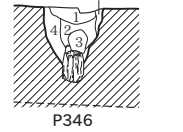
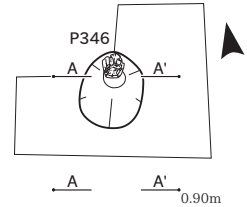
- P617
- 1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 2 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性あり、しまりややあり。

0 (掘立柱平面 1:80) 4m

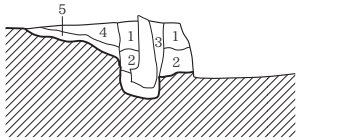
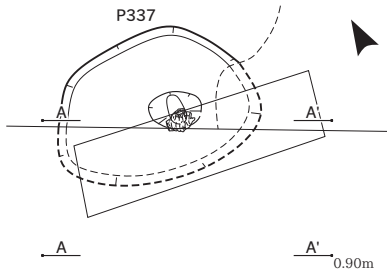
0 (その他 1:40) 2m



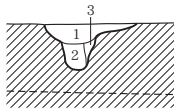
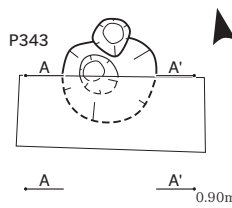
- P339**
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
 - 2 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 3 黒褐色シルト (2.5Y3/1) と黄灰色シルト (2.5Y4/1) の混合土 粘性あり、しまりあり。



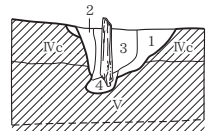
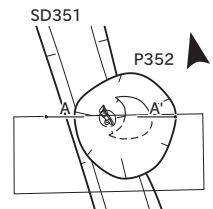
- P346 (3F18)**
- 1 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 - 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりなし。
 - 3 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりなし。
 - 4 灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



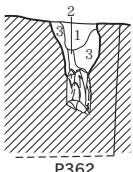
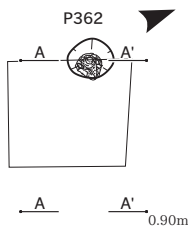
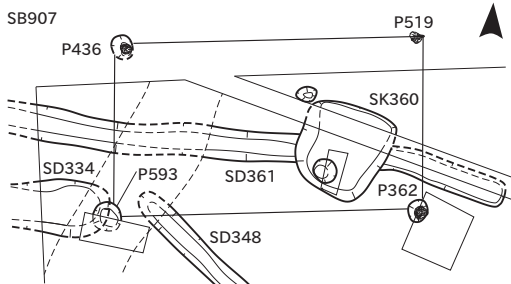
- P337**
- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ5mm少量含む。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。2層よりやや暗い。
 - 4 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
 - 5 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。



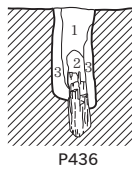
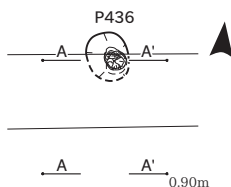
- P343**
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。黒褐色シルト (2.5Y3/1) プロック多量混じる。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。



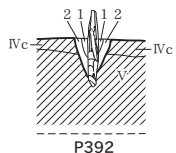
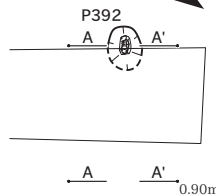
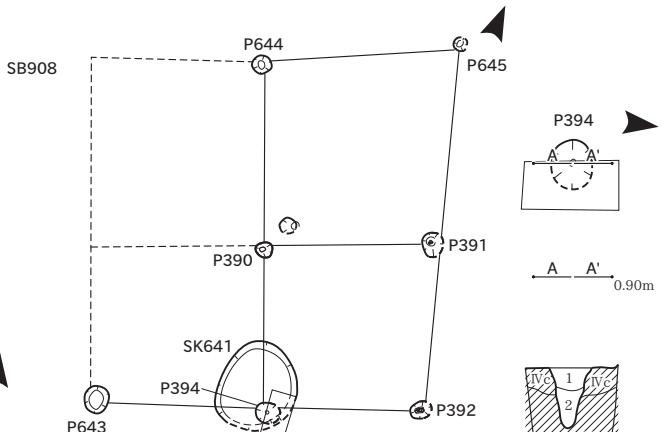
- P352・SD351 (3F23)**
- 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 2 灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 - 3 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性あり、しまりなし。
 - 4 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまりなし。



- P362 (3F14)**
- 1 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ10mm少量含む。
 - 2 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性あり、しまりなし。
 - 3 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



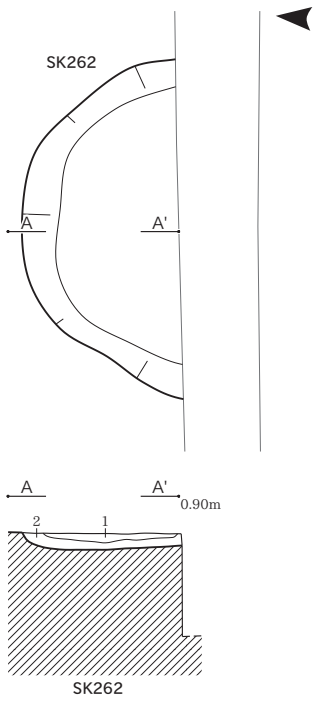
- P436 (3F13)**
- 1 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ10mm少量含む。
 - 2 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性あり、しまりなし。
 - 3 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



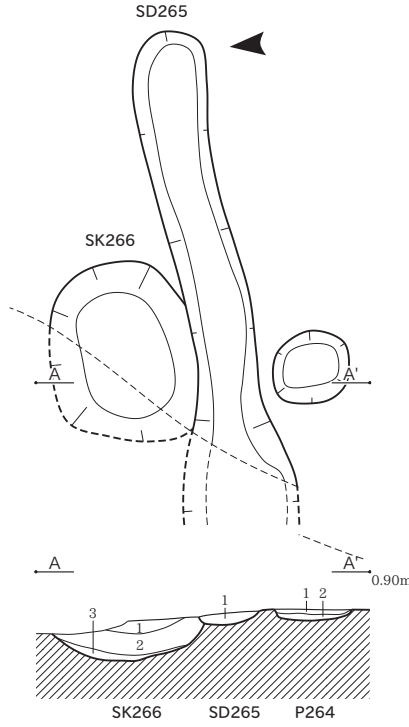
- P392**
- 1 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまり弱い。
 - 2 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性あり、しまりややあり。

- P394**
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黒灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性あり、しまり弱い。





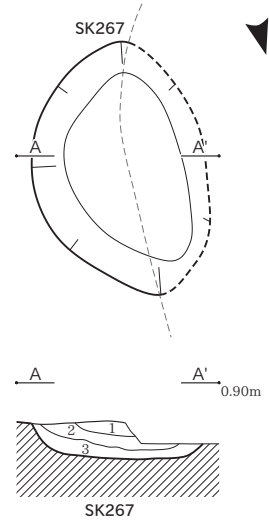
SK262
 1 灰オリーブ色シルト (7.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
 2 暗オリーブ色シルト (7.5Y4/3) 粘性ややあり、しまり弱い。



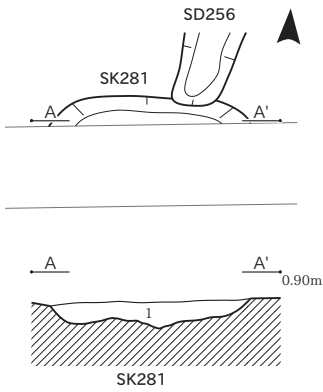
P264
 1 灰青色シルト (5BG5/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物少量含む。
 2 灰青色砂質土 (5BG5/1) 粘性なし、しまり弱い。

SD265
 1 灰オリーブ色シルト (7.5Y4/2) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物少量含む。

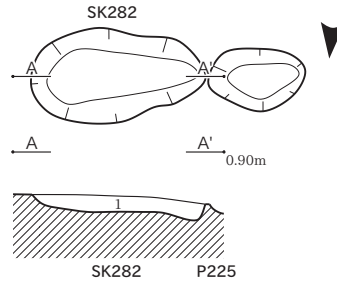
SK266
 1 灰オリーブ色シルト (5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
 2 灰シルト色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。
 3 暗オリーブ色砂質土 (5Y4/3) 粘性なし、しまりややあり。



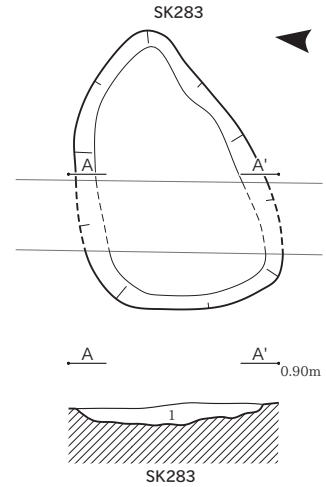
SK267
 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
 2 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少量含む。
 3 オリーブ黒色砂質土 (5Y3/2) 粘性なし、しまりややあり。



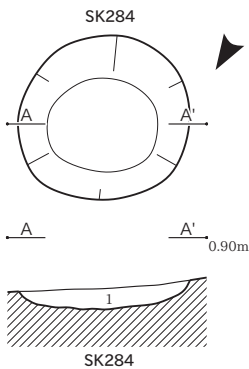
SK281
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ5~10mm少量含む。



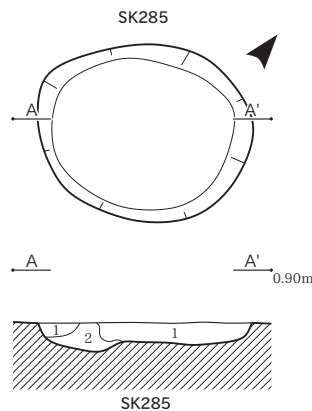
SK282
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ2~10mm少量含む。



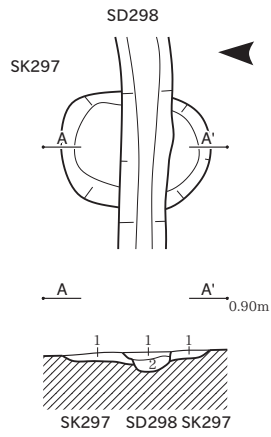
SK283
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2~10mm多量含む。



SK284
 1 灰色シルト (5/0) 粘性ややあり、しまりややあり。

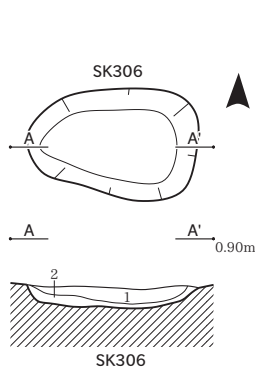


SK285
 1 青灰色粘土 (5B5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~2mm少量含む。
 2 青灰色粘土 (5B5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~2mm多量含む。

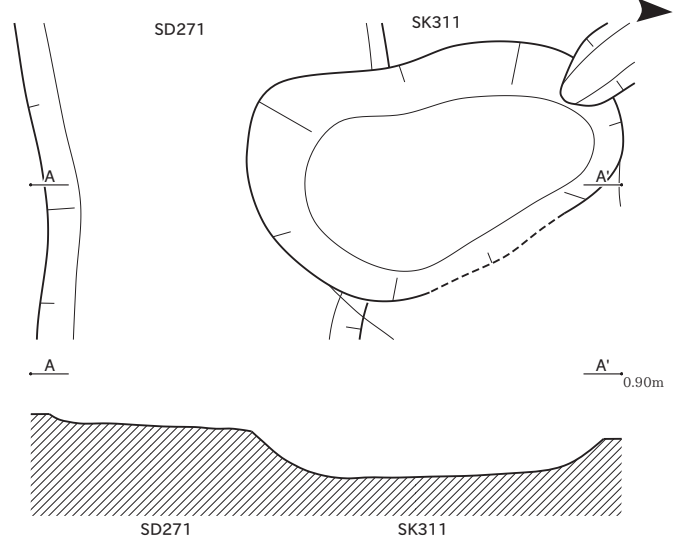


SK297
1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりあり。

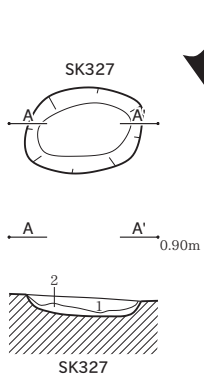
SD298
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。



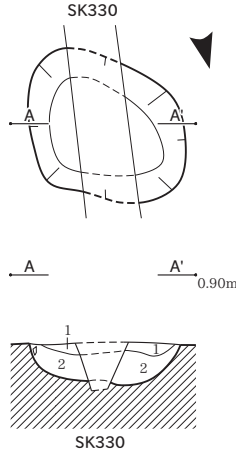
SK306
1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~20mm多量含む。
2 灰色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm少量含む。



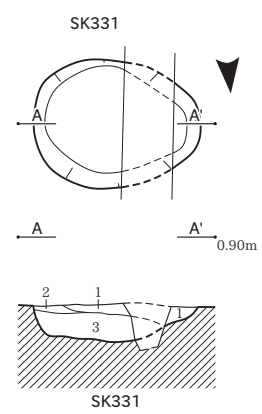
SD271 SK311



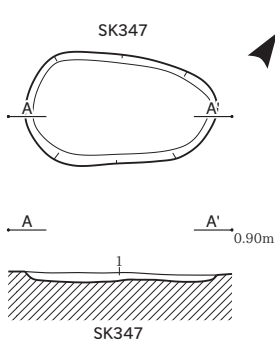
SK327
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。やや砂質。



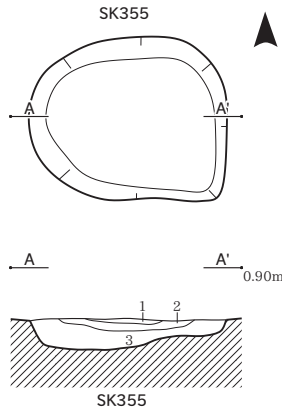
SK330
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



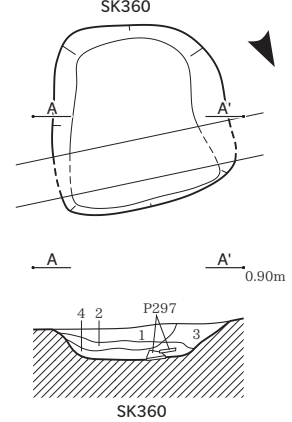
SK331
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ3~5mm多量含む。
3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ5~10mm多量含む。



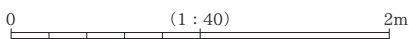
SK347
1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~10mm少量含む。

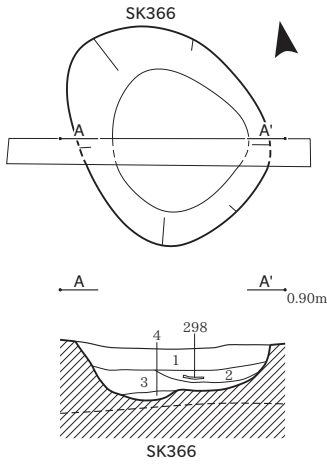


SK355
1 灰色砂質土 (N6/0) 粘性なし、しまりあり。黄灰色砂質土混じる。
2 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりややあり。青灰色粘土多量混じる。炭化物多量含む。
3 灰色粘土 (N5/0) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm少量含む。

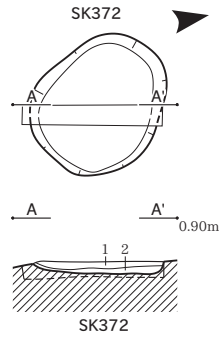


SK360
1 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~10mm含む。
2 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
3 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~20mm少量含む。
4 灰色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりややあり。褐灰色シルト多量混じる。炭化物φ1~5mm少量含む。

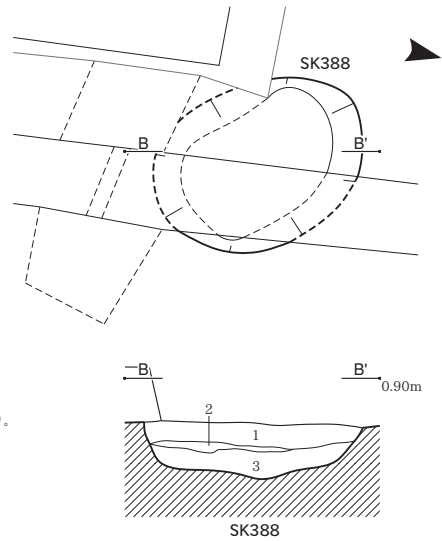




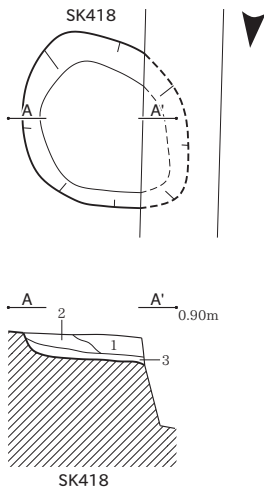
SK366
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 4 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。



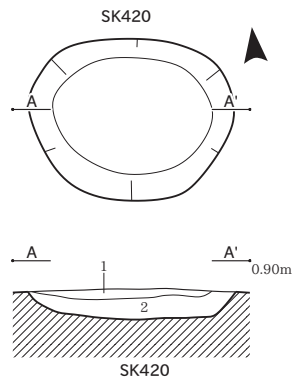
SK372
 1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~20mm少量含む。
 2 灰色粘土 (N6/0) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物スジ状に含む。



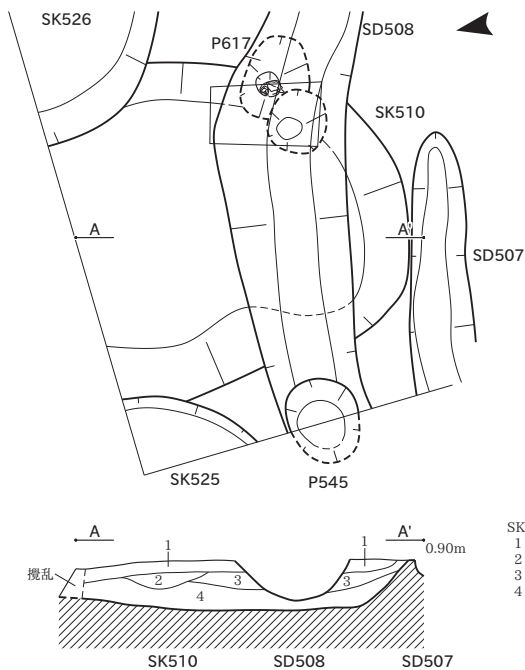
SK388Bセク
 1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~20mm少量含む。
 2 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物スジ状に多量含む。
 3 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりあり。



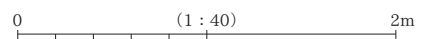
SK418
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり。
 3 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性あり、しまりややあり。

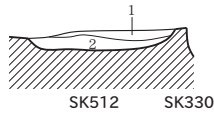
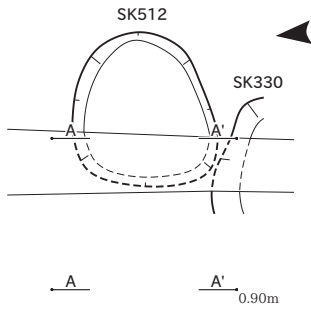


SK420
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 2 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり。

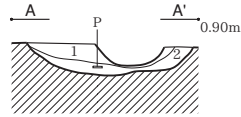
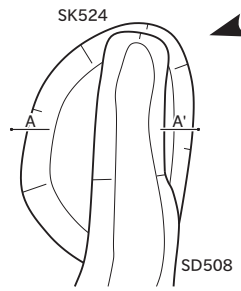


SK510
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。
 4 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

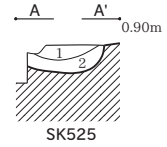
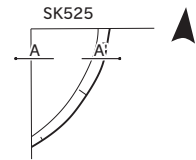




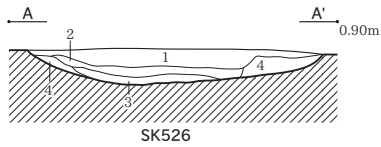
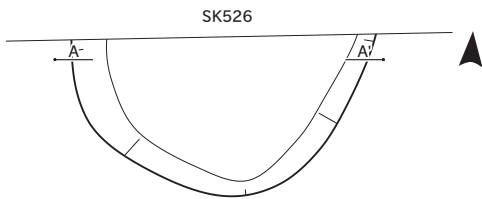
- SK512
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。やや砂質。



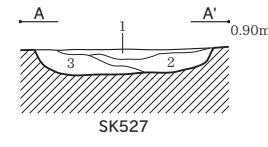
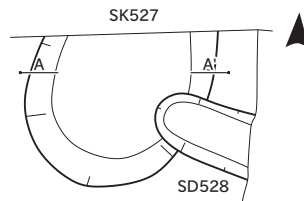
- SK524
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



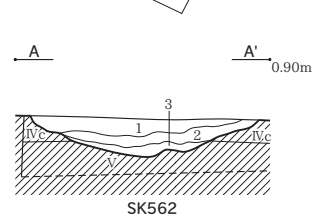
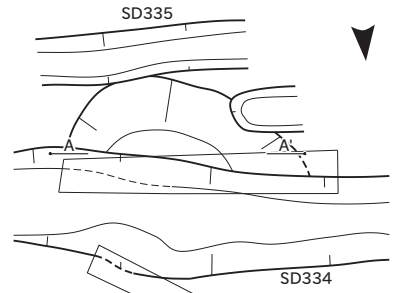
- SK525
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



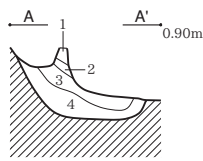
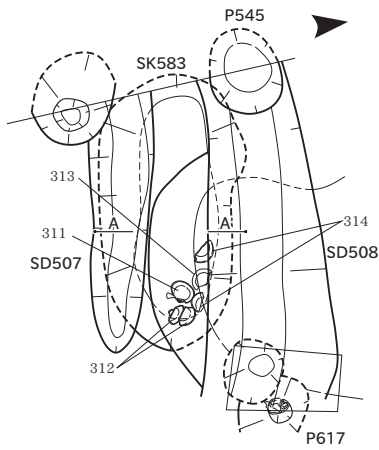
- SK526
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 2 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまりややあり。炭層。
 3 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 4 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



- SK527
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~6mm含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性ややあり、しまりややあり。
 3 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性あり、しまりややあり。

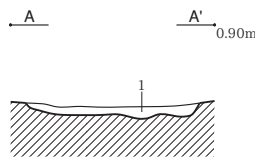
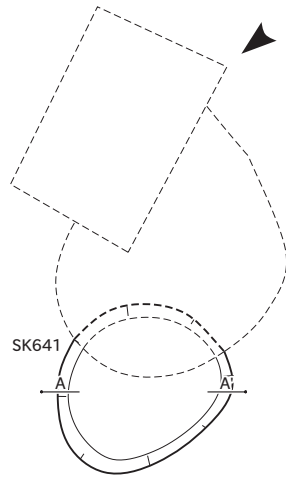


- SK562
 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。やや砂質。
 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。2層よりやや明るい。



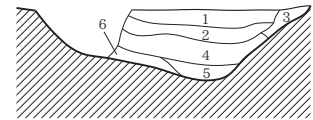
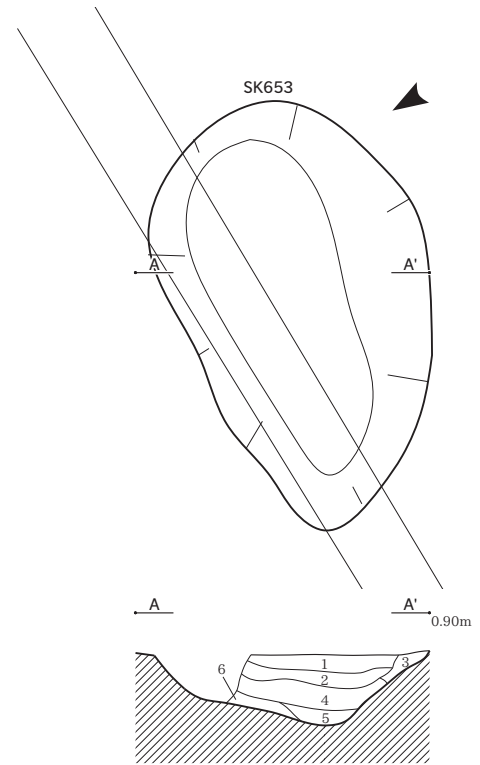
SK583
SD507 SD508

- SK583
- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 3 灰黄褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 4 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性あり、しまりややあり。



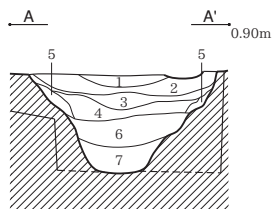
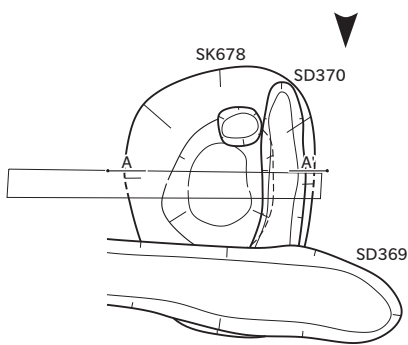
SK641

- SK641
- 1 灰色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



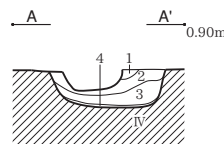
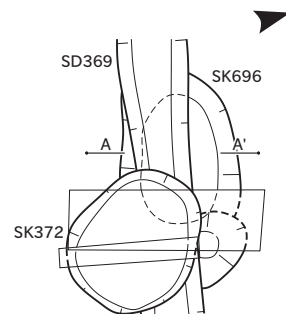
SK653

- SK653
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性なし、しまりあり。炭化物φ1~10mm多量含む。
 - 2 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm少量含む。
 - 3 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 粘性なし、しまりあり。灰色粘土少量混じる。
 - 4 灰色粘土 (N4/0) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm少量含む。
 - 5 灰色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりややあり。
 - 6 灰色砂質土 (N6/0) 粘性なしあり、しまりややあり。



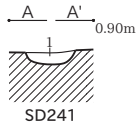
SK678 SD370

- SK678
- 1 黄褐色シルト (2.5Y5/4) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm含む。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 4 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 - 5 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。やや砂質。
 - 6 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 - 7 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。やや砂質。

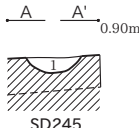


SD369
SK696

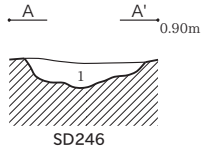
- SK696
- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。やや砂質。
 - 4 黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性あり、しまりあり。炭層。



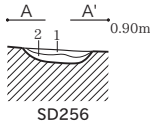
SD241
1 灰色シルト (N5/0) 粘性あり、しまりややあり。



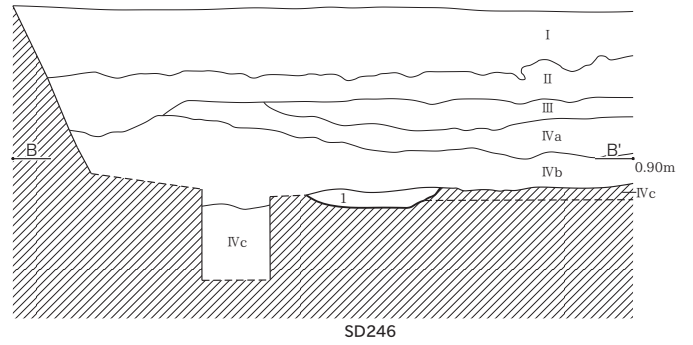
SD245
1 灰色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ5~20mm含む。



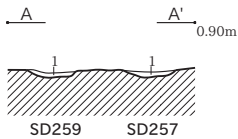
SD246
1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりややあり。灰色砂質土ブロック混じる。炭化物φ2~10mm多量含む。



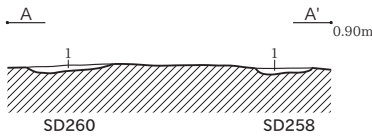
SD256
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性なし、しまりあり。炭化物φ5~20mm多量含む。
2 灰色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりあり。



SD246
1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりややあり。灰色砂質土ブロック混じる。炭化物φ2~10mm多量含む。

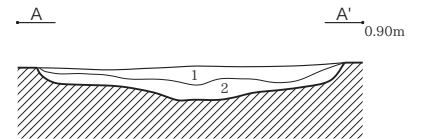


SD259
1 灰色シルト (N5/0) 粘性なし、しまりあり。灰色砂質土多量混じる。炭化物φ5~20mm多量含む。

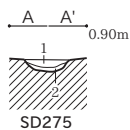


SD260
1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2~10mm少量含む。

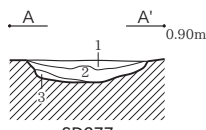
SD258
1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~10mm少量含む。



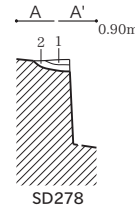
SD271
1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
2 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



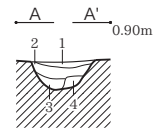
SD275
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
2 灰色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



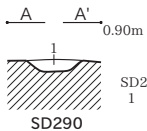
SD277
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性なし、しまりややあり。
2 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
3 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性・しまりややあり。



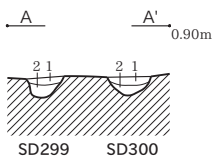
SD278
1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。



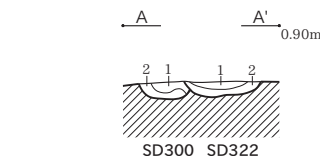
SD280
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm多量含む。
2 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物含む。
3 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。
4 黄灰色砂質土 (2.5Y5/1) 粘性なし、しまりややあり。炭化物含む。



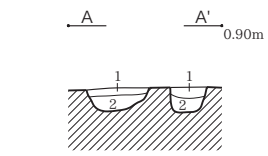
SD290
1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2~5mm少量含む。



SD300
1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。



SD300
1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。

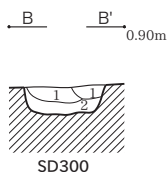


SD300
1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。

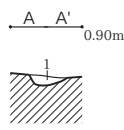
SD299
1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

SD322
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。

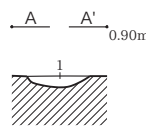
SD321
1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。粘性ややあり、しまり弱い。1層より明るい、1層より粘性ない。



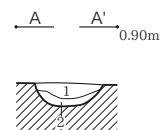
SD300
1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。



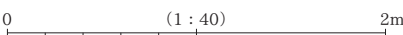
SD305
1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。黄灰色砂質土多量混じる。炭化物φ~5mm少量含む。

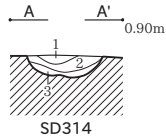


SD310
1 灰色粘土 (N5/0) 粘性あり、しまりあり。



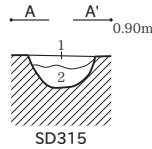
SD312
1 黒褐灰色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1~2mm含む。粘性ややあり、しまり弱い。炭化物φ1mm含む。





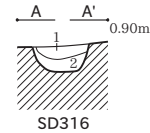
SD314

- SD314
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。
 - 3 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



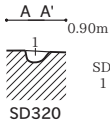
SD315

- SD315
- 1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



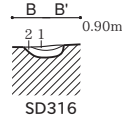
SD316

- SD316 (Aセク)
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



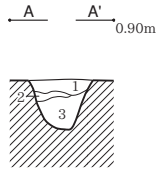
SD320

- SD320
- 1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm少量含む。



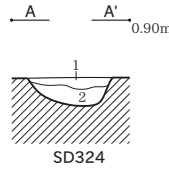
SD316

- SD316 (Bセク)
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。



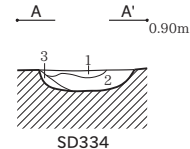
SD323

- SD323
- 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 2 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。



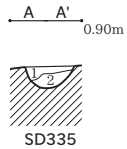
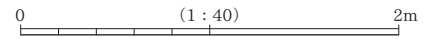
SD324

- SD324
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。
 - 2 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。



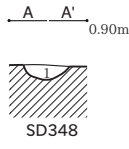
SD334

- SD334
- 1 暗黄灰色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~10mm含む。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。
 - 3 暗黄灰色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。



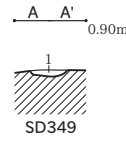
SD335

- SD335
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。



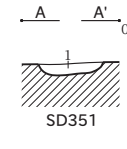
SD348

- SD348
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。



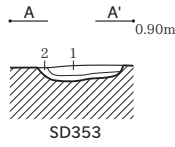
SD349

- SD349
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~10mm少量含む。



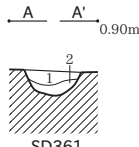
SD351

- SD351
- 1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



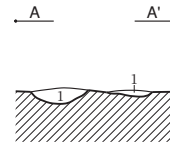
SD353

- SD353
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~20mm多量含む。
 - 2 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm少量含む。



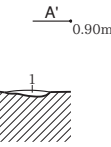
SD361

- SD361
- 1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。



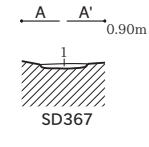
SD364

- SD364
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。黄灰色砂質土混じる。



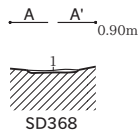
SD363

- SD363
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。黄灰色砂質土混じる。



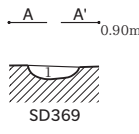
SD367

- SD367
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。黄灰色砂質土多量混じる。



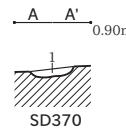
SD368

- SD368
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。黄灰色砂質土多量混じる。炭化物φ1~5mm少量含む。



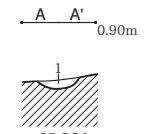
SD369

- SD369
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2~5mm少量含む。



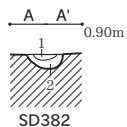
SD370

- SD370
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~10mm少量含む。



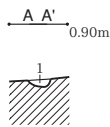
SD381

- SD381
- 1 灰色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ2~10mm少量含む。



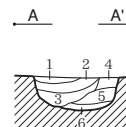
SD382

- SD382
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。



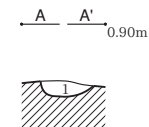
SD387

- SD387
- 1 灰色シルト (N5/0) 粘性なし、しまりあり。炭化物φ1~2mm少量含む。



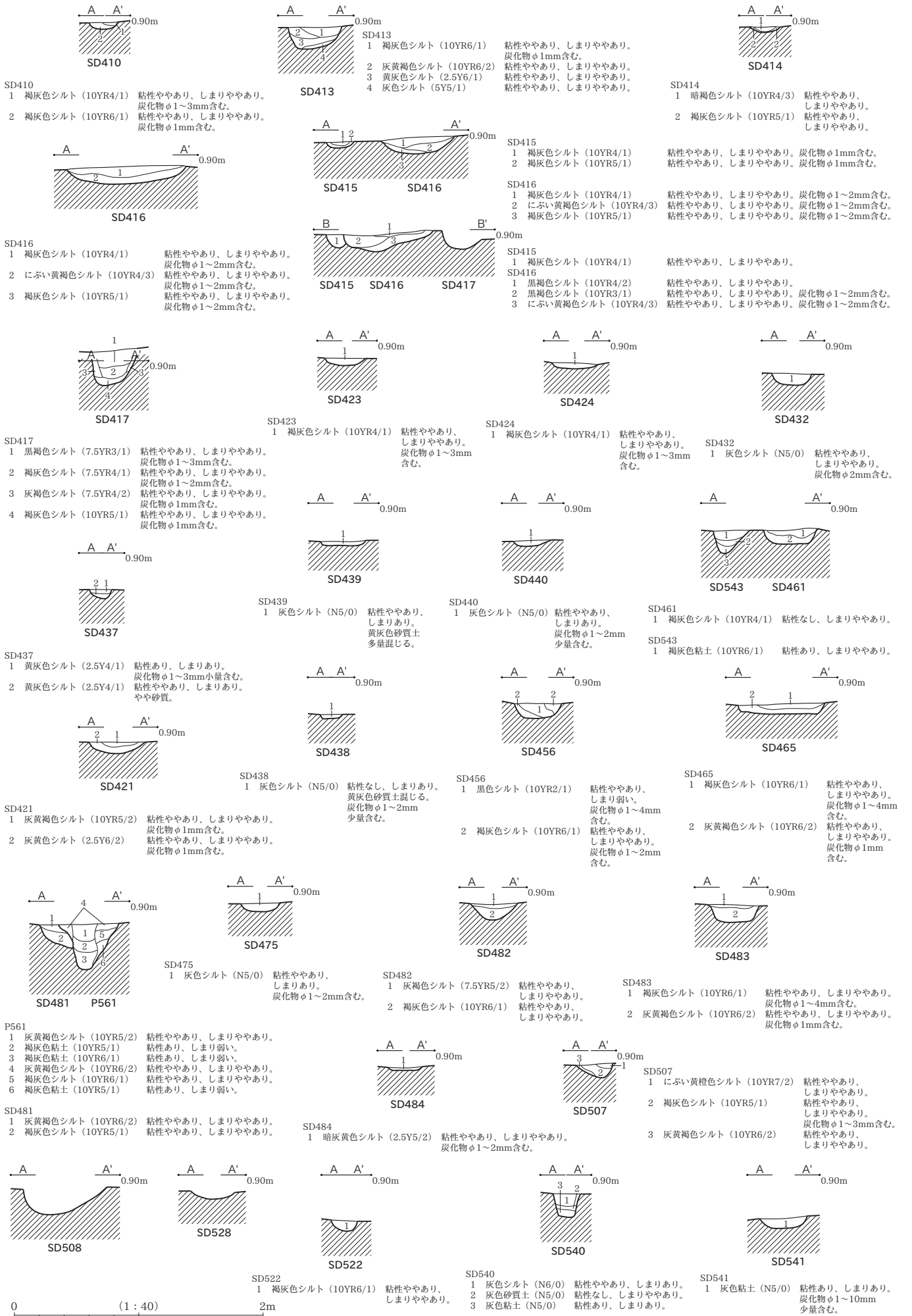
SD399

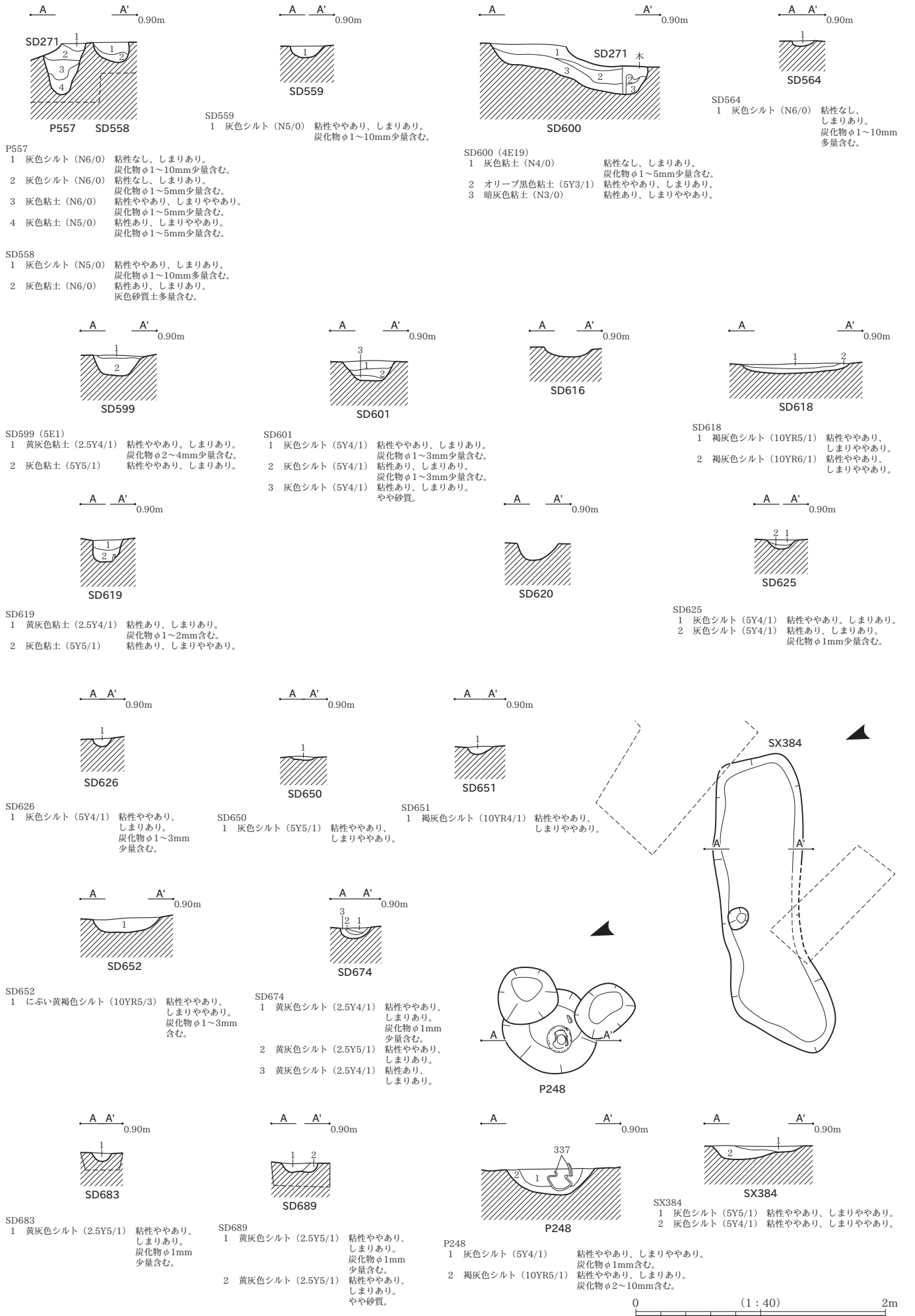
- SD399
- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 2 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりややあり。
 - 3 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 4 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。
 - 5 灰色粘土 (5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり。
 - 6 灰色粘土 (5Y6/1) 粘性あり、しまりややあり。



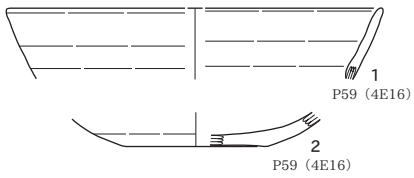
SD407

- SD407
- 1 灰色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm少量含む。





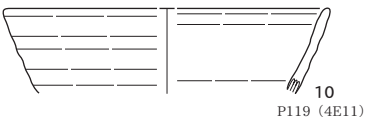
SB901-P59 (1・2)



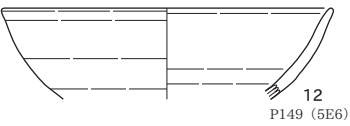
SB901-P101 (3)



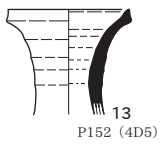
SB901-P119 (10・11)



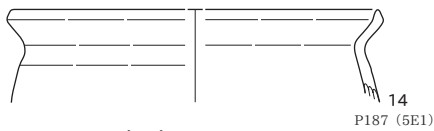
SB901-P149 (12)



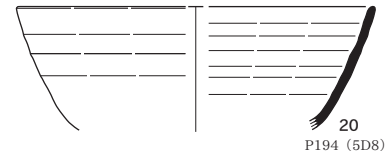
SB901-P152 (13)



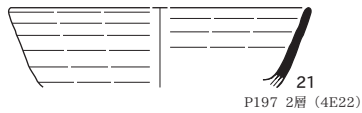
SB901-P187 (14)



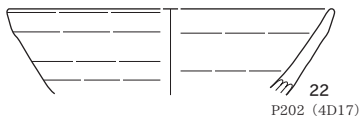
SB901-P194 (20)



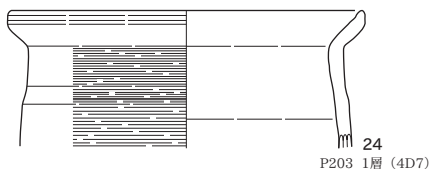
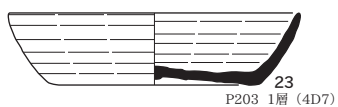
SB901-P197 (21)



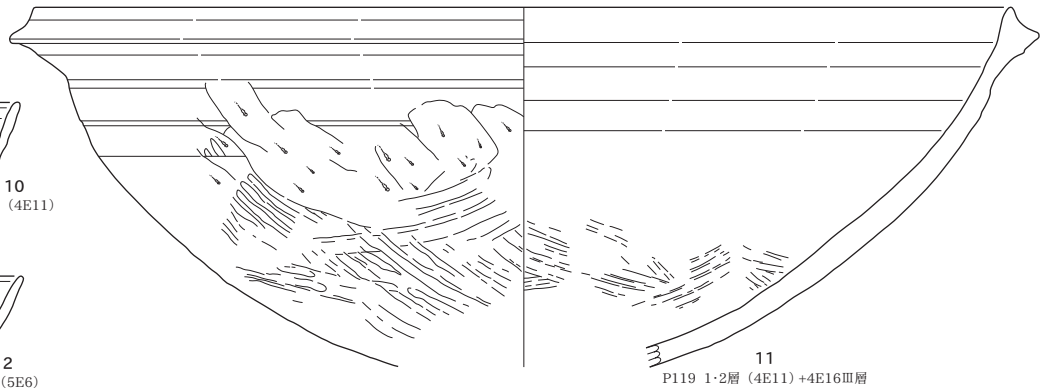
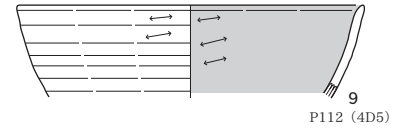
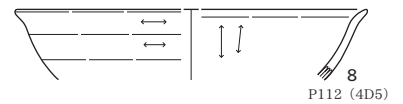
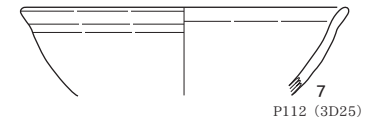
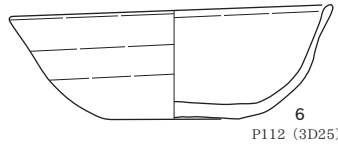
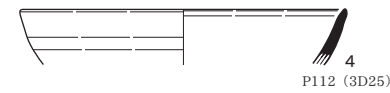
SB901-P202 (22)



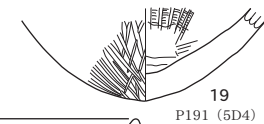
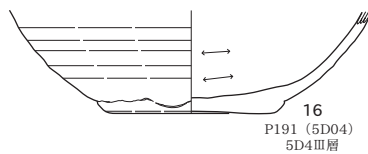
SB901-P203 (23・24)



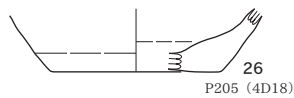
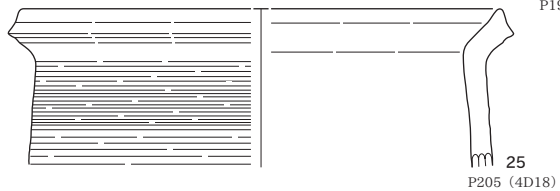
SB901-P112 (4~9)



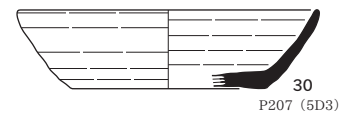
SB901-P191 (15~19)



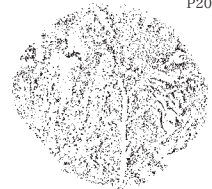
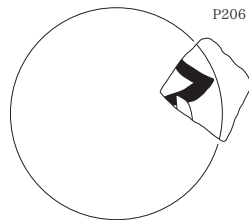
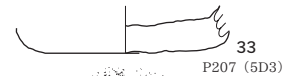
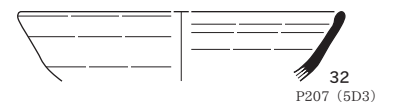
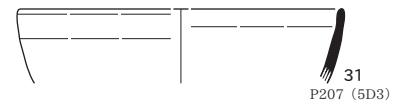
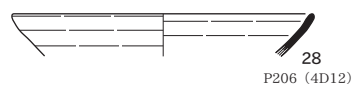
SB901-P205 (25・26)



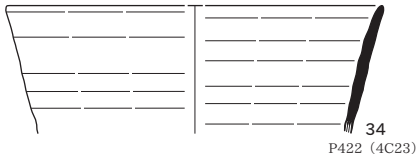
SB901-P207 (30~33)



SB901-P206 (27~29)



SB903-P422 (34)



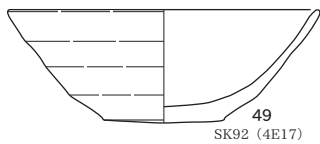
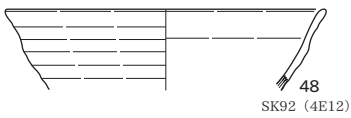
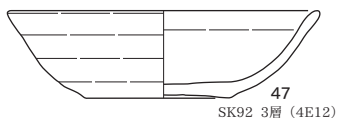
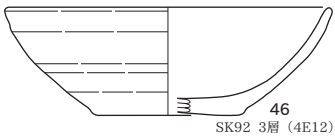
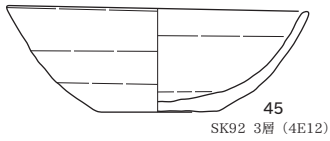
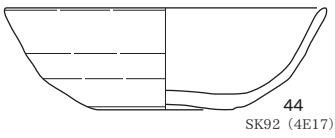
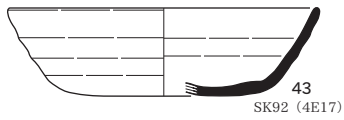
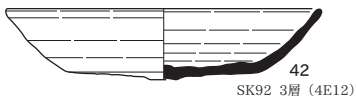
SB903-P503 (35)



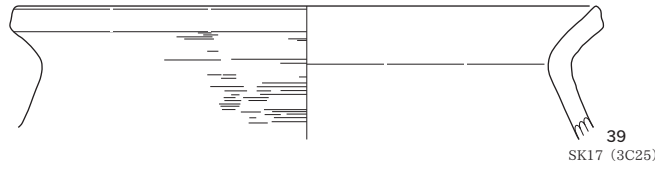
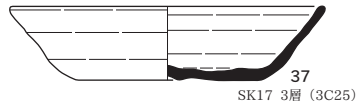
SE443 (36)



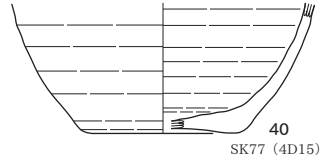
SK92 (42~54)



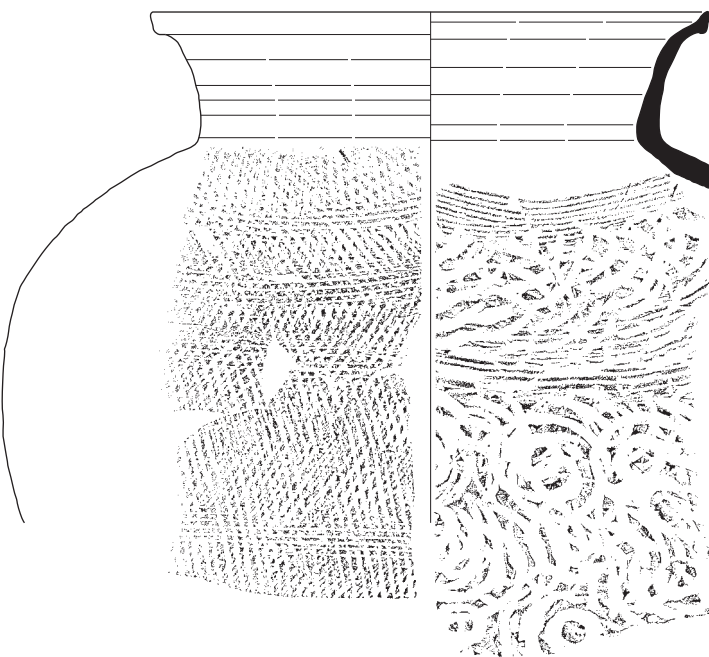
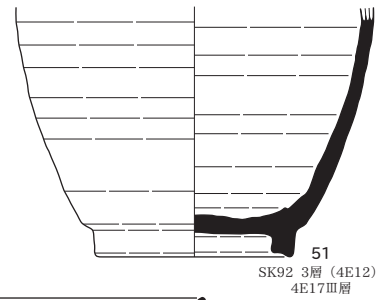
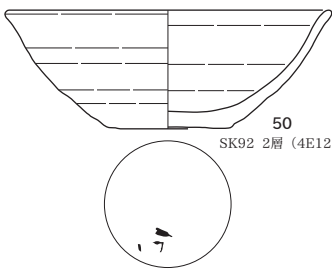
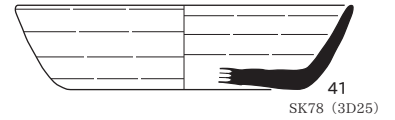
SK17 (37~39)



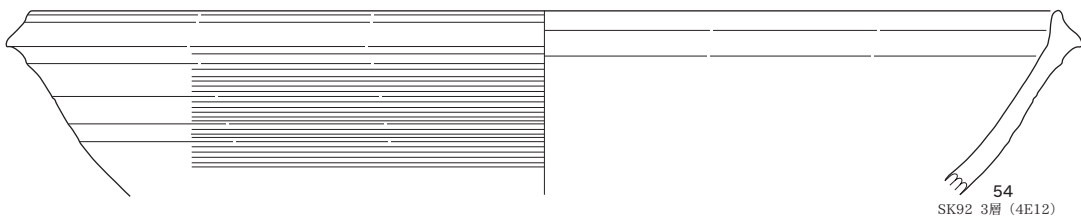
SK77 (40)



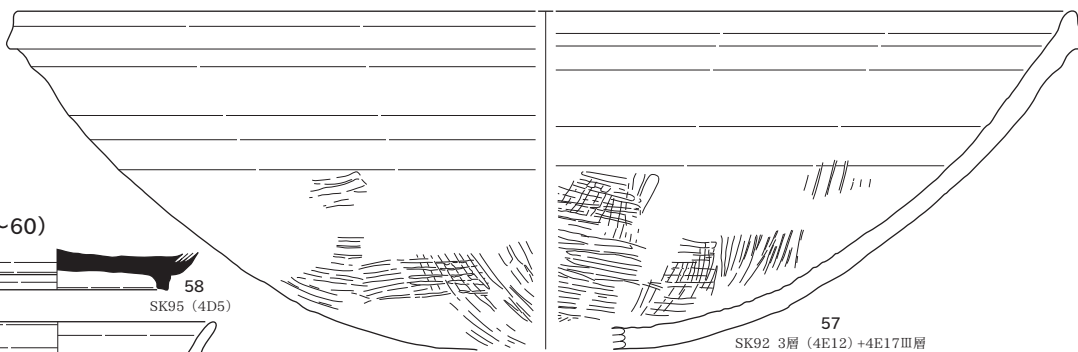
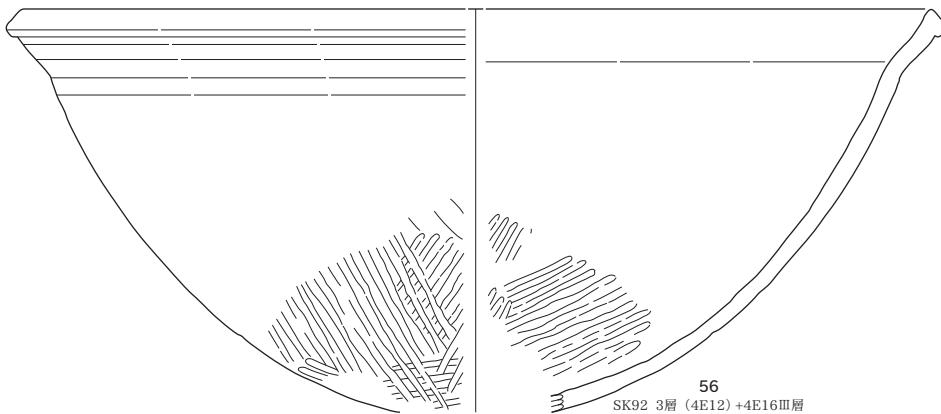
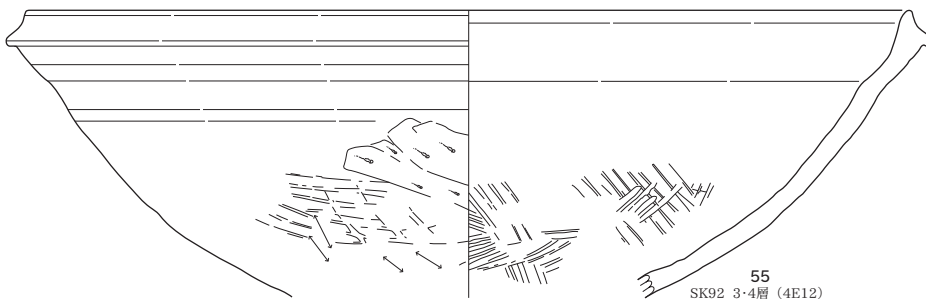
SK78 (41)



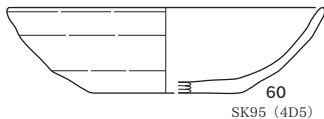
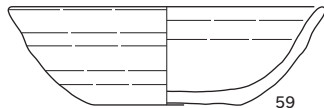
52
SK92 1~4層 (4E11)
SK92 1~4層 (4E12)
ほか



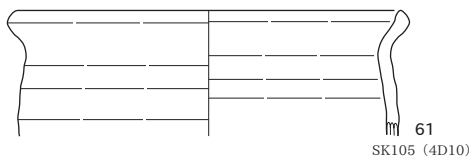
SK92 (55~57)



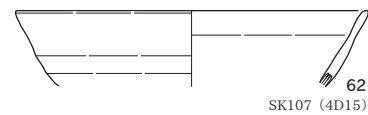
SK95 (58~60)



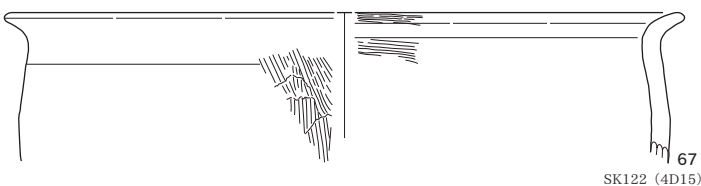
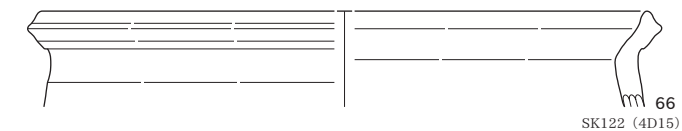
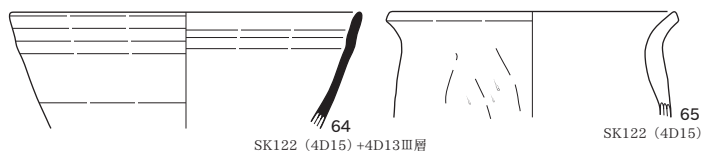
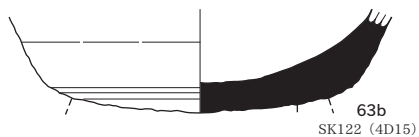
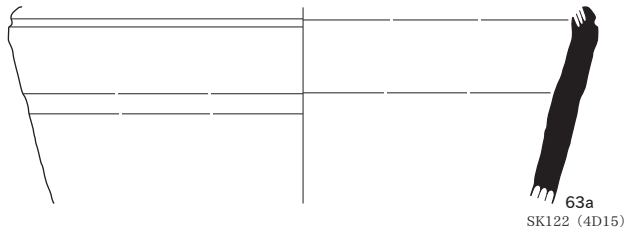
SK105 (61)



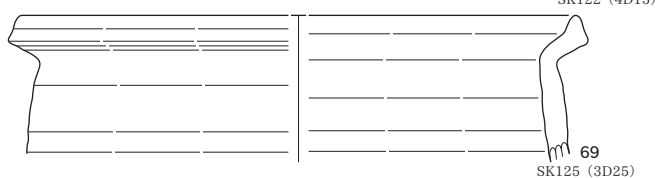
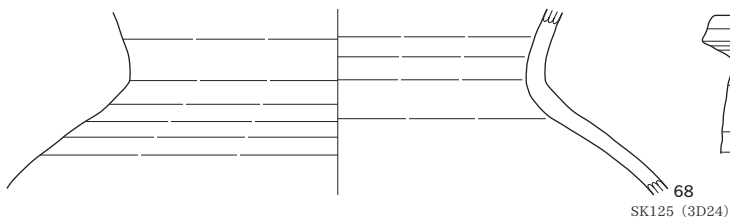
SK107 (62)



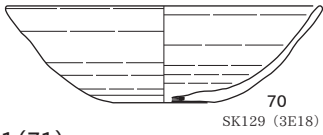
SK122 (63~67)



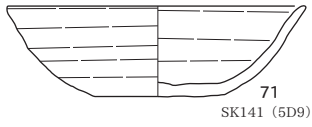
SK125 (68・69)



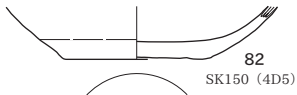
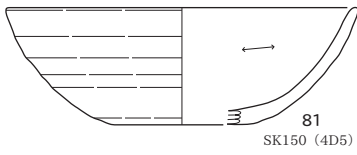
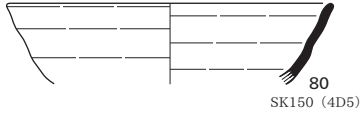
SK129 (70)



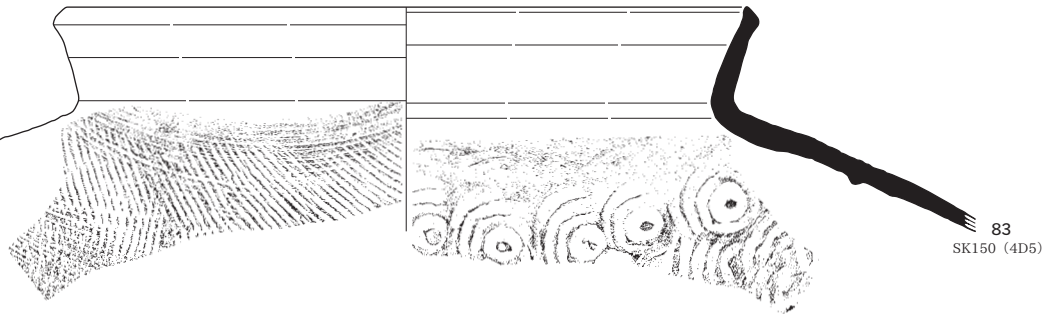
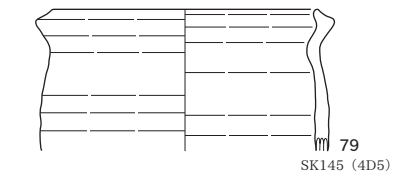
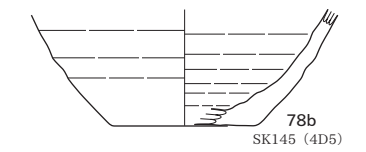
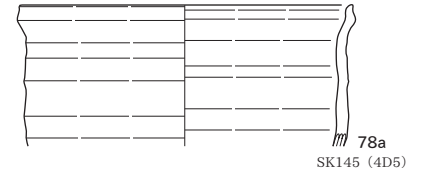
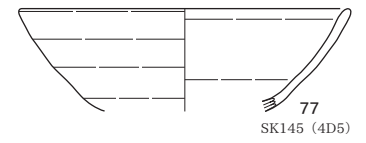
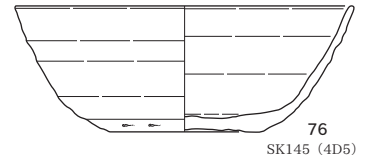
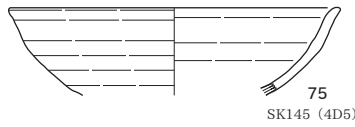
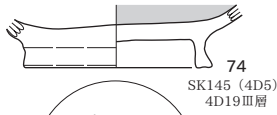
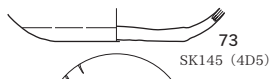
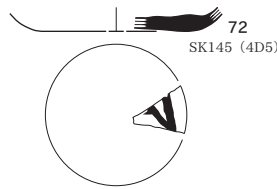
SK141 (71)



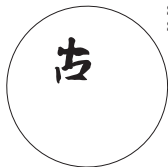
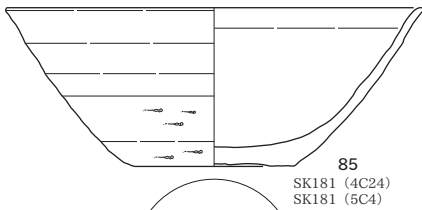
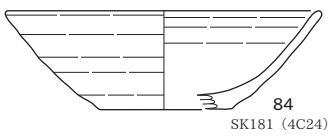
SK150 (80~83)



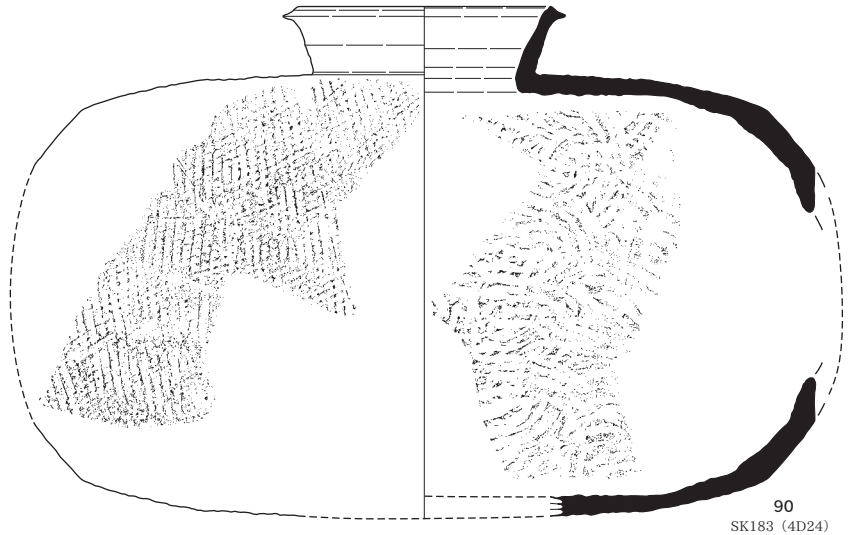
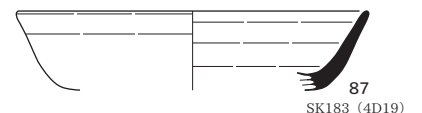
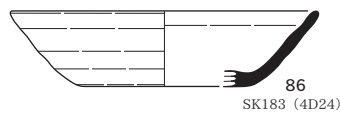
SK145 (72~79)



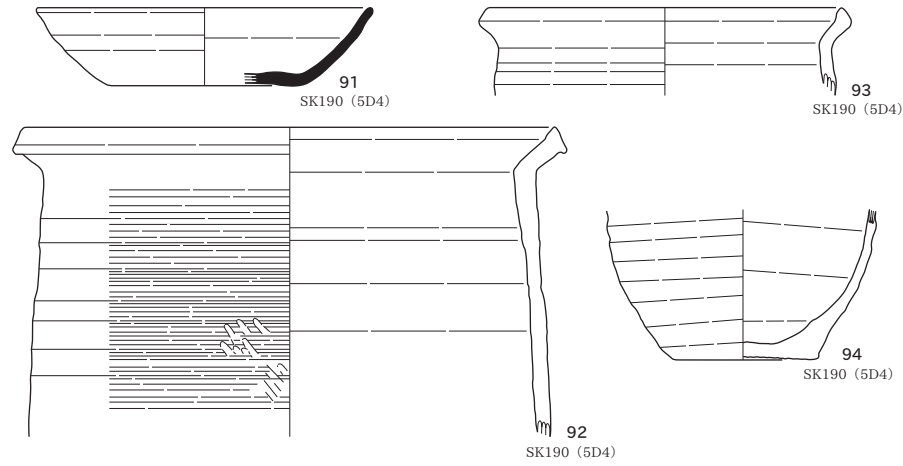
SK181 (84 · 85)



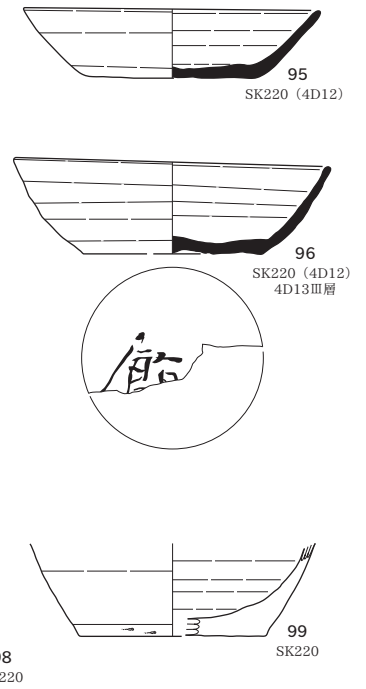
SK183 (86~90)



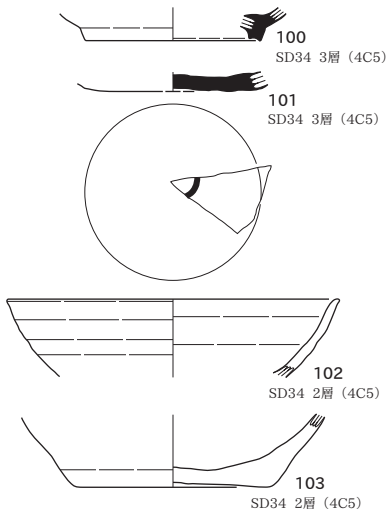
SK190 (91~94)



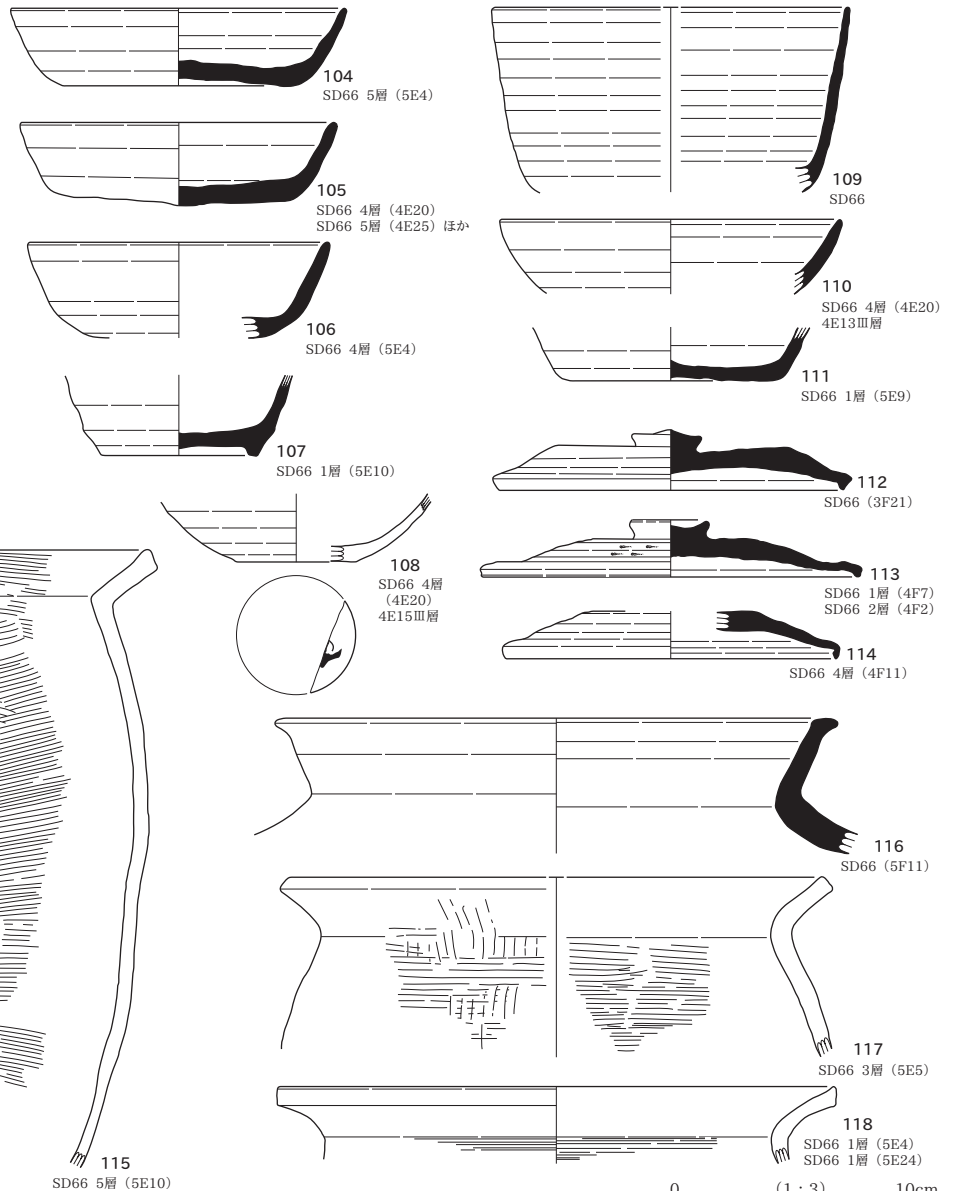
SK220 (95~99)



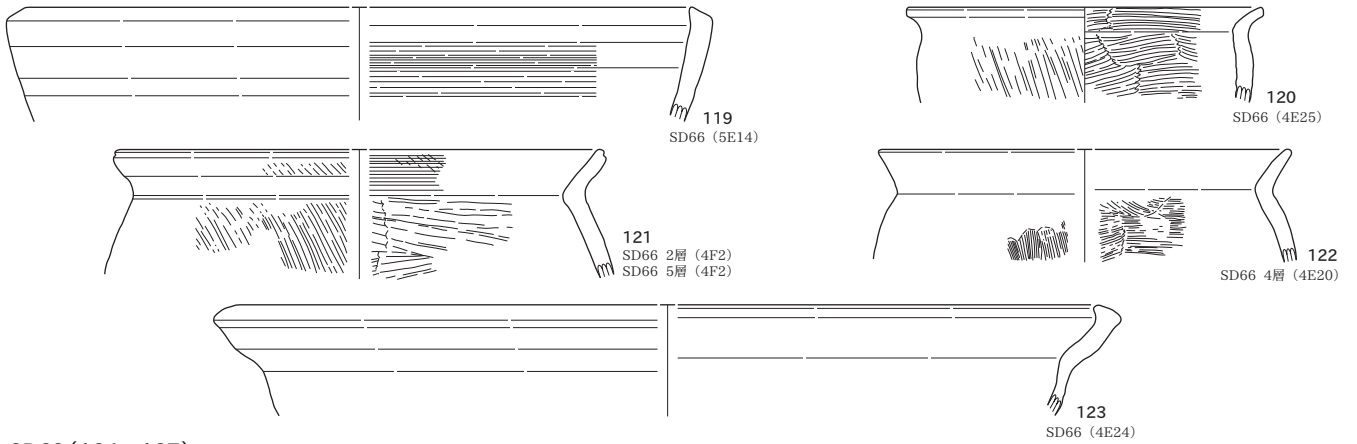
SD34 (100~103)



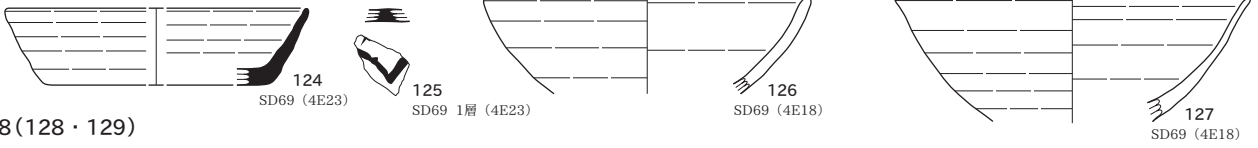
SD66 (104~118)



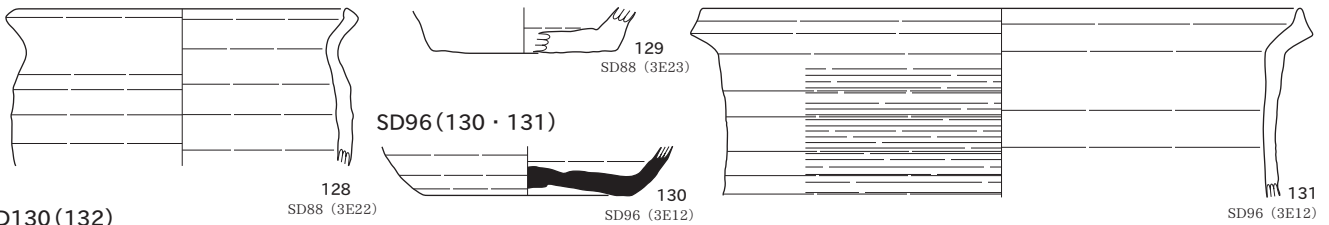
SD66(119~123)



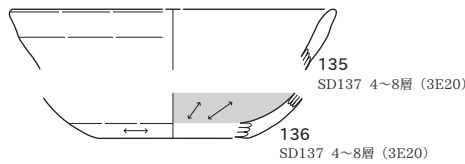
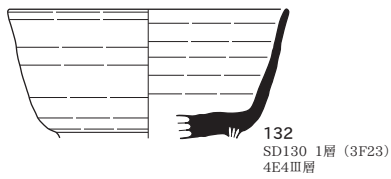
SD69(124~127)



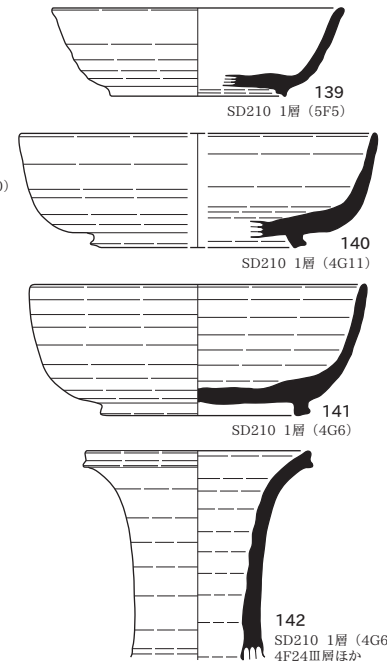
SD88(128 · 129)



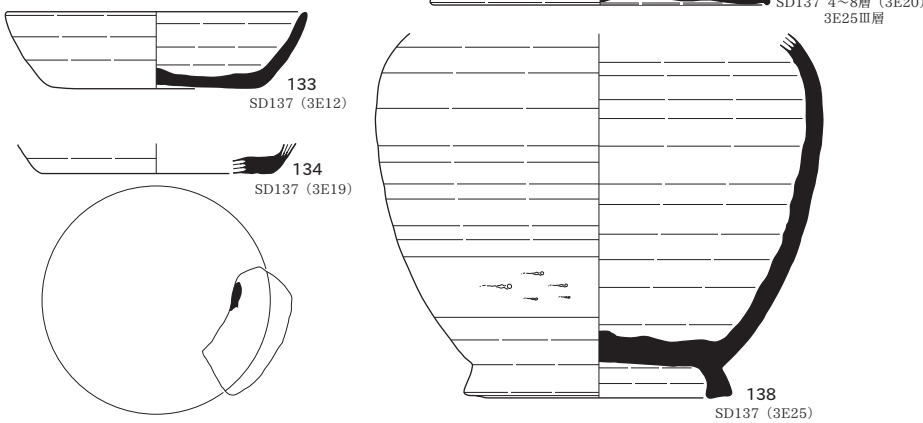
SD130(132)



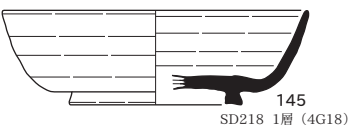
SD210(139~144)



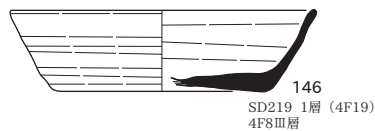
SD137(133~138)



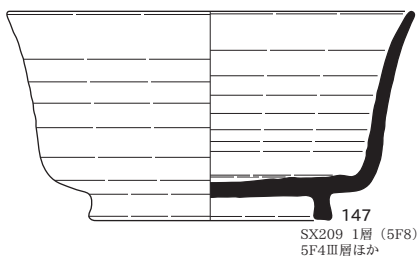
SD218(145)



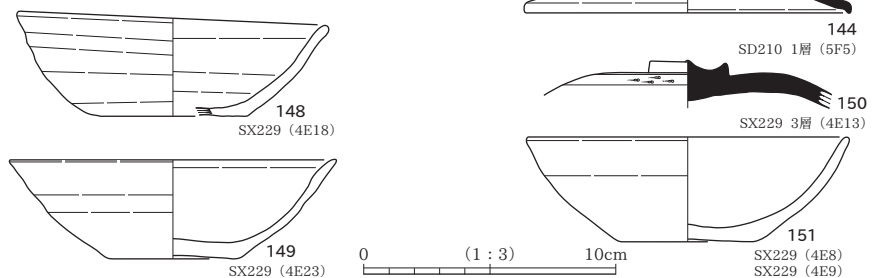
SD219(146)



SX209(147)

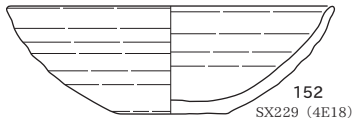


SX229(148~151)

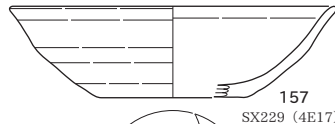


0 (1 : 3) 10cm

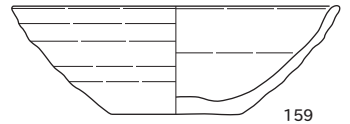
SX229 (152~165)



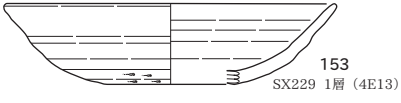
152
SX229 (4E18)



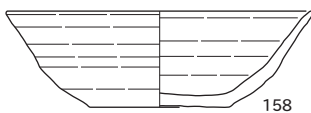
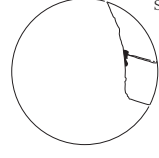
157
SX229 (4E17)



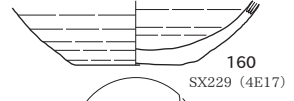
159
SX229 3層 (4E18)



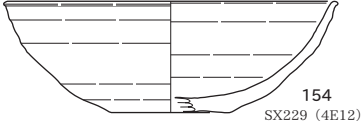
153
SX229 1層 (4E13)



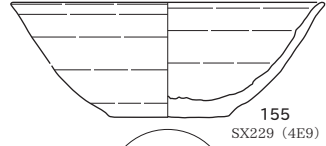
158
SX229 3層 (4E18)



160
SX229 (4E17)



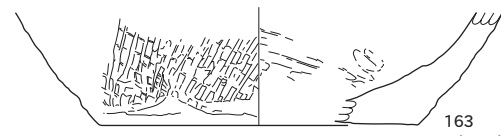
154
SX229 (4E12)



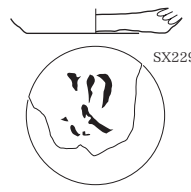
155
SX229 (4E9)



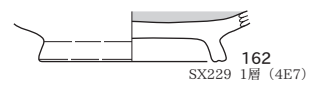
156
SX229 (4E23)



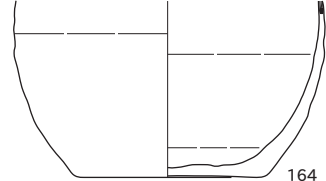
163
SX229 (4E18)



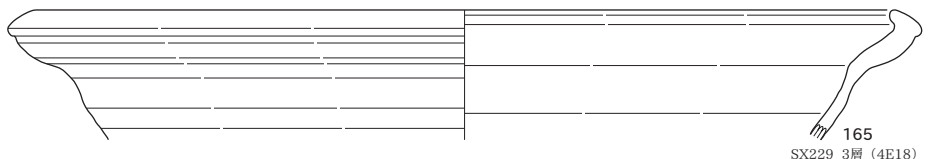
161
SX229 (4E18)



162
SX229 1層 (4E7)



164
SX229 4層 (4E18)



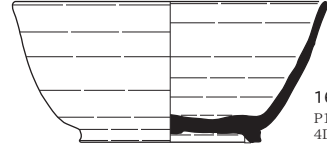
165
SX229 3層 (4E18)

P103 (167・168)

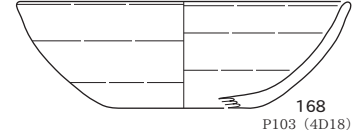
P102 (166)



166
P102 (4D20)
4E1 III層

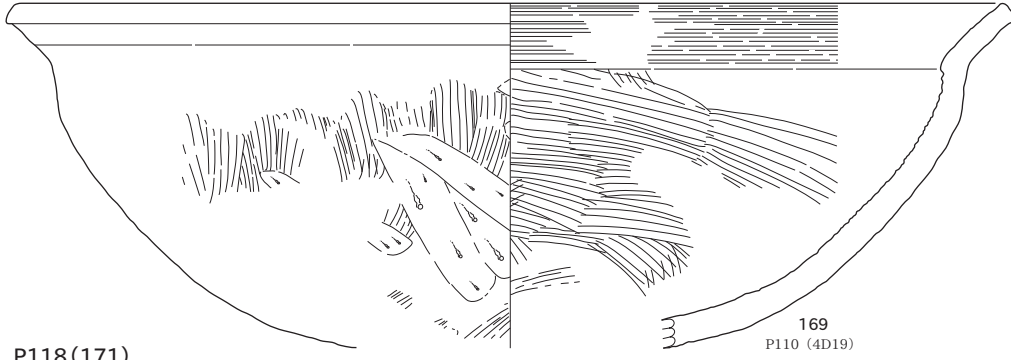


167
P103 (4D18)
4D20 III層ほか

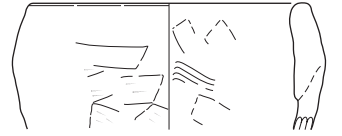


168
P103 (4D18)

P110 (169・170)



169
P110 (4D19)

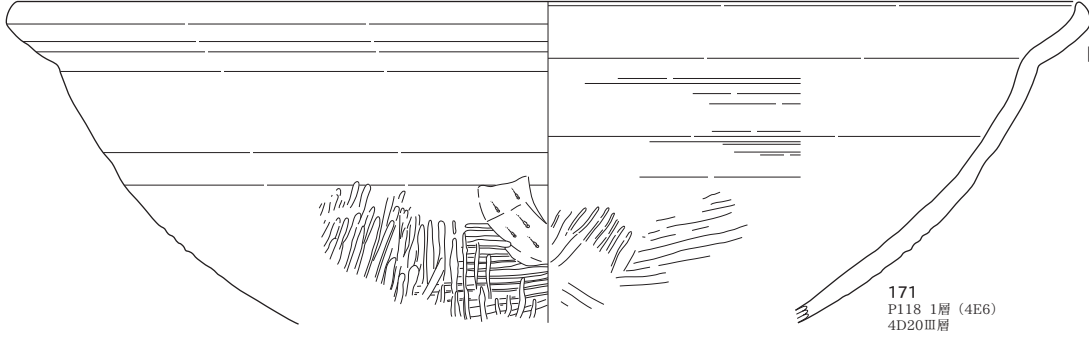


170a
4D22 III層



170b
P110 (4D19)

P118 (171)

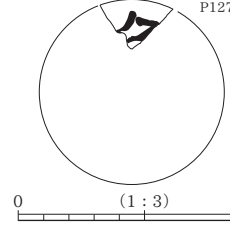


171
P118 1層 (4E6)
4D20 III層

P127 (172)



172
P127 (4D9)

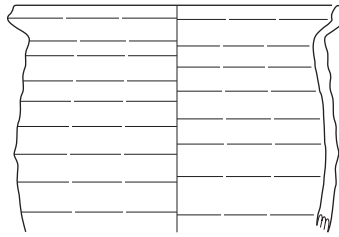


0 (1:3) 10cm

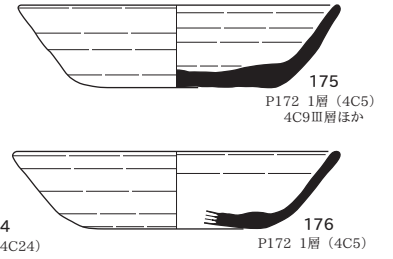
P155(173)



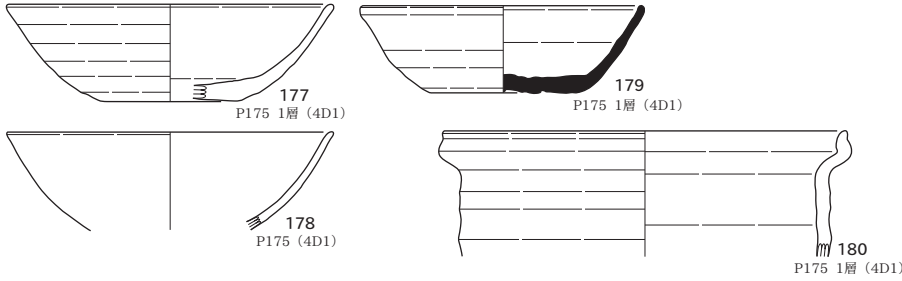
P168(174)



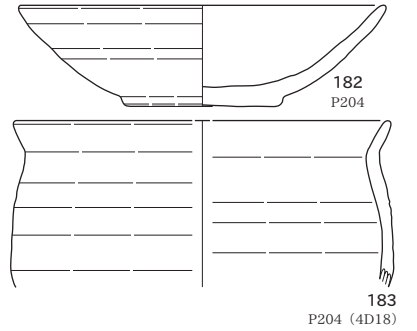
P172(175・176)



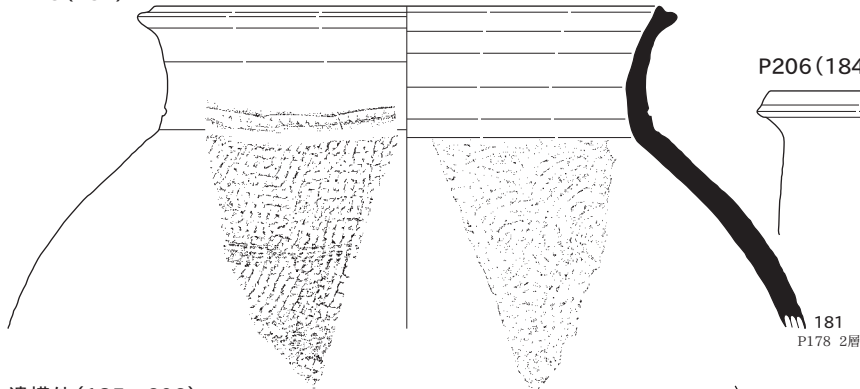
P175(177~180)



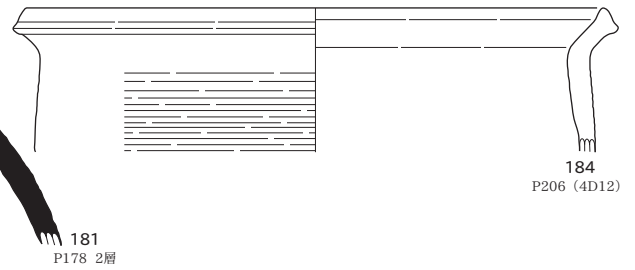
P204(182・183)



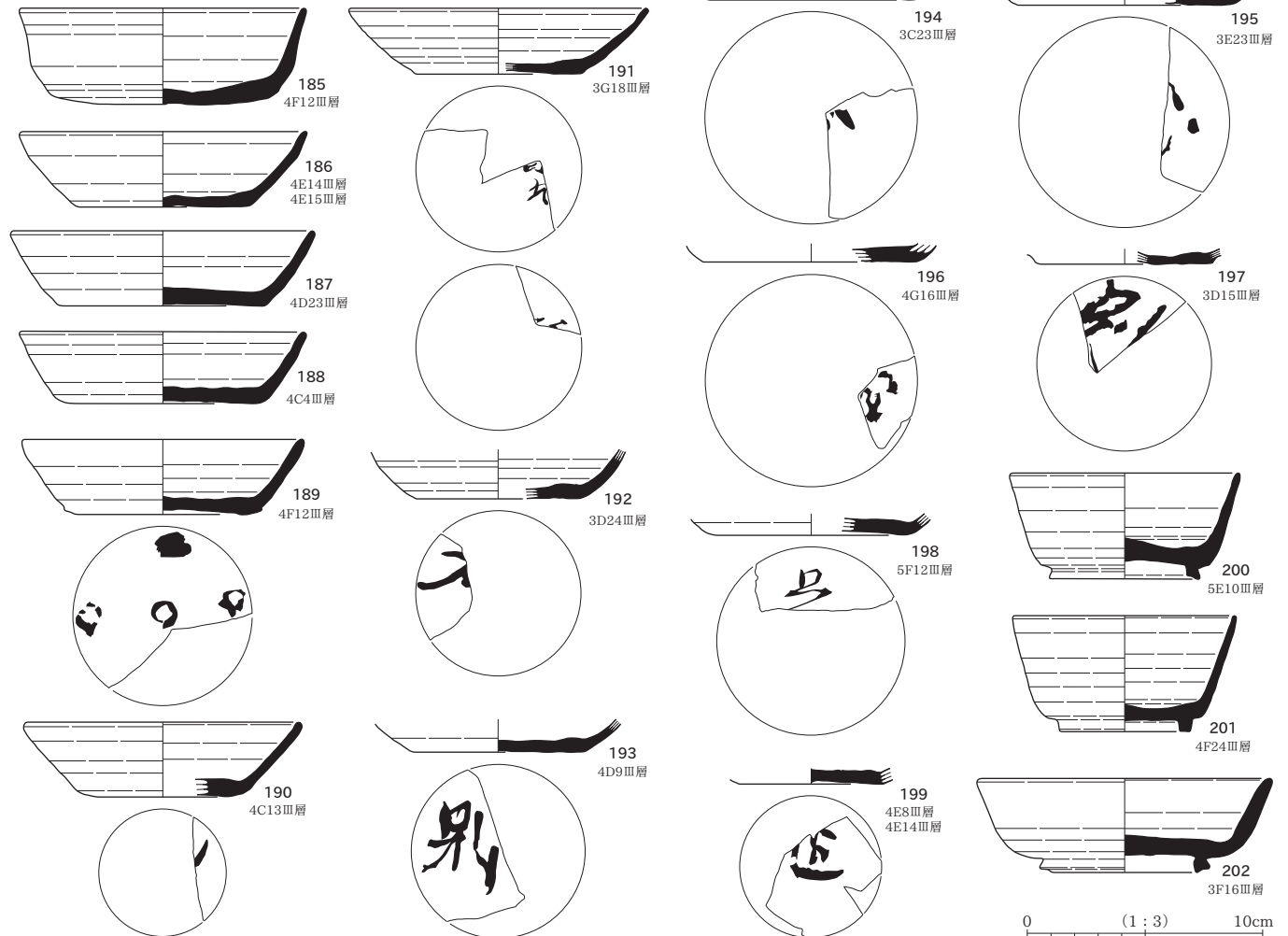
P178(181)



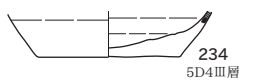
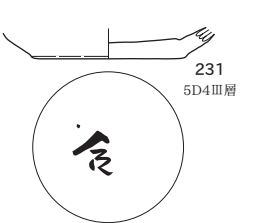
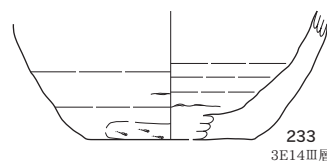
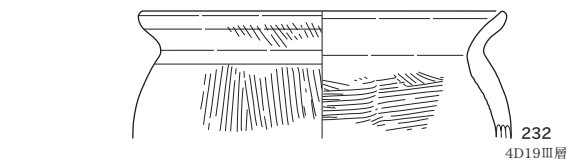
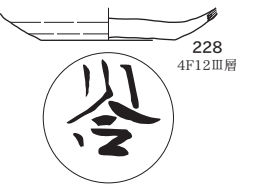
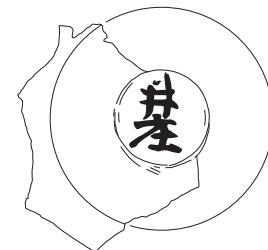
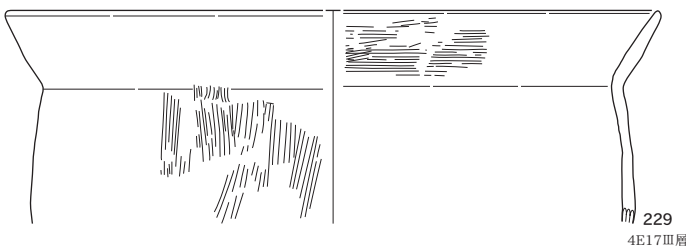
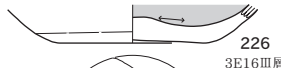
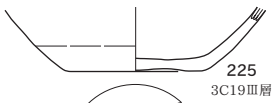
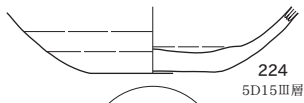
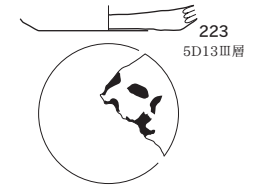
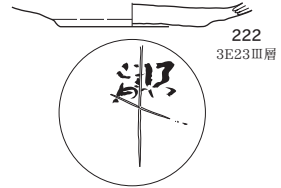
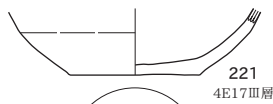
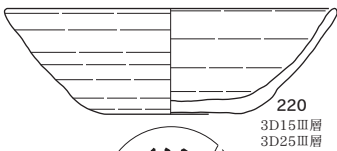
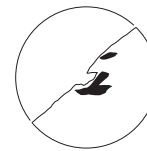
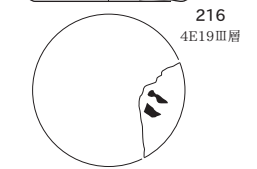
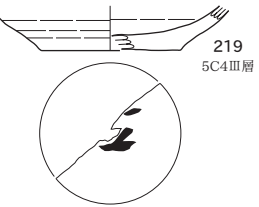
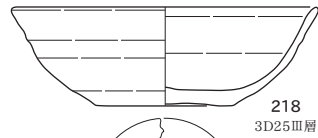
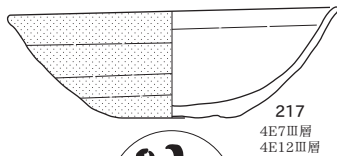
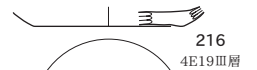
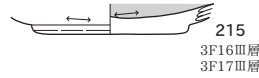
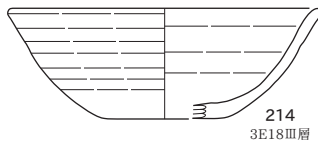
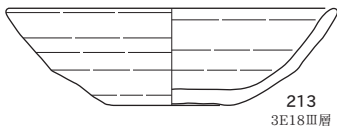
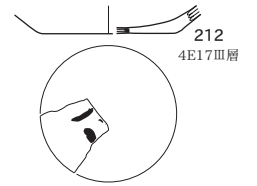
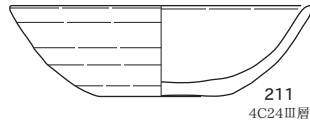
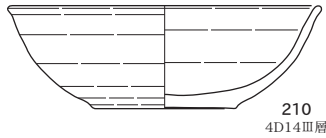
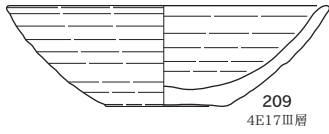
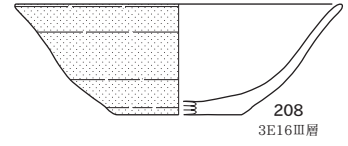
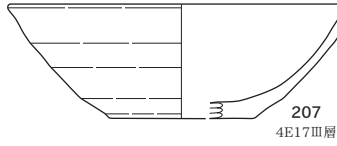
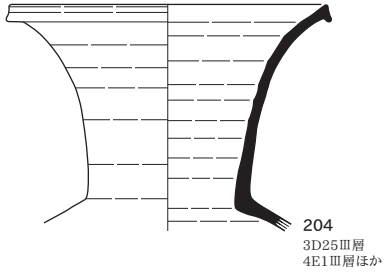
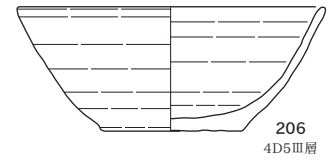
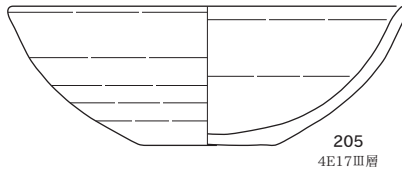
P206(184)

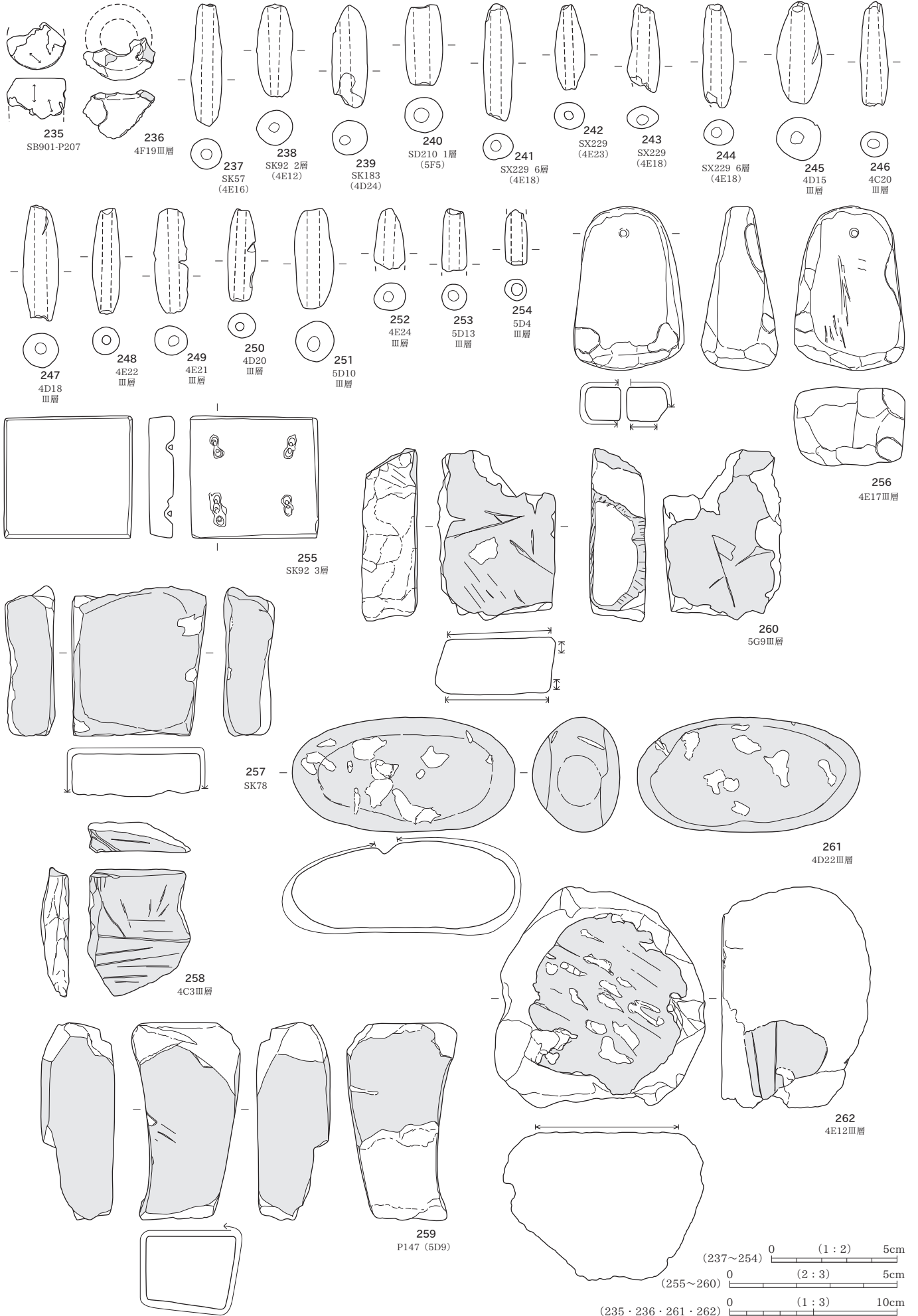


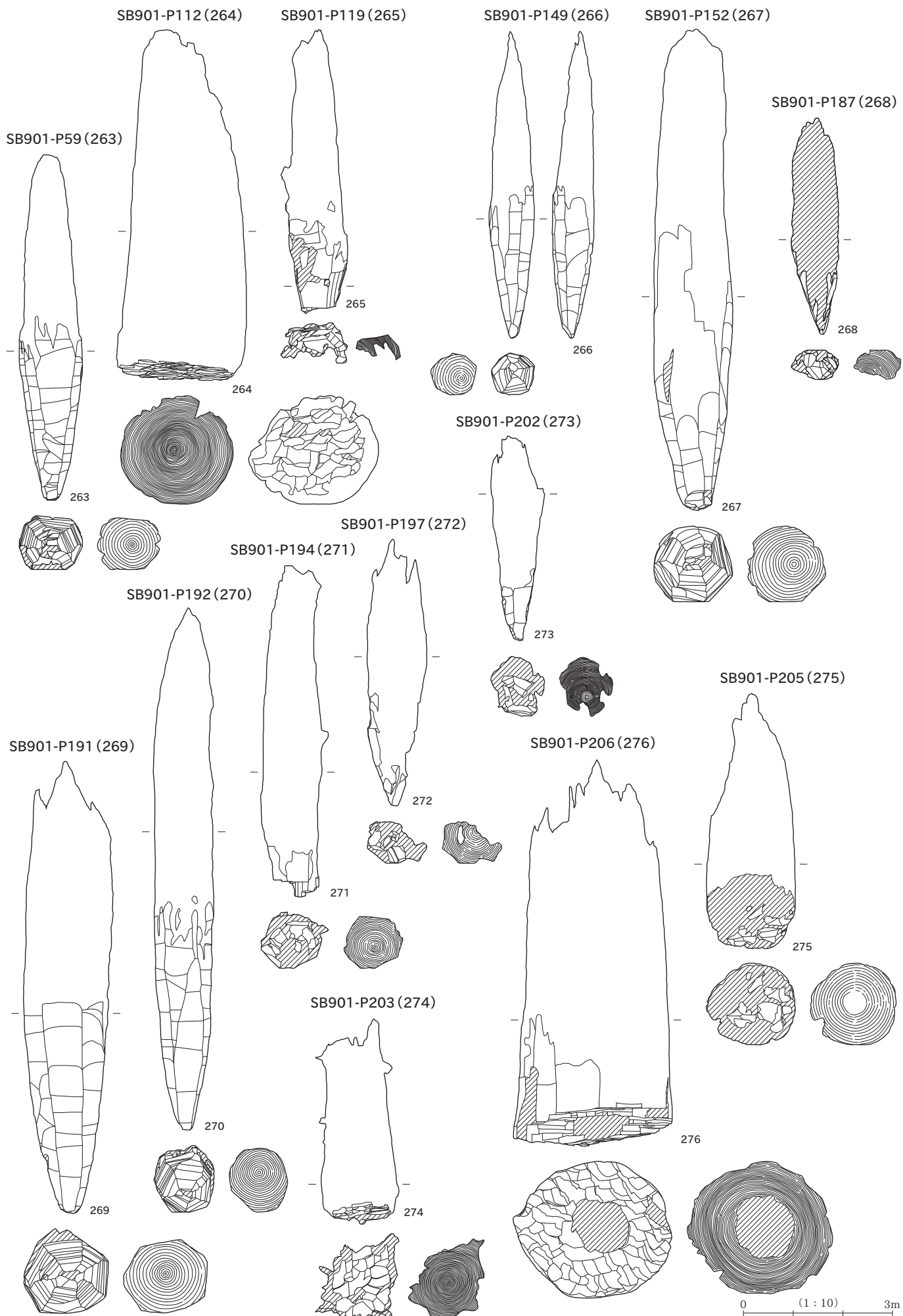
遺構外(185~202)



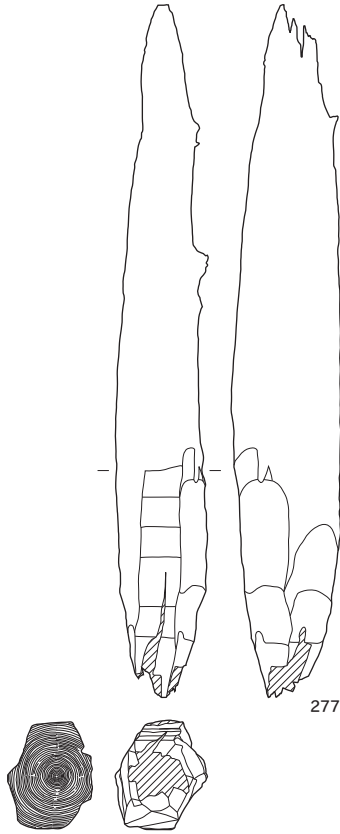
遺構外 (203~234)





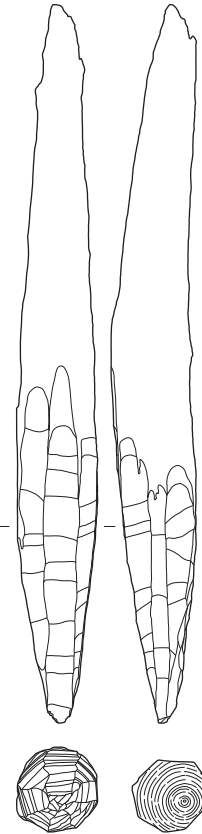


SB901-P207 (277)



277

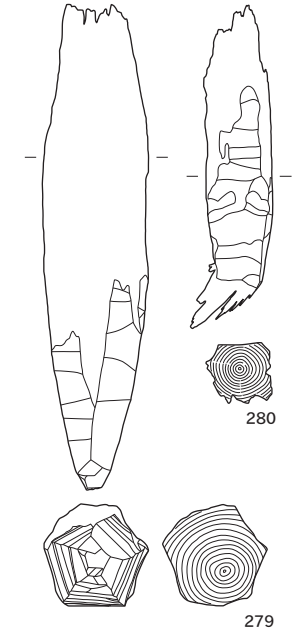
SB901-P216 (278)



278

SB901-P318 (280)

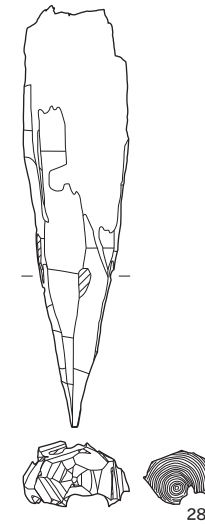
SB901-P232 (279)



280

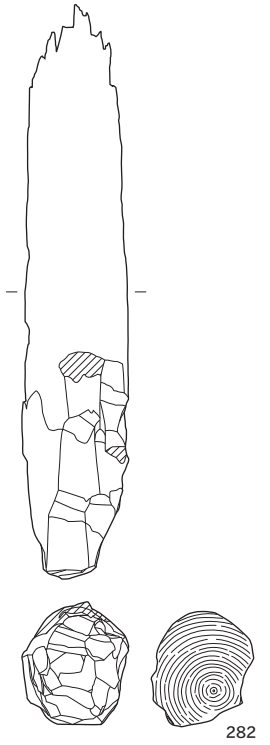
279

SB901-P383 (281)



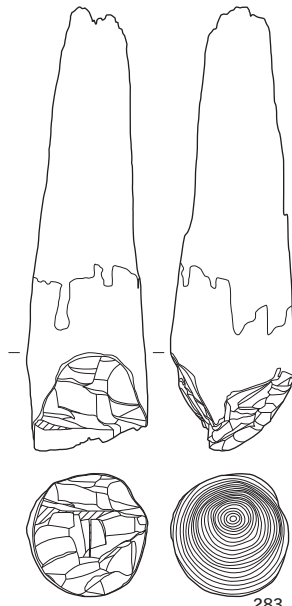
281

SB903-P422 (282)



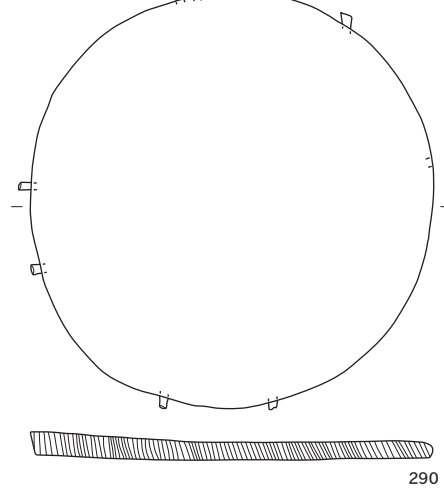
282

SB903-P503 (283)



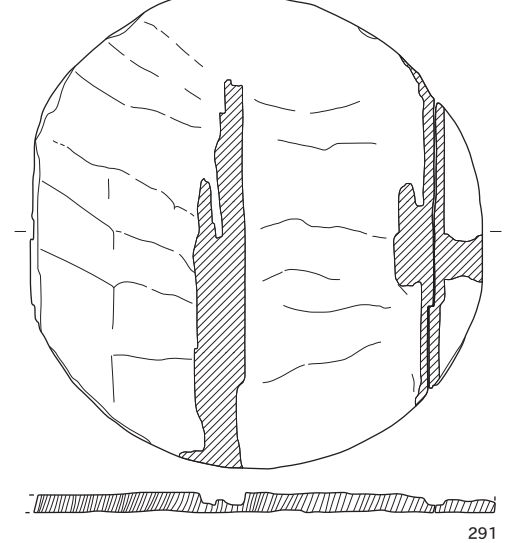
283

SE443 (290)



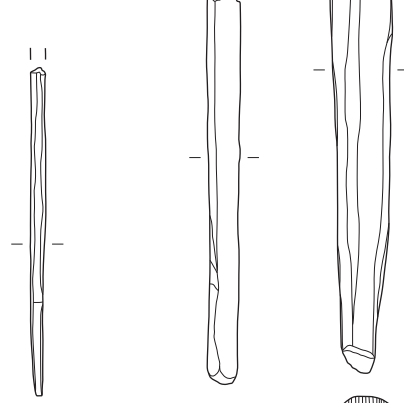
290

SX229 (291)



291

SE10 (284~288)



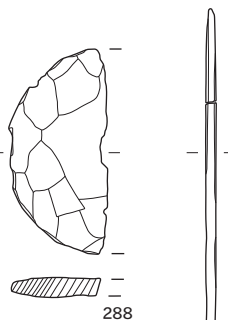
● 284

▨ 285

▩ 286

● 287

SE40 (289)



288

○ 289

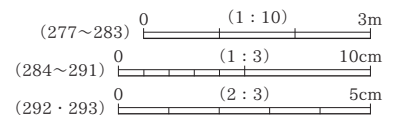
遺構外 (292・293)



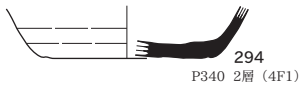
292
4E17Ⅲ層



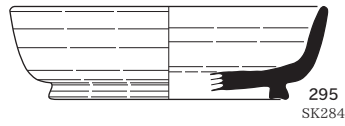
293
4G16Ⅲ層



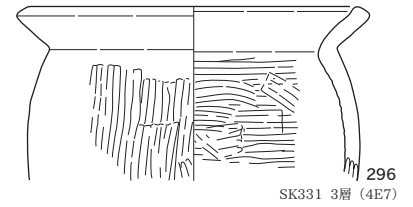
SB906-P340 (294)



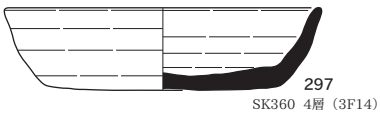
SK284 (295)



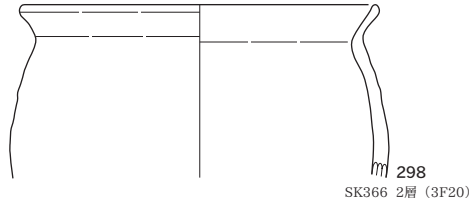
SK331 (296)



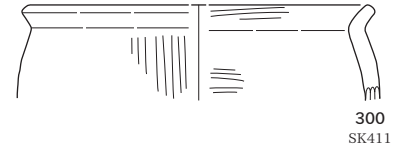
SK360 (297)



SK366 (298)



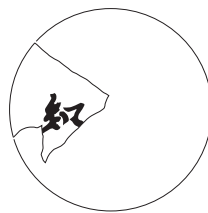
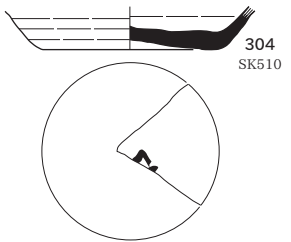
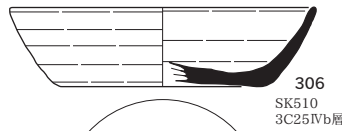
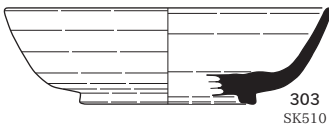
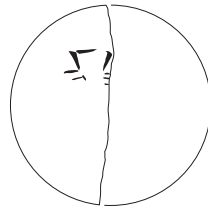
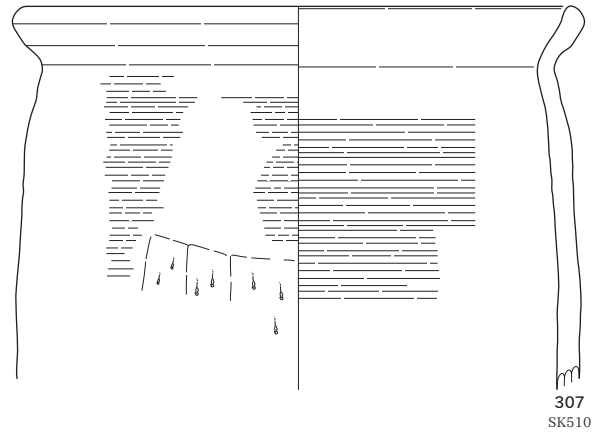
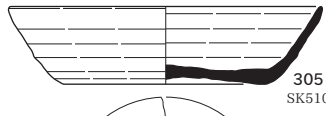
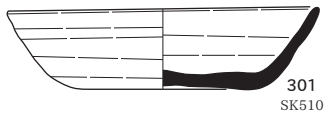
SK411 (300)



SK388 (299)



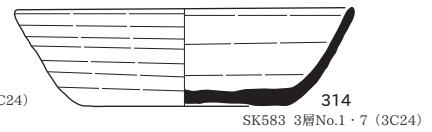
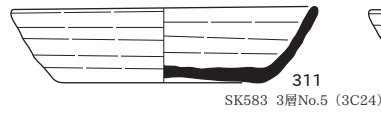
SK510 (301~308)



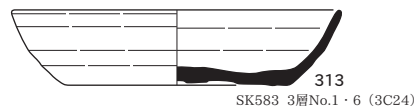
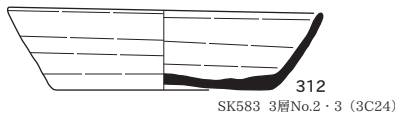
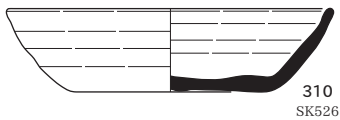
SK524 (309)



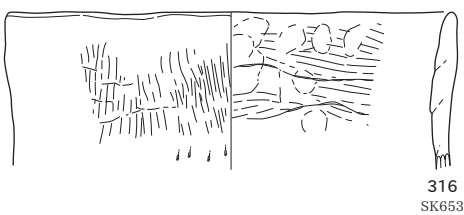
SK583 (311~315)



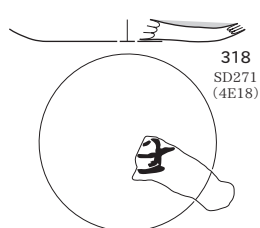
SK526 (310)



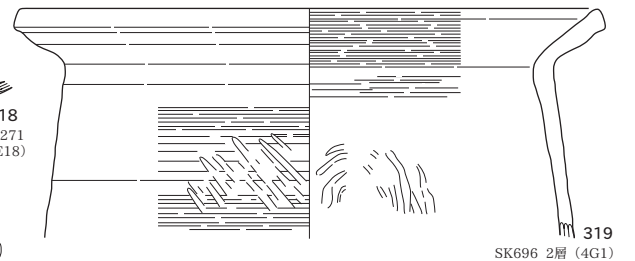
SK653 (316)



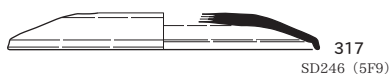
SD271 (318)



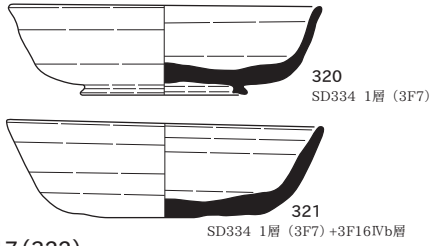
SK696 (319)



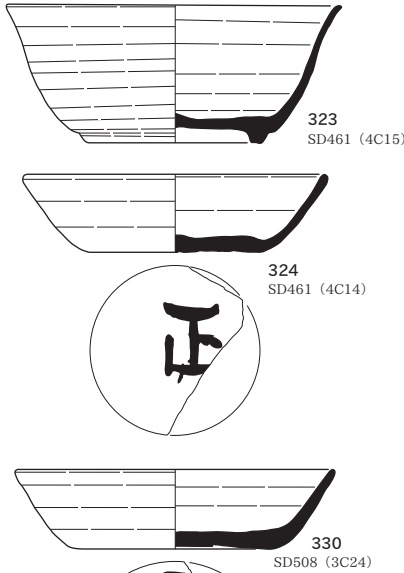
SD246 (317)



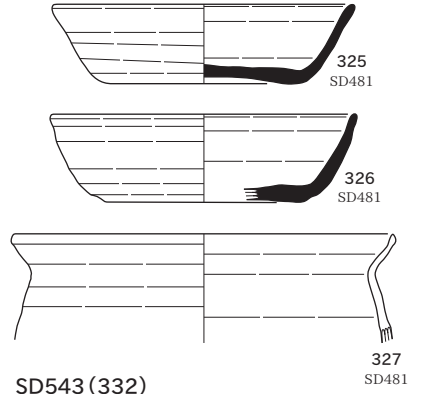
SD334 (320 · 321)



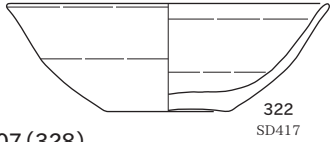
SD461 (323 · 324)



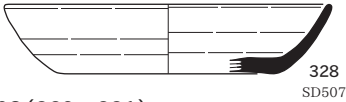
SD481 (325~327)



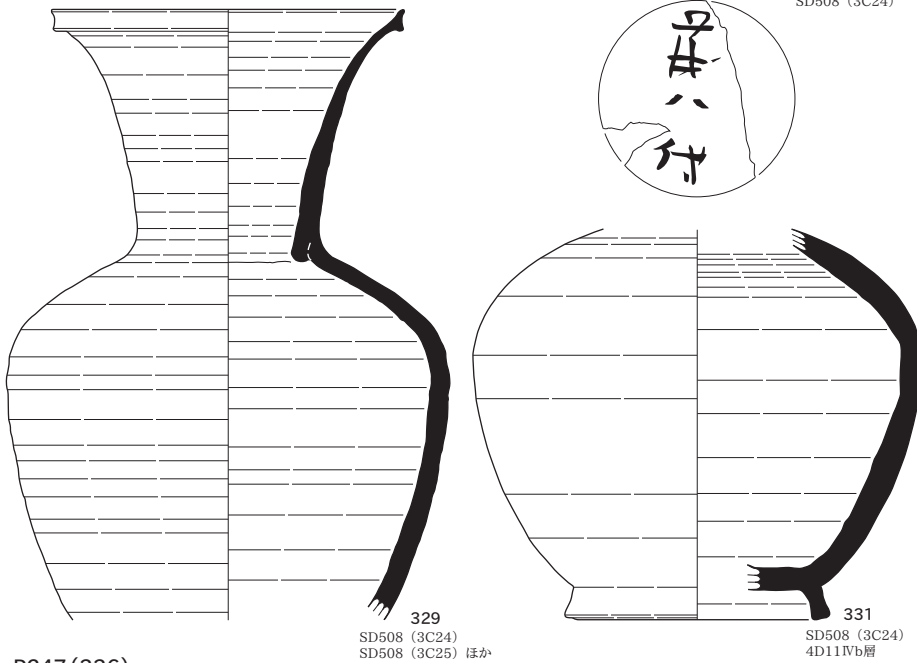
SD417 (322)



SD507 (328)



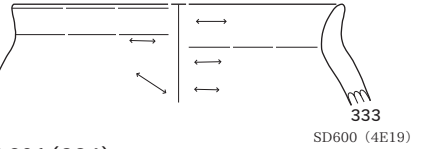
SD508 (329~331)



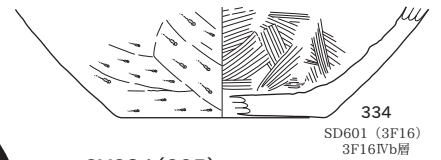
SD543 (332)



SD600 (333)



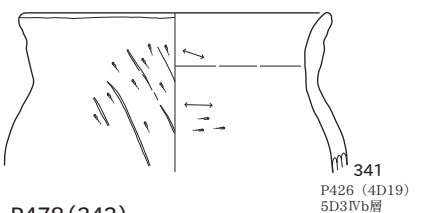
SD601 (334)



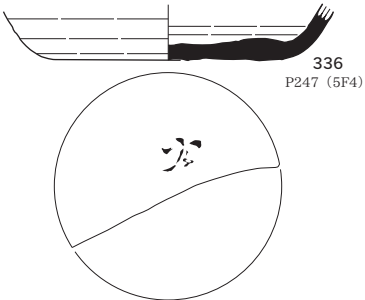
SX384 (335)



P426 (341)



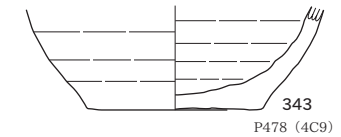
P247 (336)



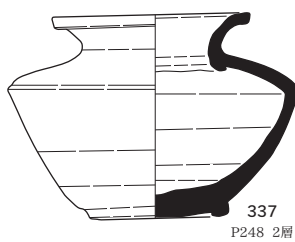
P301 (339)



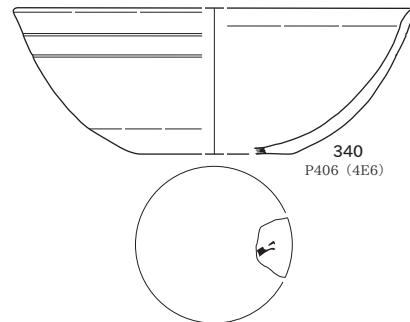
P478 (343)



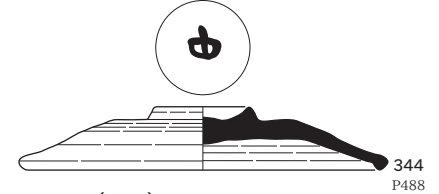
P248 (337)



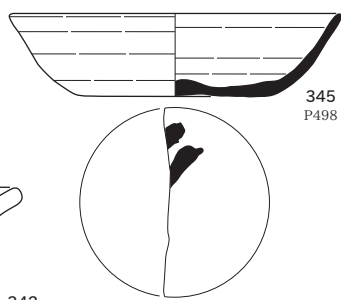
P406 (340)



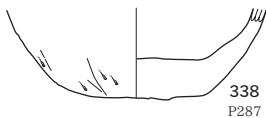
P488 (344)



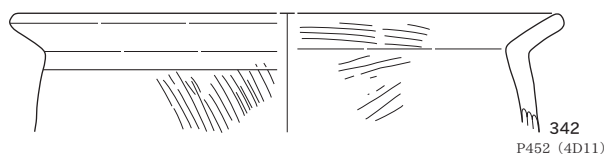
P498 (345)



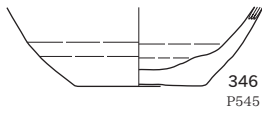
P287 (338)



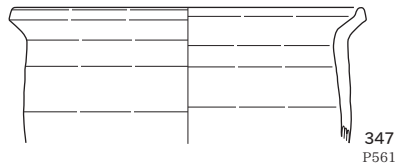
P452 (342)



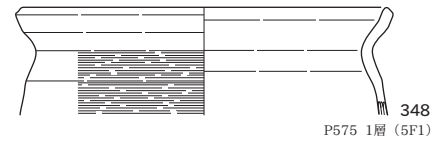
P545 (346)



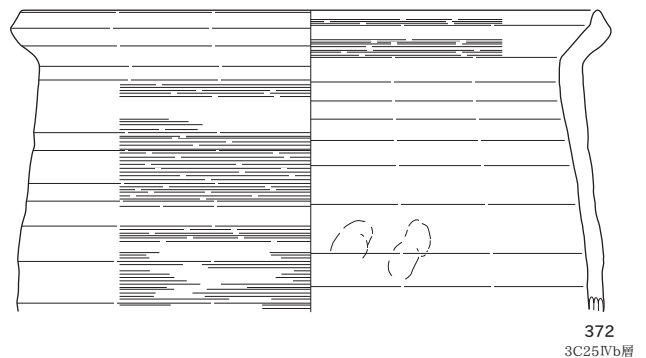
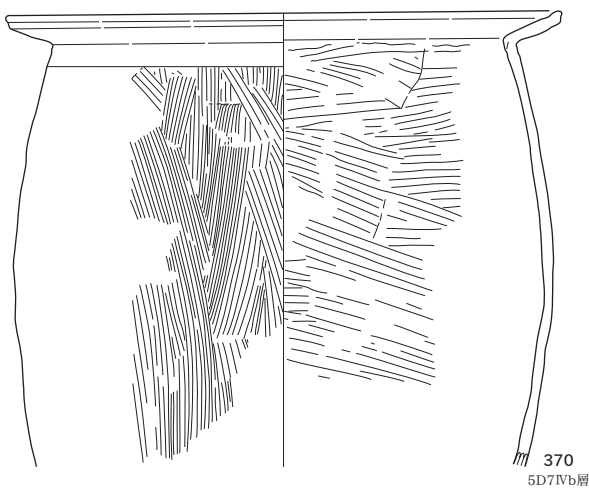
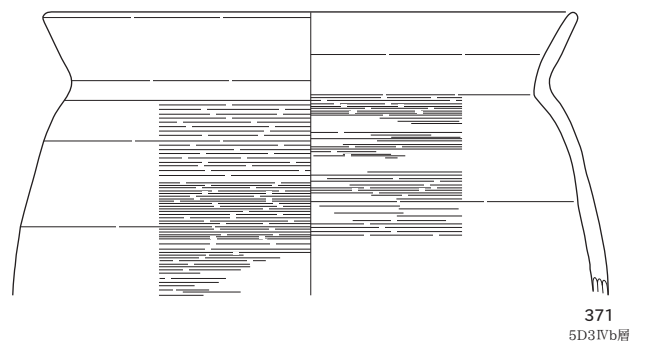
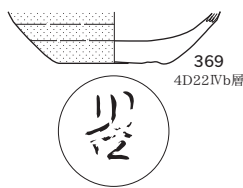
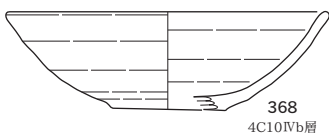
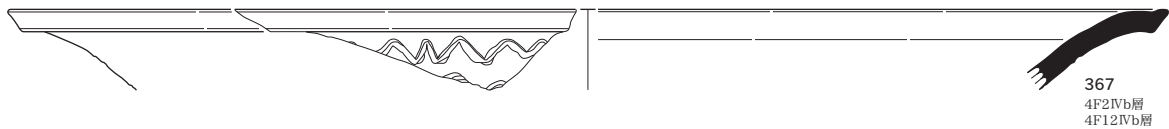
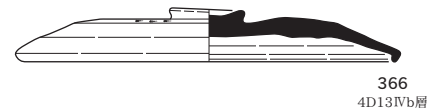
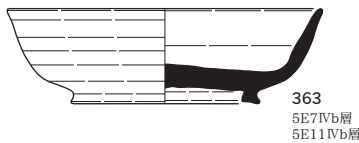
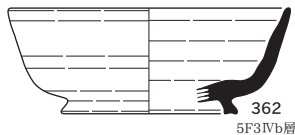
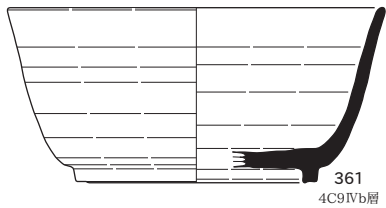
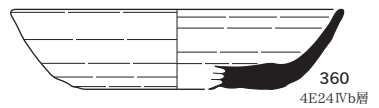
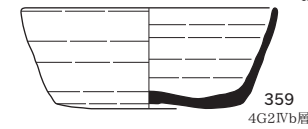
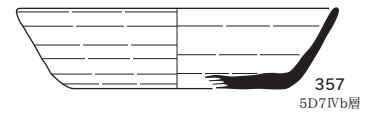
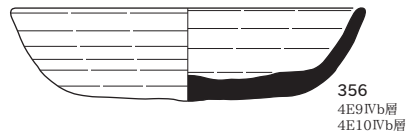
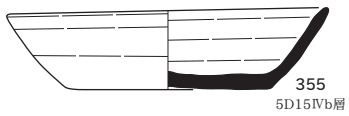
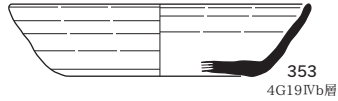
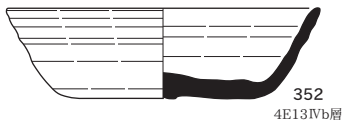
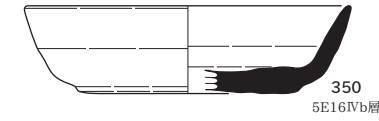
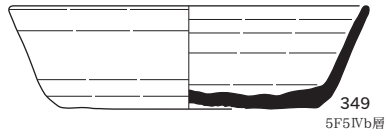
P561 (347)



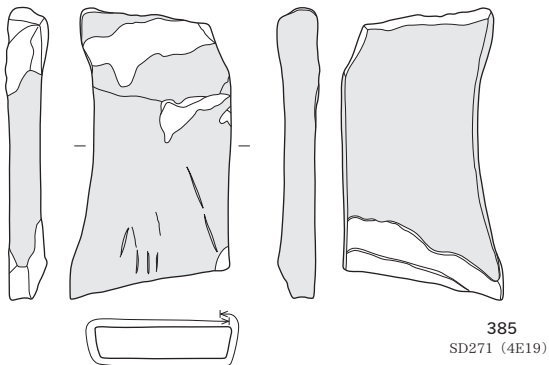
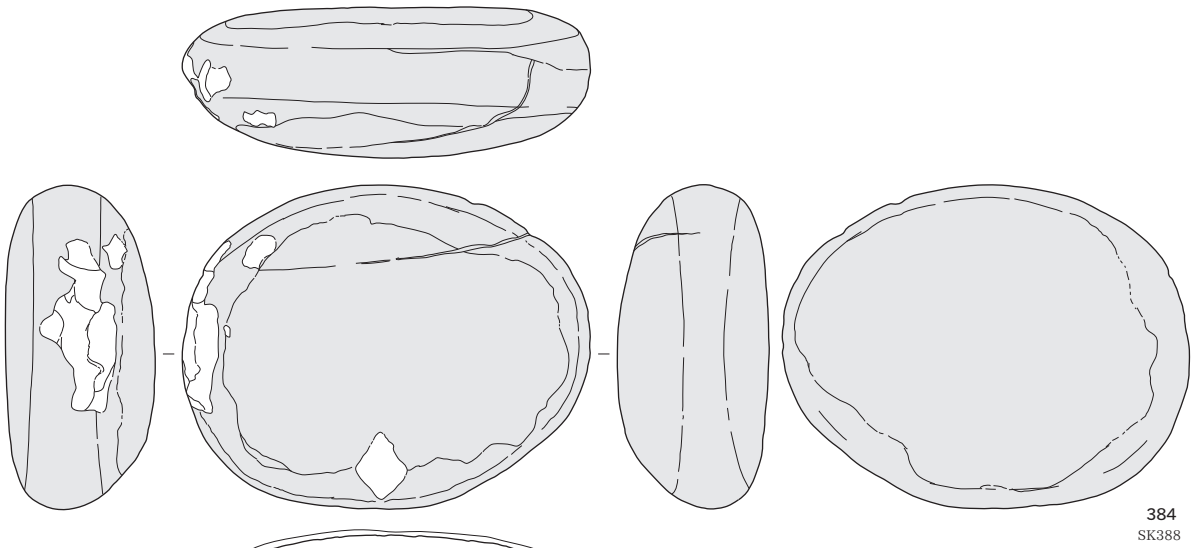
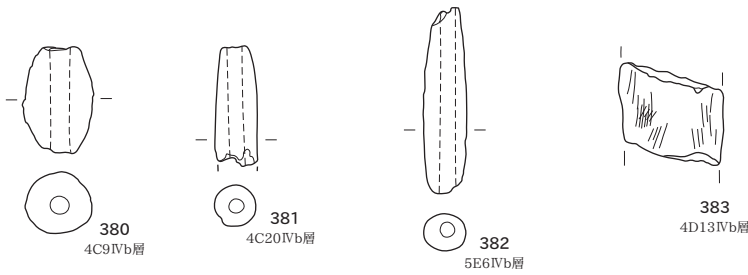
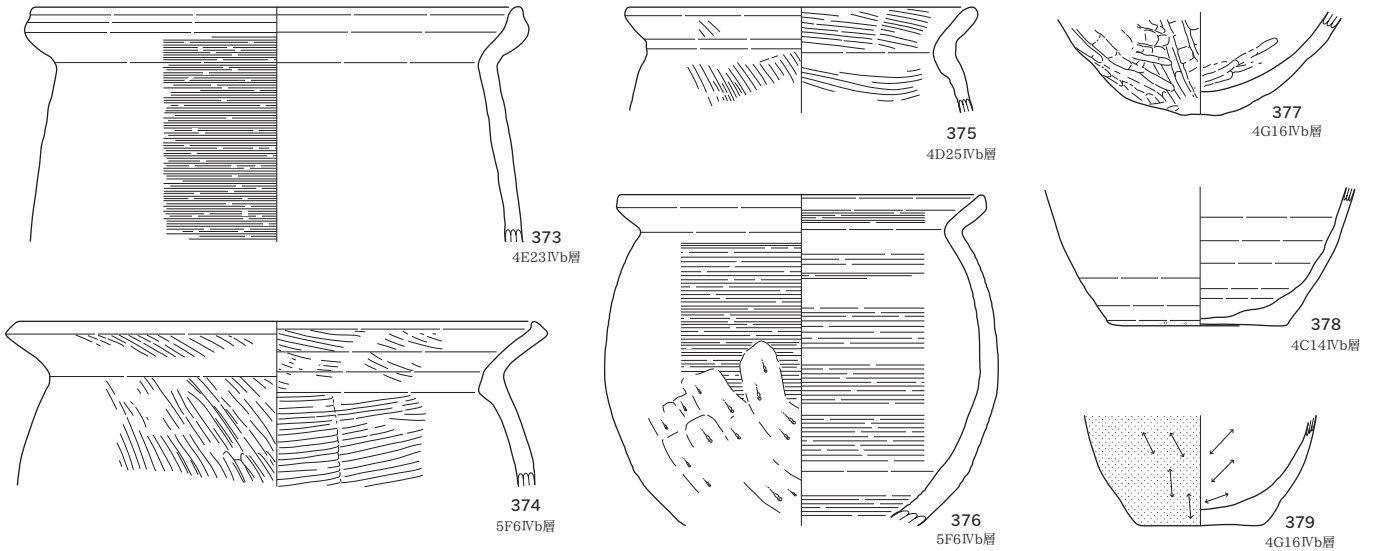
P575 (348)



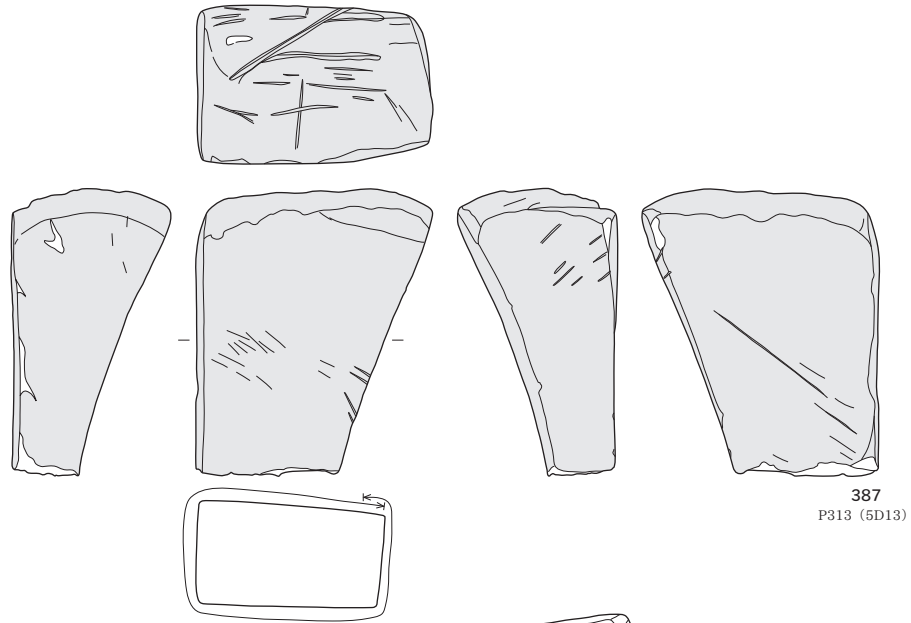
遺構外 (349~372)



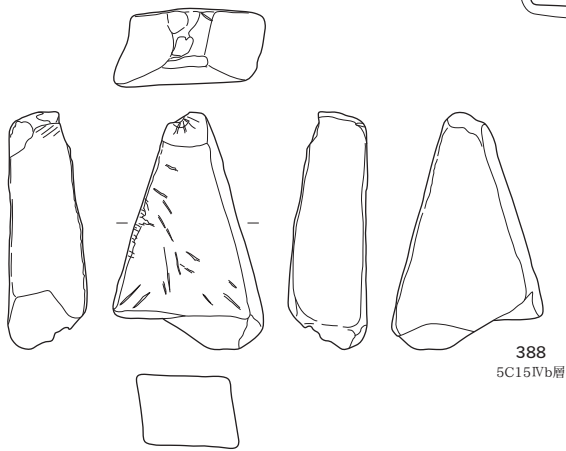
遺構外 (373~379)



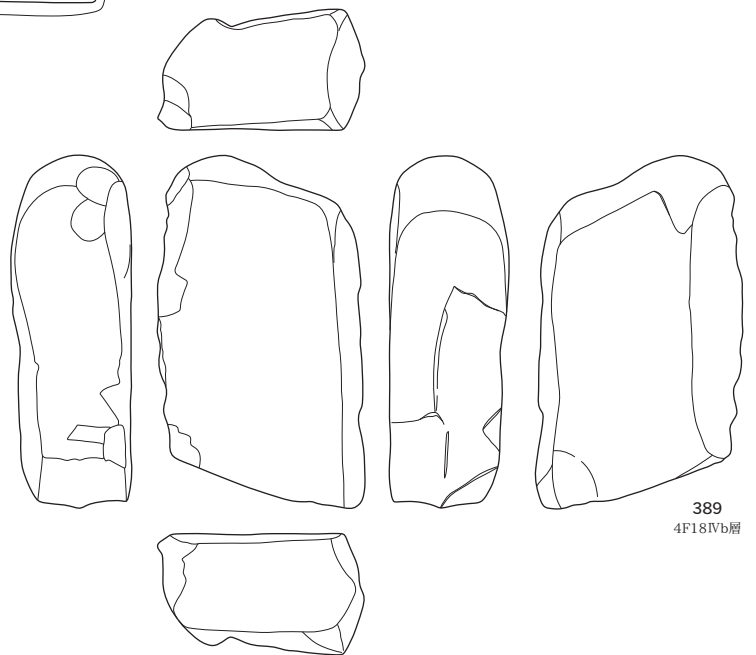
(373~379 · 383 · 384) 0 (1 : 3) 10cm
 (380~382) 0 (1 : 2) 5cm
 (385 · 386) 0 (2 : 3) 5cm



387
P313 (5D13)

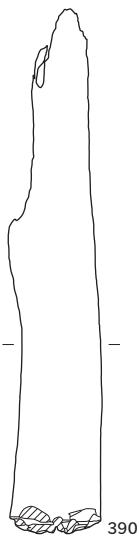


388
5C15IVb層



389
4F18IVb層

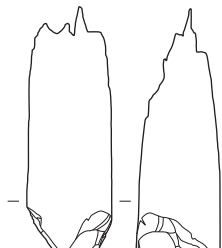
SB906-P339 (390)



390



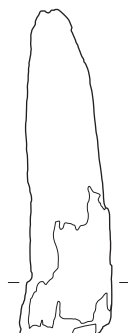
SB907-P436 (391)



391



P630 (392)



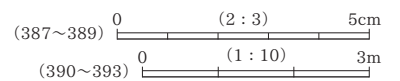
392

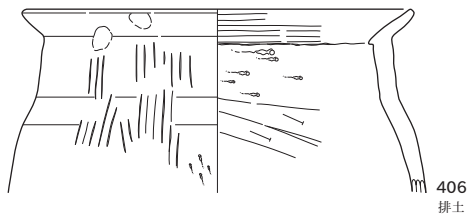
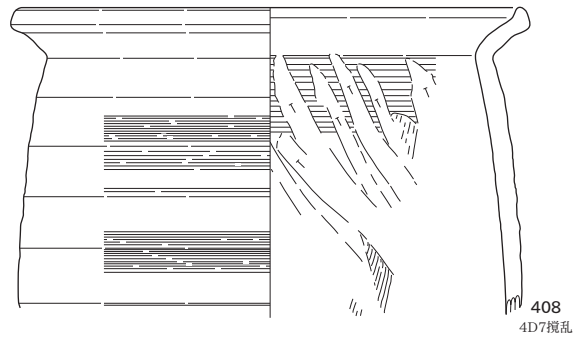
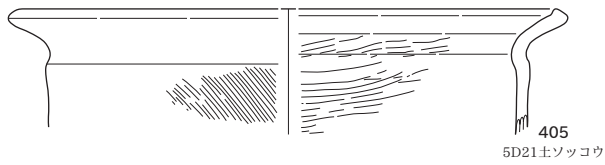
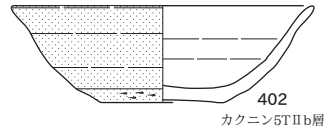
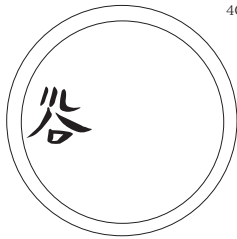
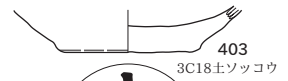
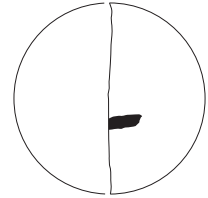
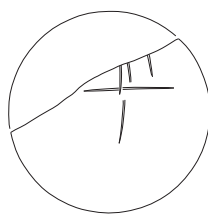
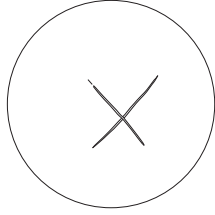
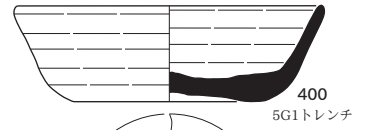
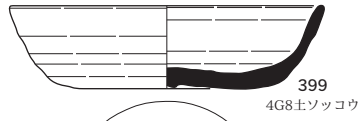


P659 (393)

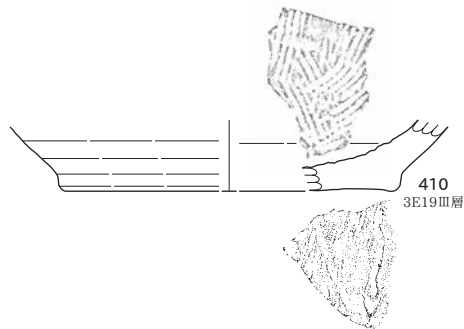
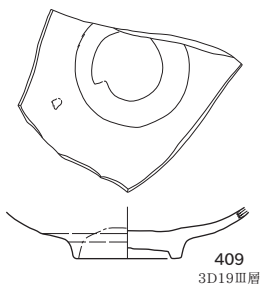


393

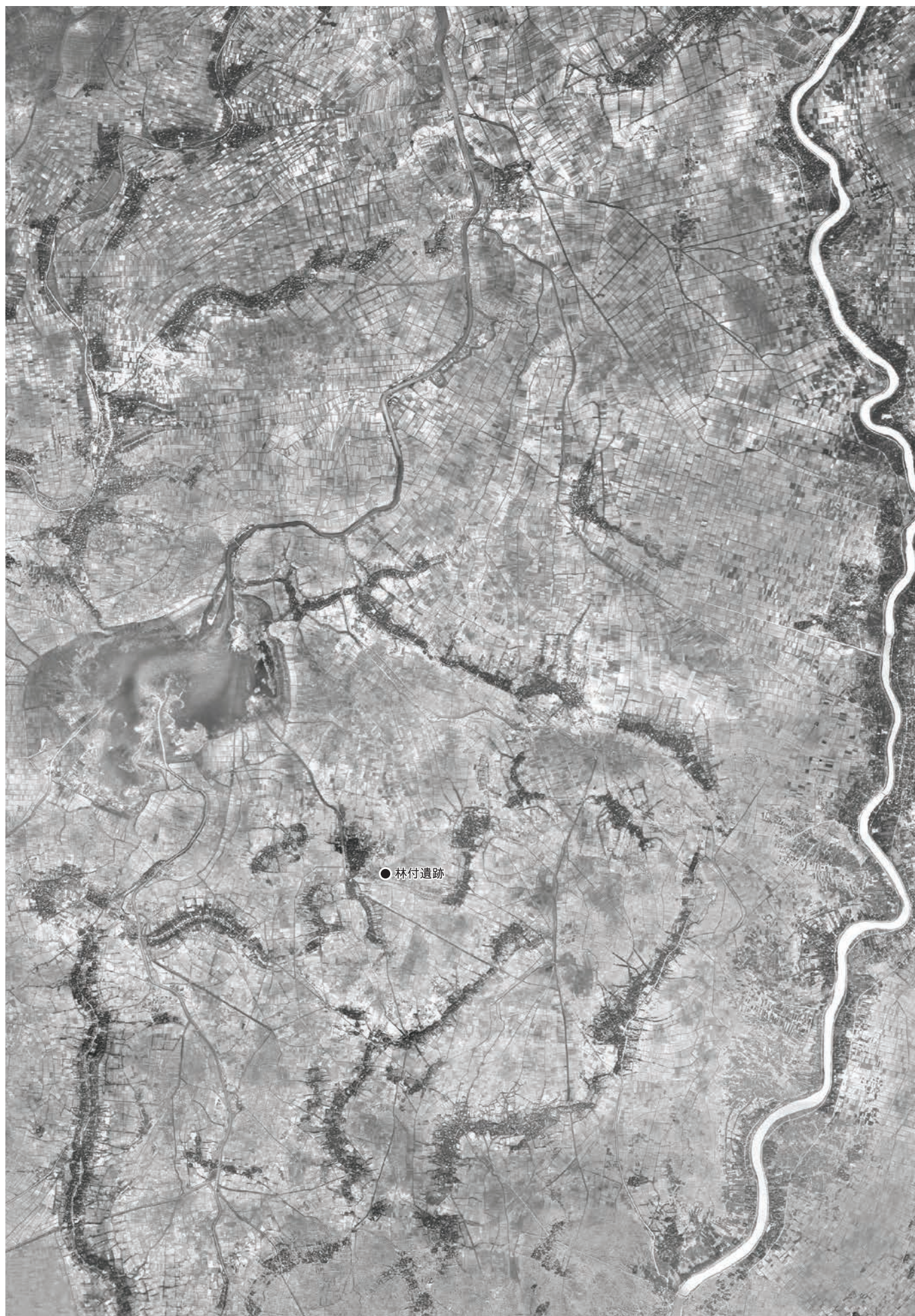




陶磁器 (409・410)



0 (1:3) 10cm



林付遺跡周辺空中写真

[米軍撮影 1948年]



上層 調査地全景 1 (南東から)



上層 調査地全景 2 (上が北)



SB901 (南東から)



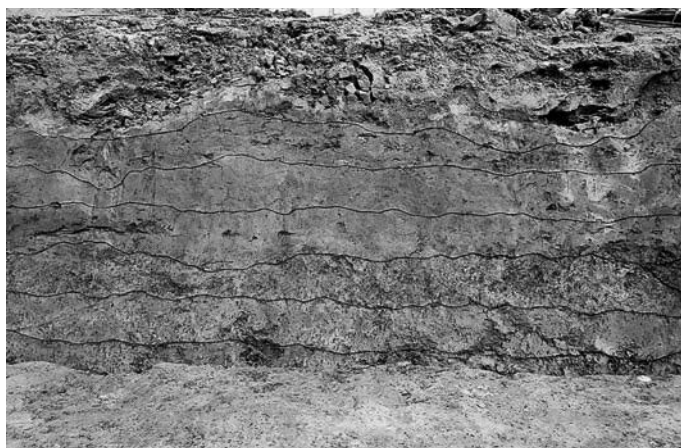
下層 調査地全景 (上が北)



基本層序 A 地点 (南から)



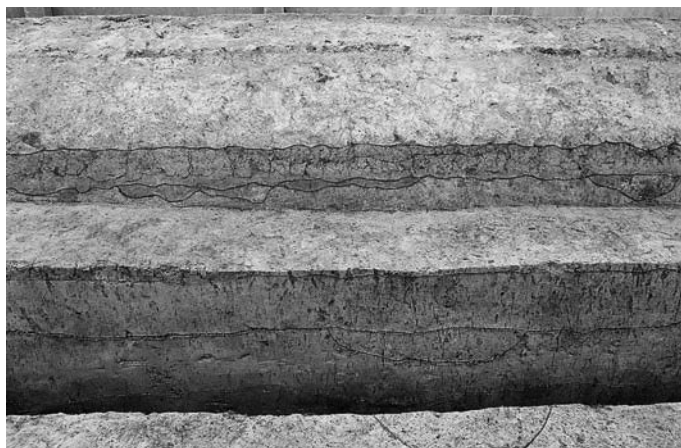
基本層序 B 地点 (南から)



基本層序 C 地点 (南から)



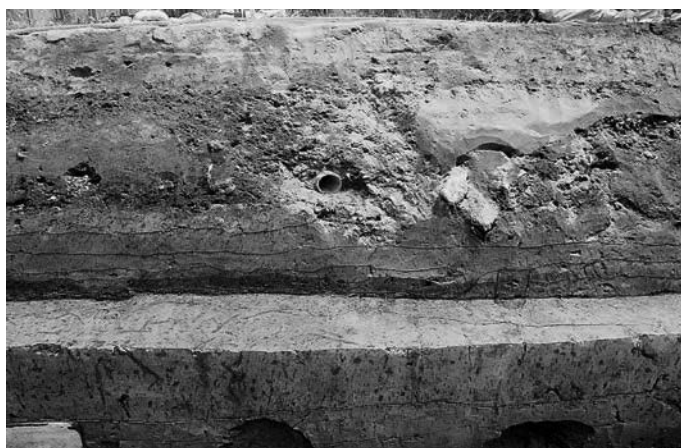
基本層序 D 地点 (西から)



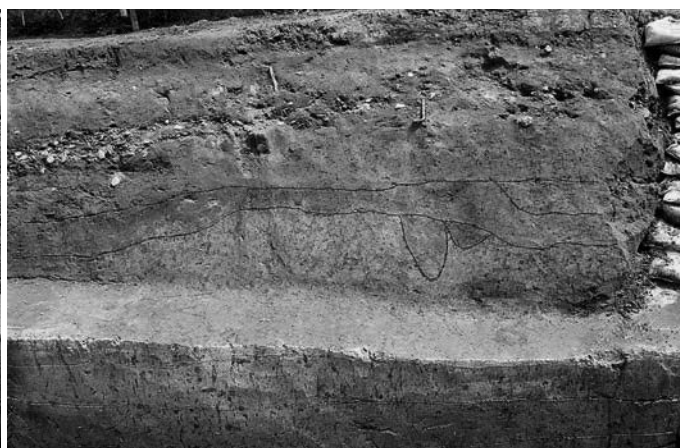
基本層序 E 地点 (北から)



基本層序 F 地点 (北から)



基本層序 G 地点 (北から)



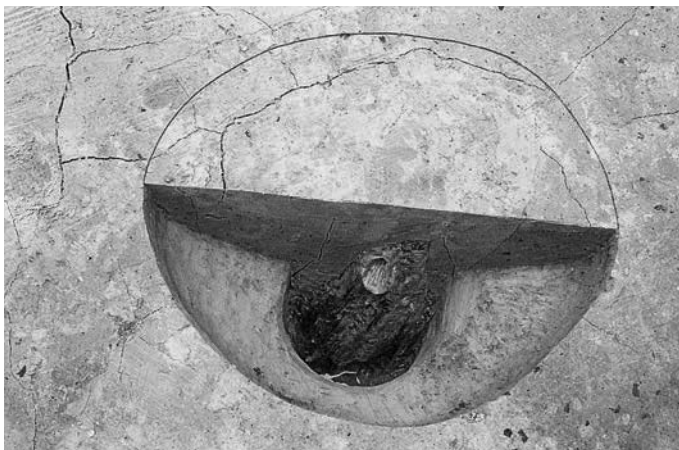
基本層序 H 地点 (北から)



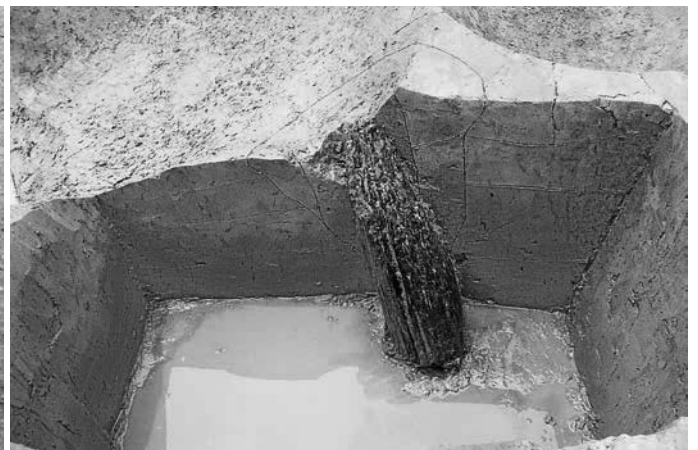
基本層序 I 地点 (東から)



作業風景 (左は SB901 南から)



P101 (SB901) 断面 (北から)



P112 (SB901) 断面 (東から)



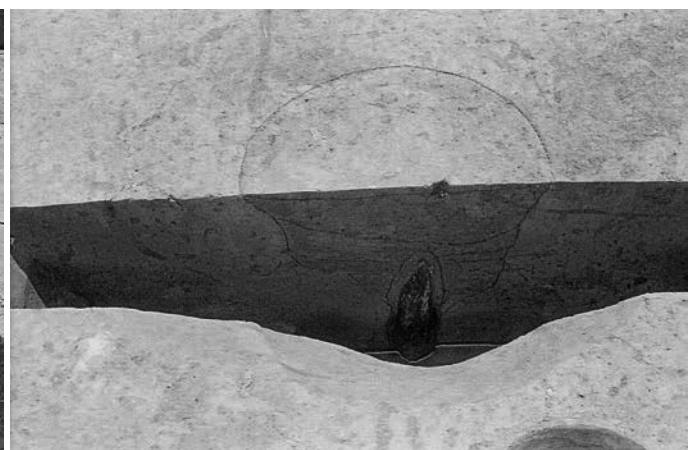
P112 (SB901) 完掘 (東から)



P146 (SB901) 断面 (東から)



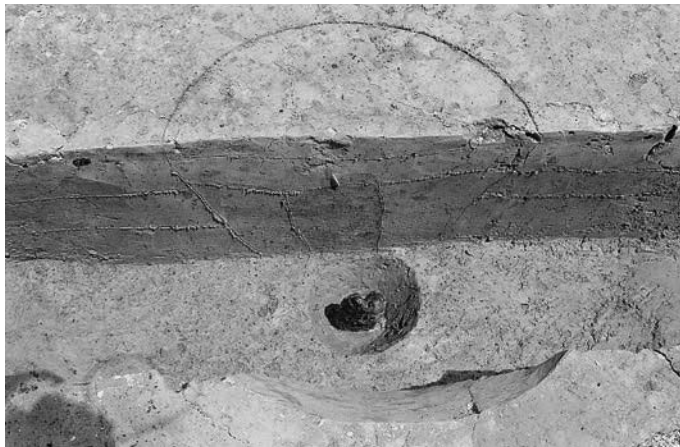
P146 (SB901) 完掘 (東から)



P149 (SB901) 断面 (北から)



P149 (SB901) 完掘 (北から)



P187 (SB901) 断面 (南から)



P187 (SB901) 完掘 (南から)



P194 (SB901) 断面 (西から)



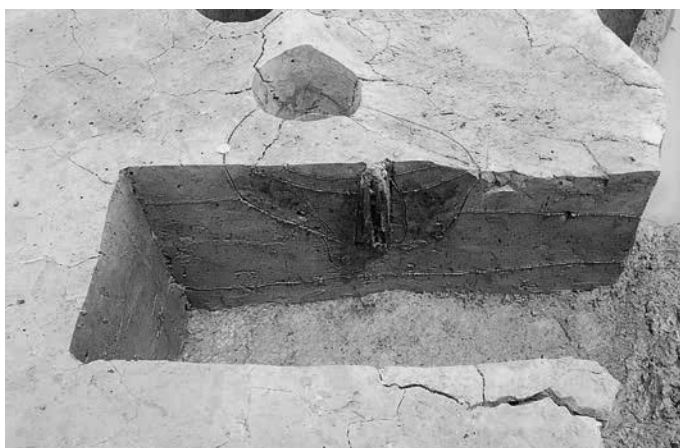
P194 (SB901) 完掘 (西から)



P197 (SB901) 断面 (東から)



P197 (SB901) 完掘 (東から)



P199 (SB901) 断面 (西から)



P199 (SB901) 完掘 (西から)



P202 (SB901) 断面 (南から)



P202 (SB901) 完掘 (南から)



P203 (SB901) 断面 (西から)



P203 (SB901) 完掘 (西から)



P205 (SB901) 断面 (西から)



P205 (SB901) 完掘 (西から)



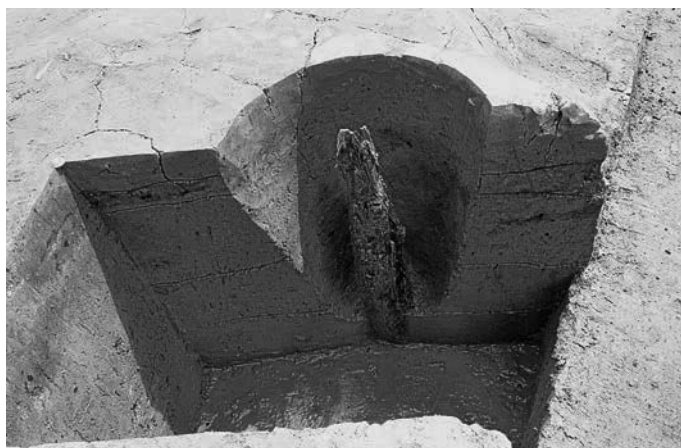
P206 (SB901) 断面 (西から)



P206 (SB901) 完掘 (西から)



P207 (SB901) 断面 (西から)



P207 (SB901) 完掘 (西から)



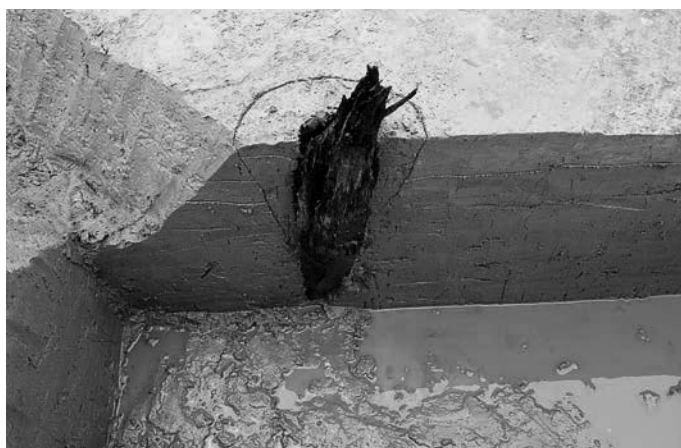
P232 (SB901) 断面 (東から)



P383 (SB901) 断面 (東から)



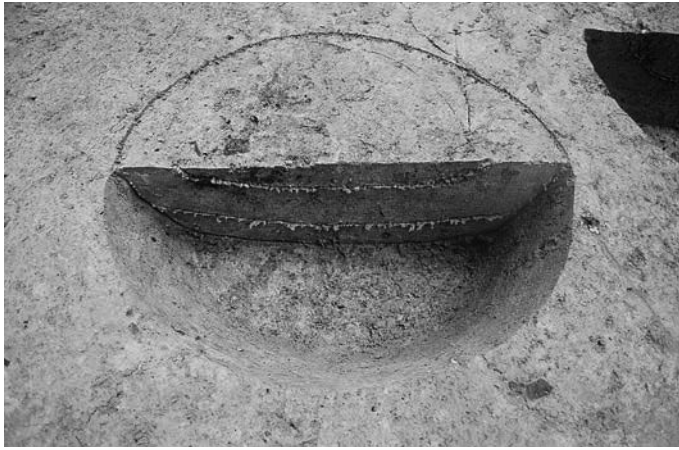
P383 (SB901) 完掘 (東から)



P393 (SB901) 断面 (東から)



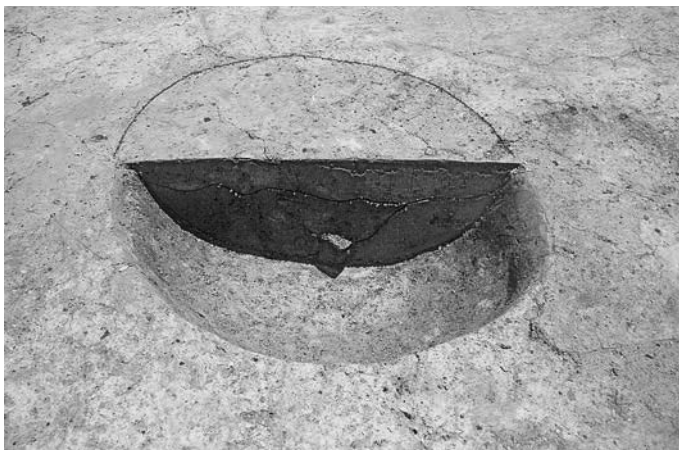
P393 (SB901) 完掘 (東から)



P156 (SB902) 断面 (西から)



P156 (SB902) 完掘 (西から)



P158 (SB902) 断面 (西から)



P158 (SB902) 完掘 (西から)



SB903 完掘 (南から)



P422 (SB903) 断面 (北から)



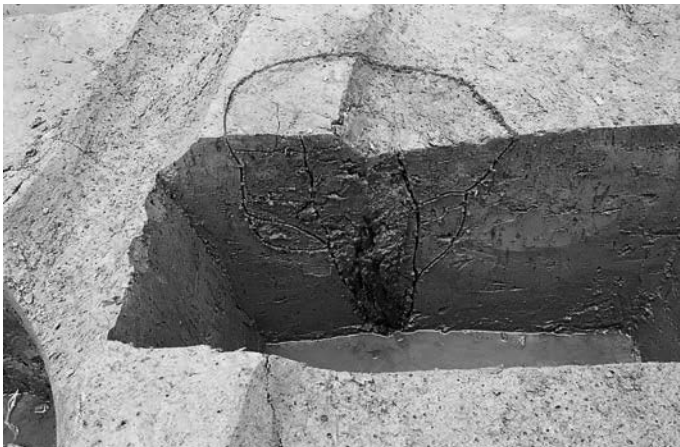
P422 (SB903) 完掘 (北から)



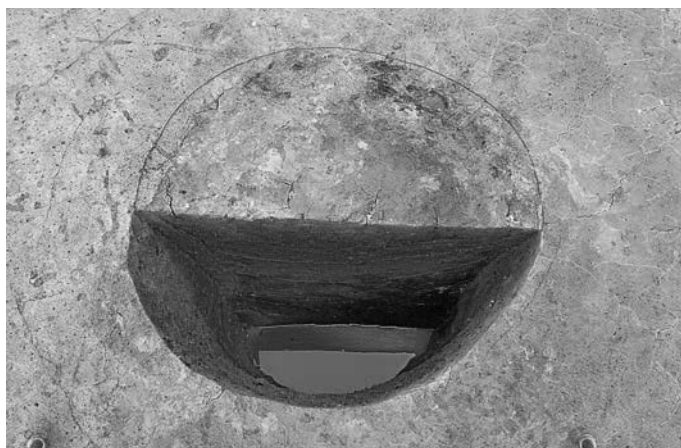
P503 (SB903) 断面 (北から)



P503 (SB903) 完掘 (北から)



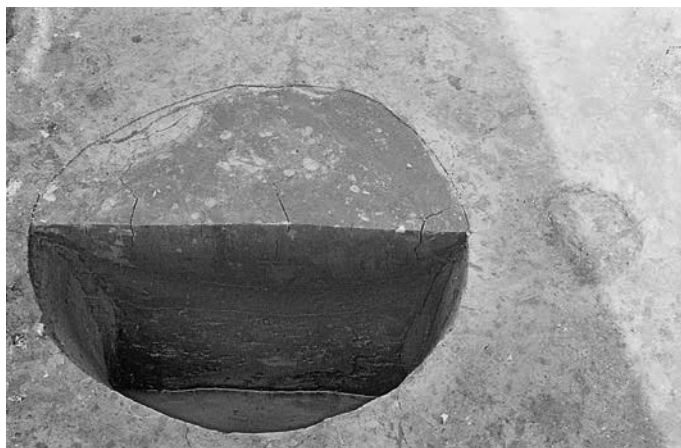
P504 (SB903) 断面 (東から)



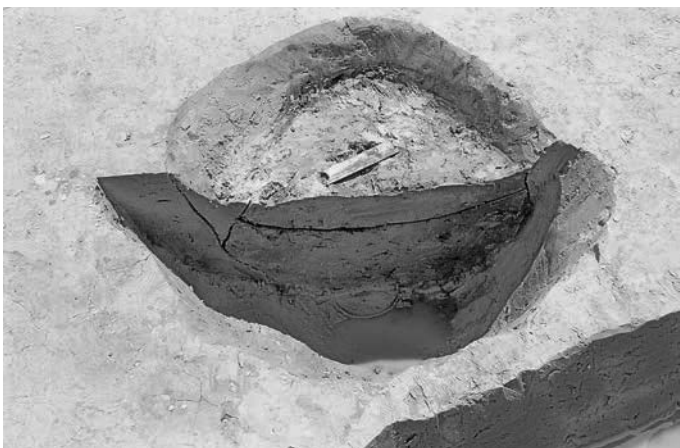
SE10 断面 (北から)



SE10 完掘 (北から)



SE40 断面 (西から)



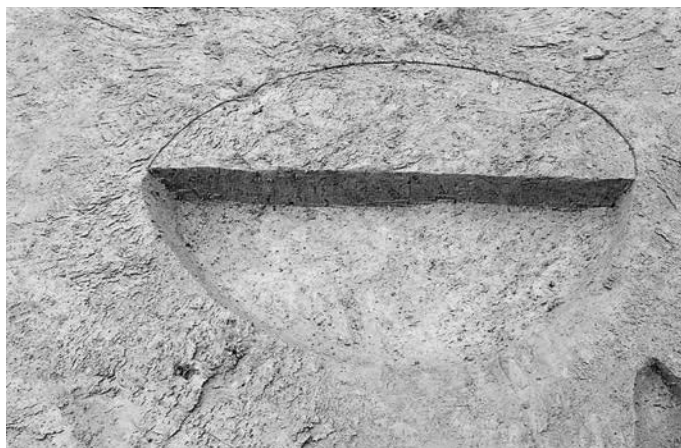
SE443 断面 (西から)



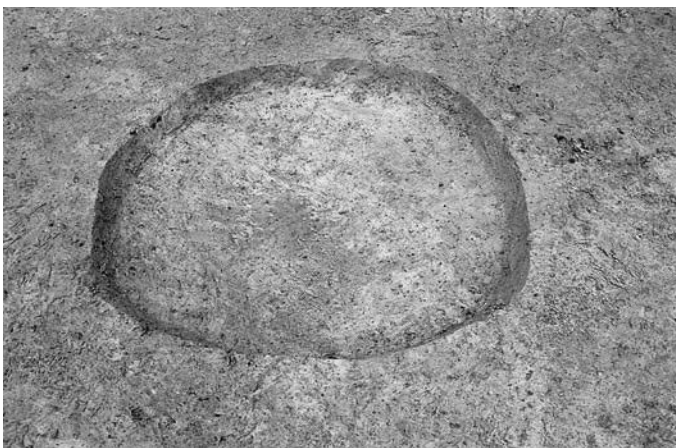
SE443 遺物出土状況 (西から)



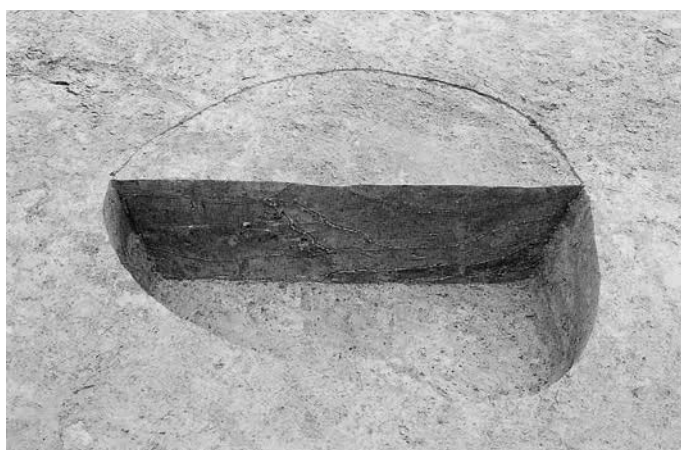
SK1 完掘 (南から)



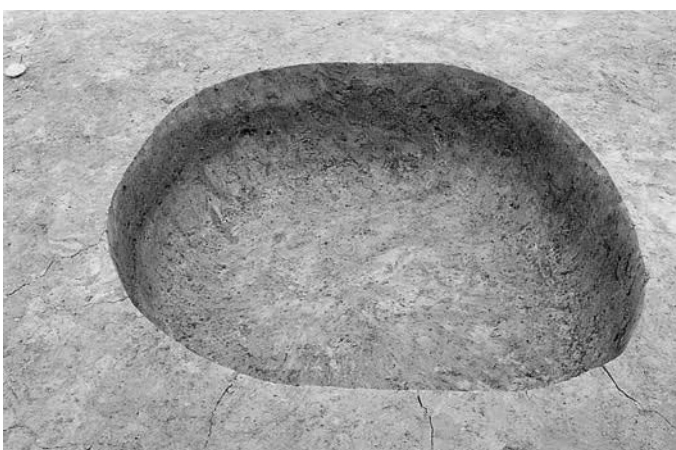
SK7 断面 (西から)



SK7 完掘 (東から)



SK9 断面 (西から)



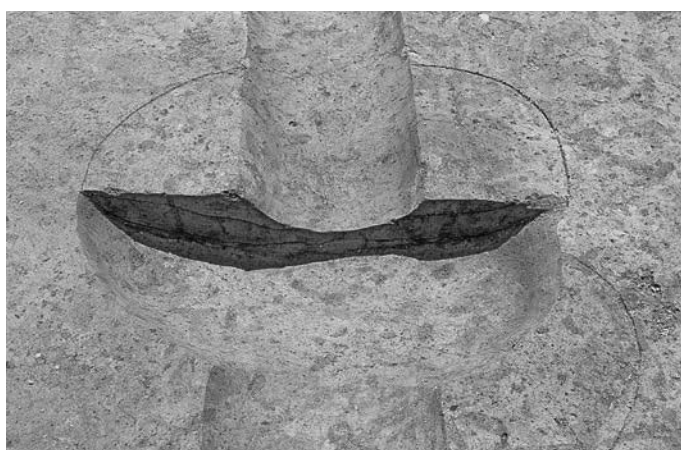
SK9 完掘 (西から)



SK17 断面 (北から)



SK17 完掘 (西から)



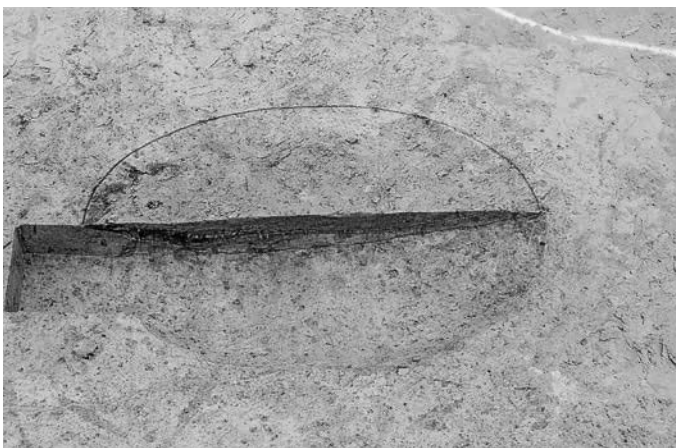
SK57 断面 (北から)



SK57 完掘 (北から)



SK64 断面 (西から)



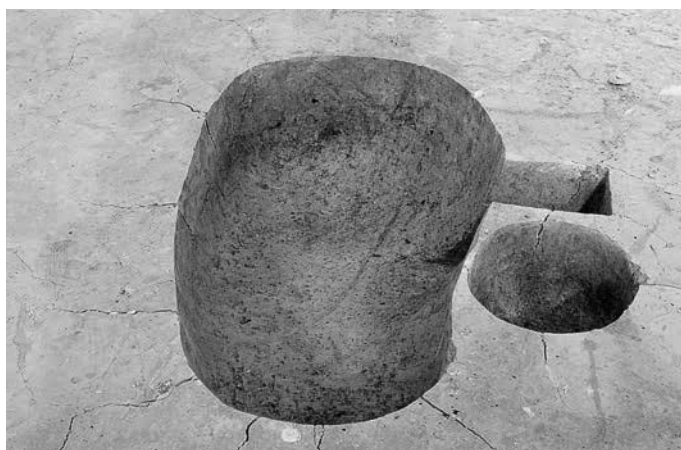
SK70 断面 (北から)



SK70 完掘 (西から)



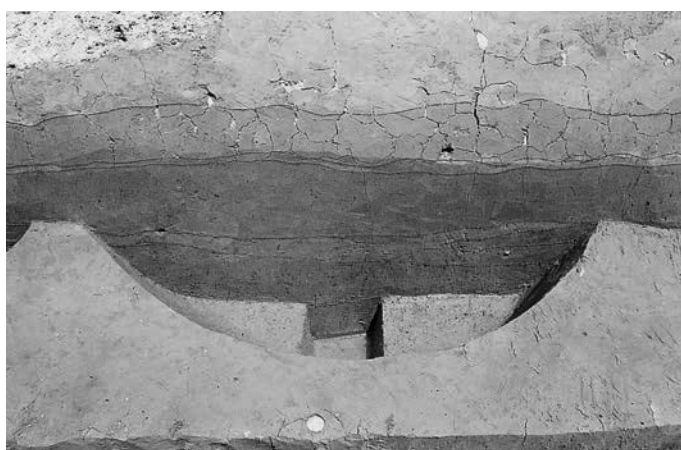
SK71 断面 (西から)



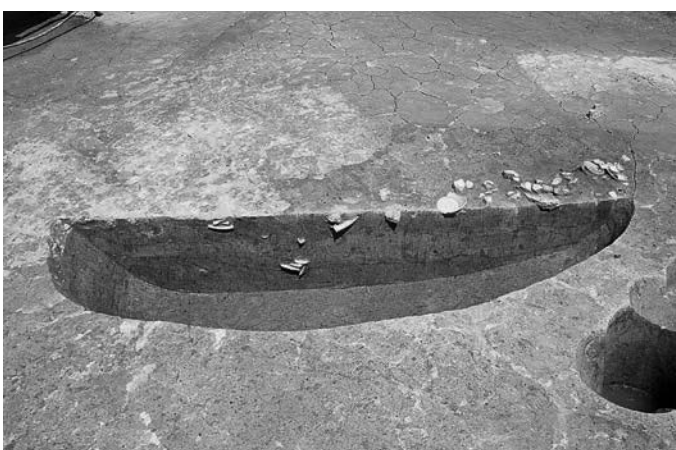
SK77 完掘 (西から)



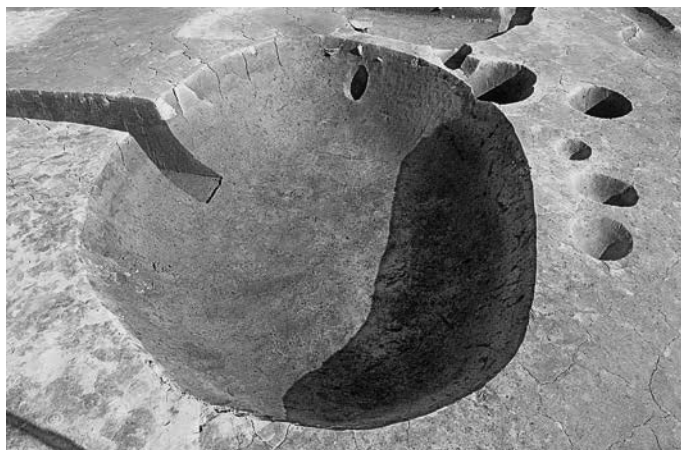
SK78 完掘 (南から)



SK81 断面 (南から)



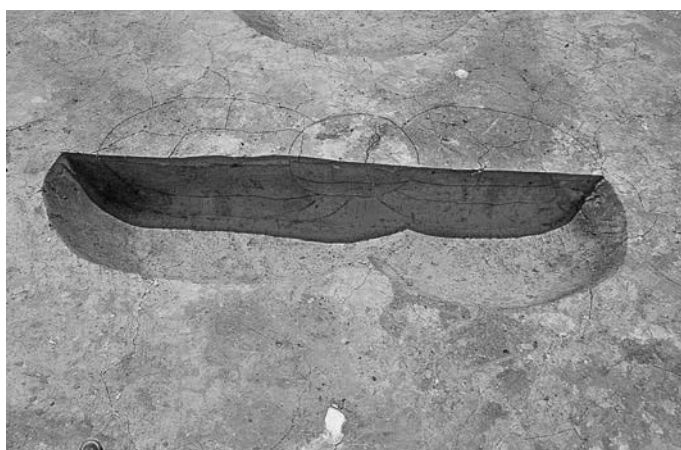
SK92 断面 (西から)



SK92 完掘 (北から)



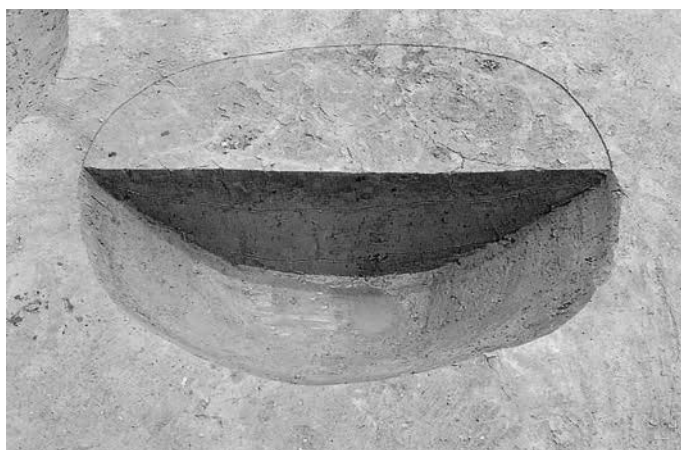
SK95 完掘 (北から)



SK105・106、P111 断面 (北から)



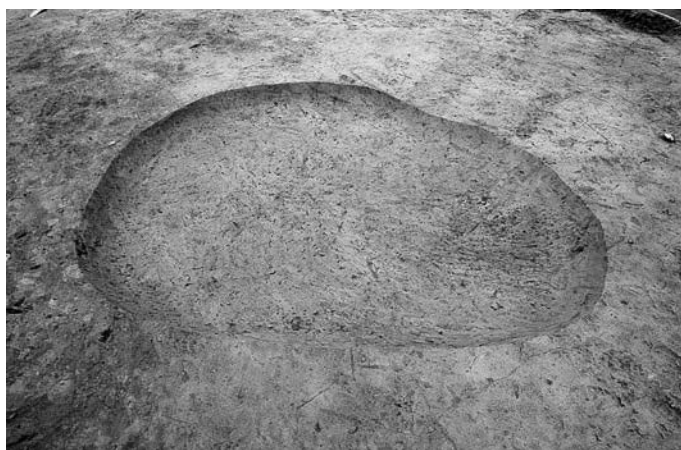
SK122 完掘 (北から)



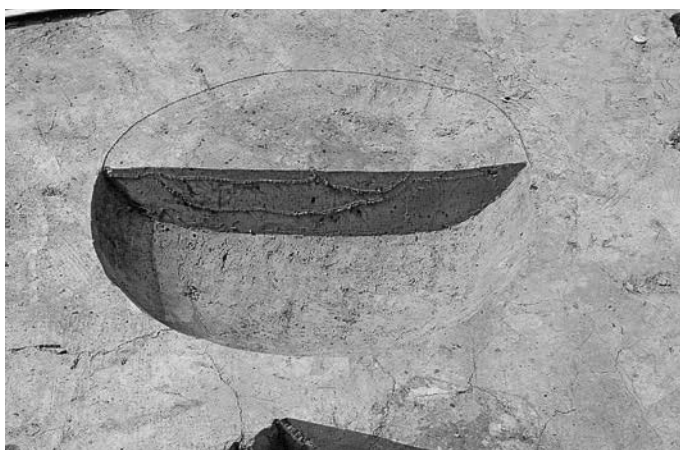
SK125 断面 (西から)



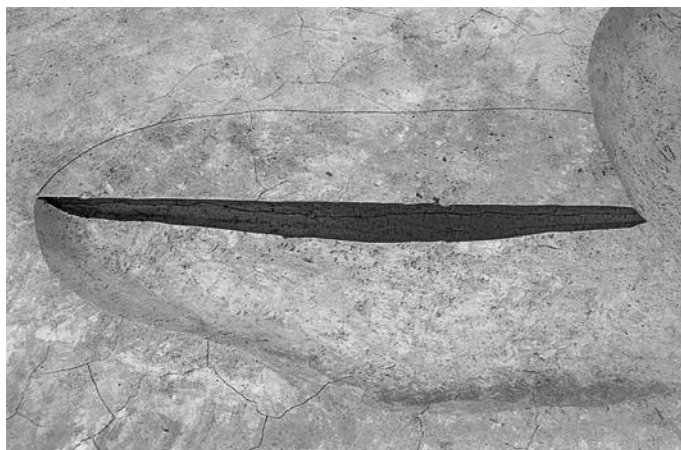
SK125 完掘 (東から)



SK129 完掘 (北から)



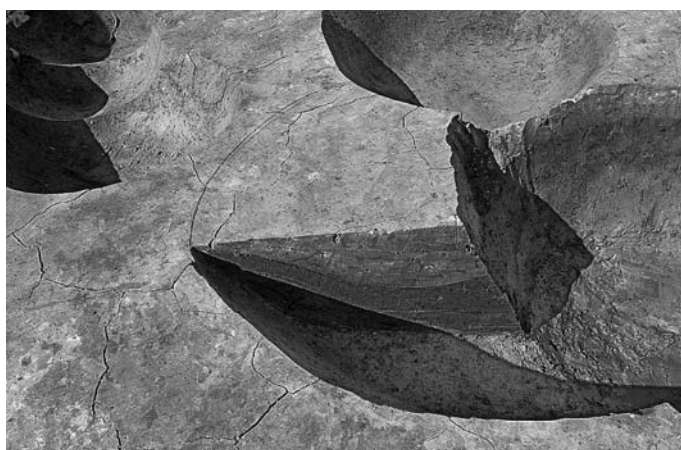
SK141 断面 (北から)



SK142 断面 (北から)



SK145 断面 (北から)



SK150 断面 (南から)



SK183 断面 (南から)



SK190 断面 (南から)



SK215 完掘 (西から)



SD66 断面 (北から)



SD66 断面 (南から)



SD66 完掘 (北から)



SD69 断面 (北から)



SD88 断面 (西から)



SD96 断面 (南から)



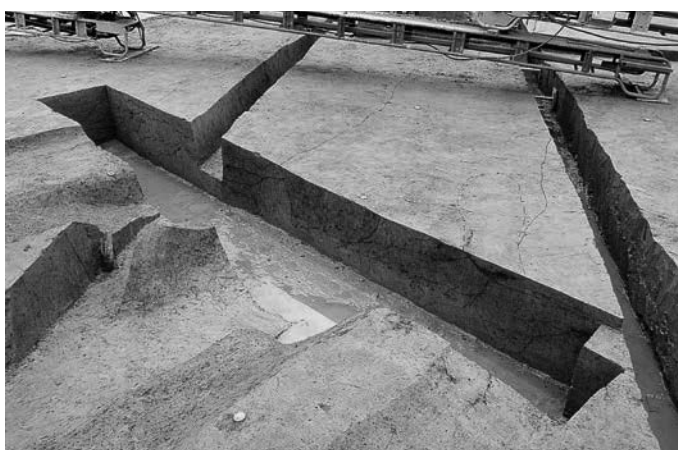
SD124 断面 (北から)



SD128 断面 (南から)



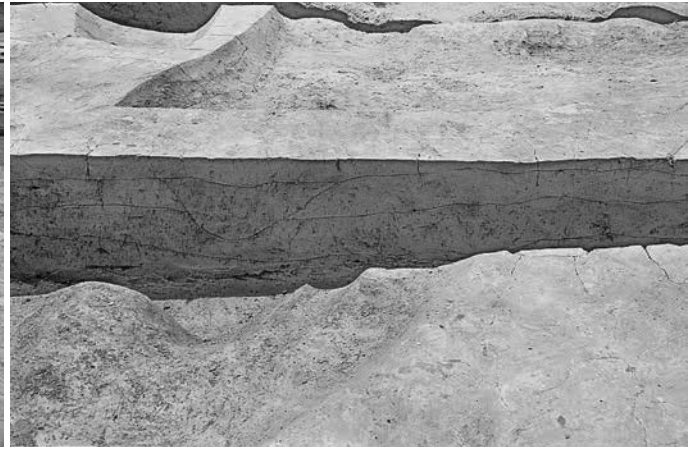
SD137 断面 (南から)



SD66・128・130・137 断面 (北から)



SD128・137 完掘 (北から)



SD210 断面 (北から)



SD210 完掘 (北から)



SD218 断面 (北から)



SX165 断面 (北から)



SX165 完掘 (北から)



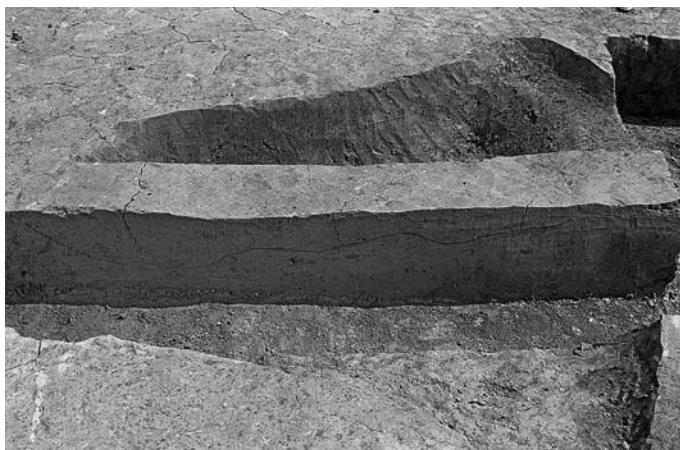
SX209 完掘 (南から)



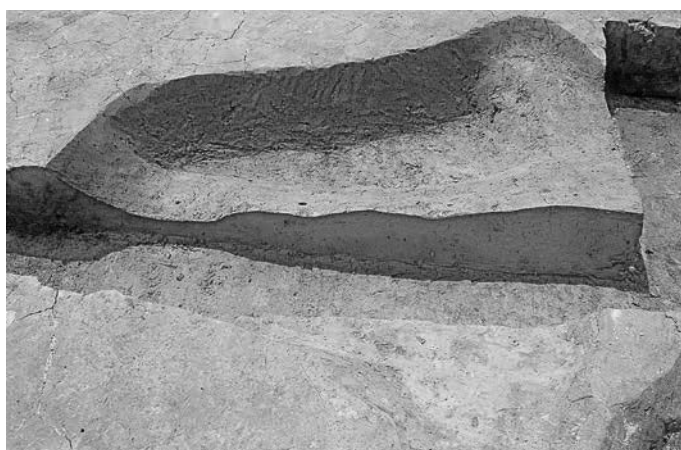
SX213 断面 (北から)



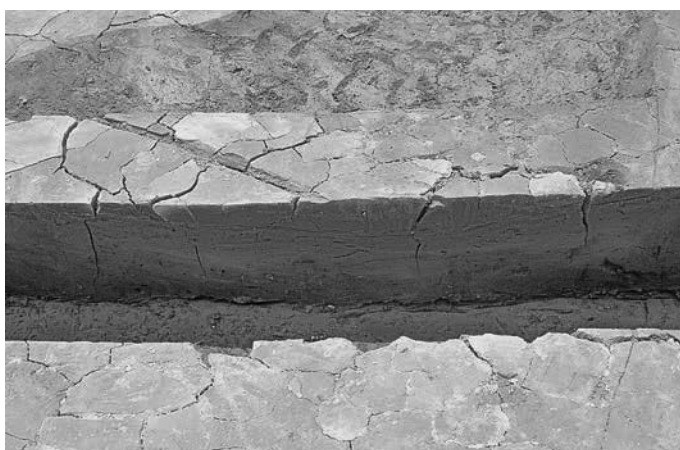
SX213 完掘 (北から)



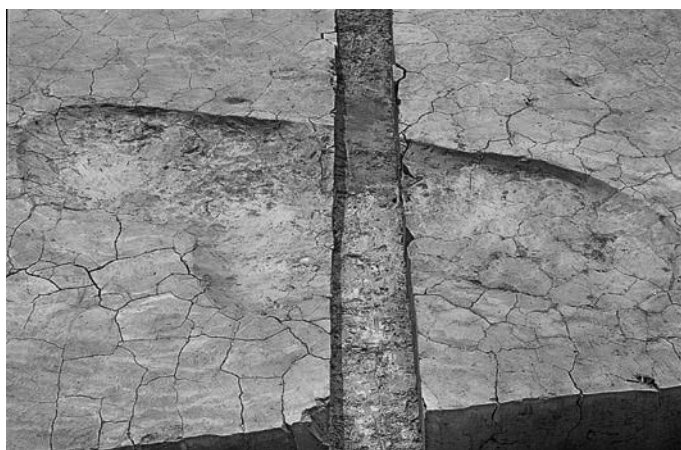
SX214 断面 (北から)



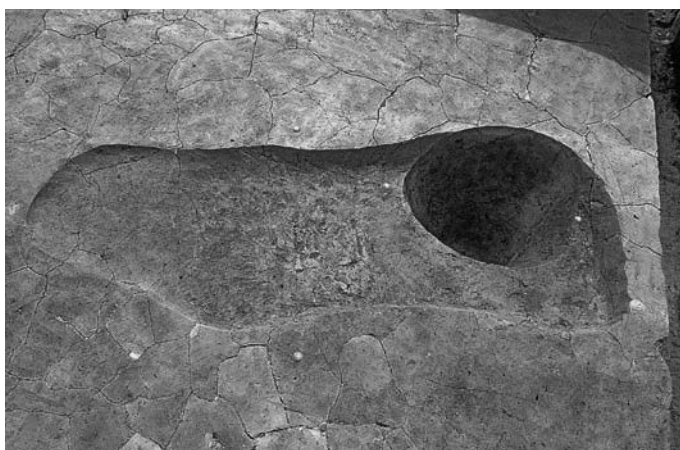
SX214 完掘 (北から)



SX222 断面 (北から)



SX222 完掘 (東から)



SX223 完掘 (東から)



SX229 A-A'・B-B' 断面 (南から)



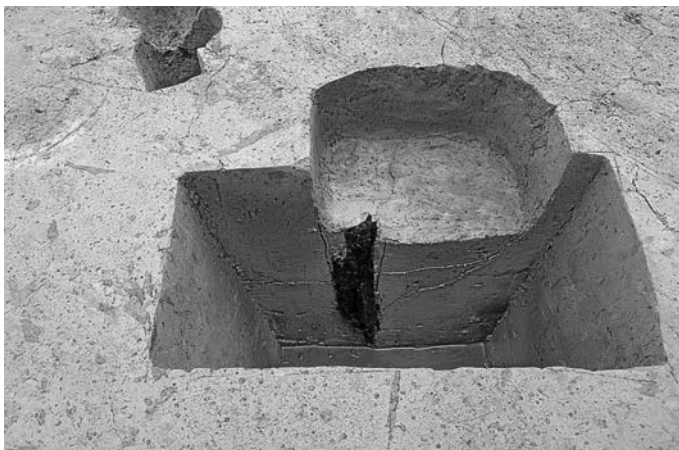
SX229 A-A' 断面 (東から)



SB904・905 遠景 (北から)



SB904・905 近景 (北から)



P476 (SB904) 断面 (西から)



P476 (SB904) 完掘 (西から)



P500 (SB904) 断面 (西から)



P479 (SB905) 断面 (北から)



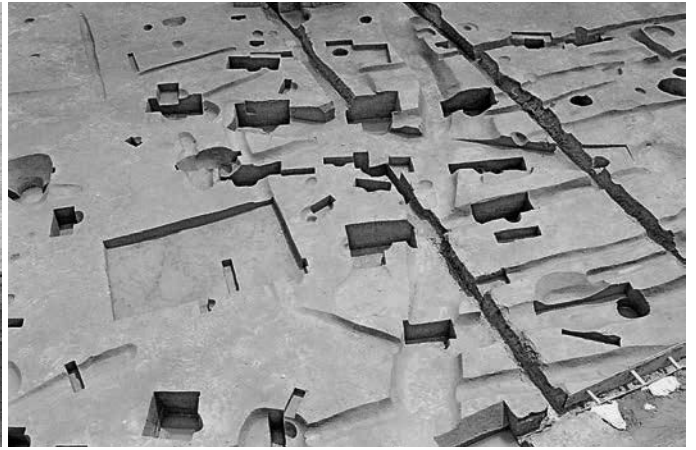
P479 (SB905) 完掘 (北から)



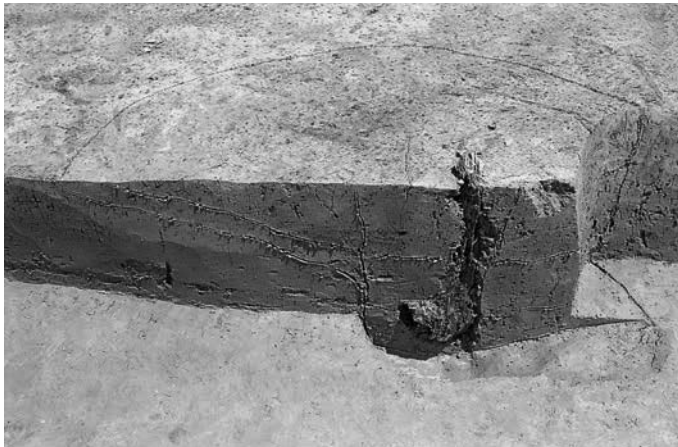
P617 (SB905) 断面 (西から)



P617 (SB905) 完掘 (西から)



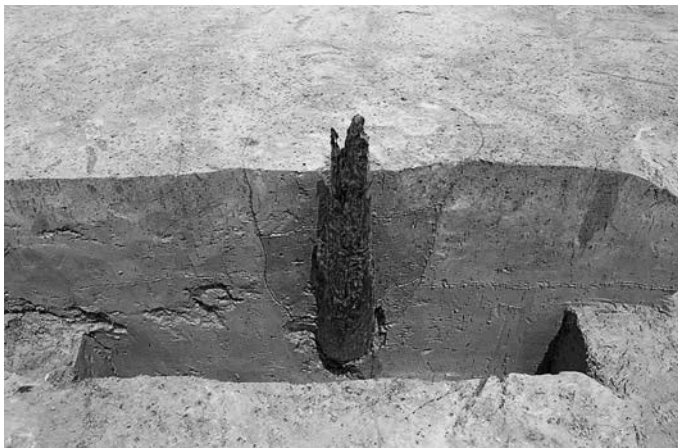
SB906 (北から)



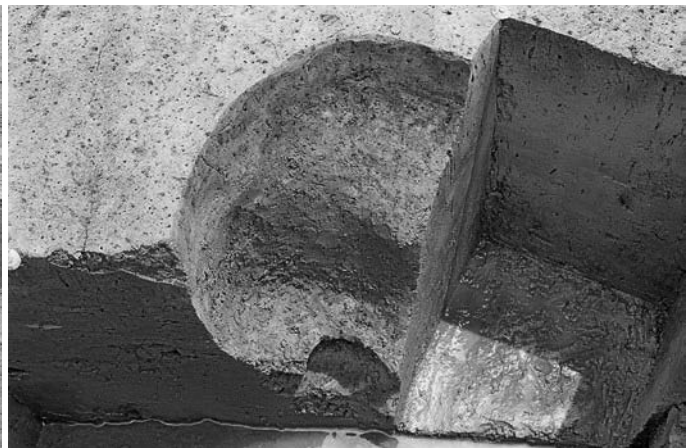
P337 (SB906) 断面 (南から)



P337 (SB906) 完掘 (南から)



P339 (SB906) 断面 (西から)



P339 (SB906) 完掘 (西から)



P343 (SB906) 断面 (南から)



P343 (SB906) 完掘 (南から)



P346 (SB906) 断面 (南から)



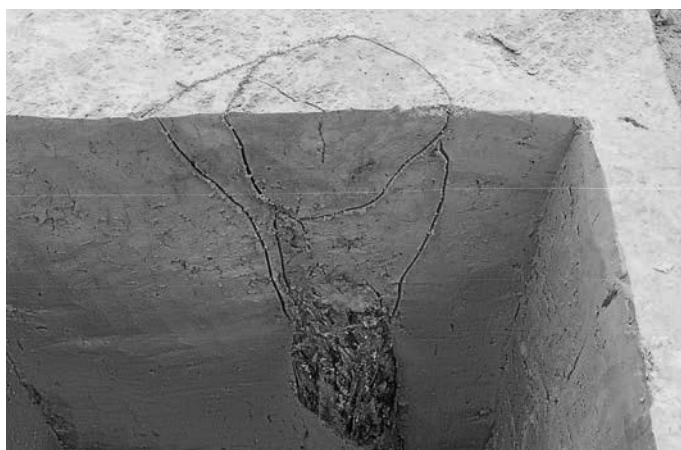
P346 (SB906) 完掘 (東から)



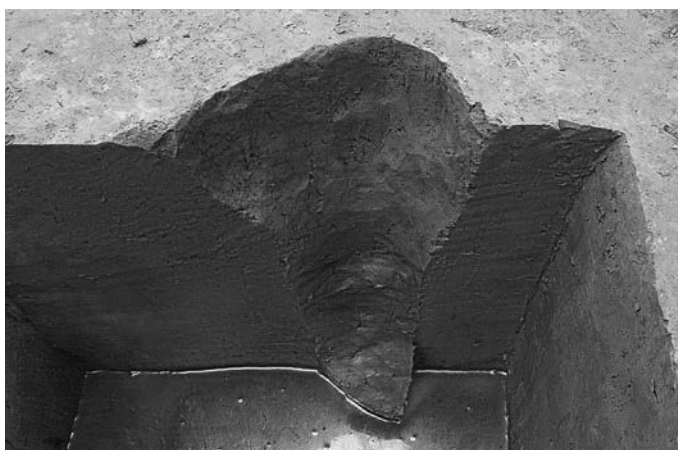
P352 (SB906) 断面 (南から)



P352 (SB906) 完掘 (南から)



P362 (SB907) 断面 (東から)



P362 (SB907) 完掘 (東から)



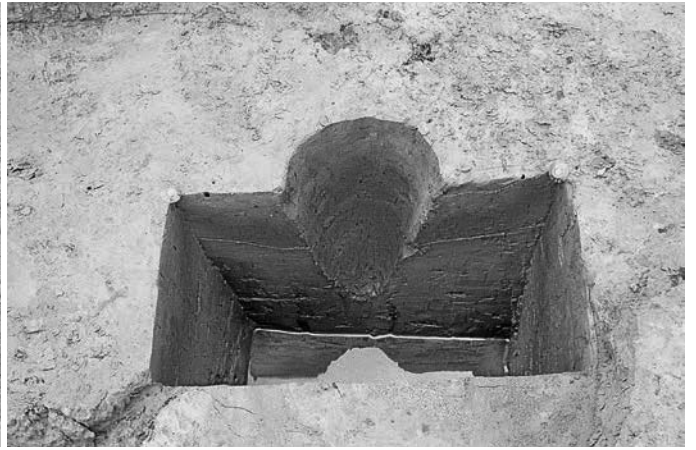
P436 (SB907) 断面 (南から)



P436 (SB907) 完掘 (南から)



P394 (SB908) 断面 (東から)



P394 (SB908) 完掘 (東から)



SK262 完掘 (西から)



SK266 完掘 (西から)



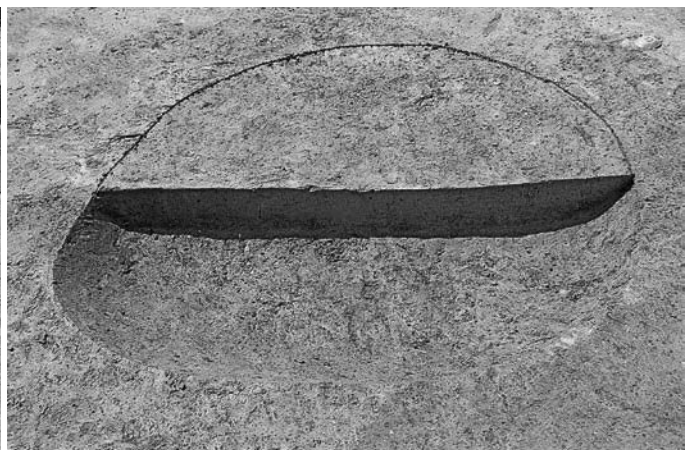
SK267 完掘 (北から)



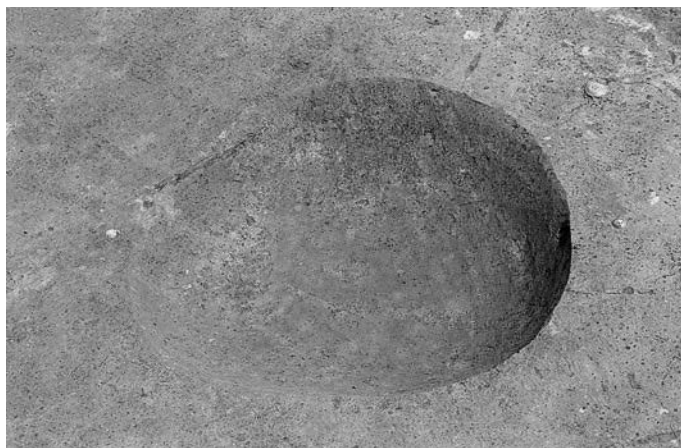
SK282 完掘 (北から)



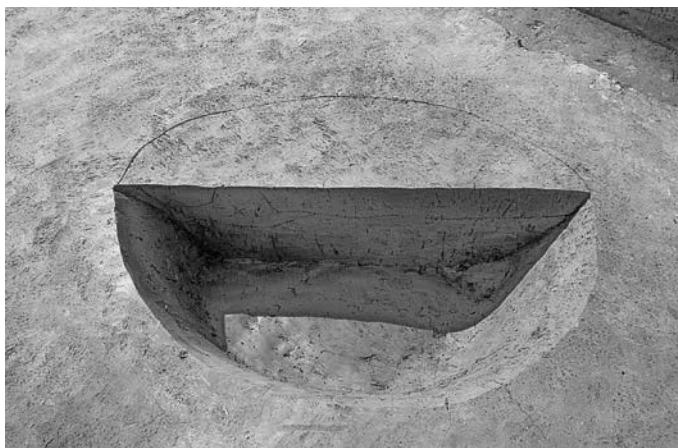
SK283 完掘 (東から)



SK284 断面 (北から)



SK284 完掘 (北から)



SK285 断面 (南から)



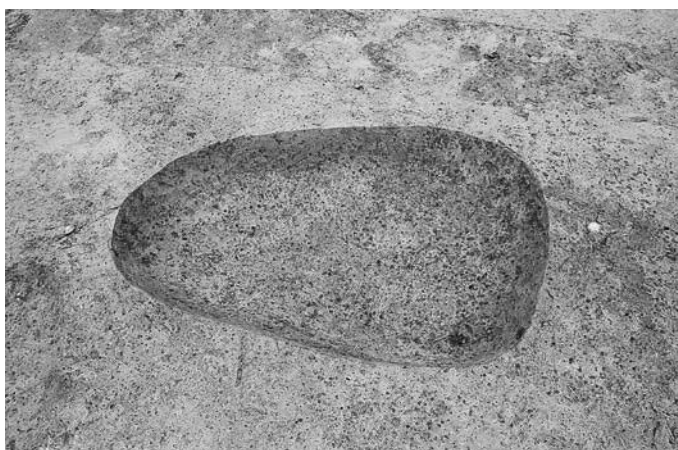
SK285 完掘 (南から)



SK297、SD298 完掘 (西から)



SK306 断面 (南から)



SK306 完掘 (南から)



SK311 完掘 (南から)



SK327 完掘 (北から)



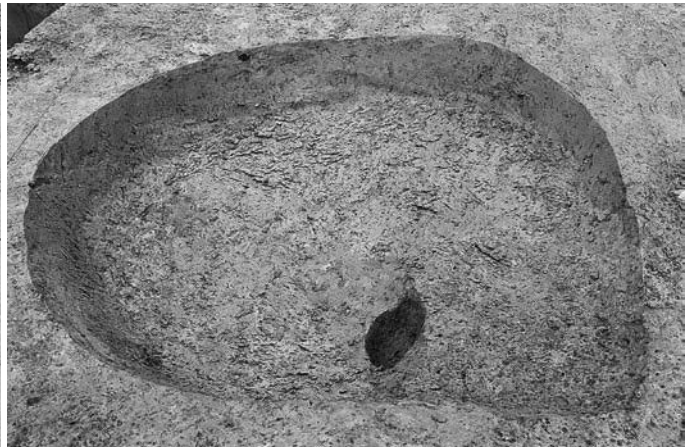
SK330 完掘 (北から)



SK331 完掘 (北から)



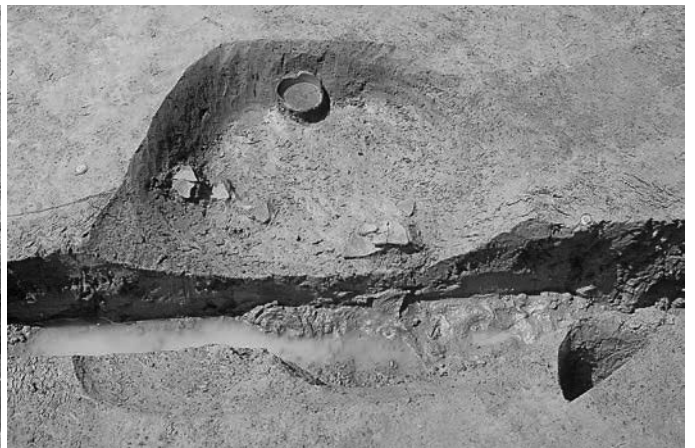
SK347 断面 (南から)



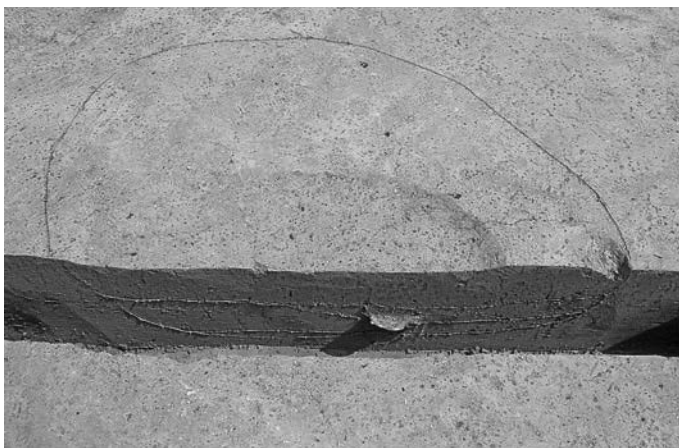
SK355 完掘 (南から)



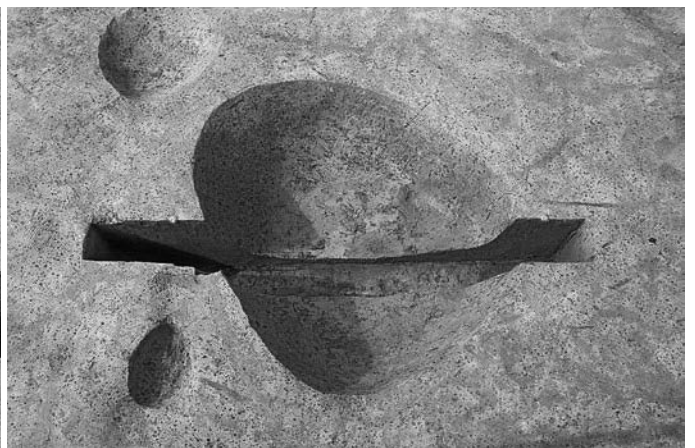
SK360 断面 (北から)



SK360 遺物出土状況 (北から)



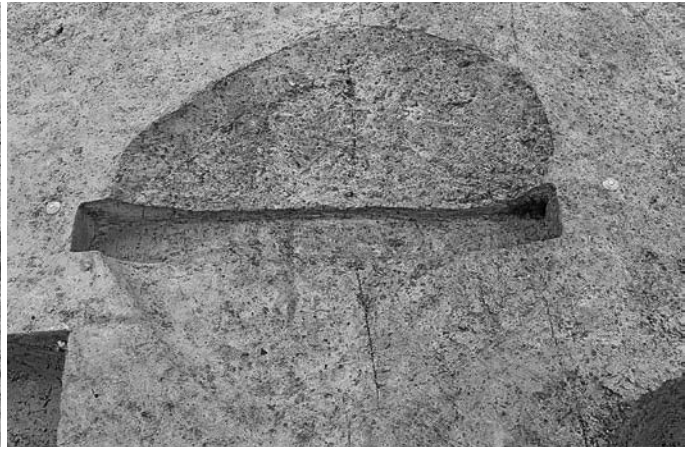
SK366 断面 (北から)



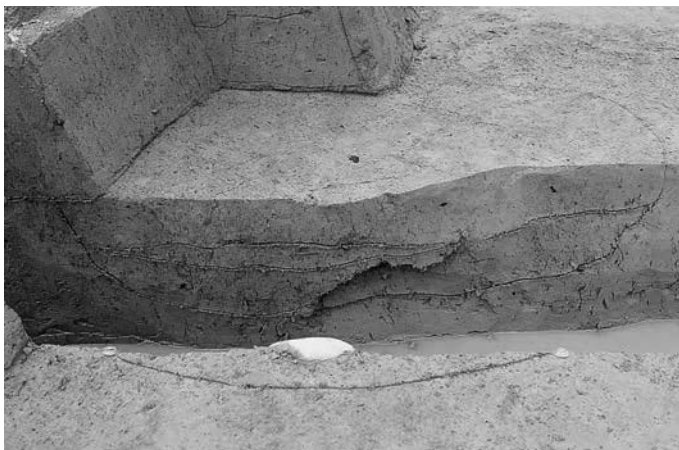
SK366 完掘 (北から)



SK372 断面 (東から)



SK372 完掘 (東から)



SK388 断面 (東から)



SK418 完掘 (東から)



SK420 完掘 (南から)



SK510 完掘 (南から)



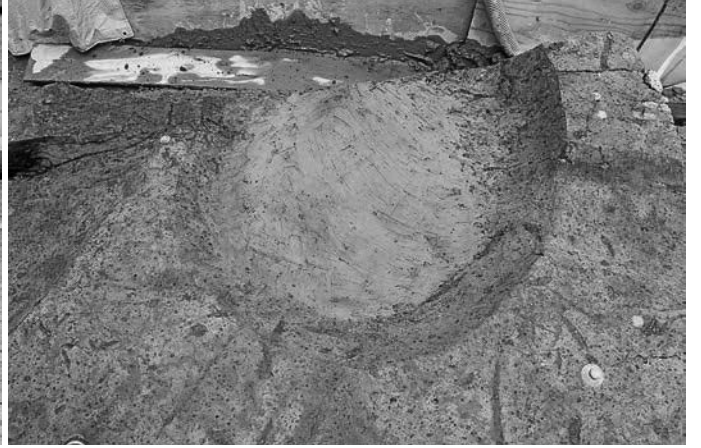
SK512 完掘 (西から)



SK524 完掘 (西から)



SK527 断面 (西から)



SK527 完掘 (北から)



SK562 断面 (北から)



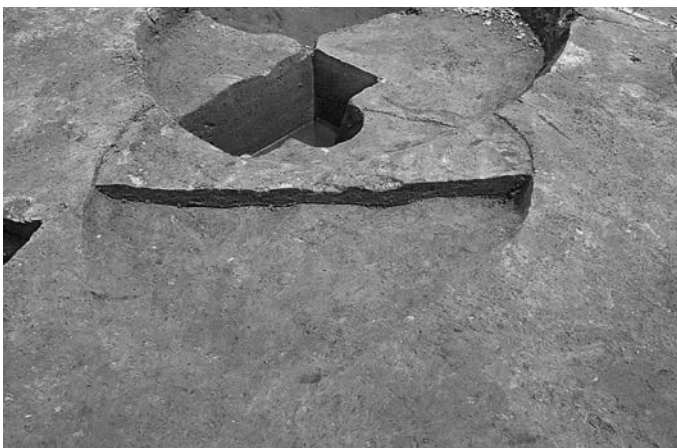
SK562 完掘 (北から)



SK583 断面 (東から)



SK583 遺物出土状況 (東から)



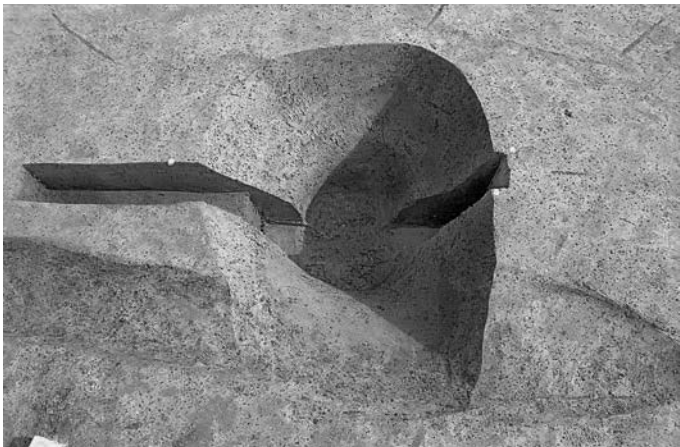
SK641 断面 (北から)



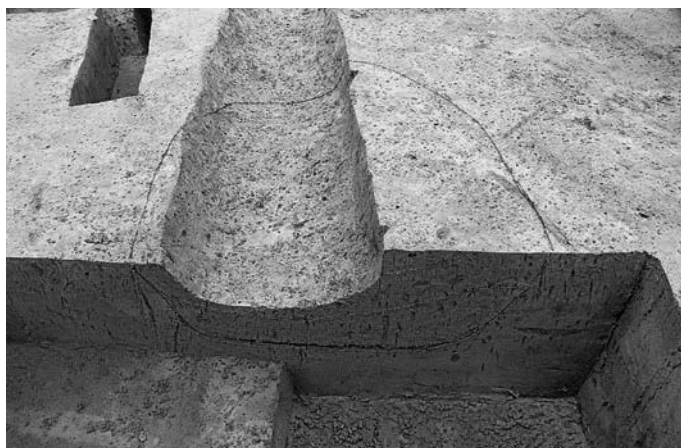
SK653 断面 (西から)



SK653 完掘 (西から)



SK678 完掘 (北から)



SK696 断面 (東から)



SK696 遺物出土状況 (東から)



SK696 完掘 (東から)



調査区北東側 溝群 (東から)



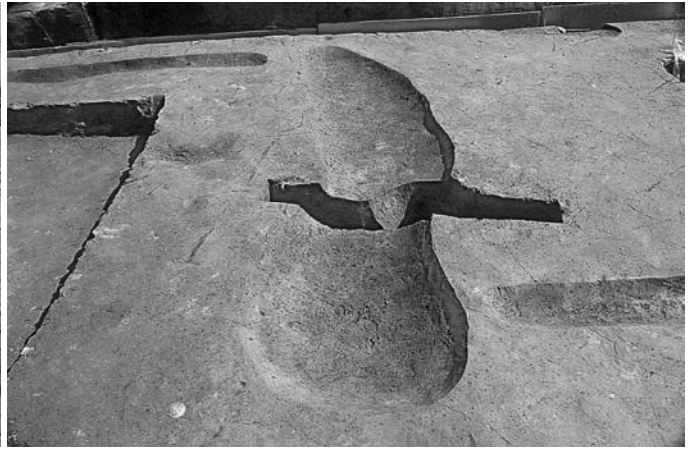
調査区西側 溝群 (北西から)



SD246 B-B' 断面 (東から)



SD271 断面 (西から)



SD277 完掘 (北から)



SD300・321 断面 (西から)



SD316 A-A' 断面 (西から)



SD314・315・316・382 完掘 (西から)



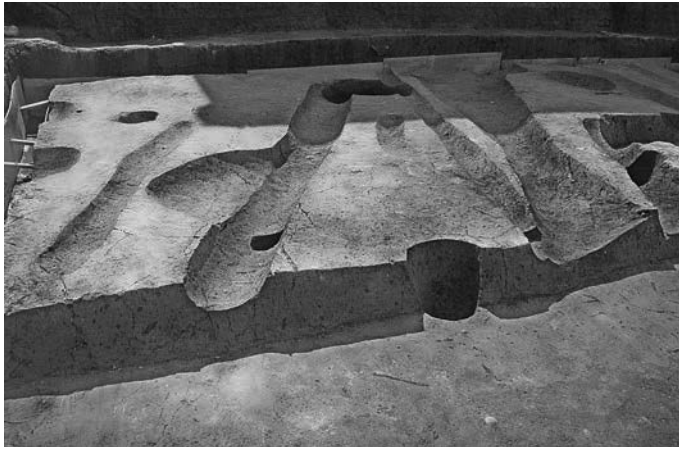
SD334 遺物出土状況 (東から)



SD353 完掘 (北から)



SD414・415・416・417 断面 (東から)



SD410・413・414・415・416 完掘（東から）



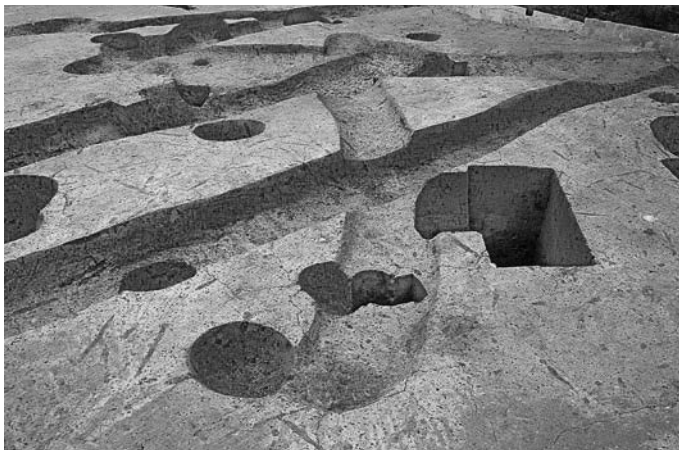
SD417・421・423・424 完掘（東から）



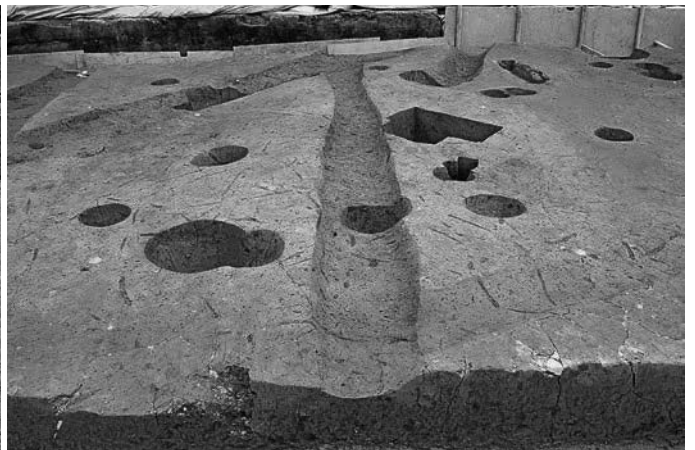
SD461・543 断面（東から）



SD461・465・543 完掘（南から）



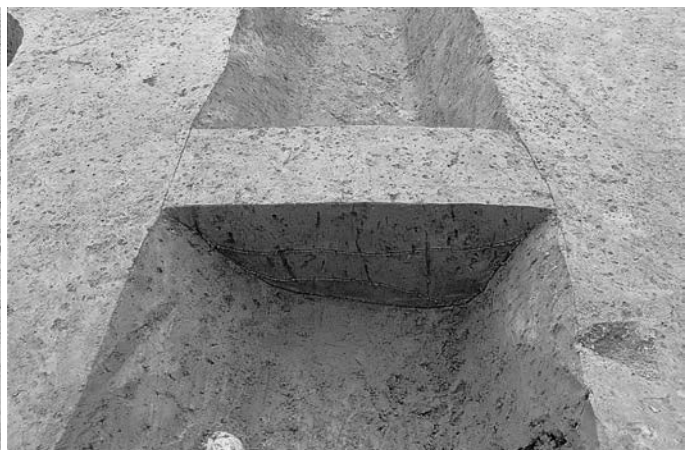
SD475 完掘（北から）



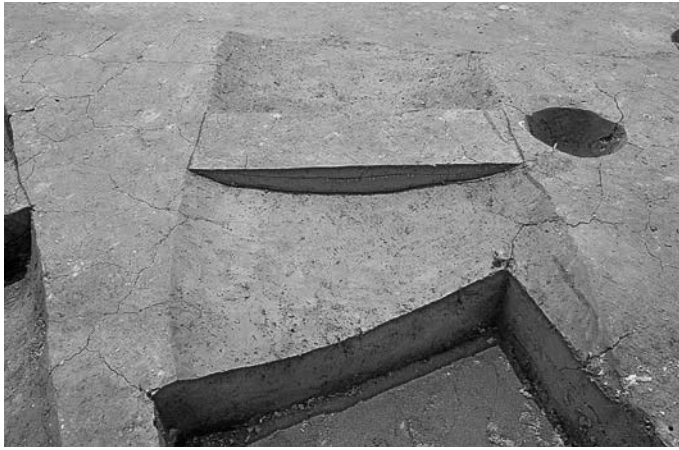
SD483 完掘（東から）



SD599 断面（東から）



SD601 断面（東から）



SD618 断面 (北から)



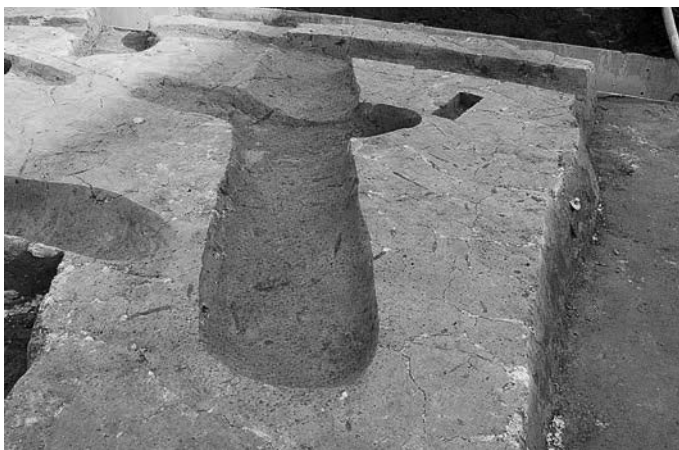
SD620 完掘 (西から)



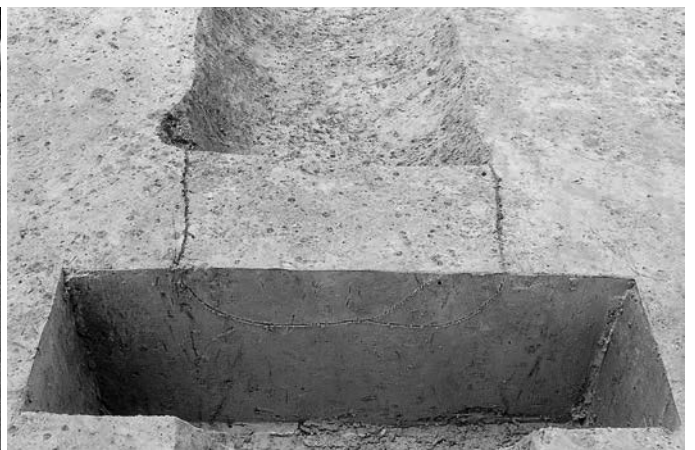
SD650 断面 (西から)



SD652 断面 (北から)



SD652 完掘 (北から)



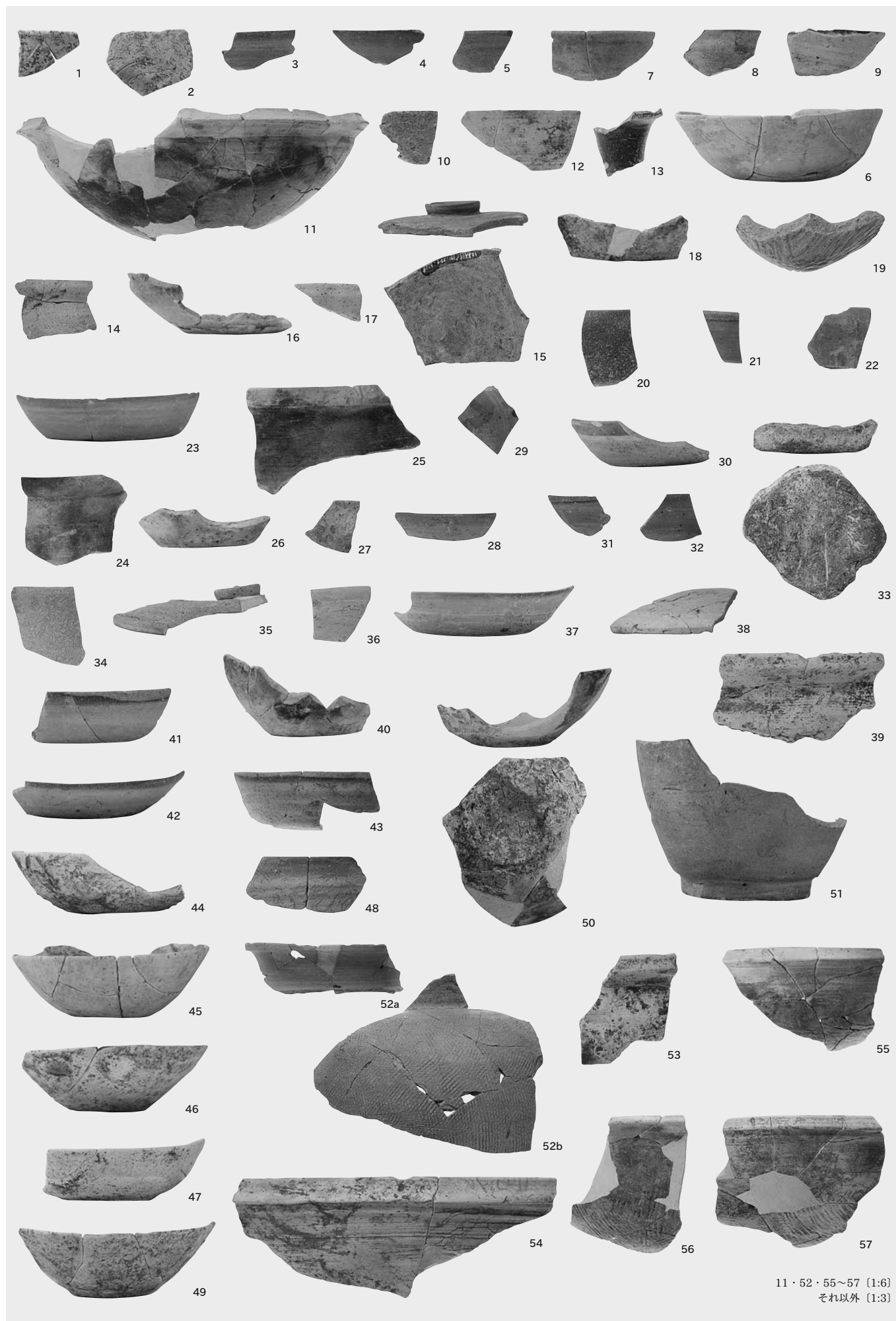
SD689 断面 (東から)



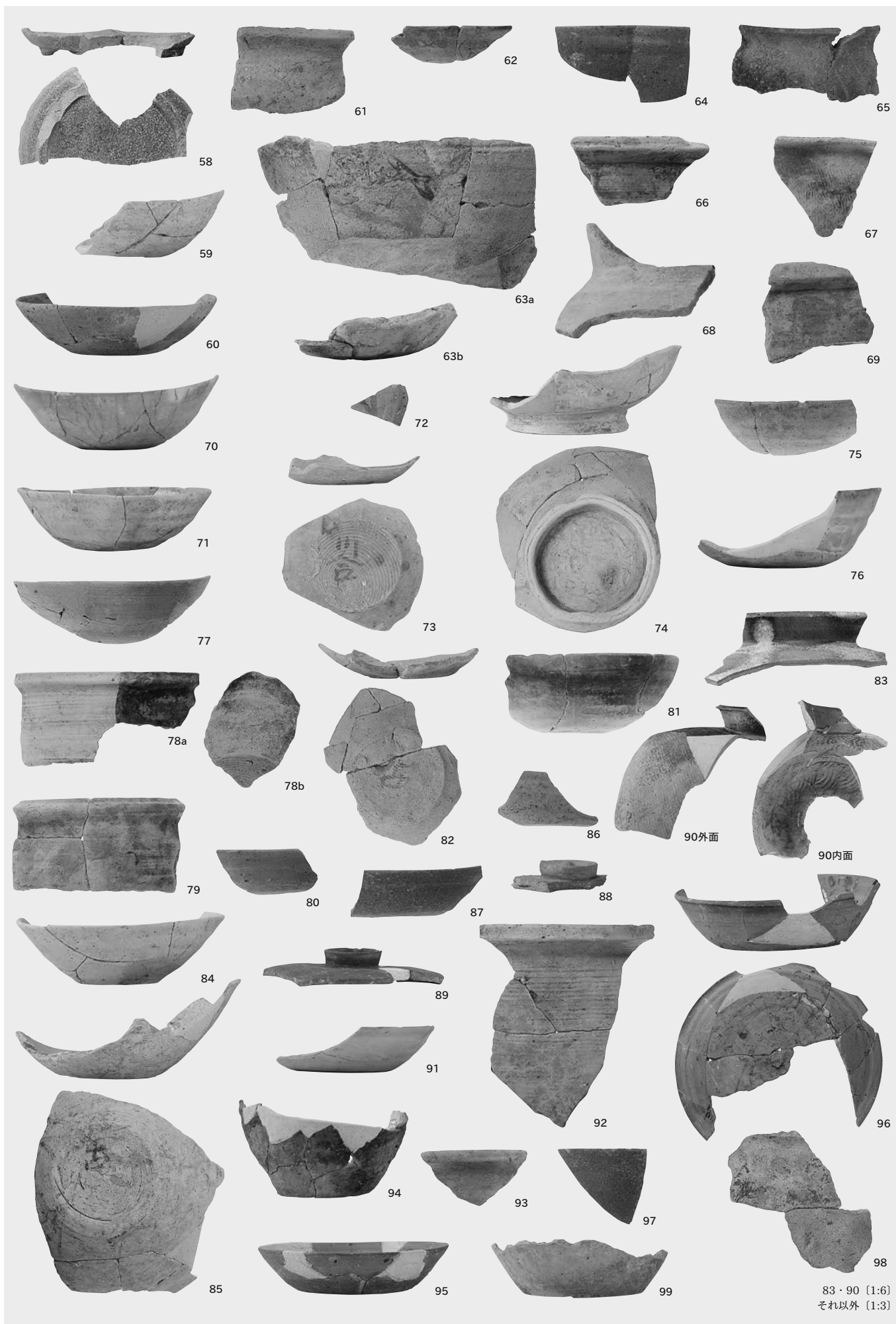
SX384 断面 (西から)

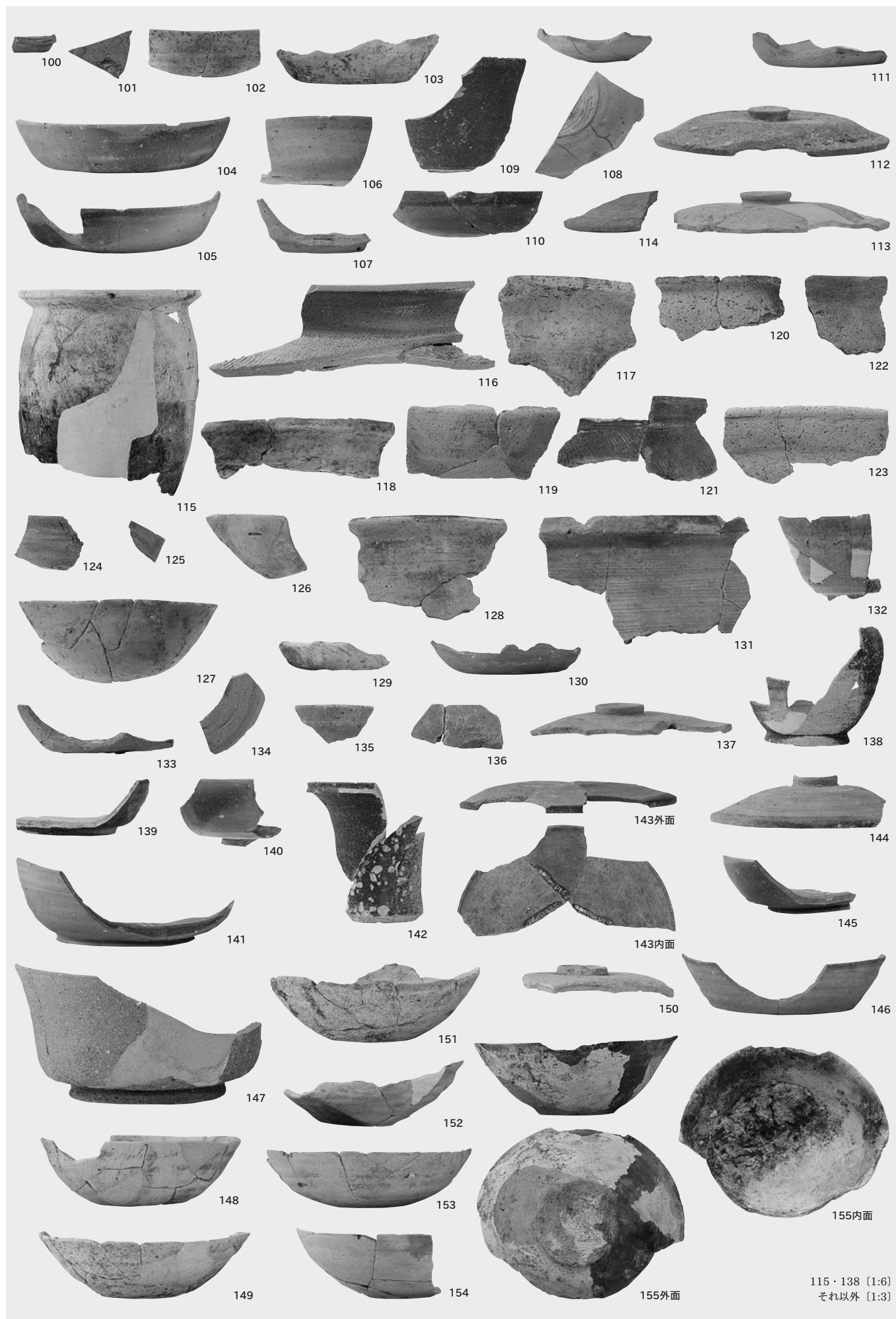


SX384 完掘 (西から)

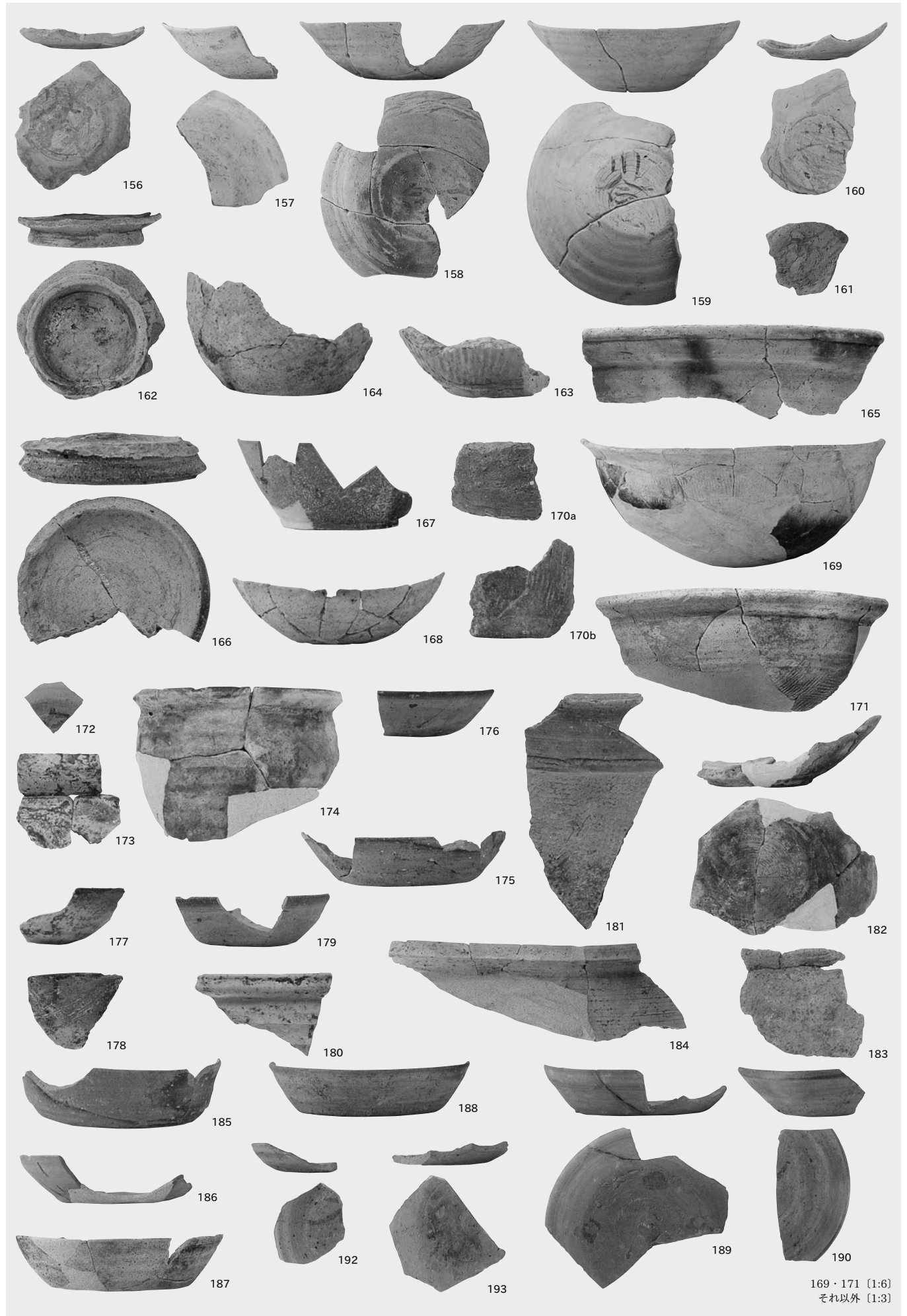


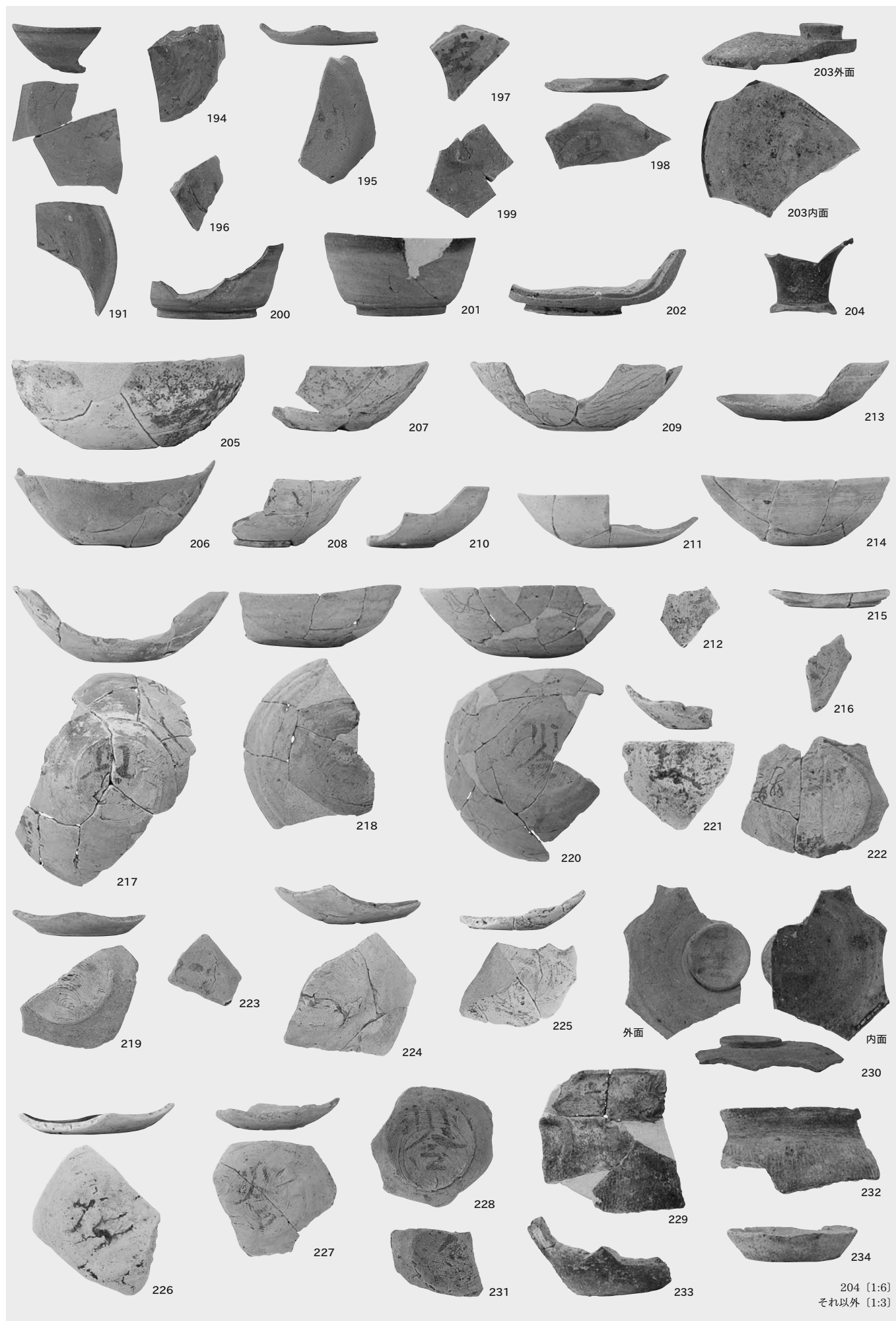
11・52・55~57 [1:6]
それ以外 [1:3]

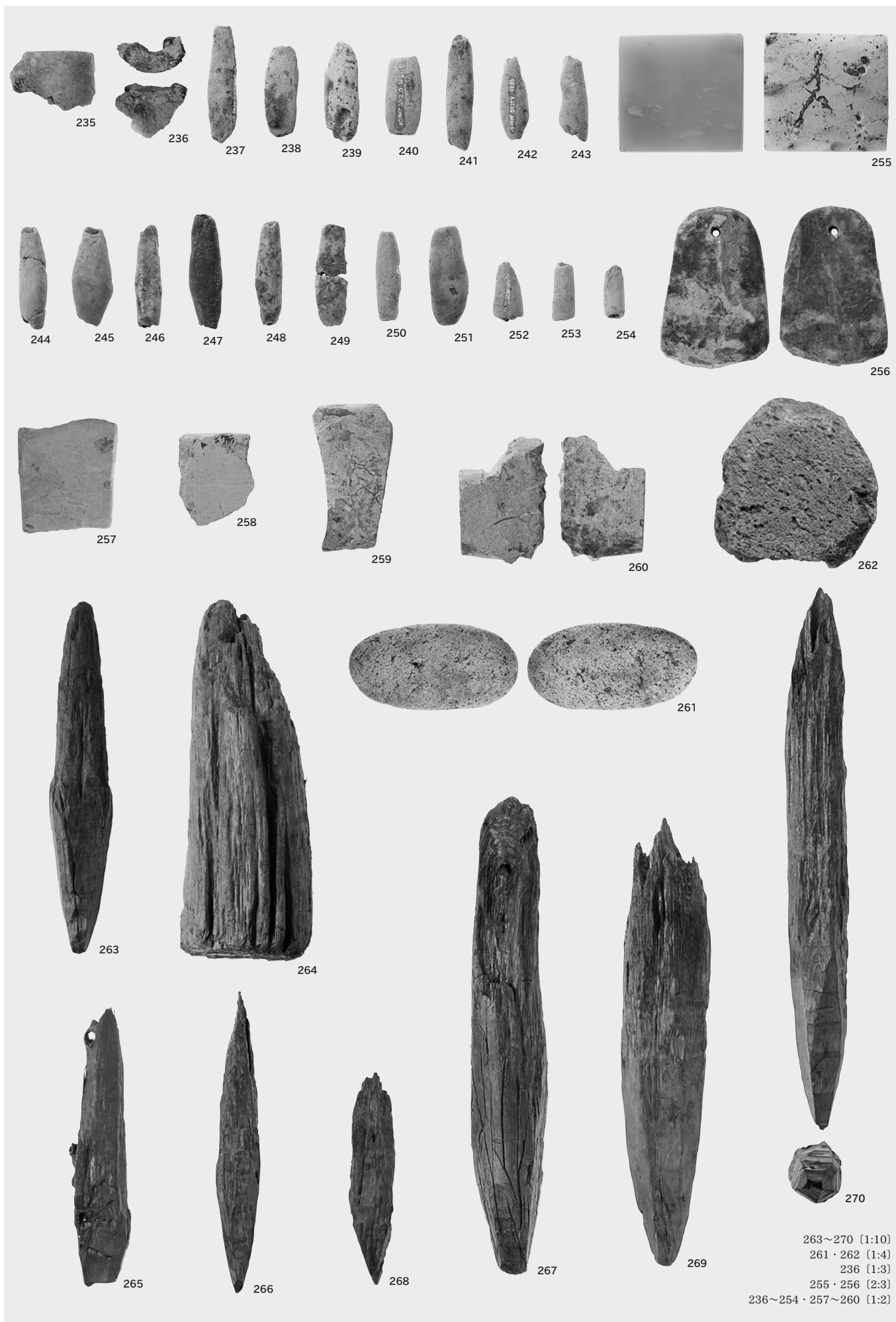


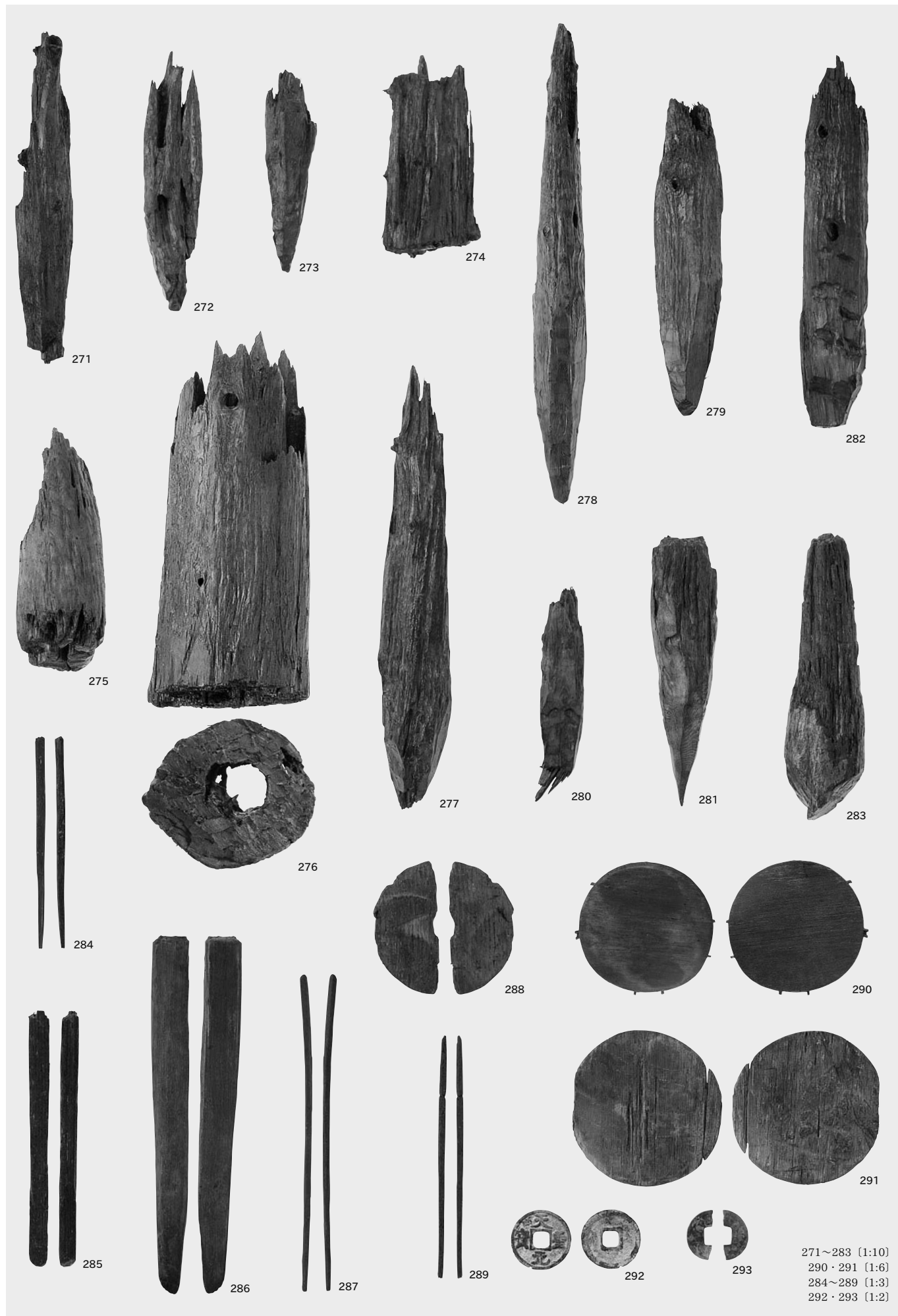


115・138 [1:6]
それ以外 [1:3]

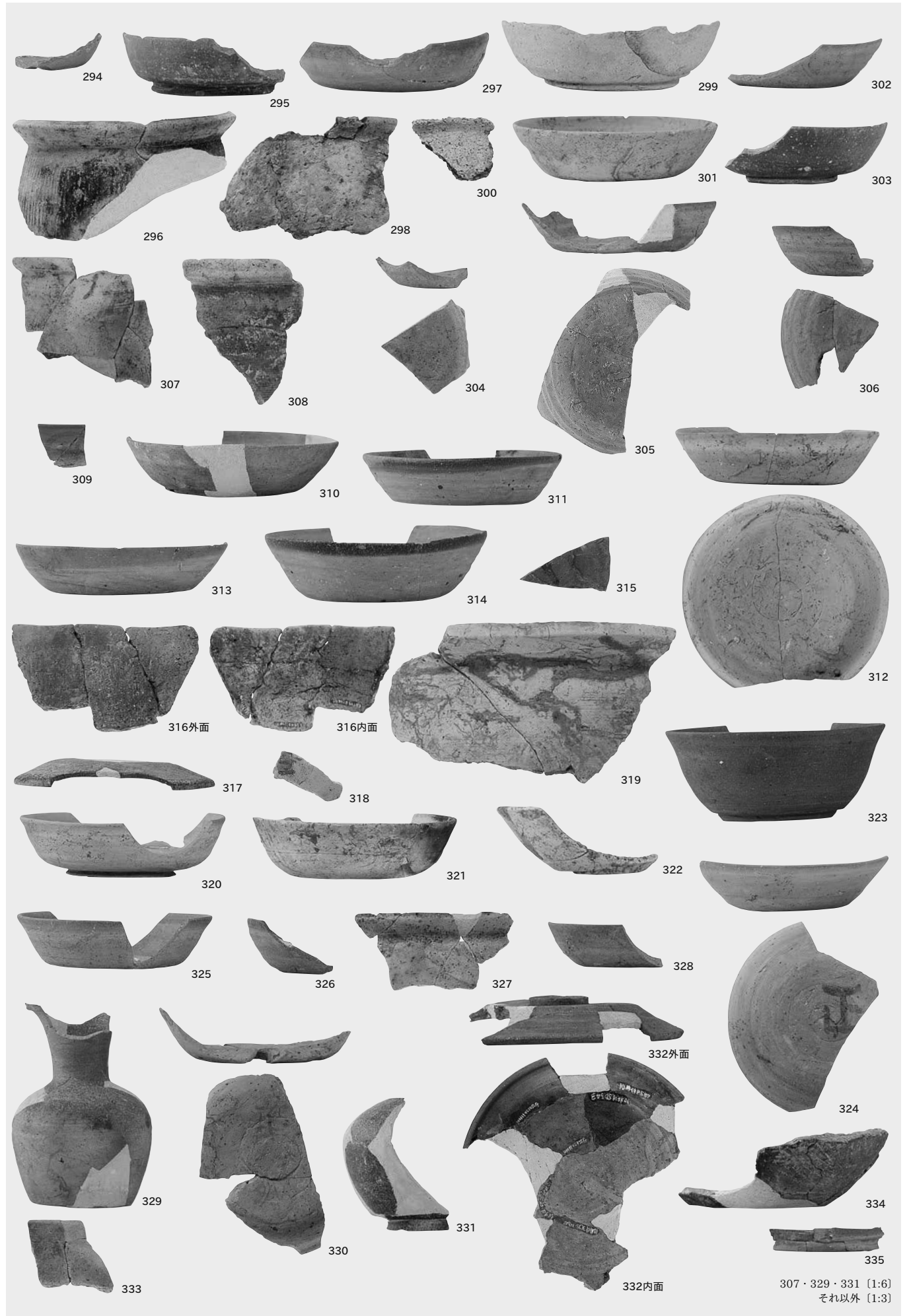




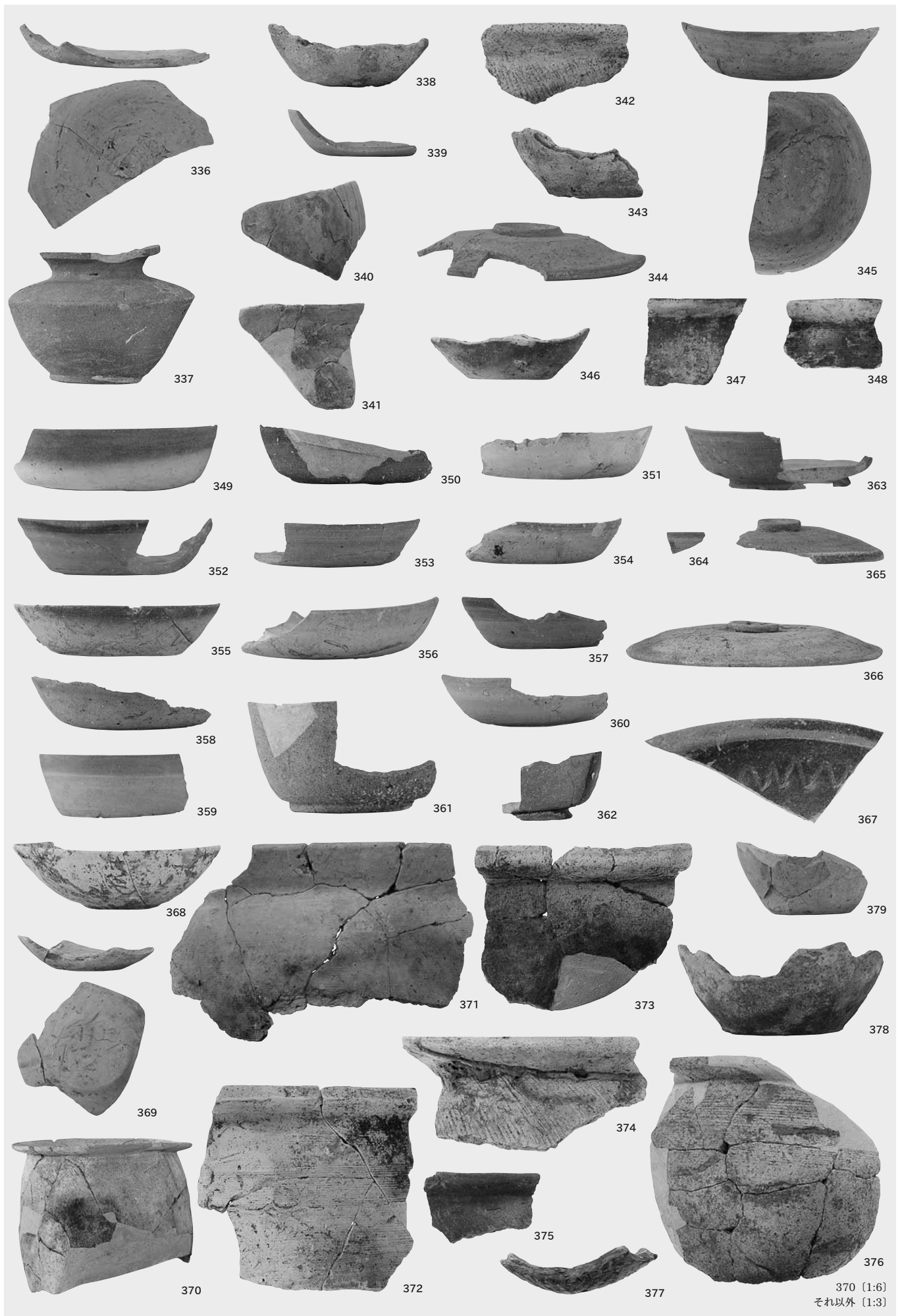


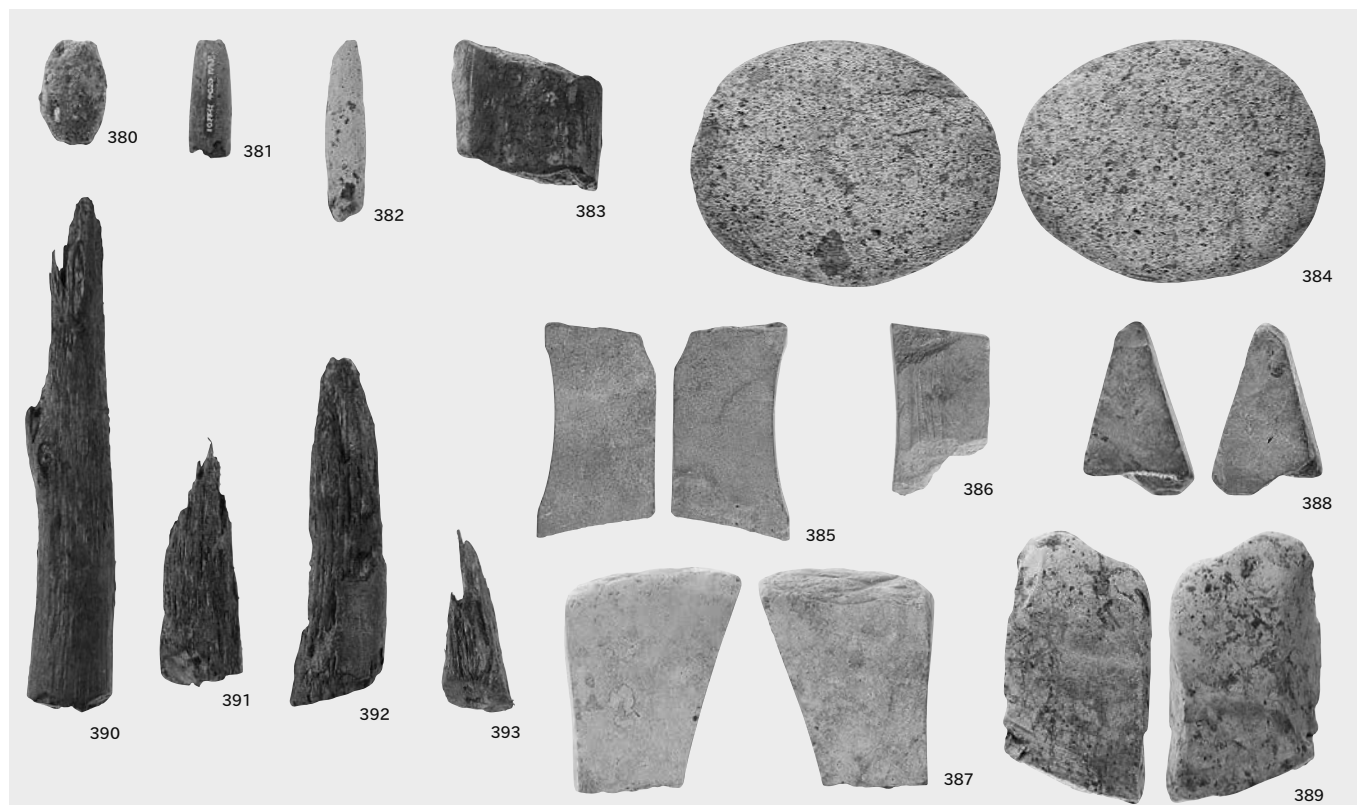


271~283 [1:10]
 290・291 [1:6]
 284~289 [1:3]
 292・293 [1:2]

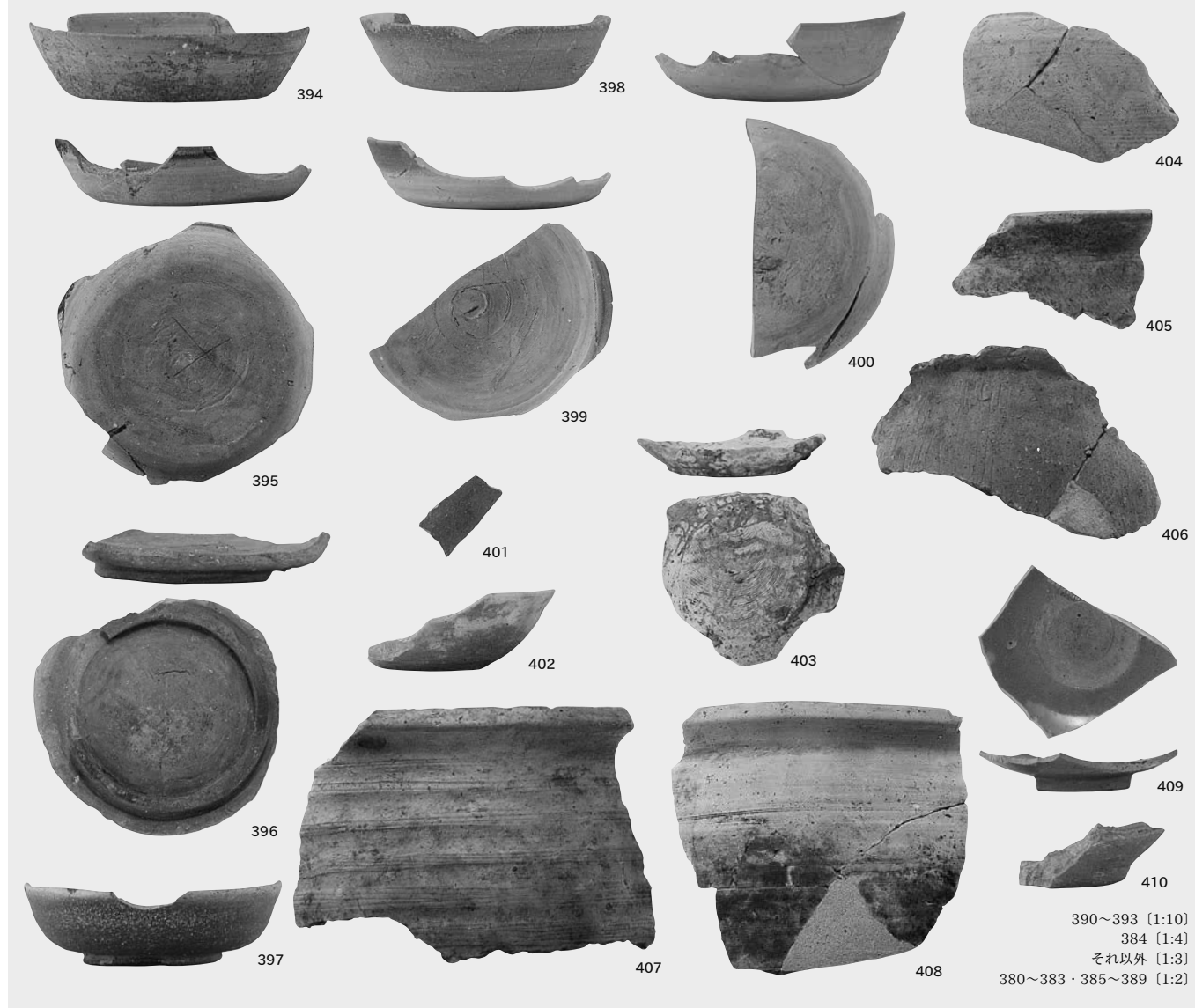


307・329・331 (1:6)
それ以外 (1:3)





上・下層出土遺物



390~393 [1:10]
 384 [1:4]
 それ以外 [1:3]
 380~383・385~389 [1:2]

報告書抄録

ふりがな	はやしづけいせき だいにじちようさ							
書名	林付遺跡 第2次調査							
副書名	新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	相田泰臣・早田 勉 (第VI章)・相沢 央 (第VII章)							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場 2748 番地 1 TEL 025-378-0480							
発行年月	西暦 2012 年 10 月 10 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はやしづけいせき 林付遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 にしがみくいまい 西蒲区今井 4121 番	15108	746	37° 45' 17"	138° 56' 52"	20100406 ~ 20100719	873.2	市立小学校体育館 建設工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
林付遺跡	集落 (荘園関連)	平安時代 (9C)	掘立柱建物・井戸・ 土坑・溝・性格不 明遺構など	土師器・須恵 器・土錘・石 帯・権状錘・ 木柱		出土した墨書土器から、文献資料に登場 しない古代荘園「川合(川井)庄」の存 在が明らかになった。また、9世紀後半 の規模の大きな掘立柱建物が確認され、 荘園関連施設と考えられる。		
要約	<p>林付遺跡は、越後平野の中央、信濃川左岸の沖積地内の自然堤防上に立地し、標高は上層で約1m、下層で約0.6～0.7mを計る。出土遺物から、下層が9世紀前半、上層が9世紀後半を主体とする時期で、中心時期は9世紀第2四半世紀から9世紀第4四半世紀と考えられる。</p> <p>出土した墨書土器から、当地域が9世紀代に「川合(川井)」という地名であったことや、文献資料に登場しない古代荘園「川合(川井)庄」の存在が明らかになった。</p> <p>上層では、身舎面積87.9m²、廂部分を含めた平面積140m²と、規模の大きな2間6間で2面廂をもつ掘立柱建物が確認された。周辺で出土した石帯や権状錘、「川井庄」・「館」墨書土器などから、荘園関連施設である可能性が高い。</p>							

林付遺跡 第2次調査

—新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書—

2012年10月9日印刷
2012年10月10日発行

編集・発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
TEL 025 (228) 1000
新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場 2748 番地 1
TEL 025 (378) 0480
印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針 1 丁目 11 番 8 号
TEL 025 (233) 0321